

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事
綿内高架橋（上り線）

設 計 図

令和 8 年 9 月

東日本高速道路株式会社
関東支社長野工事事務所

【 図 面 目 録 】

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
1 ～ 2	綿内高架橋（上り線）数量総括表（その１）～（その２）	58 ～ 61	綿内高架橋（上り線）P 1 6 橋脚（起点側）横変位拘束構造M－N 3 構造詳細図（その１）～（その４）
3 ～ 6	綿内高架橋（上り線）橋梁一般図（その１）～（その４）	62 ～ 65	綿内高架橋（上り線）P 1 6 橋脚（終点側）横変位拘束構造M－N 4 構造詳細図（その１）～（その４）
7 ～ 10	綿内高架橋（上り線）耐震補強一般図（その１）～（その４）	66 ～ 68	綿内高架橋（上り線）A 2 橋台 横変位拘束構造M－N 5 構造詳細図（その１）～（その３）
11	綿内高架橋（上り線）P 1 橋脚 構造物掘削図 普通部 A	69	綿内高架橋（上り線）A 2 橋台 はく落防止対策工 B 1 一般図
12	綿内高架橋（上り線）P 2 橋脚 構造物掘削図 普通部 A	70	綿内高架橋（上り線）通行止め計画図（参考図）
13	綿内高架橋（上り線）P 7 橋脚 構造物掘削図 普通部 A	71 ～ 79	綿内高架橋（上り線）施工要領図（その１）～（その９）（参考図）
14	綿内高架橋（上り線）P 9 橋脚 構造物掘削図 普通部 A	80	綿内高架橋（上り線）配線系統図（参考図）
15	綿内高架橋（上り線）P 1 0 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
16	綿内高架橋（上り線）P 1 4 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
17	綿内高架橋（上り線）P 1 5 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
18	綿内高架橋（上り線）P 1 7 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
19	綿内高架橋（上り線）P 1 8 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
20	綿内高架橋（上り線）P 1 9 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
21	綿内高架橋（上り線）P 2 0 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
22	綿内高架橋（上り線）P 2 1 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
23	綿内高架橋（上り線）P 2 2 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
24	綿内高架橋（上り線）P 1 9 橋脚 R C 巻立て 一般図		
25	綿内高架橋（上り線）P 1 9 橋脚 R C 巻立て 配筋図（その１）		
26	綿内高架橋（上り線）P 1 9 橋脚 R C 巻立て 配筋図（その２）		
27	綿内高架橋（上り線）P 1 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
28	綿内高架橋（上り線）P 2 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
29	綿内高架橋（上り線）P 7 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
30	綿内高架橋（上り線）P 9 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
31	綿内高架橋（上り線）P 1 0 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
32	綿内高架橋（上り線）P 1 4 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
33	綿内高架橋（上り線）P 1 5 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
34	綿内高架橋（上り線）P 1 7 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
35	綿内高架橋（上り線）P 1 8 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
36	綿内高架橋（上り線）P 2 0 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
37	綿内高架橋（上り線）P 2 1 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
38	綿内高架橋（上り線）P 2 2 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
39	綿内高架橋（上り線）A 2 橋台 縁端拡幅工 B 詳細図（その１）		
40	綿内高架橋（上り線）A 2 橋台 縁端拡幅工 B 詳細図（その２）		
41 ～ 43	綿内高架橋（上り線）A 1 橋台 落橋防止構造 C 1－N 1 構造詳細図（その１）～（その３）		
44 ～ 46	綿内高架橋（上り線）P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2－N 1 構造詳細図（その１）～（その３）		
47	綿内高架橋（上り線）P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2－N 1 構造詳細図（その４）（参考図）		
48 ～ 50	綿内高架橋（上り線）P 1 6 橋脚 落橋防止構造 P 2－N 2 構造詳細図（その１）～（その３）		
51	綿内高架橋（上り線）P 1 6 橋脚 落橋防止構造 P 2－N 2 構造詳細図（その４）（参考図）		
52 ～ 54	綿内高架橋（上り線）A 1 橋台 横変位拘束構造 M－N 1 構造詳細図（その１）～（その３）		
55 ～ 57	綿内高架橋（上り線）P 8 橋脚（終点側）横変位拘束構造 M－N 2 構造詳細図（その１）～（その３）		

項目番号		2-（６）	8-（１）	8-（２）	8-（３）	17-（９）	17-（９）	17-（９）	17-（９）	17-（１１）	17-（１１）	17-（１１）	17-（１１）
項目名称		構造物掘削	コンクリート	型わく	鉄筋	縁端拡幅工B	縁端拡幅工B	縁端拡幅工B	縁端拡幅工B	落橋防止構造	落橋防止構造	落橋防止構造	落橋防止構造
		普通部A	A 1－5	TH	T	コンクリート A 1－5	型わく	鉄筋	アンカー工 φ 4 2・4 9 0	C 1－N 1	P 2－N 1	P 2－N 2	鋼製ブラケット
単位		m 3	m 3	m 2	t	m 3	m 2	t	本	本	本	本	t
綿内 高架橋	A 1									2.0			0.586
	P 1	67.1											
	P 2	67.8											
	P 7	69.5											
	P 8										2.0		
	P 9	65.3											
	P 1 0	36.8											
	P 1 4	31.3											
	P 1 5	39.5											
	P 1 6											2.0	
	P 1 7	34.5											
	P 1 8	88.3											
	P 1 9	74.3	23.9	106.5	2.030								
	P 2 0	75.5											
	P 2 1	57.8											
	P 2 2	59.6											
	A 2					3.5	14.1	0.793	66.0				
合計		767.3	23.9	106.5	2.030	3.5	14.1	0.793	66.0	2.0	2.0	2.0	0.586

項目番号		17-（１１）	17-（１１）	17-（１１）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）	17-（１３）
項目名称		落橋防止構造	落橋防止構造	落橋防止構造	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M
		アンカー工 φ 4 8・5 8 0（水平）	アンカー工 φ 3 9・4 4 5（上向き）	アンカー工 φ 4 8・5 8 0（上向き）	N 1	N 2	N 3	N 4	N 5	鋼製ブラケット	アンカー工 φ 4 2・4 9 0（水平）	アンカー工 φ 5 1・6 2 5（水平）	アンカー工 φ 6 1・7 7 5（水平）
単位		本	本	本	基	基	基	基	基	t	本	本	本
綿内 高架橋	A 1	12.0		20.0	2.0					1.432		16.0	
	P 1												
	P 2												
	P 7												
	P 8		64.0			2.0				1.313			15.0
	P 9												
	P 1 0												
	P 1 4												
	P 1 5												
	P 1 6		64.0				2.0	2.0		2.228	30.0		
	P 1 7												
	P 1 8												
	P 1 9												
	P 2 0												
	P 2 1												
	P 2 2												
	A 2								2.0	1.784		16.0	
合計		12.0	128.0	20.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	6.757	30.0	32.0	15.0

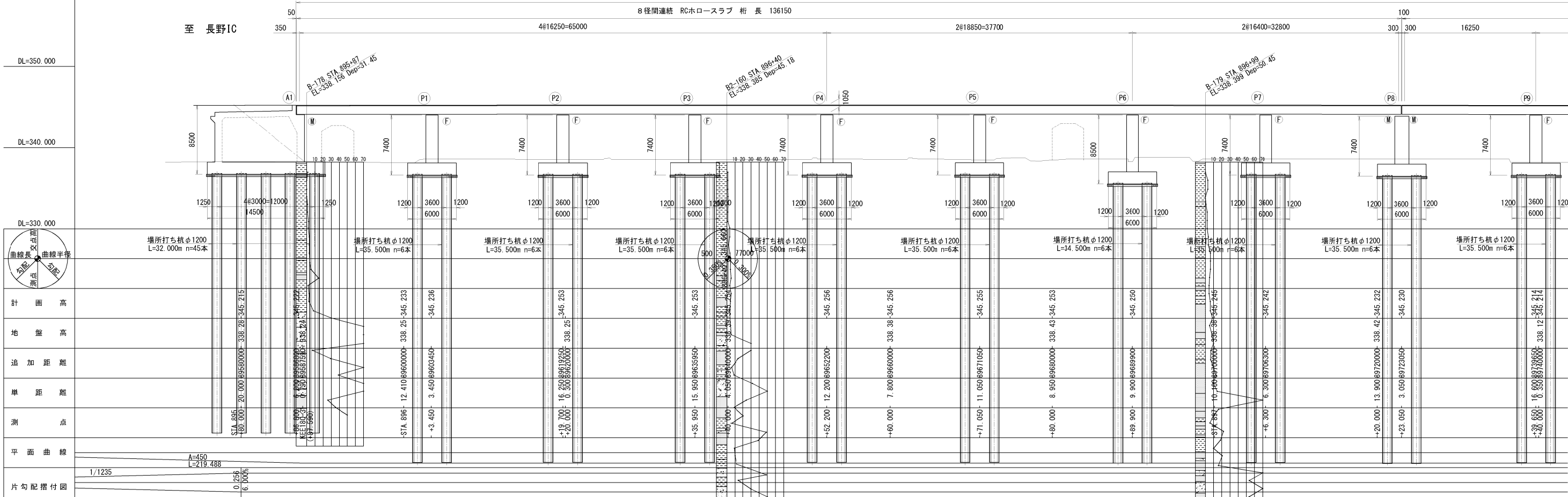
項目番号		17-（13）	17-（13）	17-（13）	17-（13）	17-（18）	17-（25）	17-（26）	17-（27）	17-（27）	17-（30）	17-（31）
項目名称		横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	横変位拘束構造M	耐震補強用コンクリート表面処理工	炭素繊維巻立て下地処理工	炭素繊維巻立て工	炭素繊維巻立て表面仕上工	炭素繊維巻立て表面仕上工	コンクリート表面処理工	はく落防止対策工
		アンカー工 φ 3 5 ・ 3 8 5（上向き）	アンカー工 φ 4 5 ・ 5 3 5（上向き）	アンカー工 φ 4 8 ・ 5 8 0（上向き）	アンカー工 φ 5 1 ・ 6 2 5（上向き）	A		A 1	A	B		B 1
単位		本	本	本	本	m 2	m 2	m 2	m 2	m 2	m 2	m 2
綿内 高架橋	A 1			12.0								
	P 1						86.6	86.6	86.6			
	P 2						73.3	73.3	73.3			
	P 7						86.6	86.6	86.6			
	P 8		8.0	6.0								
	P 9						79.6	79.6	79.6			
	P 1 0						66.3	66.3	66.3			
	P 1 4						79.6	79.6	79.6			
	P 1 5						85.0	85.0	85.0			
	P 1 6	16.0			6.0							
	P 1 7						85.5	85.5	85.5			
	P 1 8						79.6	79.6	39.8	39.8		
	P 1 9					89.2						
	P 2 0						84.2	84.2	84.2			
	P 2 1						84.2	84.2	84.2			
	P 2 2						79.6	79.6	79.6			
A 2			12.0		9.9					1.0	1.0	
合計		16.0	8.0	30.0	6.0	99.1	970.1	970.1	930.3	39.8	1.0	1.0

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 数量総括表（その2）		
縮 尺	—	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

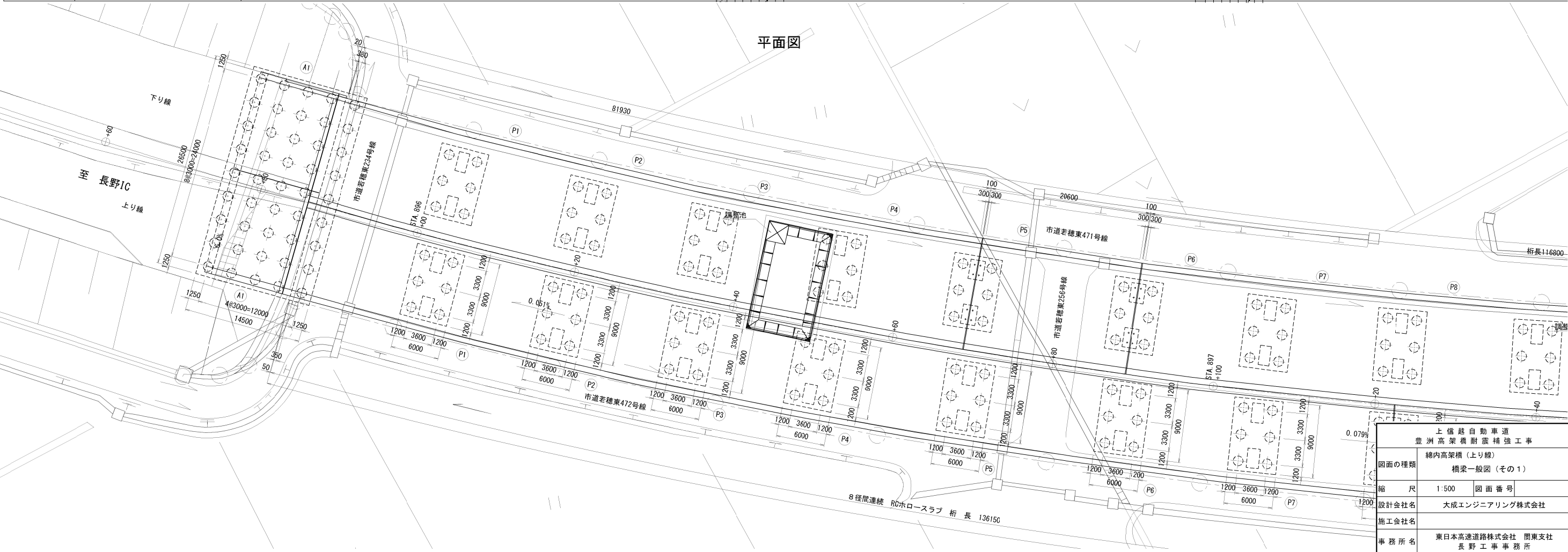
綿内高架橋（上り線） 橋梁一般図（その1）

S=1:500

側面図

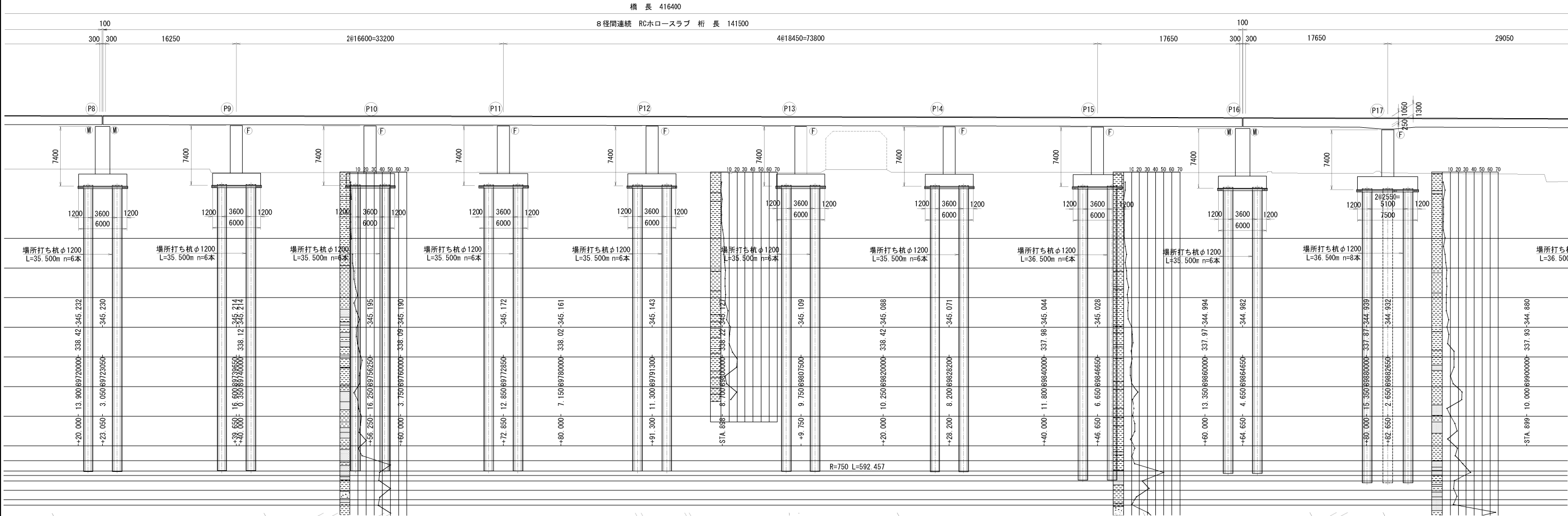


平面図

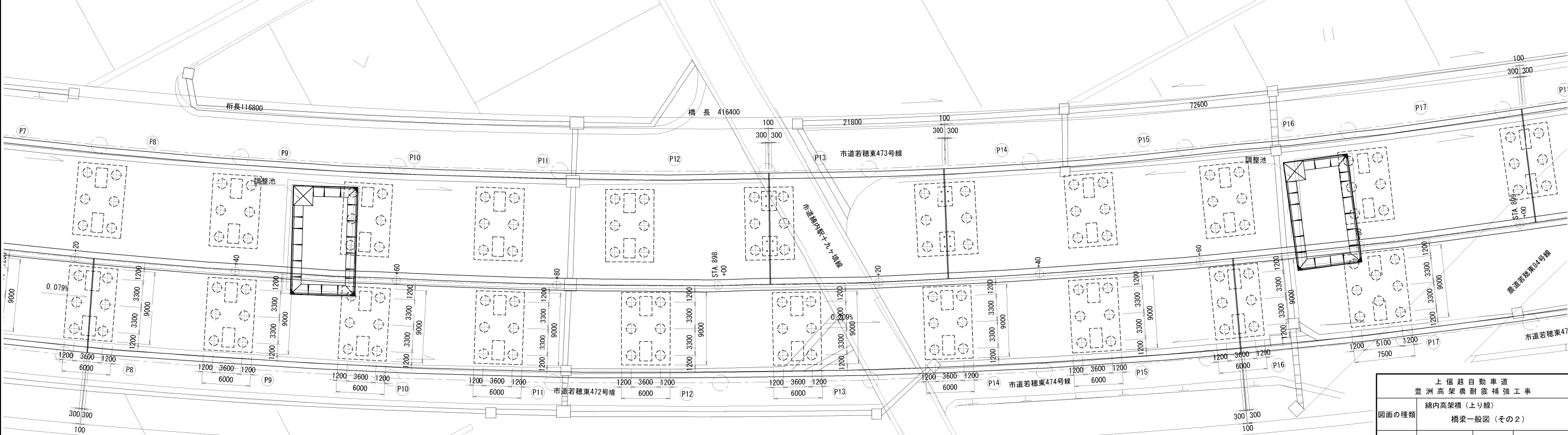


上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
綿内高架橋（上り線） 橋梁一般図（その1）			
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

側面図

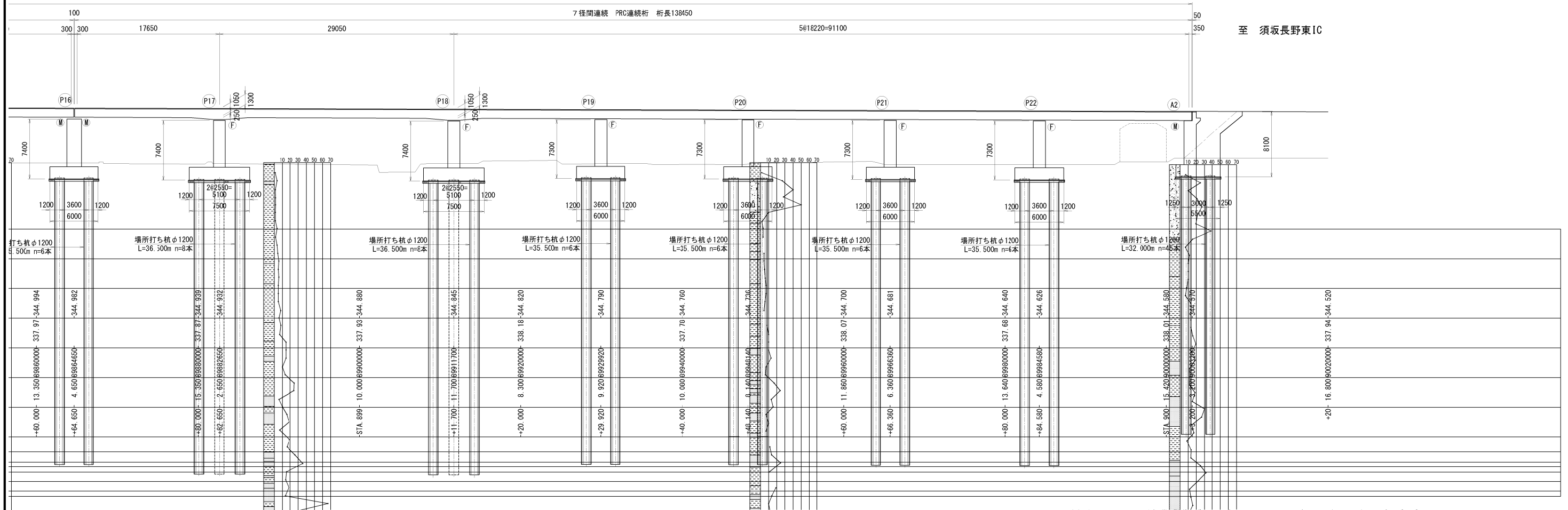


平面図

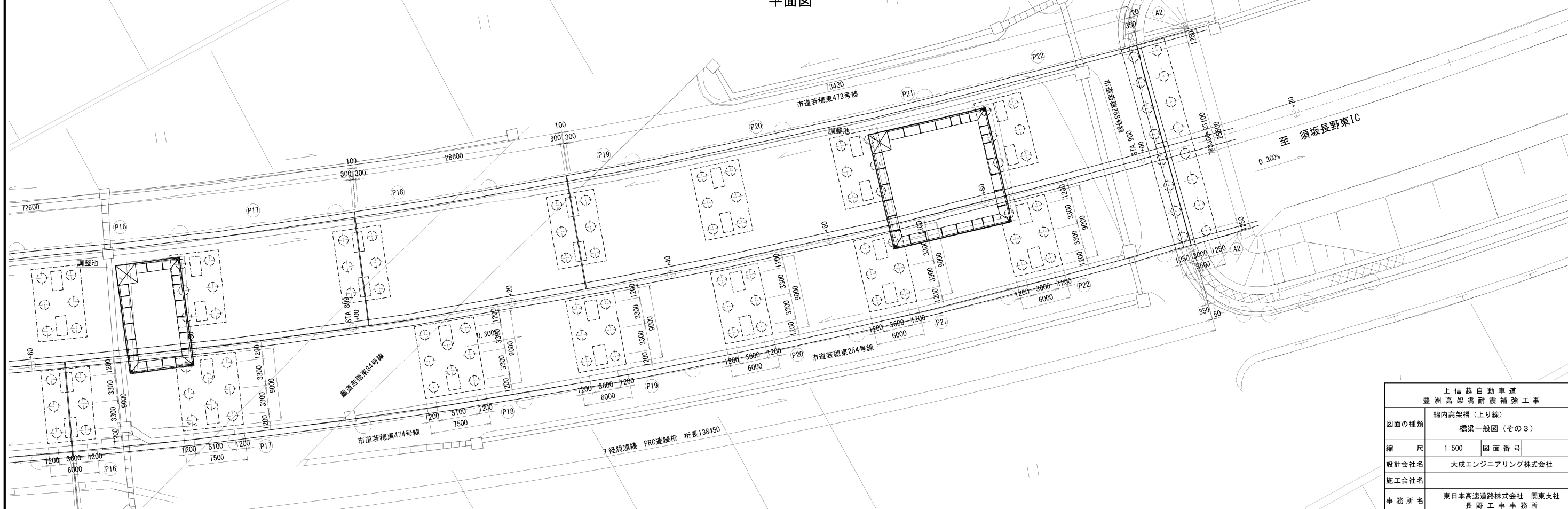


8径間連続 RCホロースラブ 桁 長 141500 橋 長 416400			
上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
綿内高架橋（上り線） 橋梁一般図（その2）			
縮 尺	1:500	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		

側面図

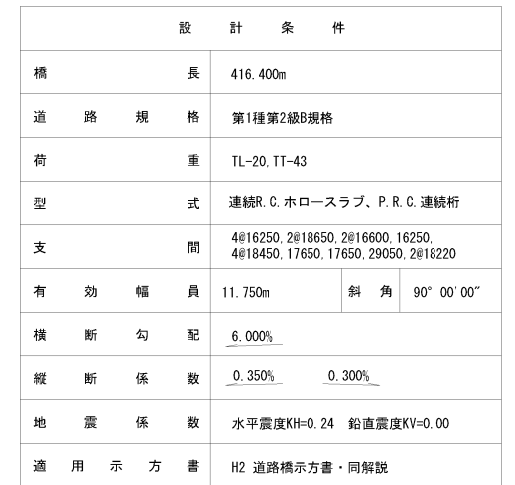


平面图

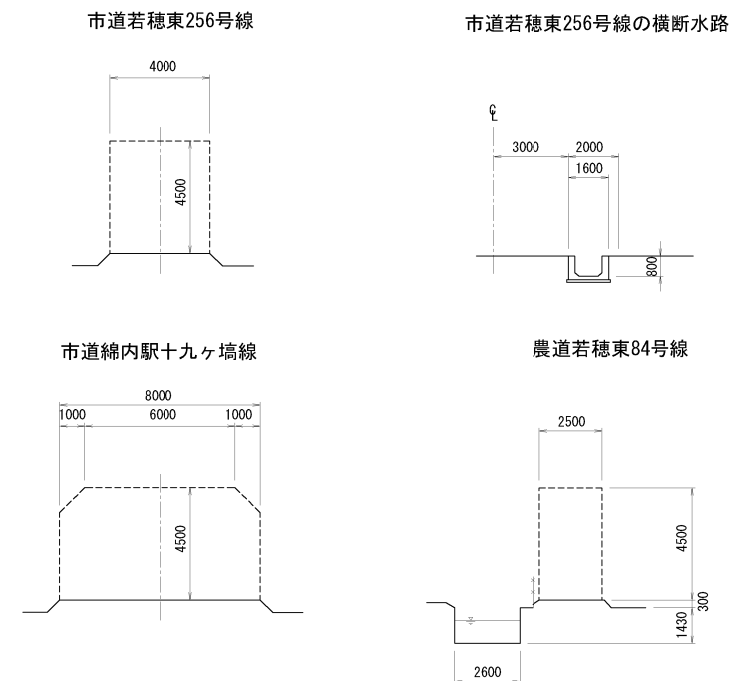


上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	緒内高架橋（上り線） 橋梁一般図（その３）		
縮 尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

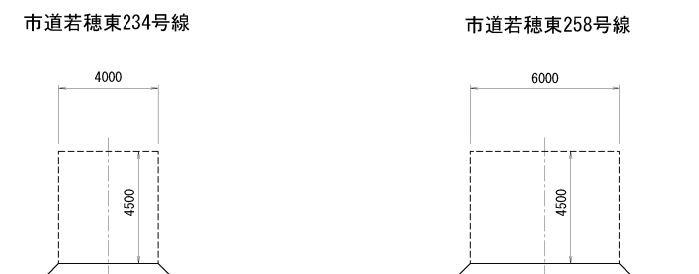
P. R. C. 連続桁 (P17, P18橋脚支点部)



交差物件 S=1:300



P19~P22橋脚

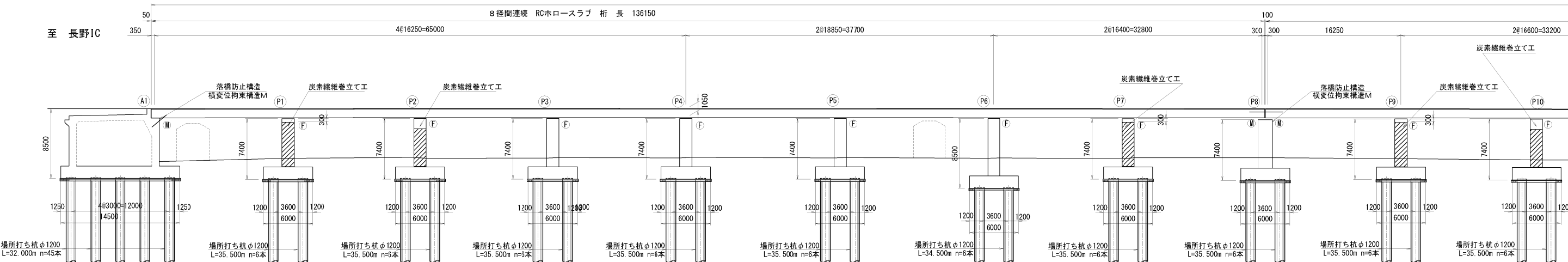


上 信 越 自 動 車 道 豊 田 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事				
図面の種類	締内高架橋（上り線）			
	橋梁一般図（その４）			
縮 尺	図 示	図 面 番 号		
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所			

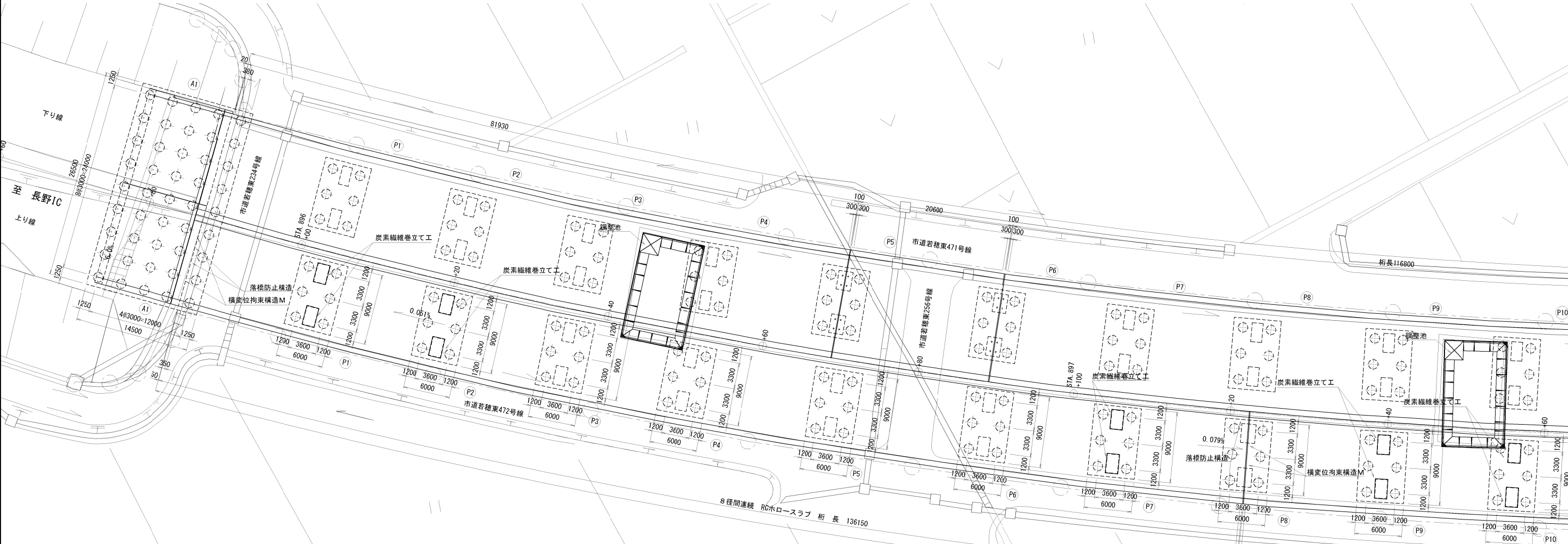
綿内高架橋（上り線） 耐震補強一般図（その1）

S=1:500

側面図

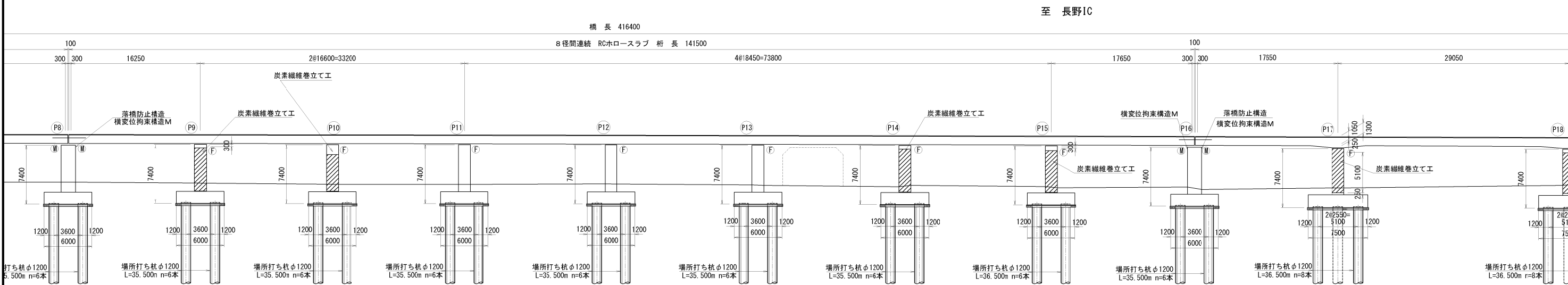


平面図

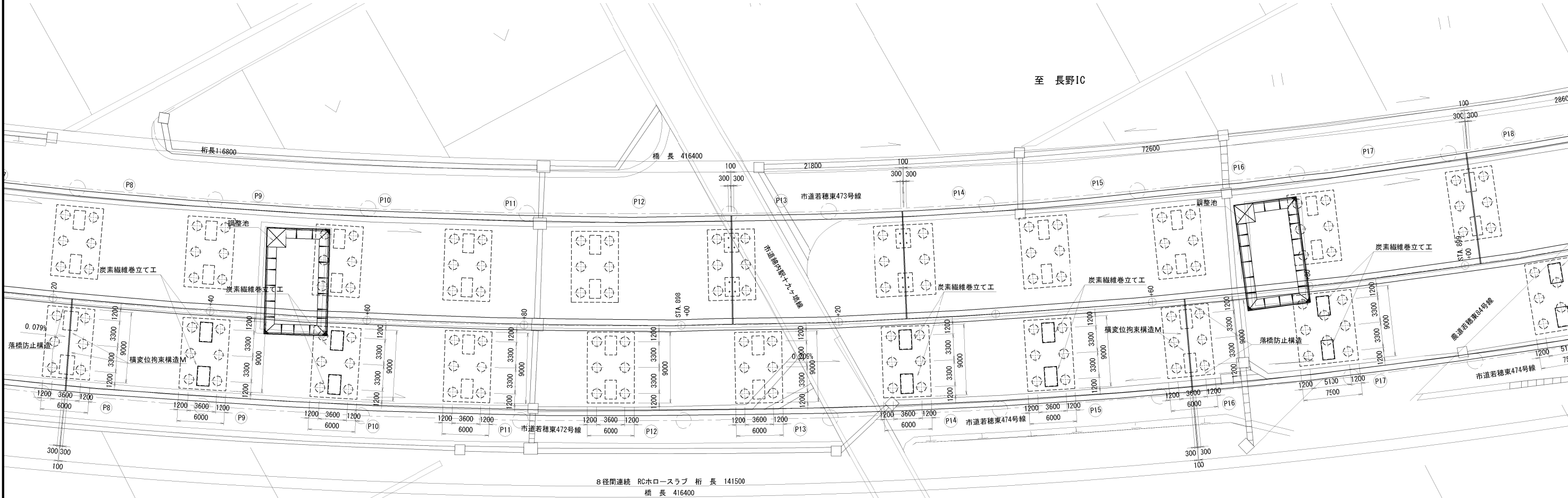


上信越自動車道	
豊洲高架橋耐震補強工事	
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 耐震補強一般図（その1）
縮尺	1:500 図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所

側面図

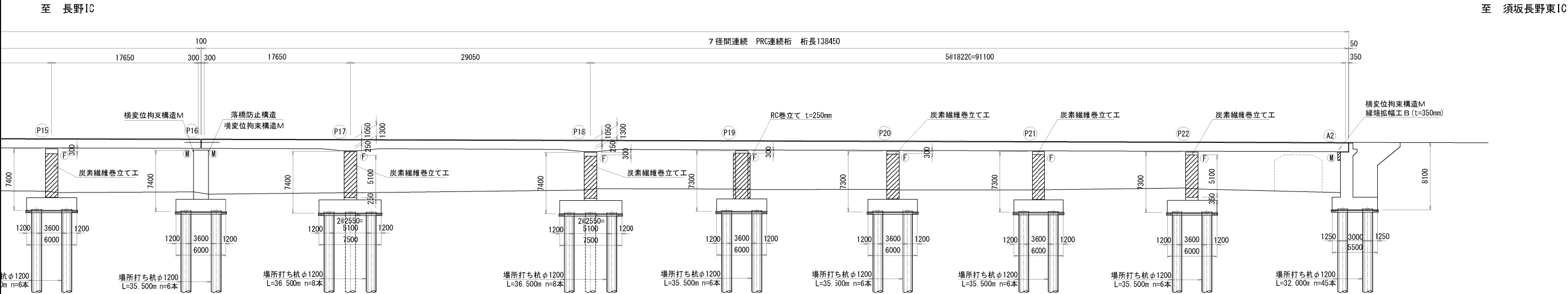


平面図

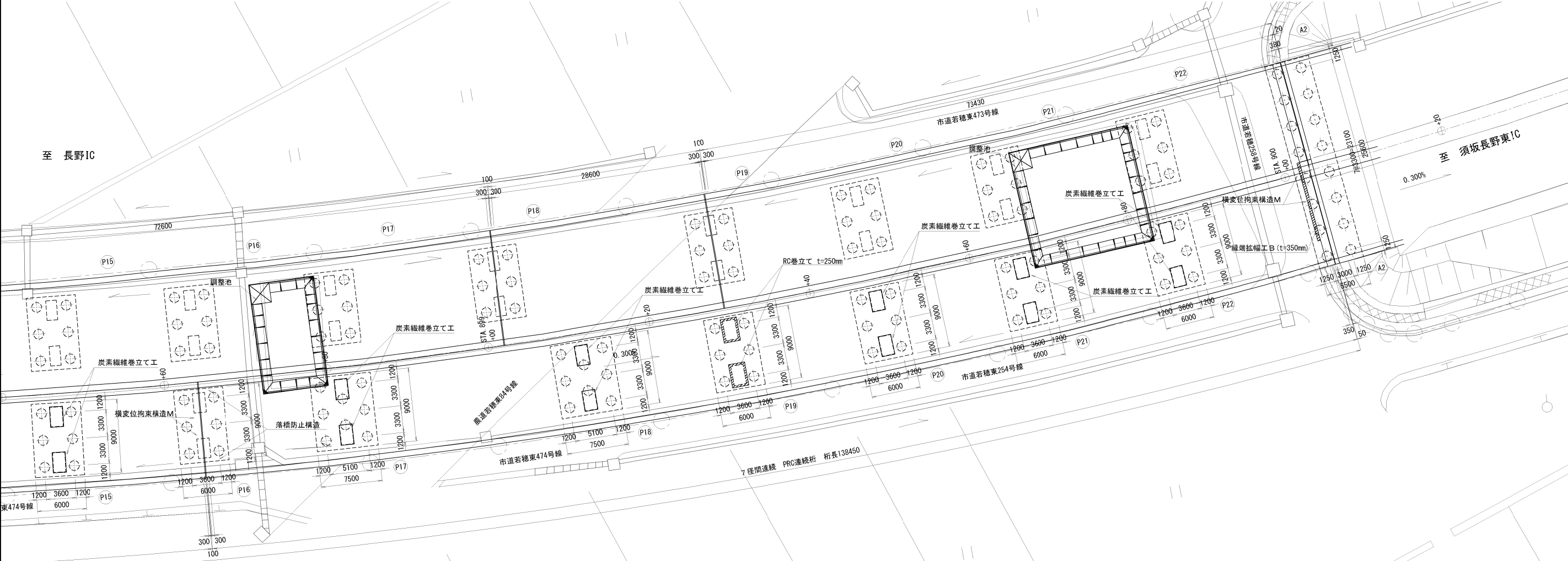


上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 耐震補強一般図（その2）		
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

側面図

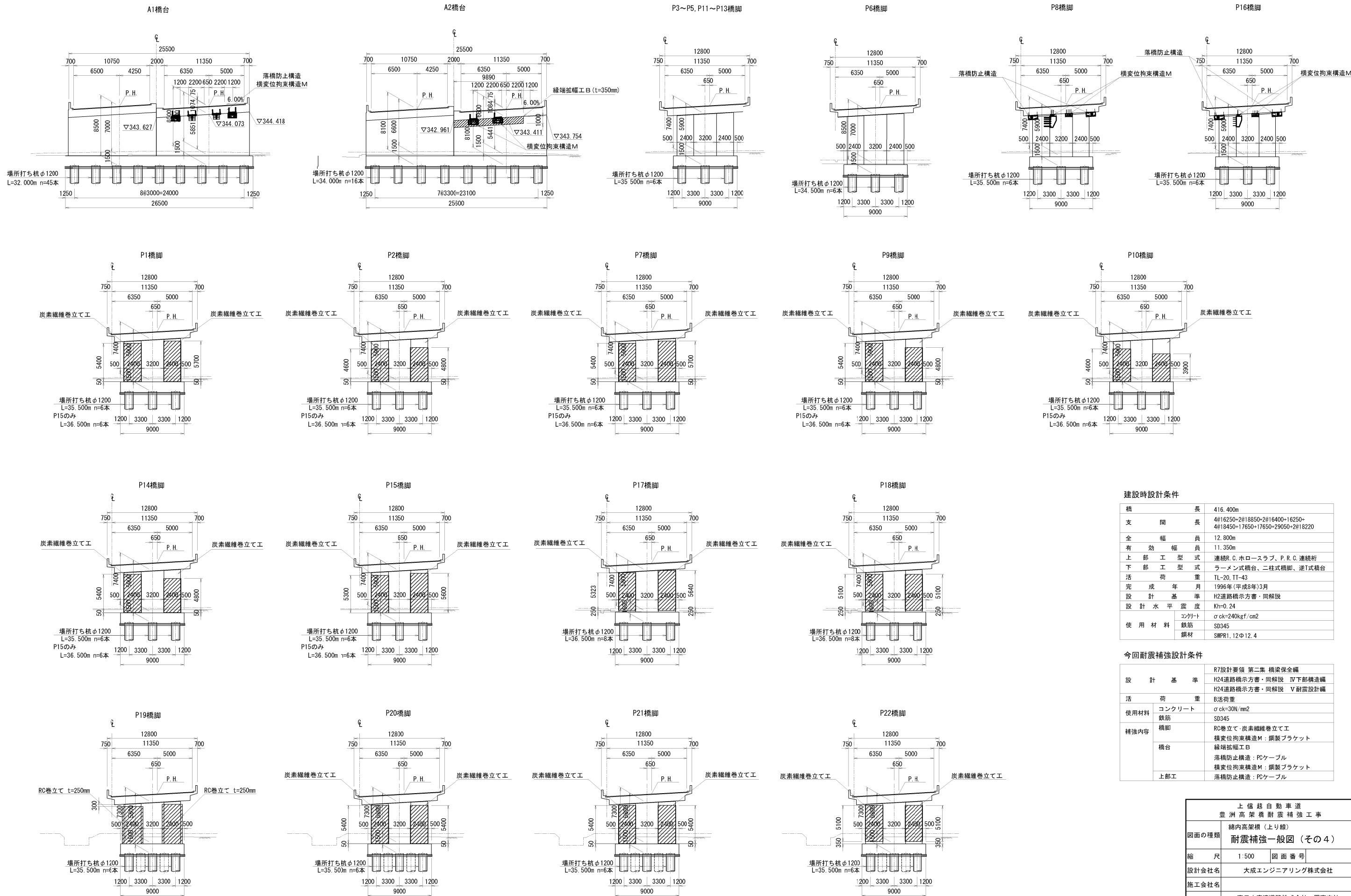


平面図



上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 耐震補強一般図（その3）		
	縮尺	1:500	図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

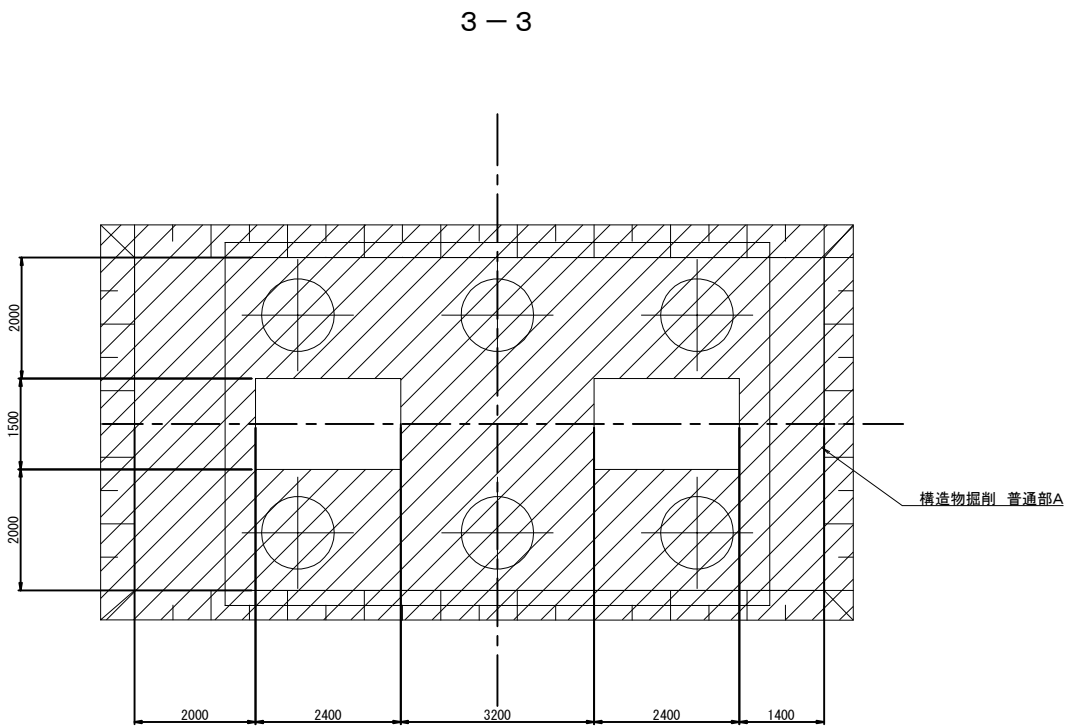
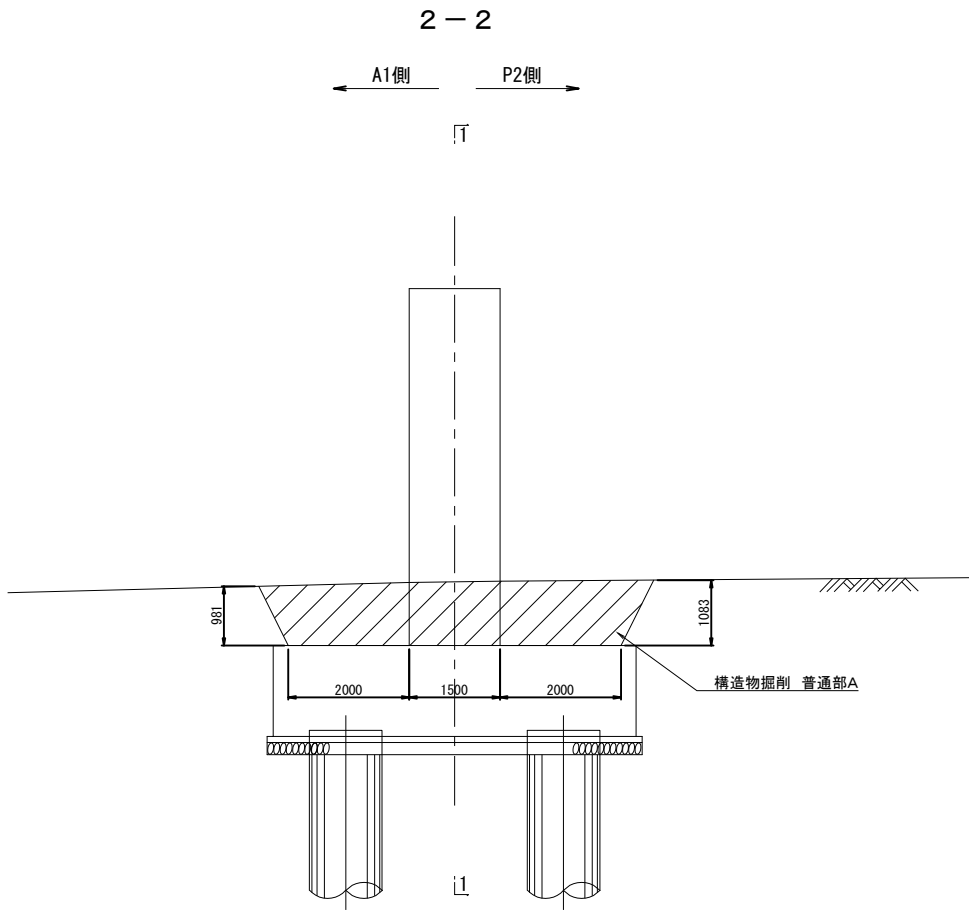
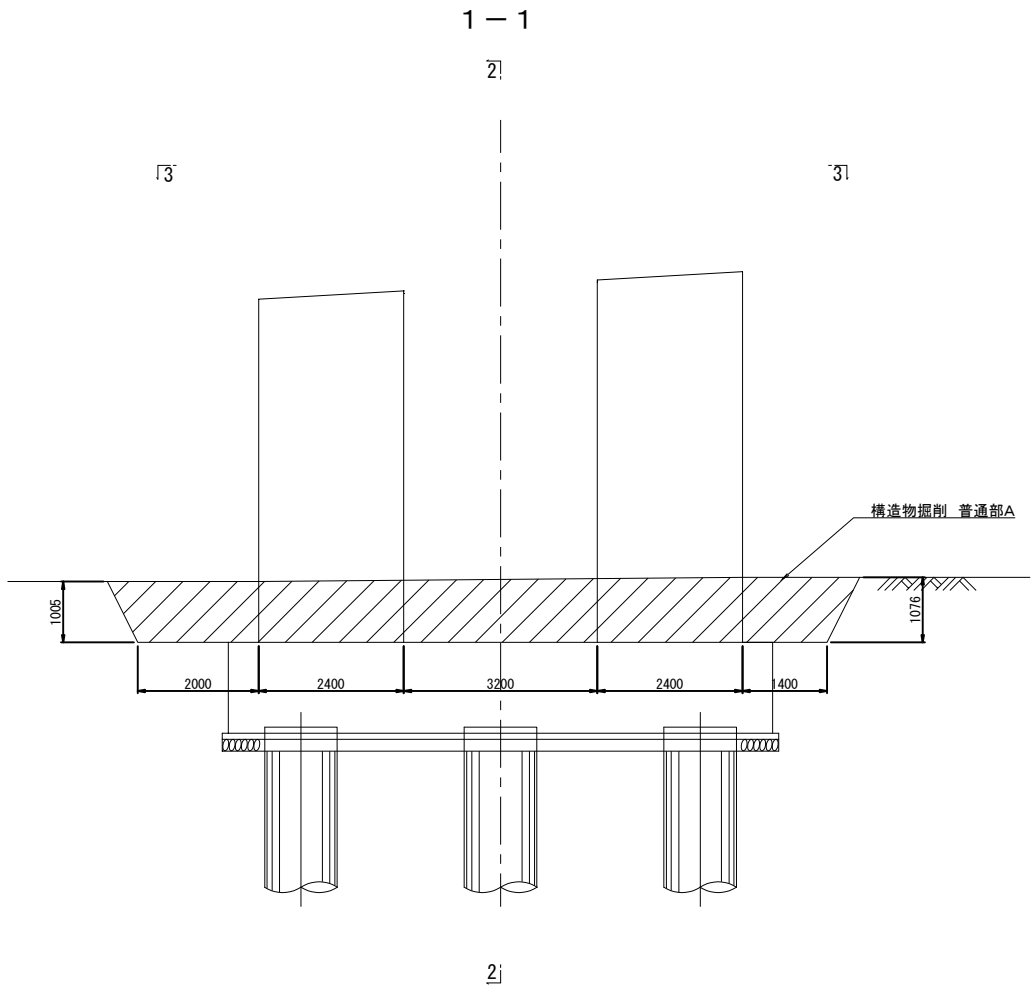
正面図



建設時設計条件		
橋	長	416.400m
支 間	長	4#16250+2#18850+2#16400+16250+4#18450+17650+29050+2#18220
全 幅 員		12.800m
有 効 幅 員		11.350m
上 部 工 型 式		連続R.C.ホーロスラブ、P.R.C.連続桁
下 部 工 型 式		ラーメン式橋台、二柱式橋脚、逆T式橋台
活 荷 重		TL-20、TT-43
完 成 年 月		1996年(平成8年)3月
設 計 基 準		H2道路橋示方書・同解説 H2耐震設計編
設 計 水 平 震 度		Kh=0.24
使 用 材 料	コンクリート	σ _{ck} =240kgf/cm ²
	鉄筋	SD345
	鋼材	SWPR1、12Φ12.4

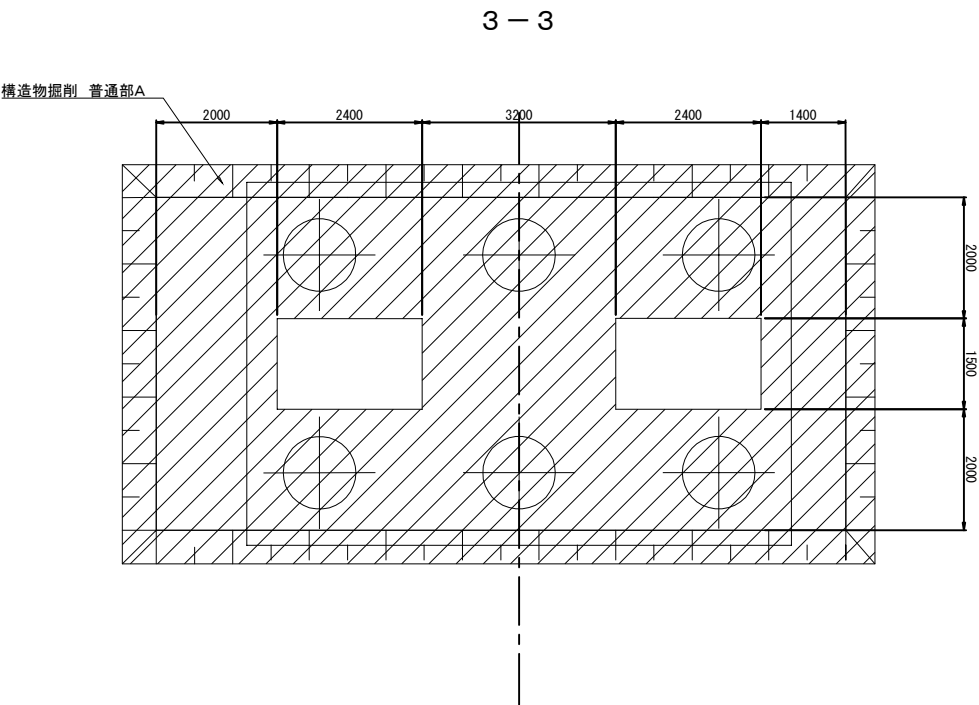
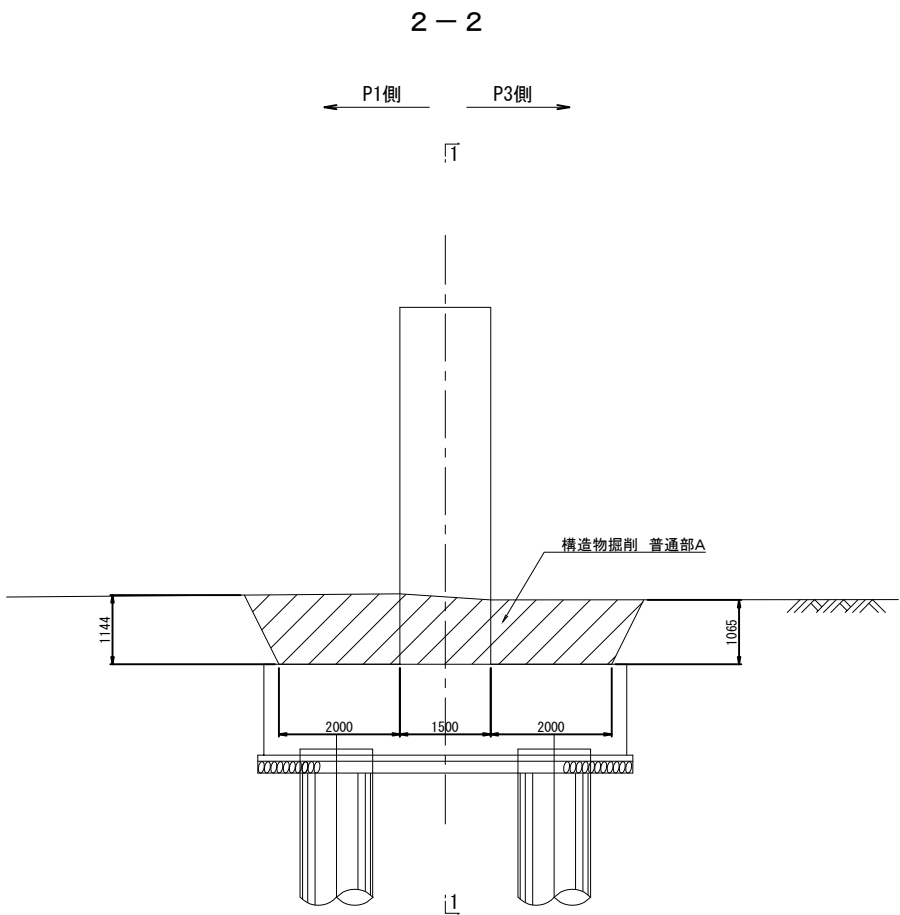
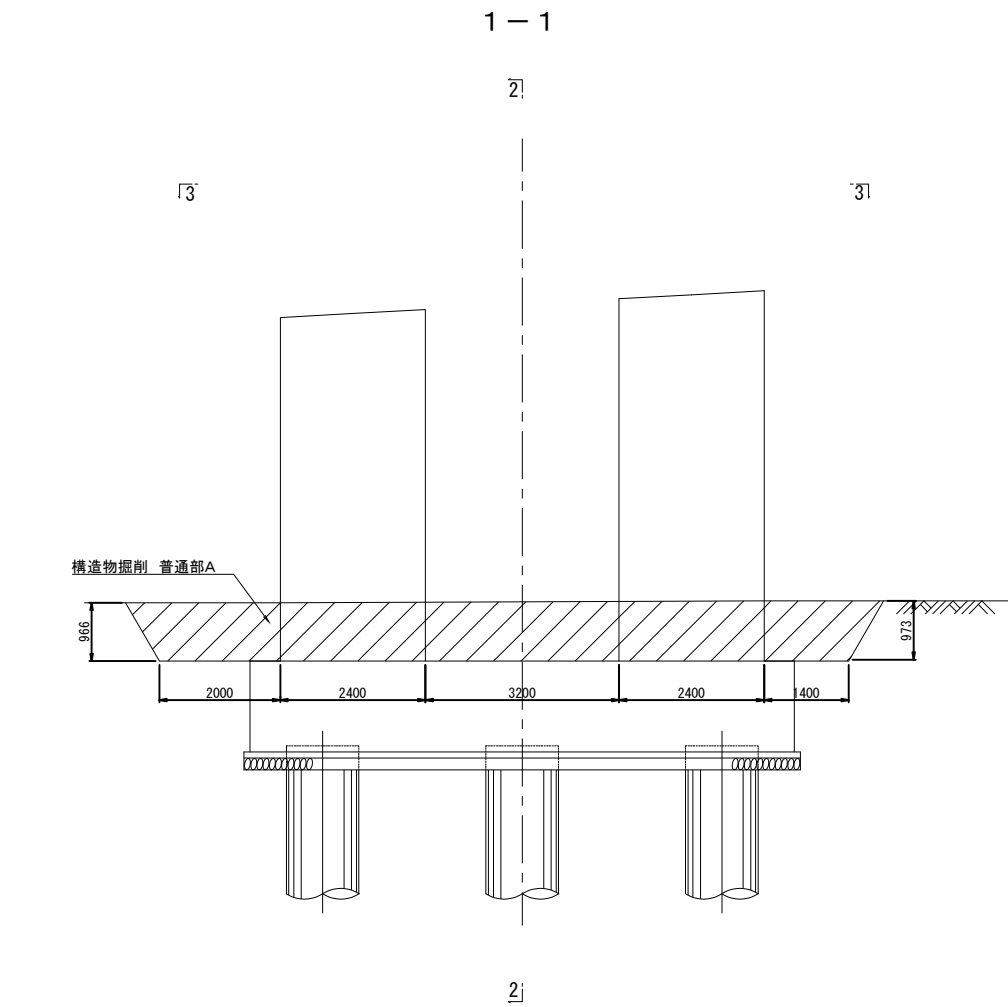
今回耐震補強設計条件		
設 計 基 準	R7設計要領 第二集 橋梁保全編	
	H24道路橋示方書・同解説 IV下部構造編	
	H24道路橋示方書・同解説 V耐震設計編	
活 荷 重	B活荷重	
使用材料	コンクリート	σ _{ck} =30N/mm ²
	鉄筋	SD345
補強内容	橋脚	RC巻立て・炭素繊維巻立て工 横変位拘束構造M：鋼製ブラケット
	橋台	縁端拡幅工B 落橋防止構造：PCケーブル 横変位拘束構造M：鋼製ブラケット
	上部工	落橋防止構造：PCケーブル

上 信 越 自 動 車 道		
豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事		
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 耐震補強一般図（その4）	
縮 尺	1:500	図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所	



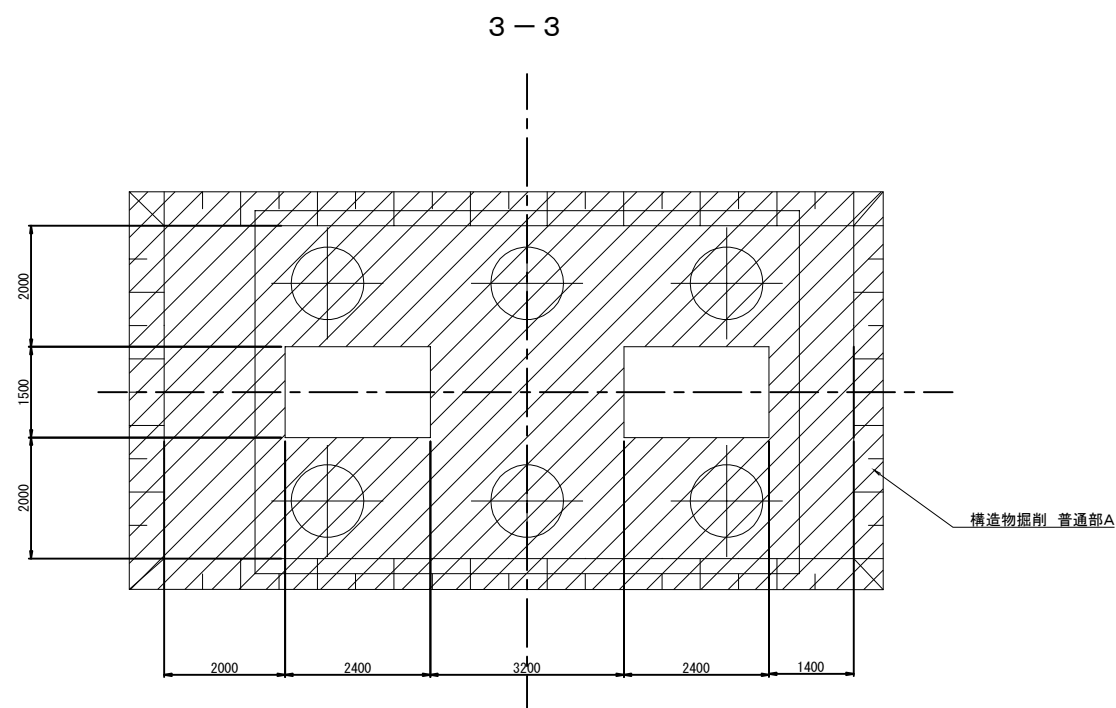
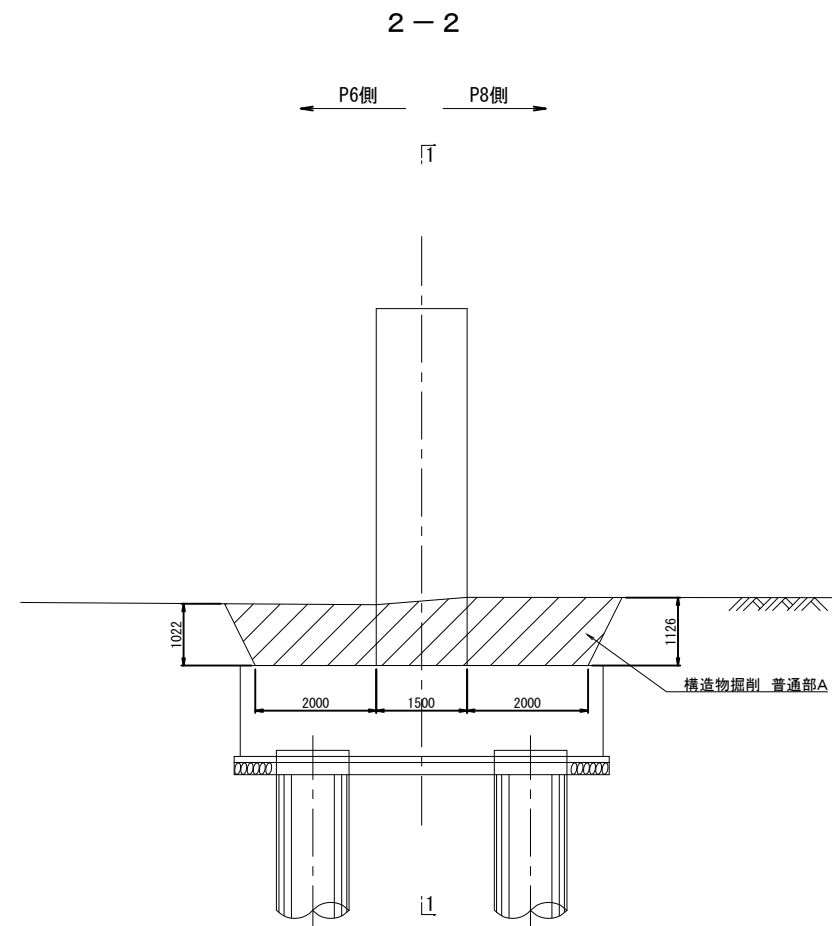
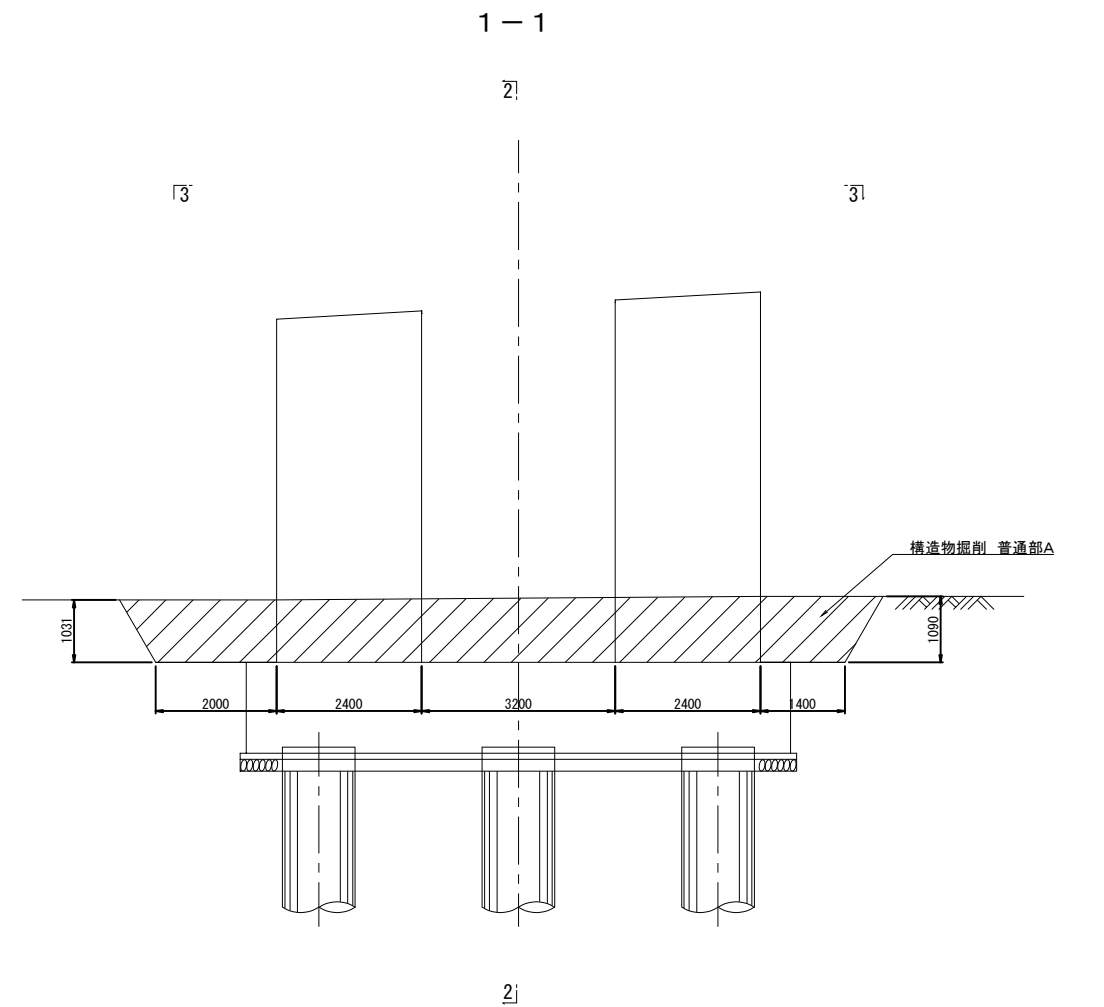
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



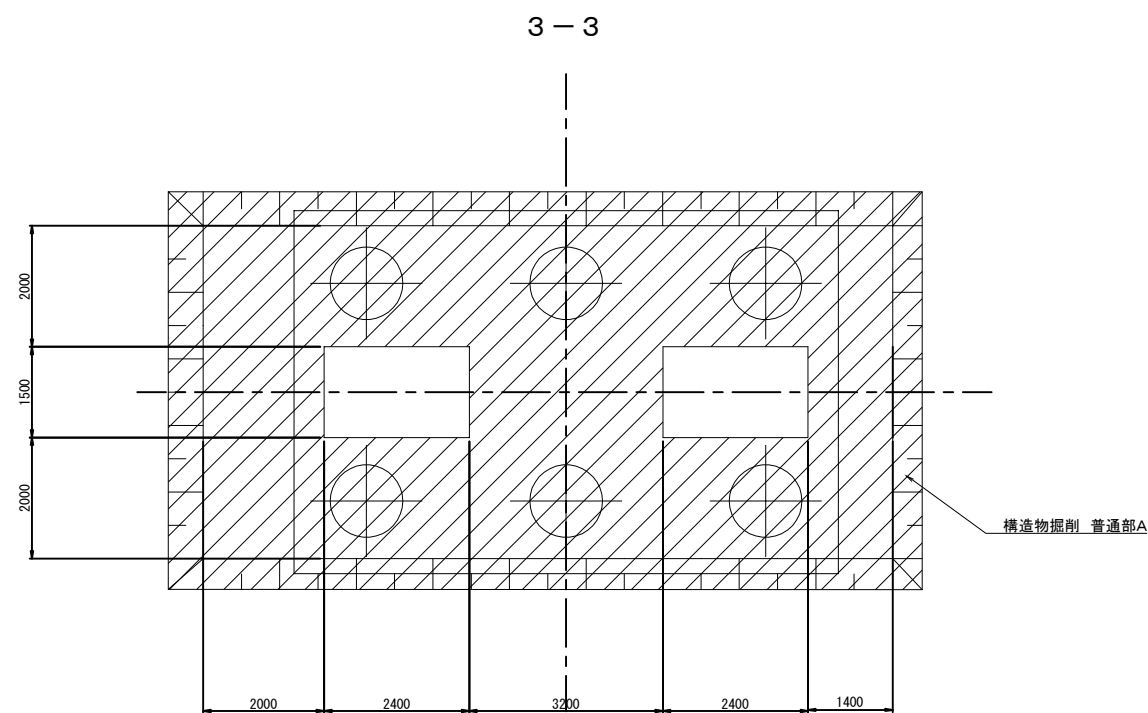
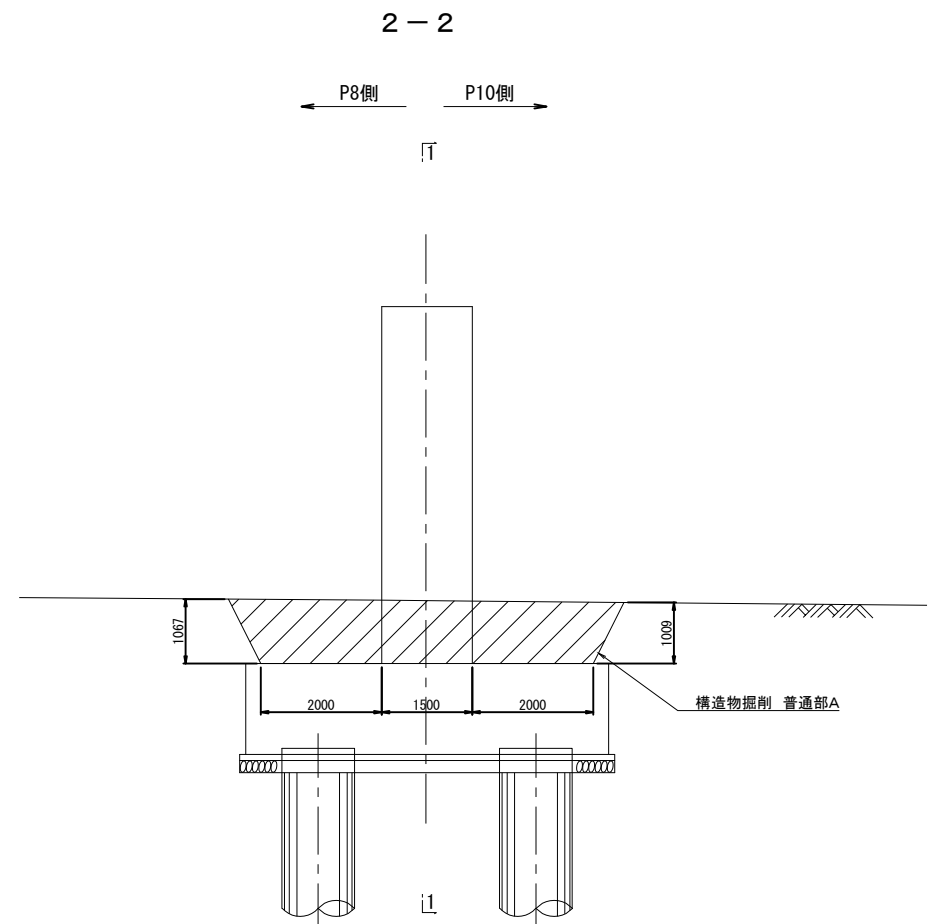
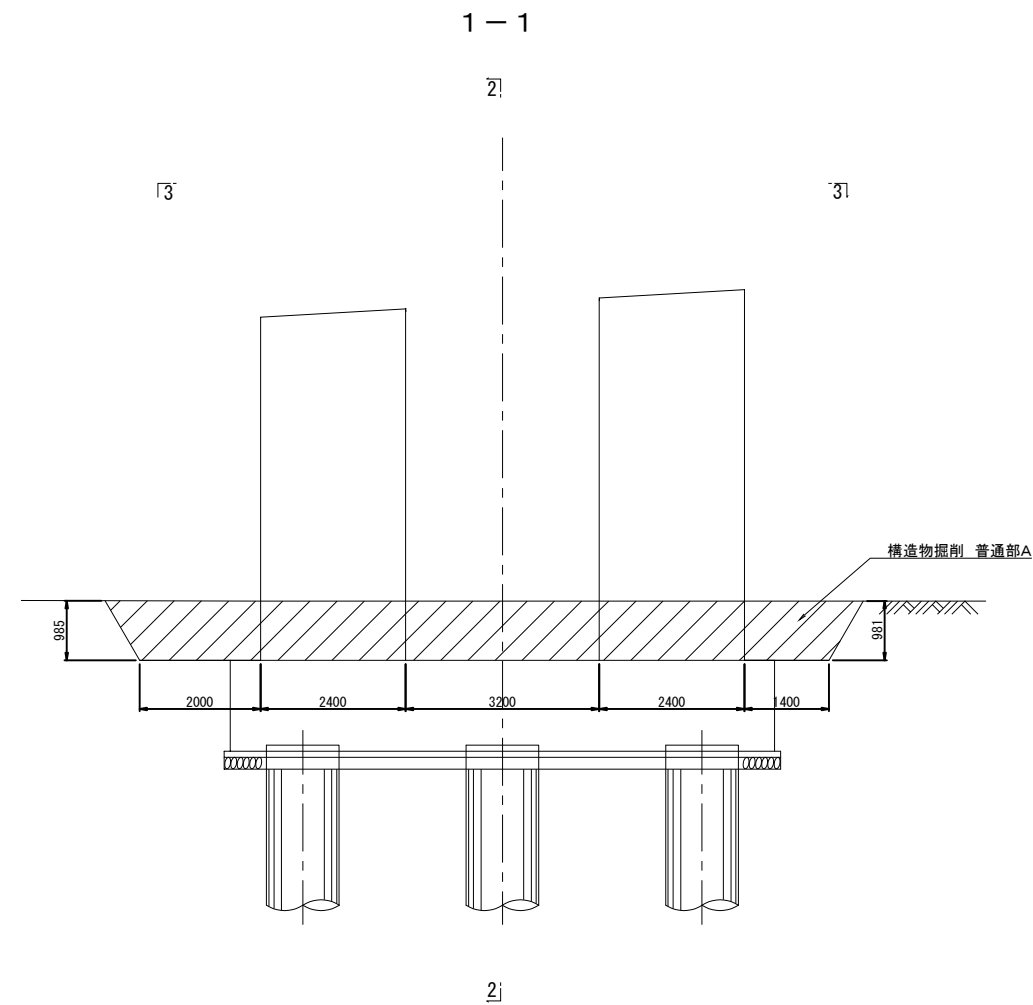
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 橋脚		
	構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		



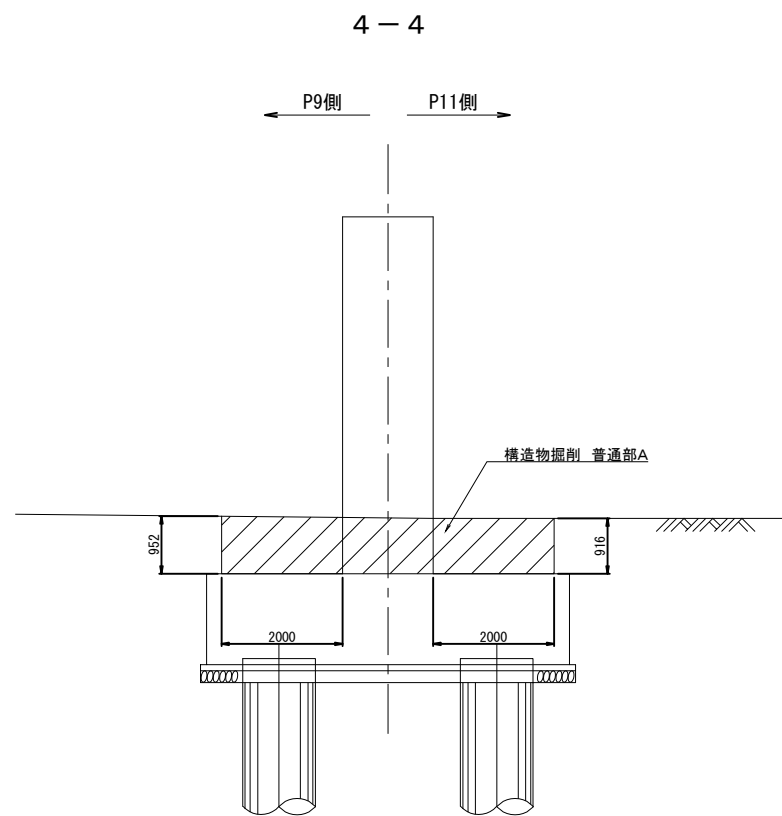
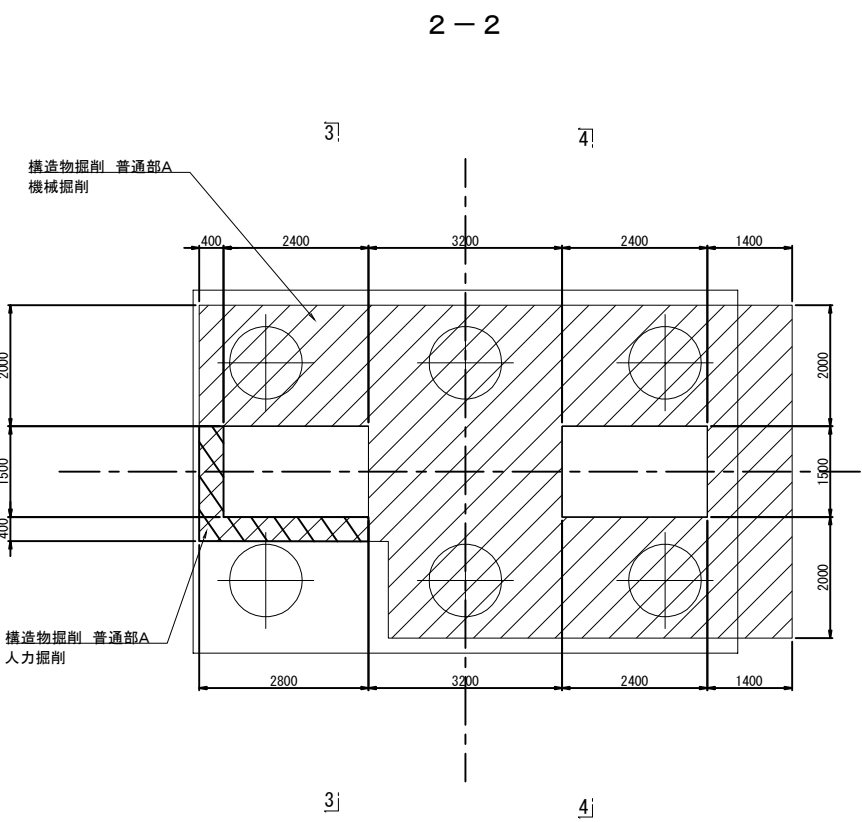
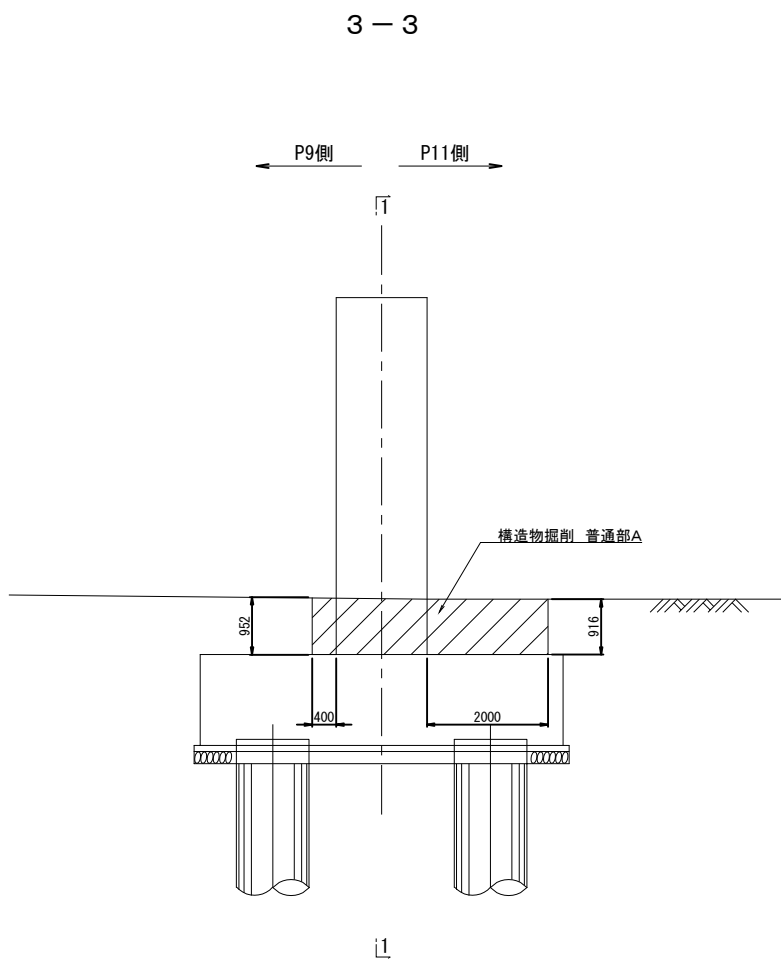
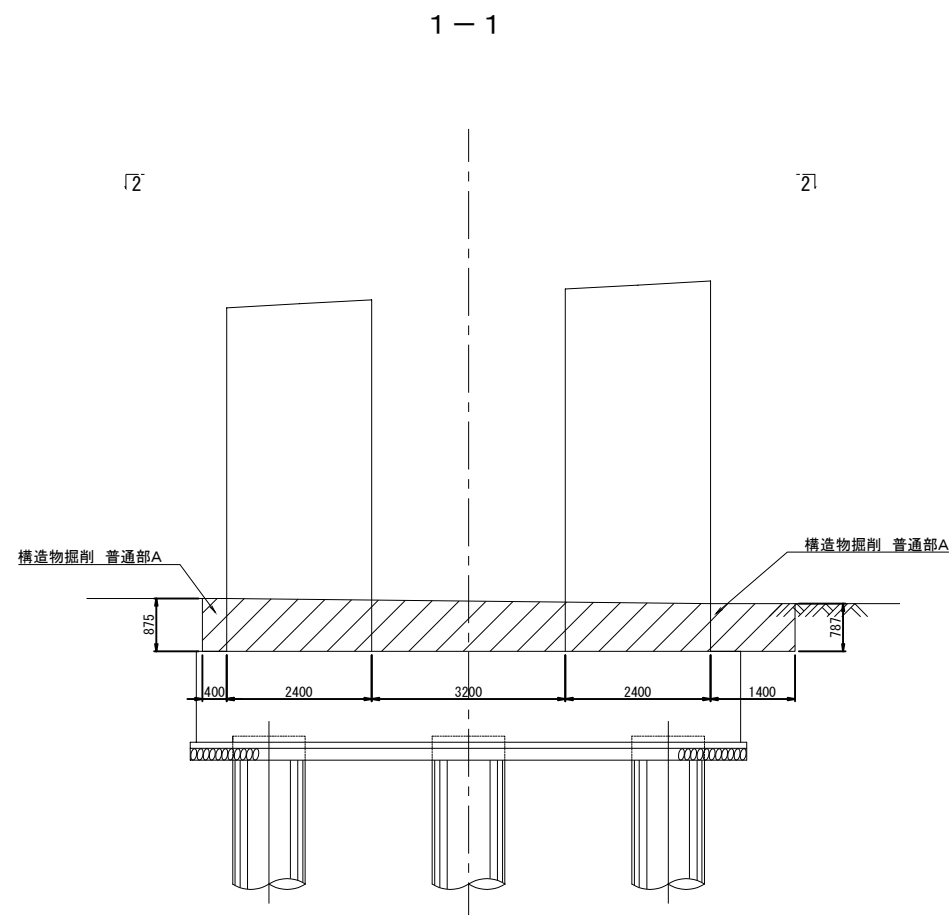
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 7 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



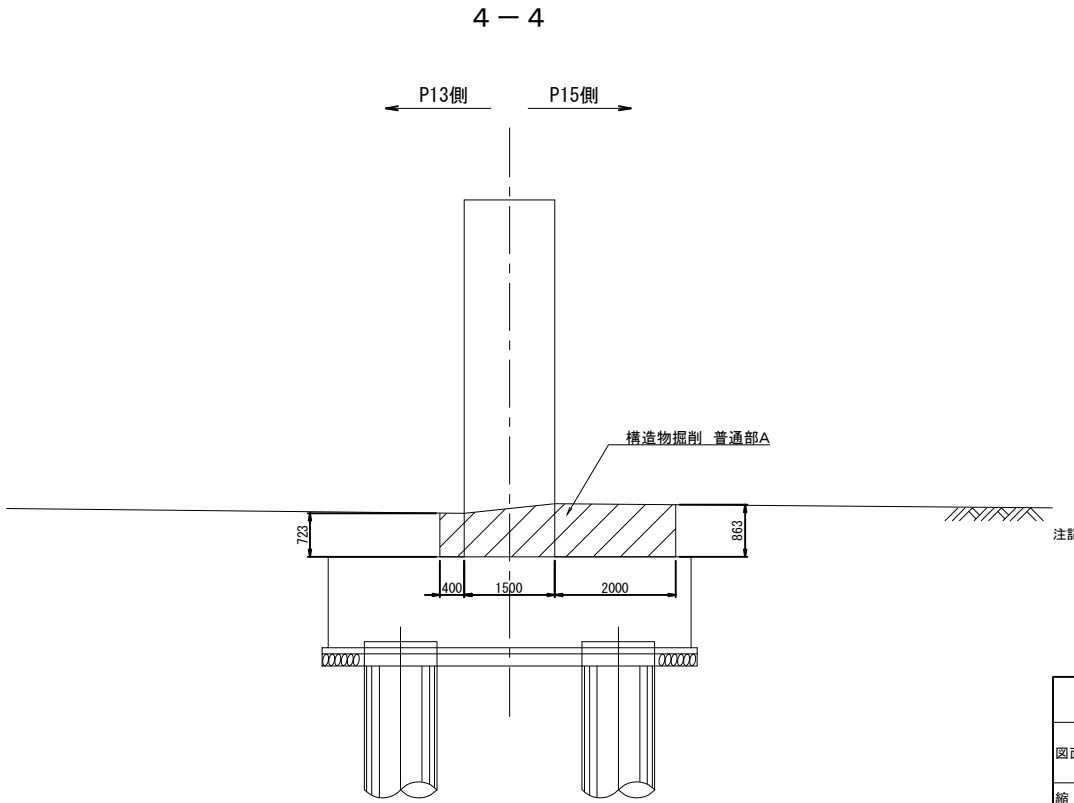
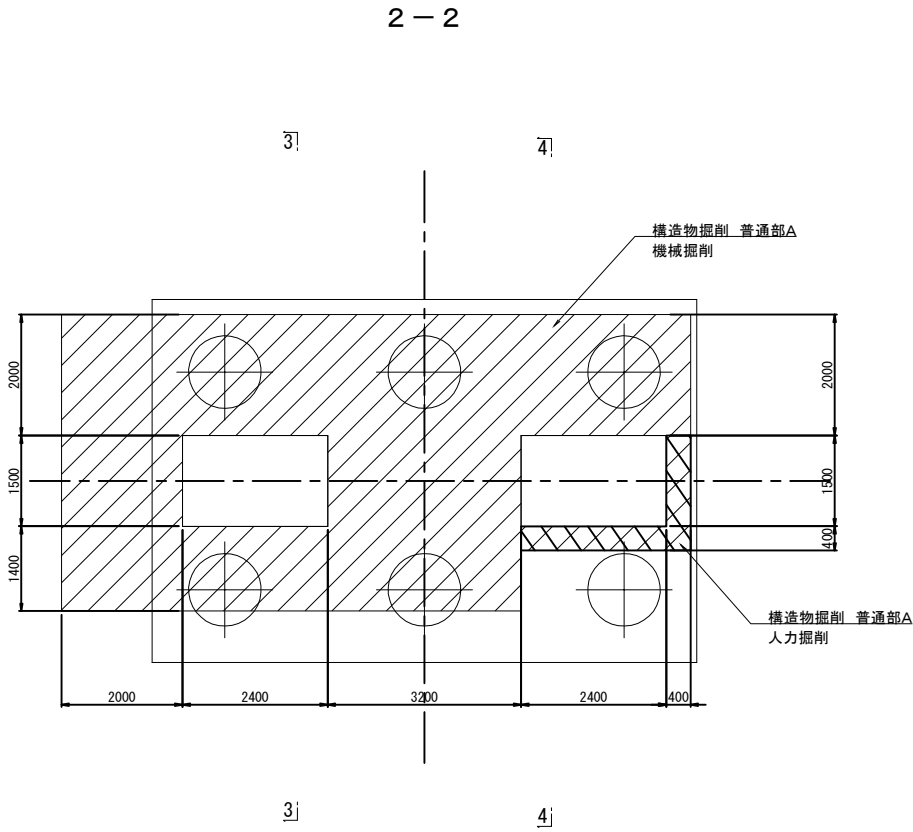
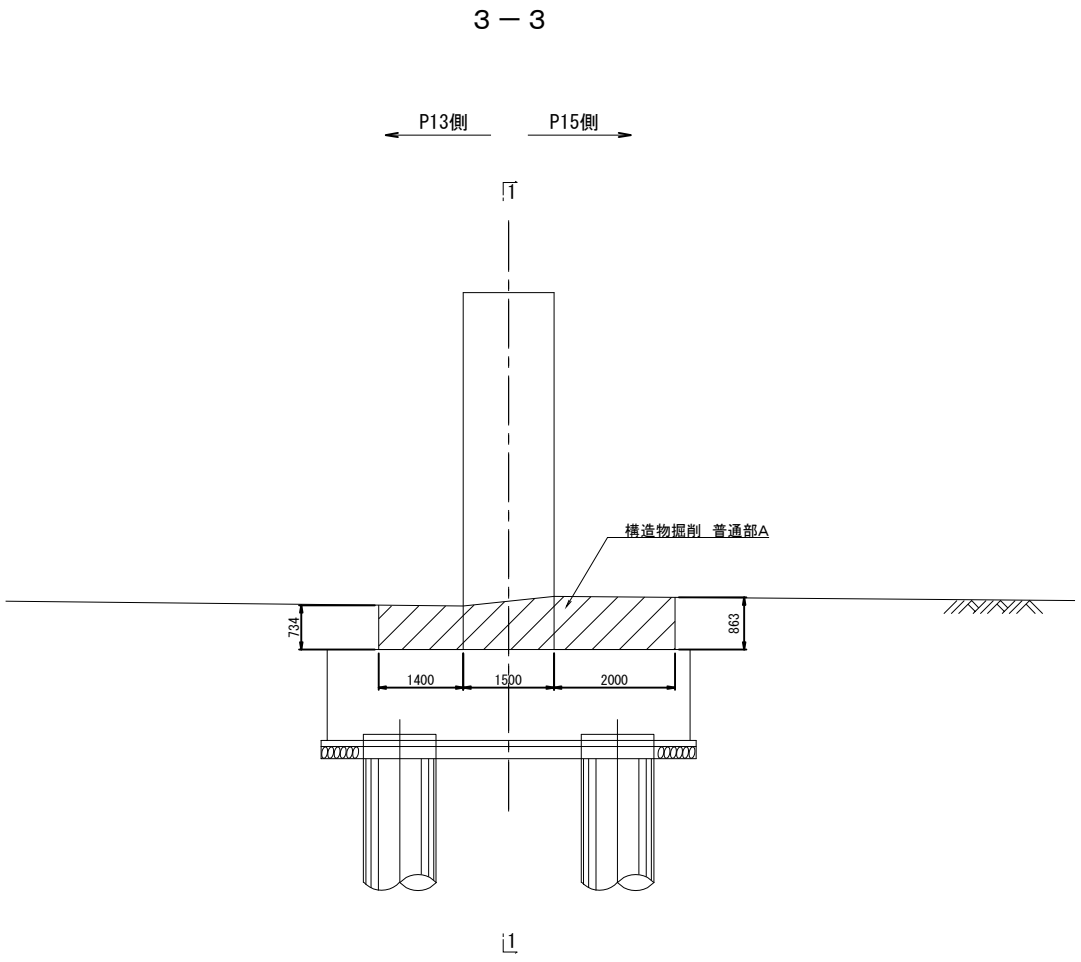
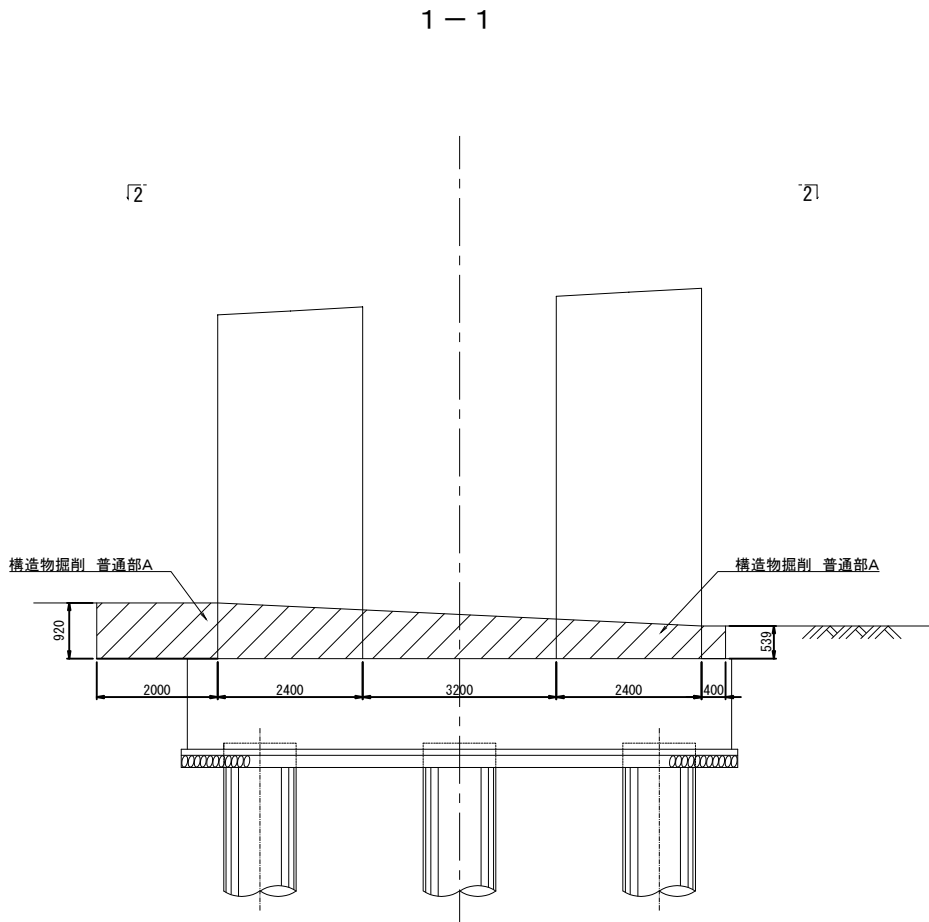
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 9 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



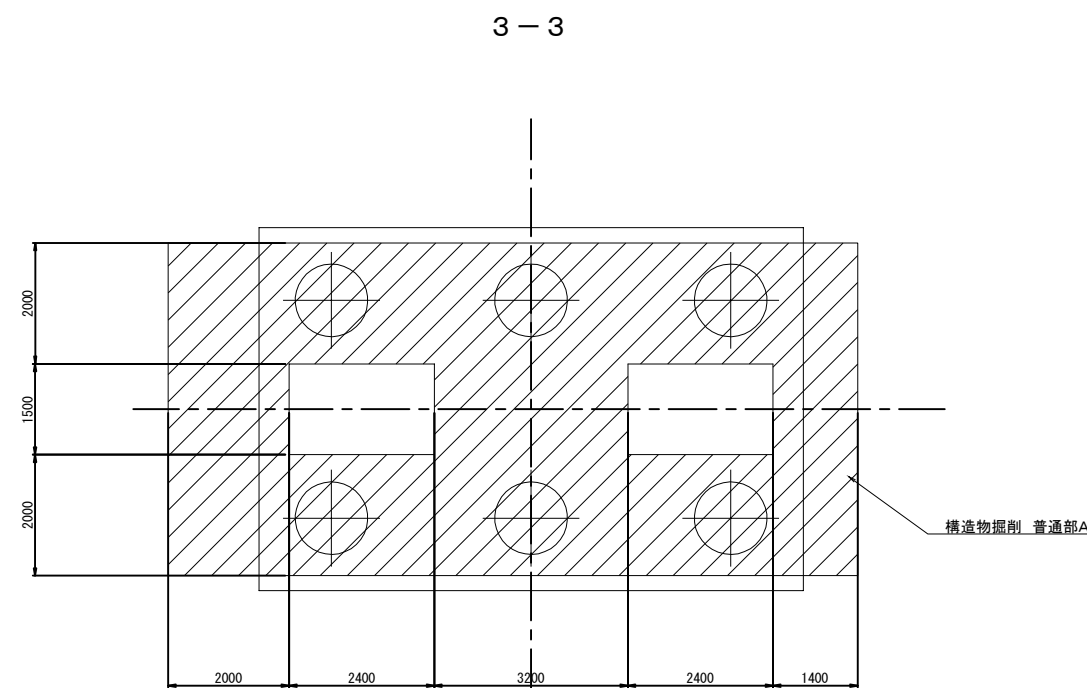
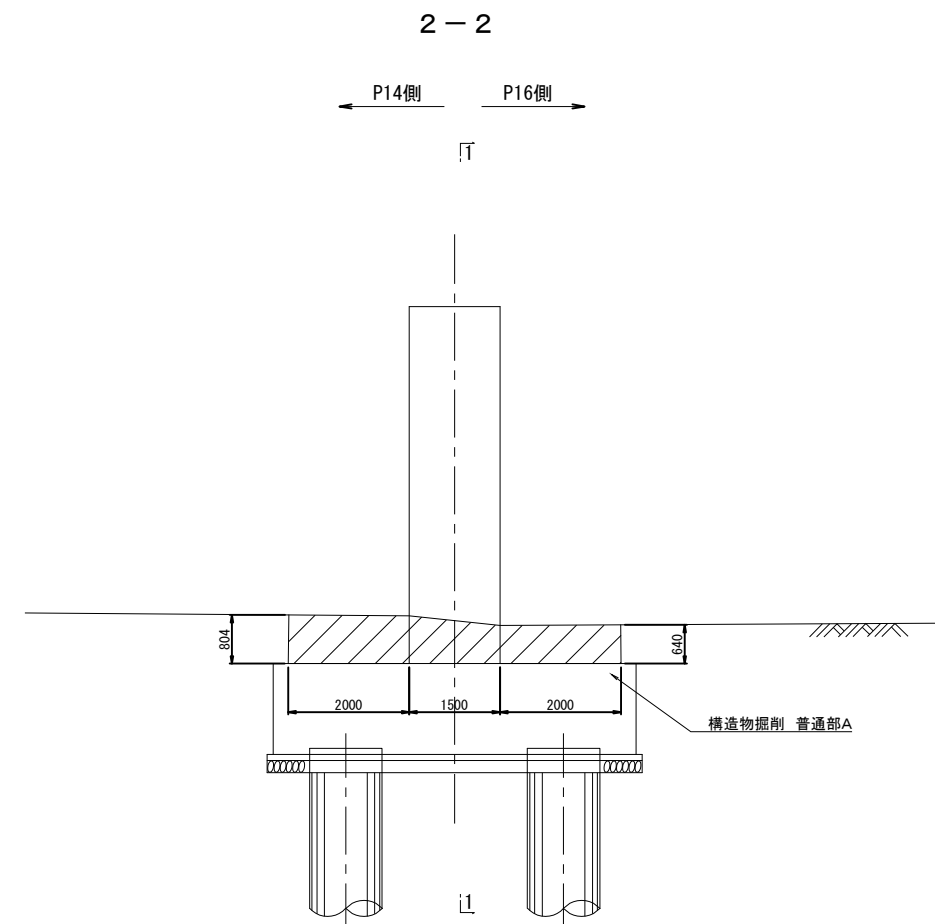
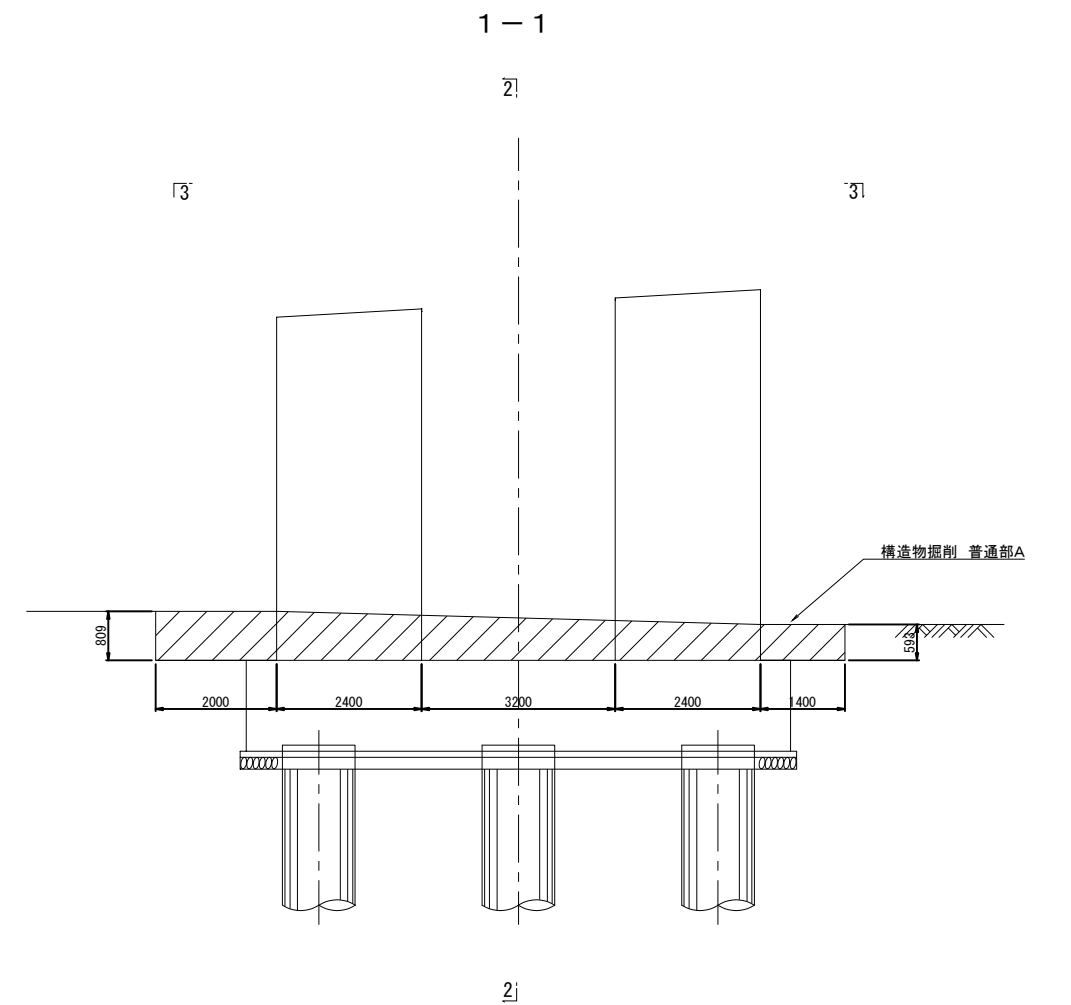
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 0 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		



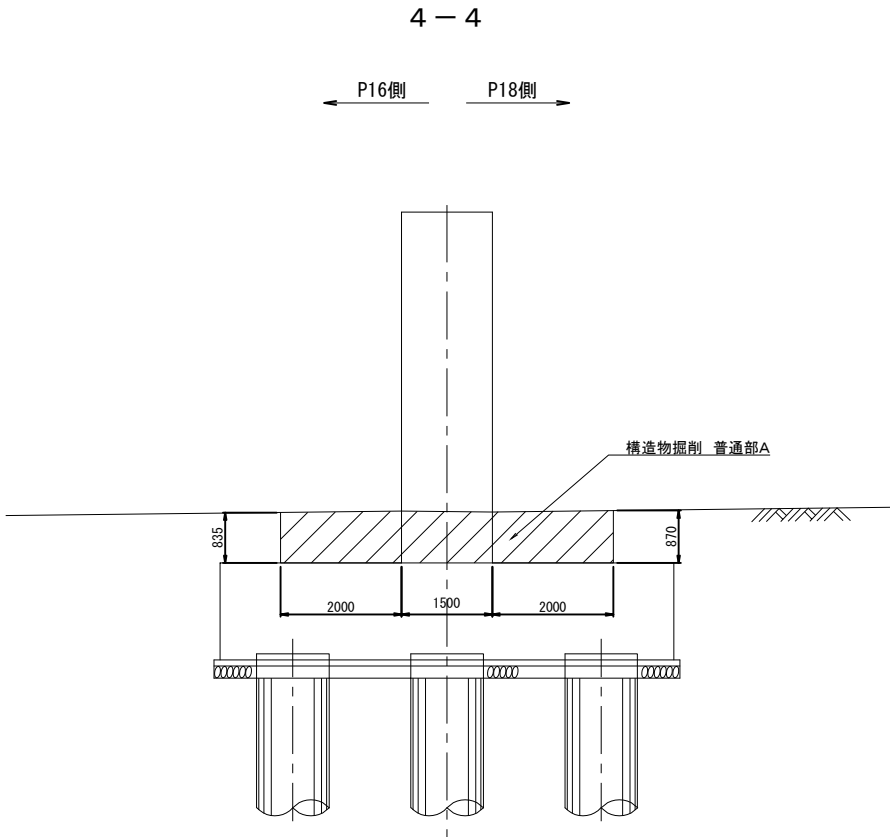
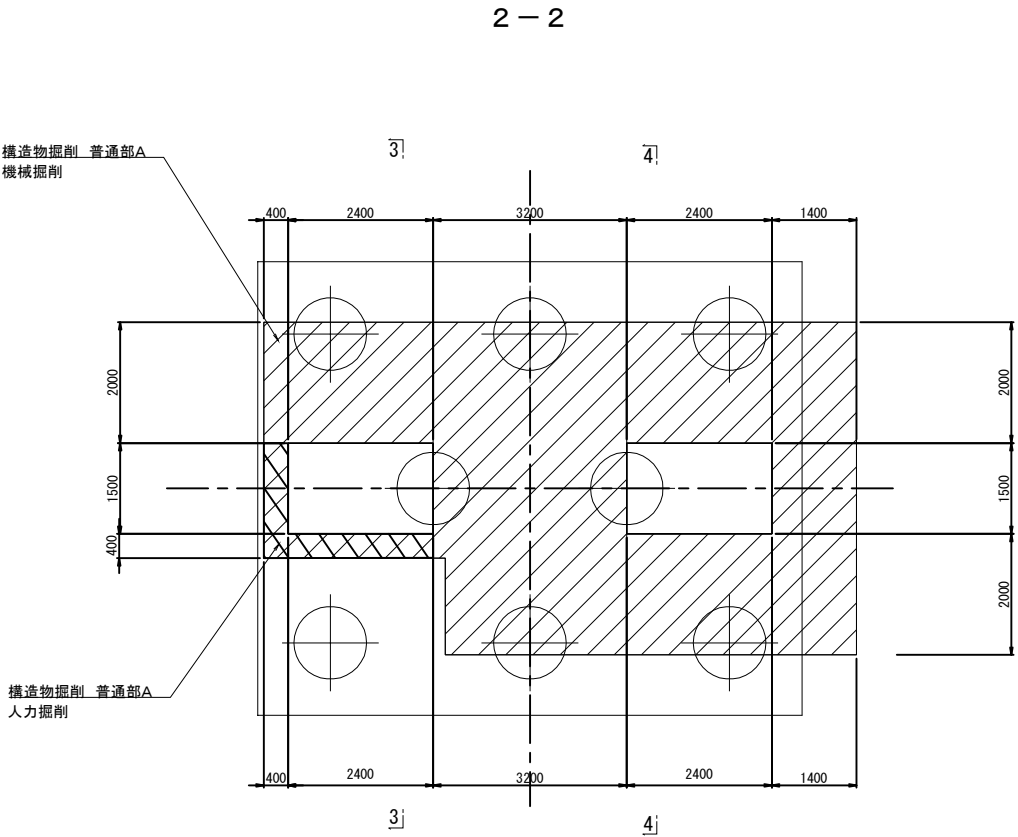
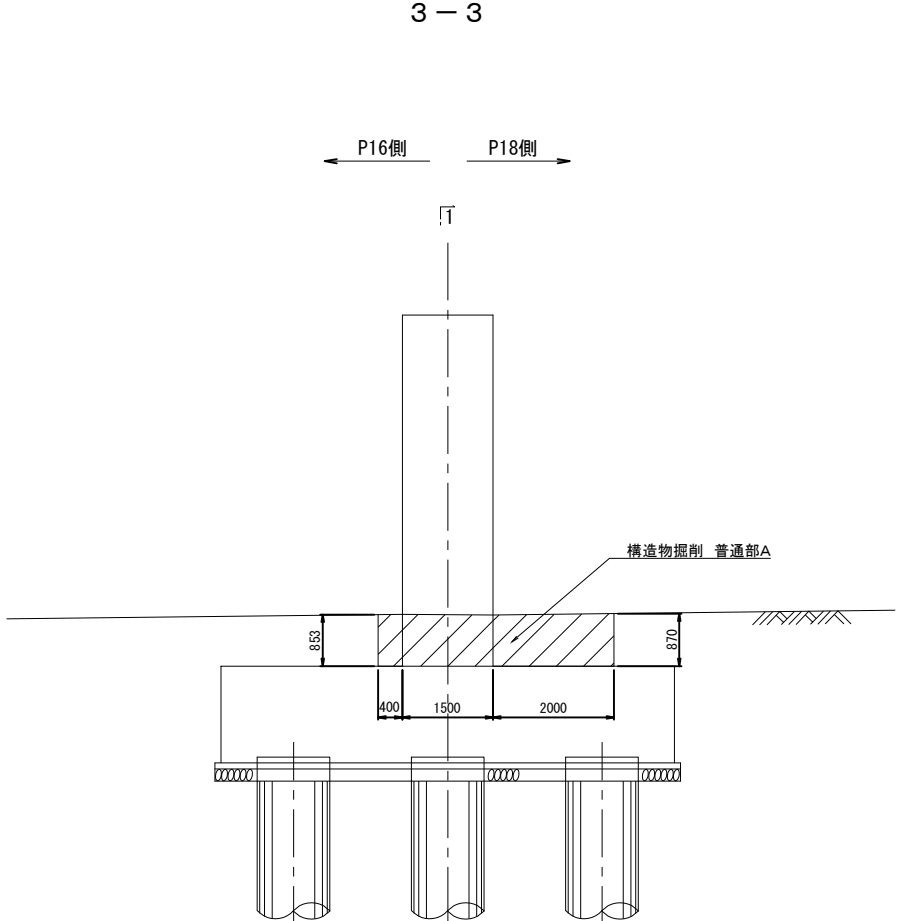
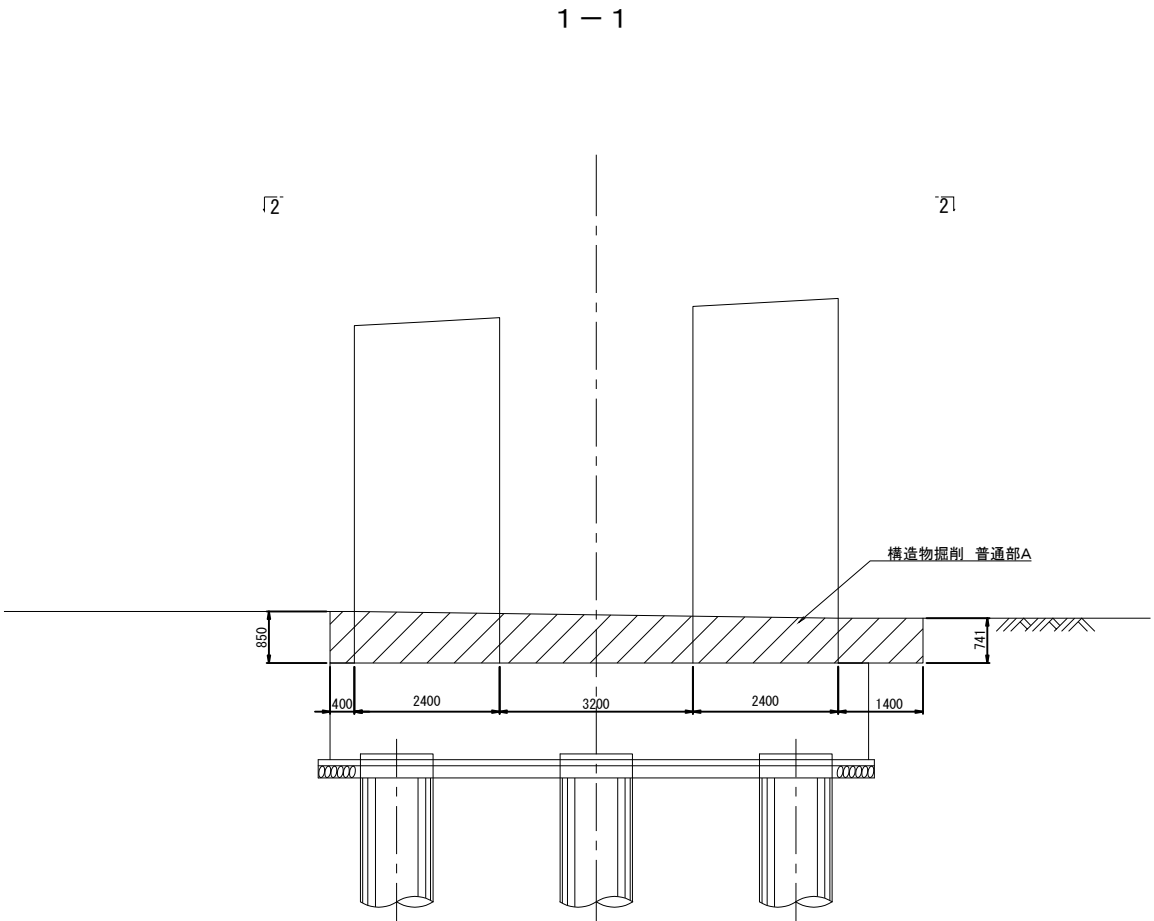
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 4 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



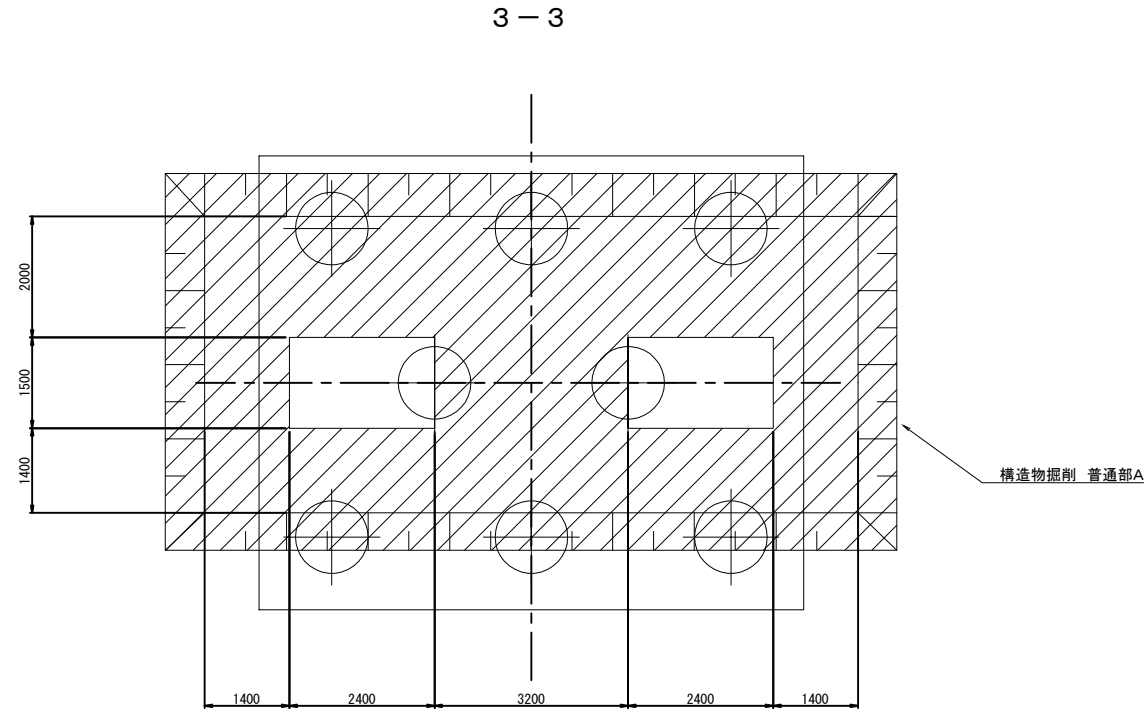
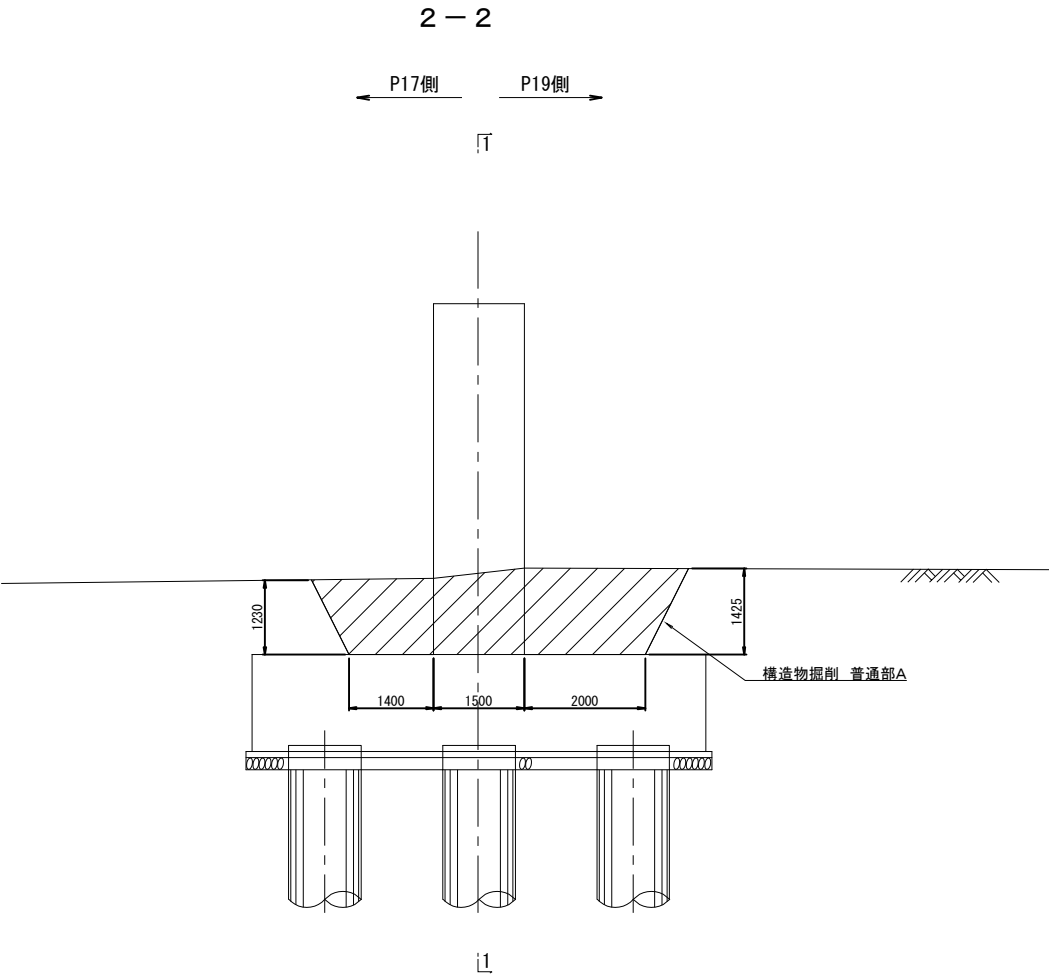
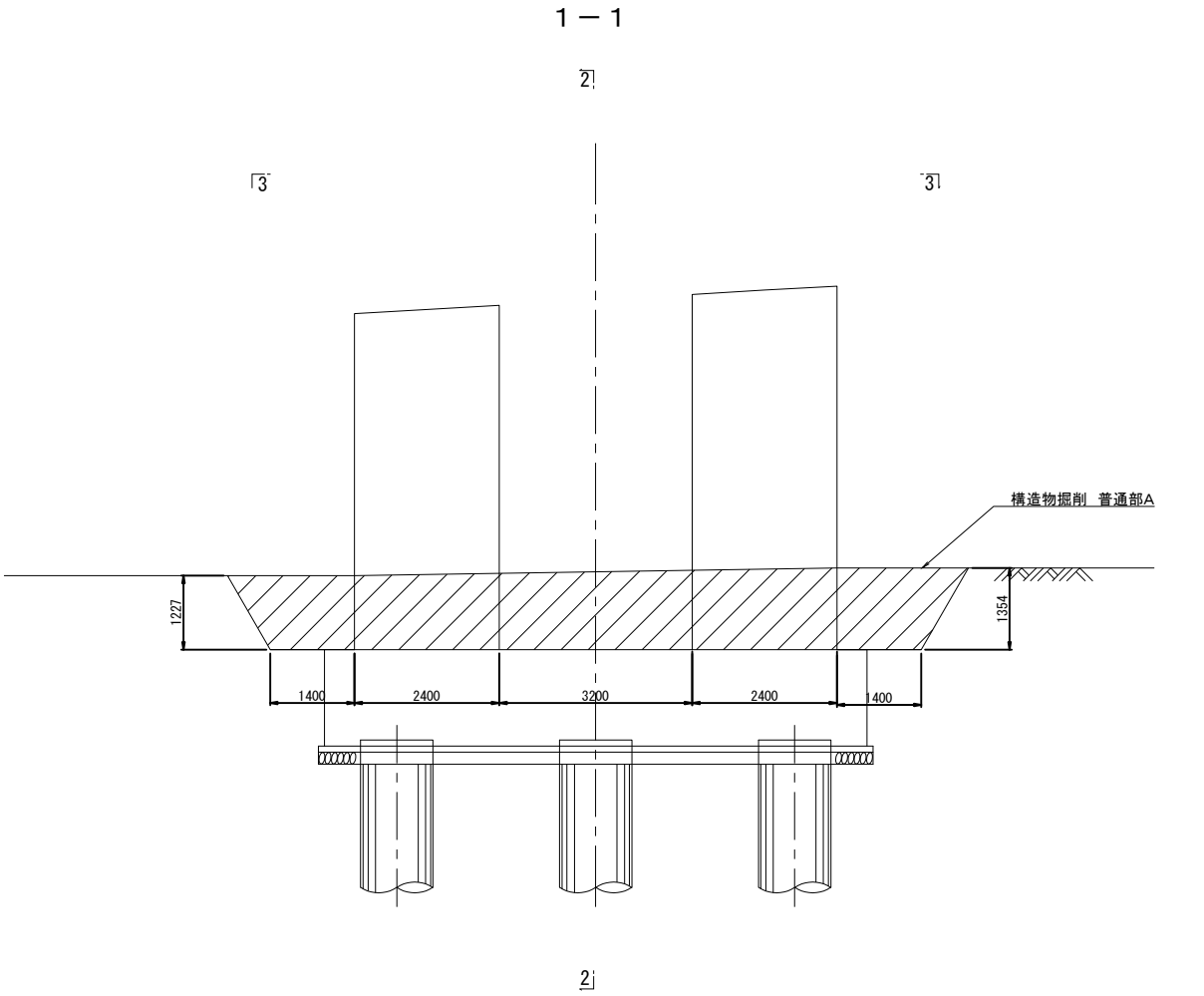
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 5 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		



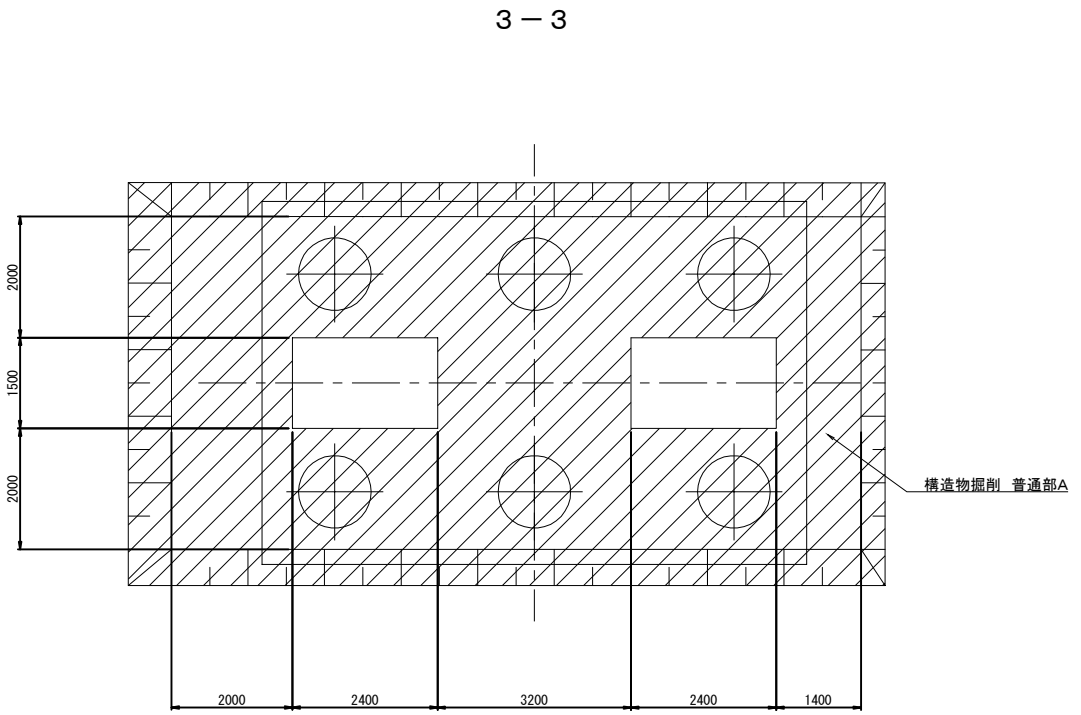
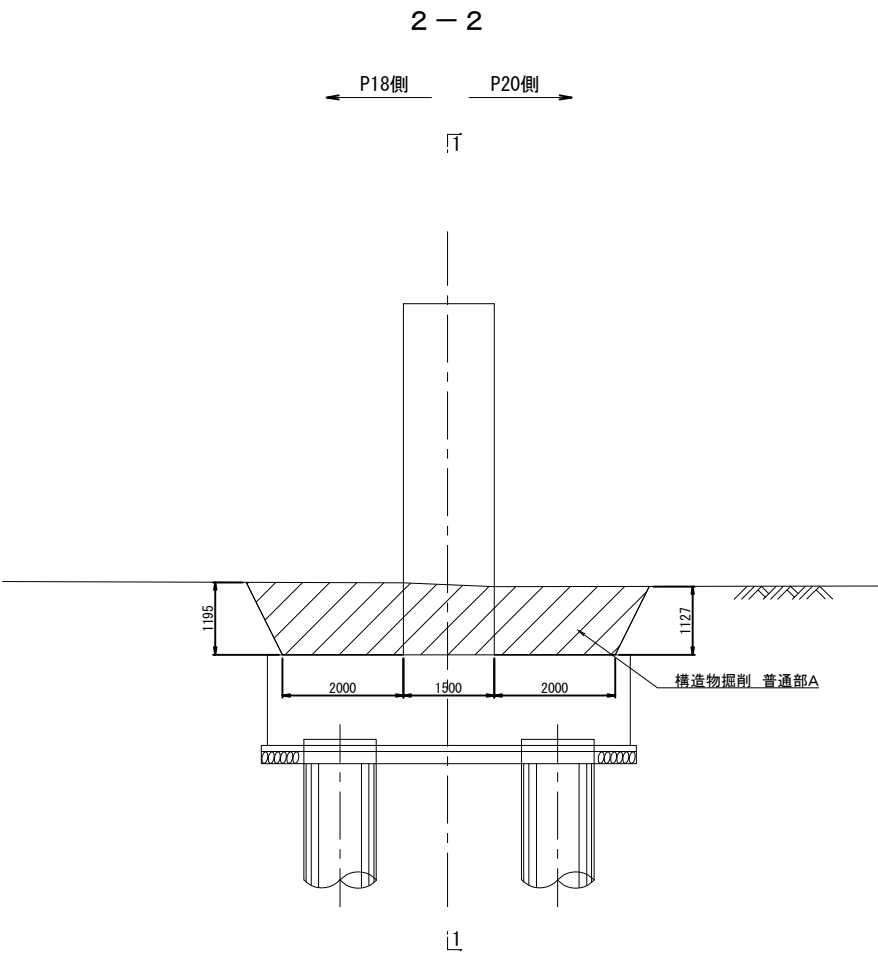
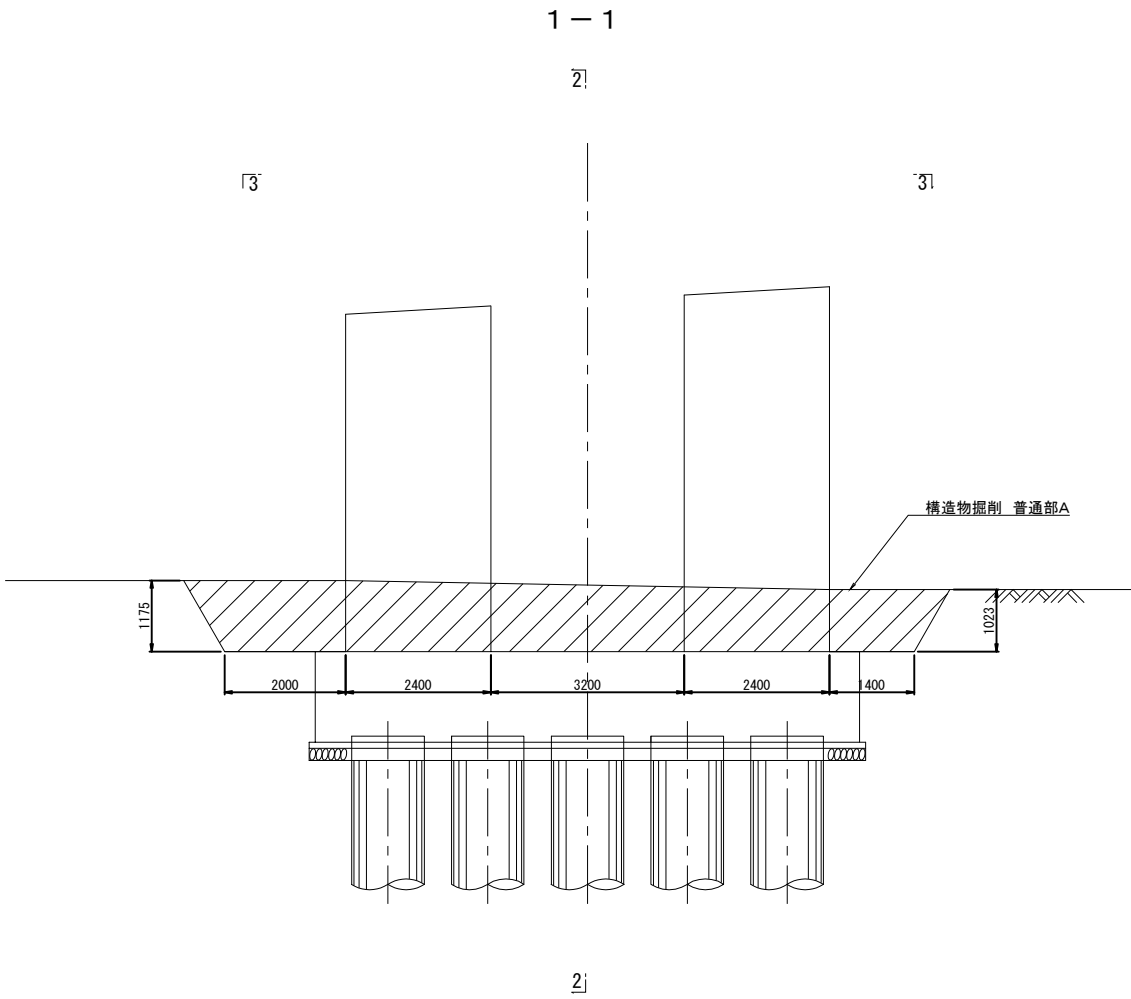
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 7 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		



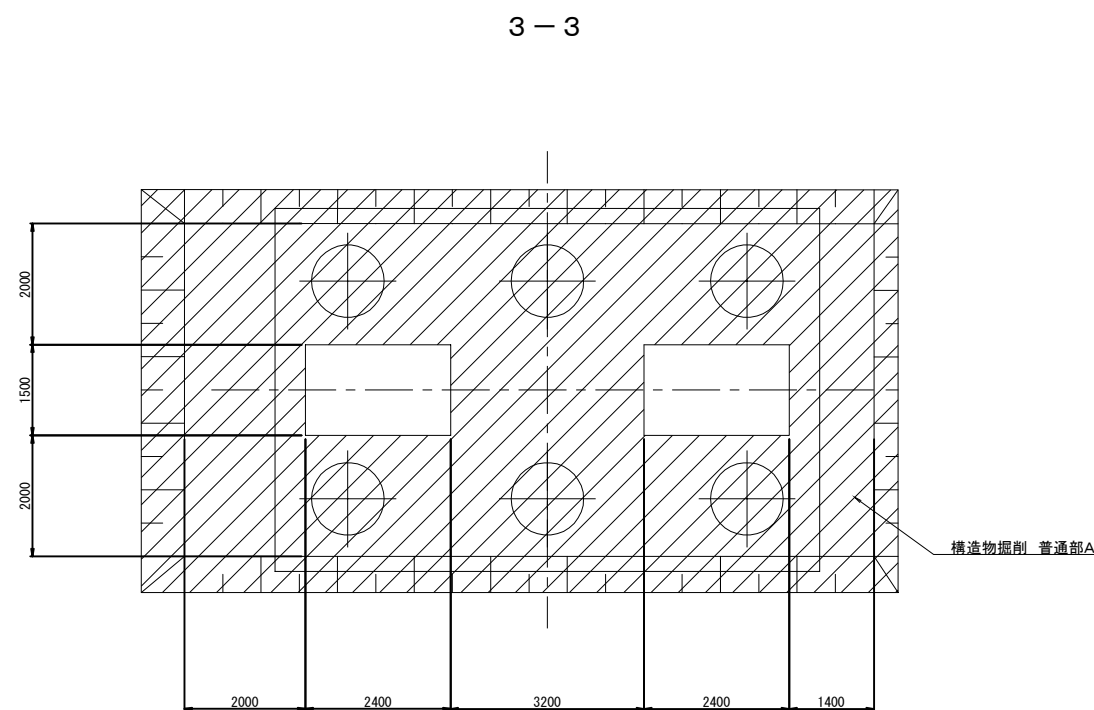
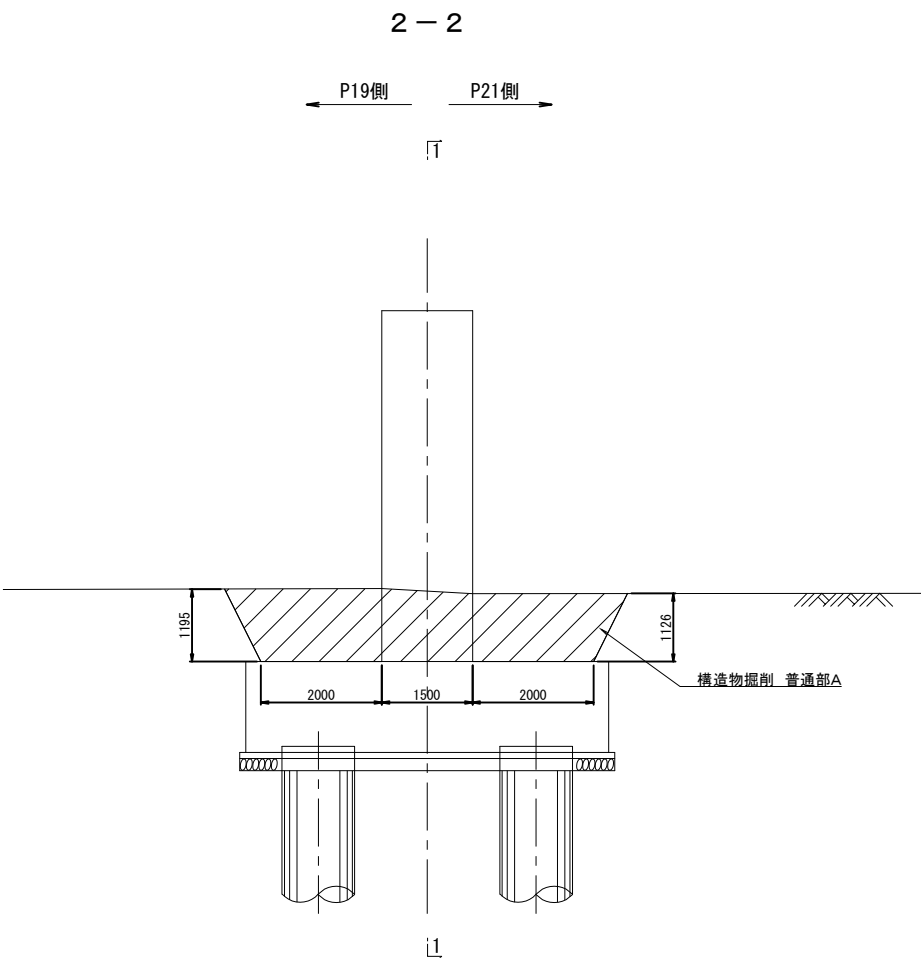
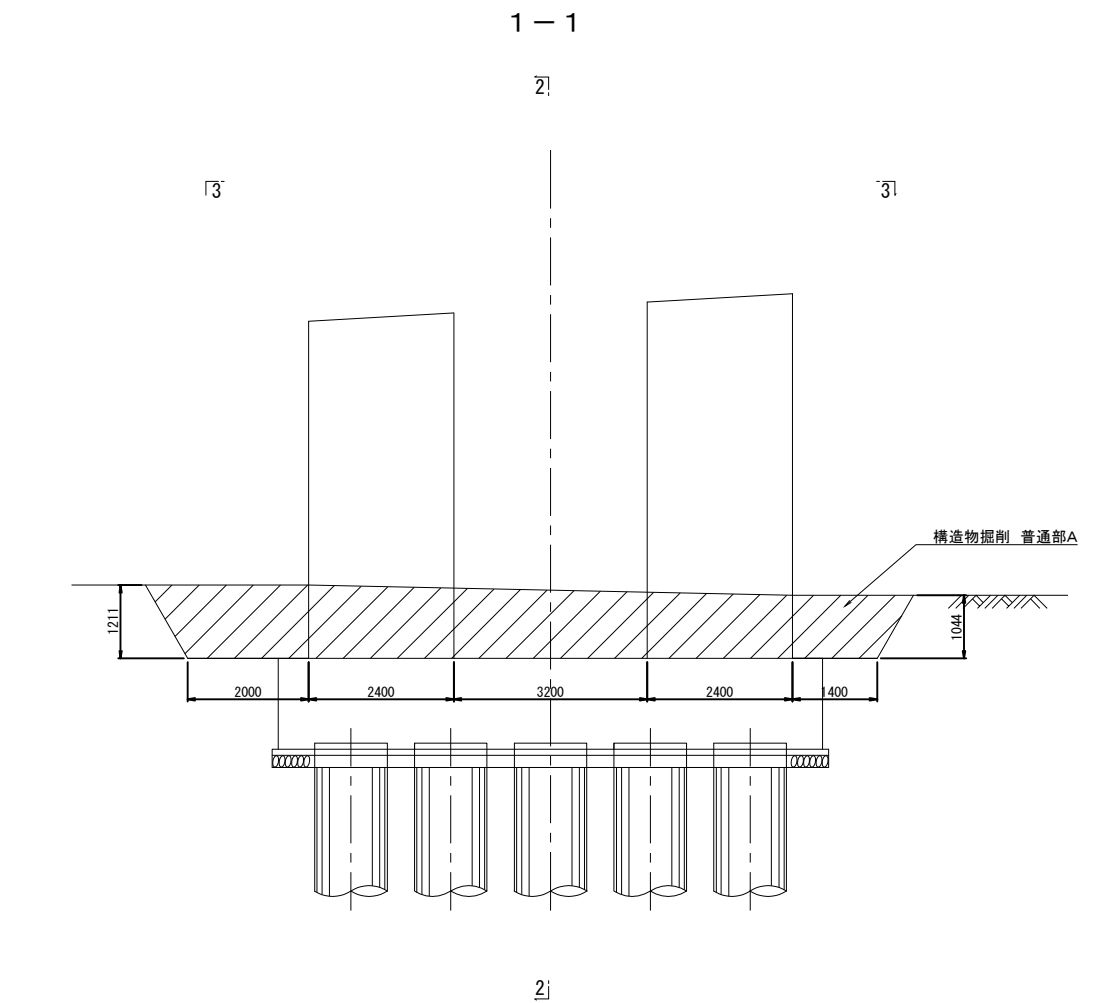
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 8 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



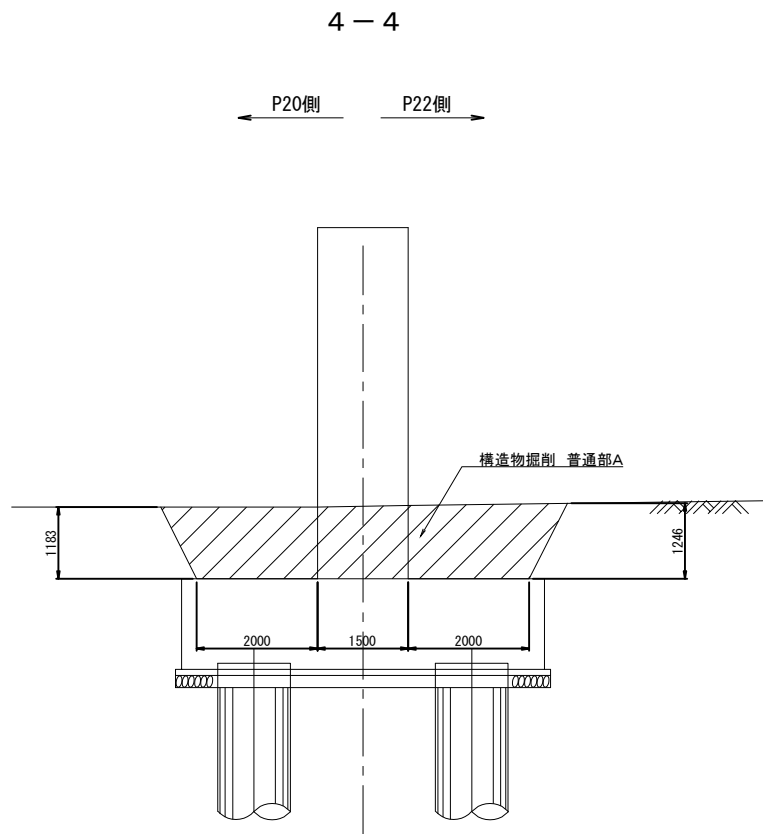
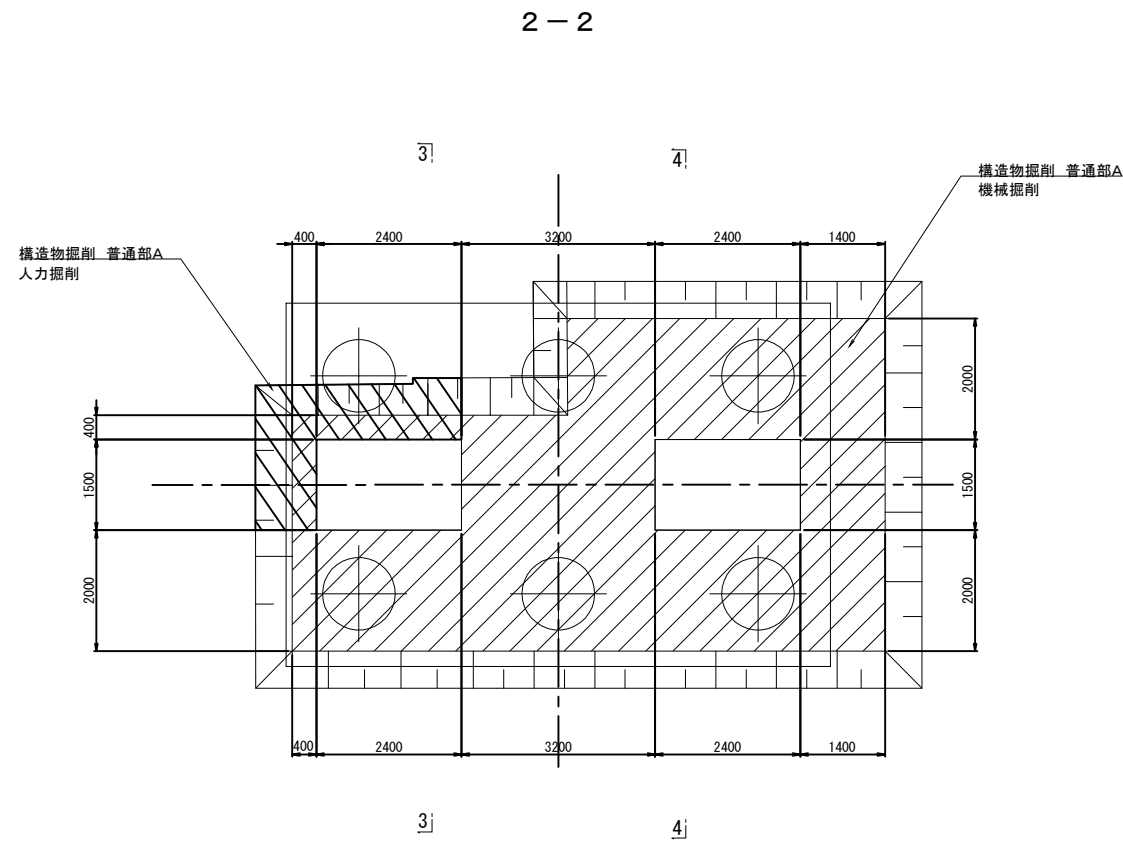
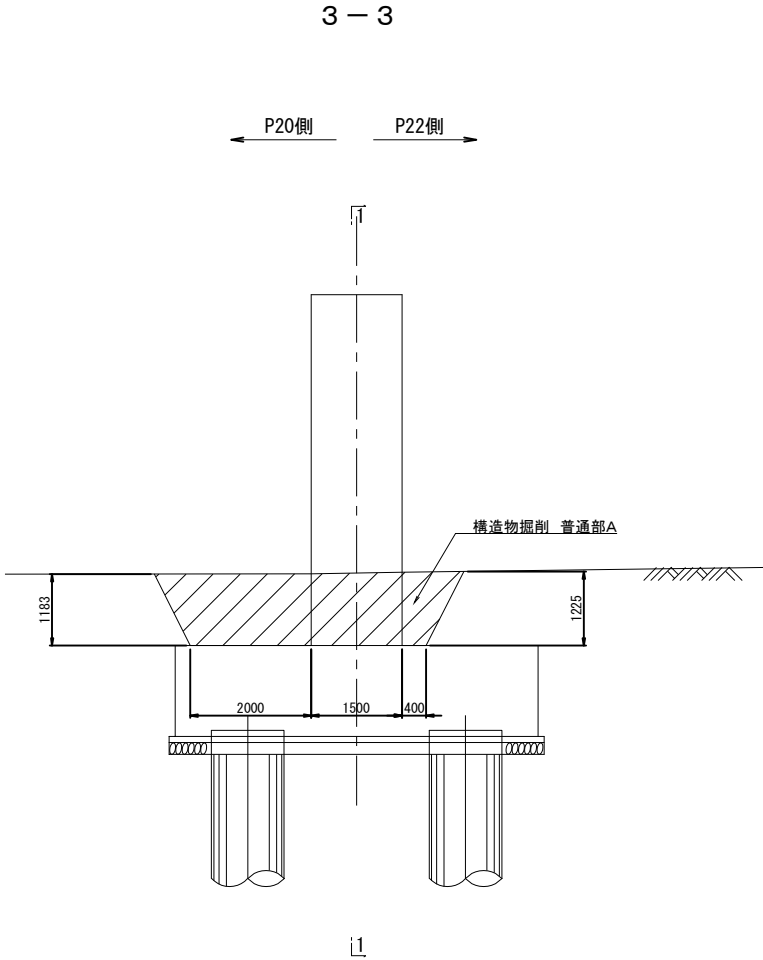
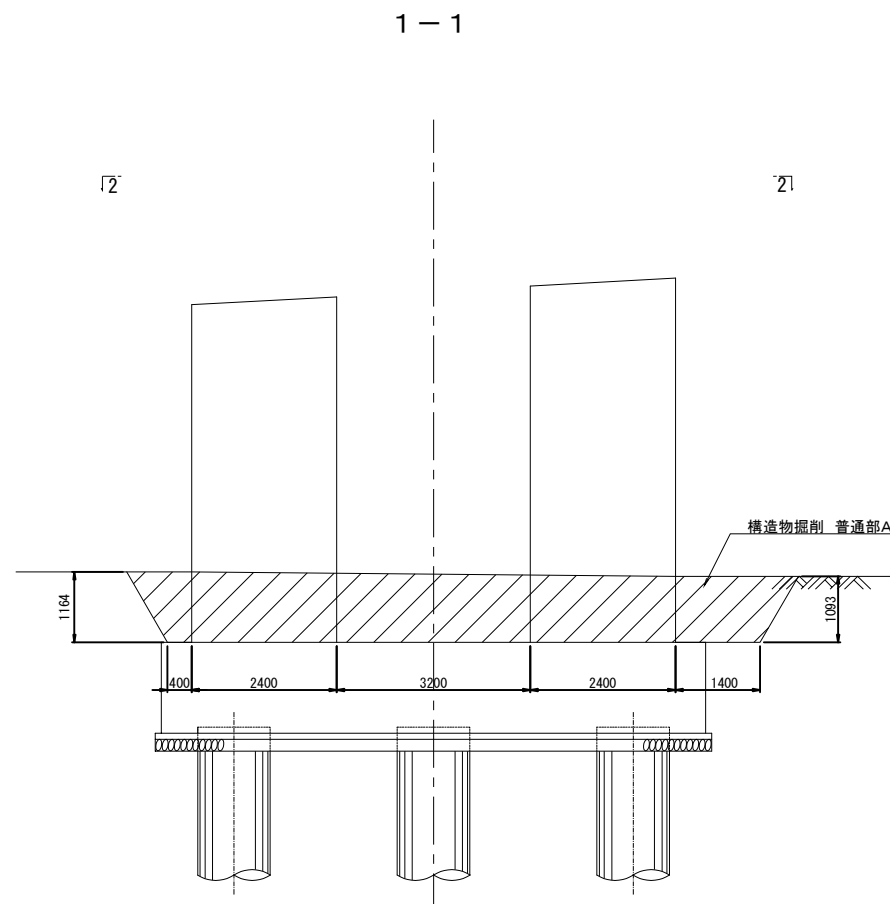
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 9 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



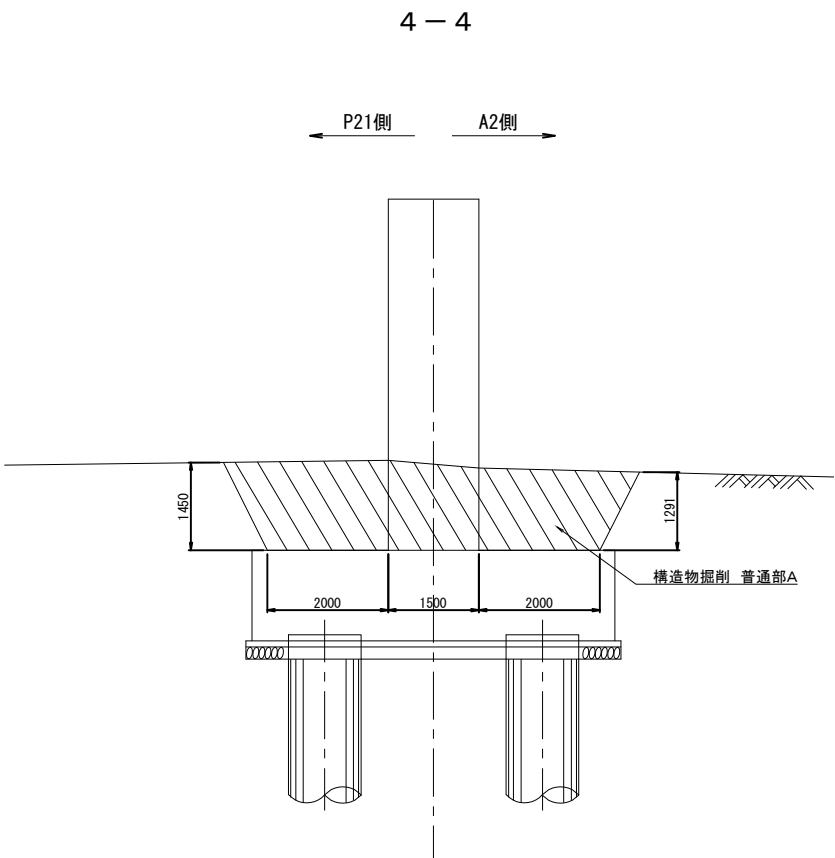
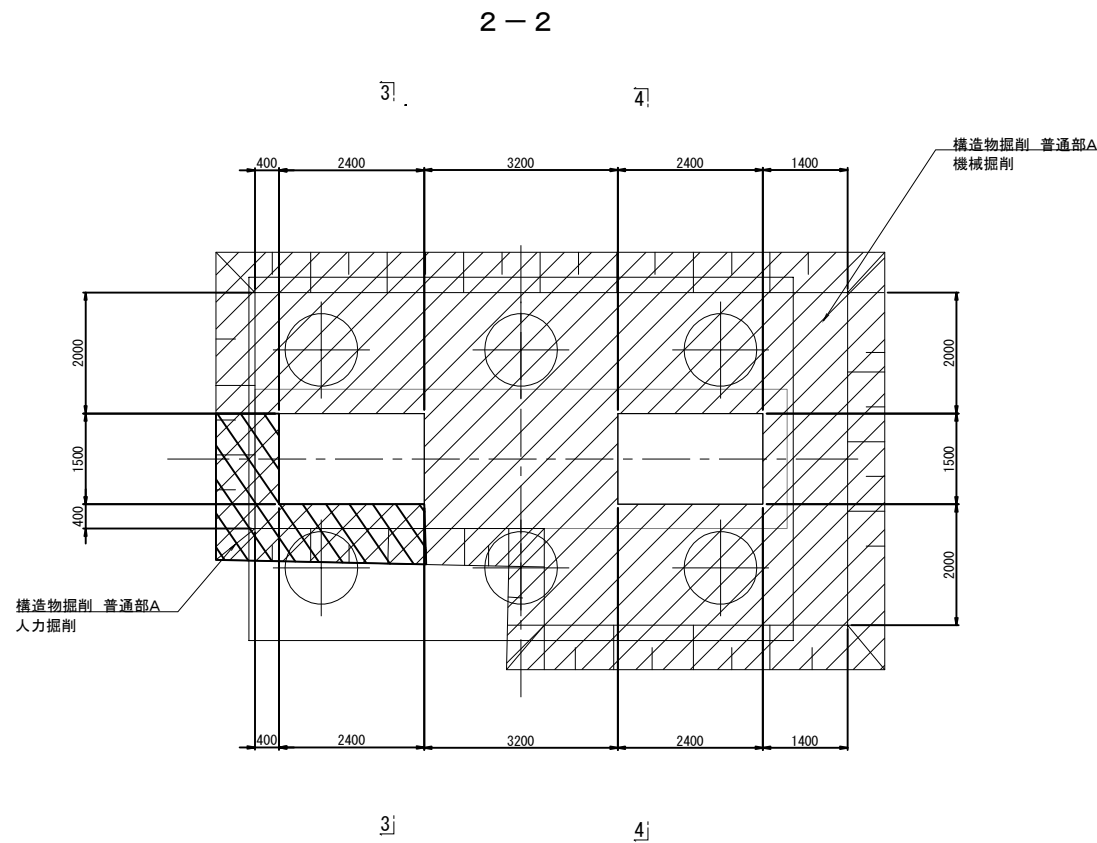
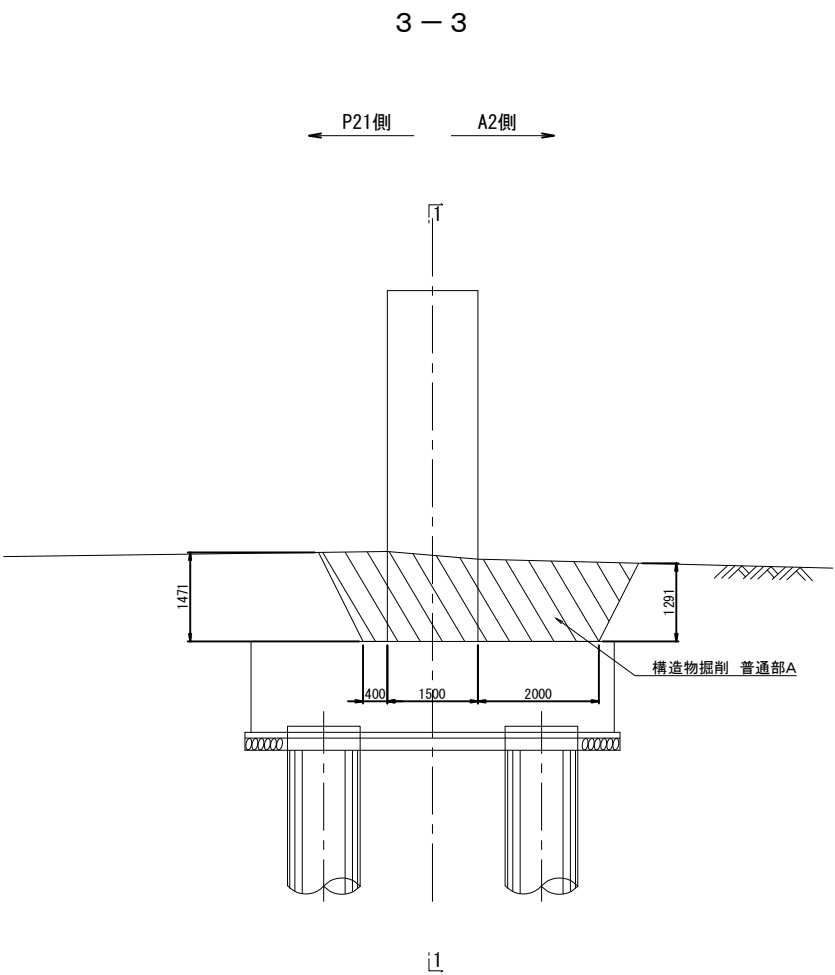
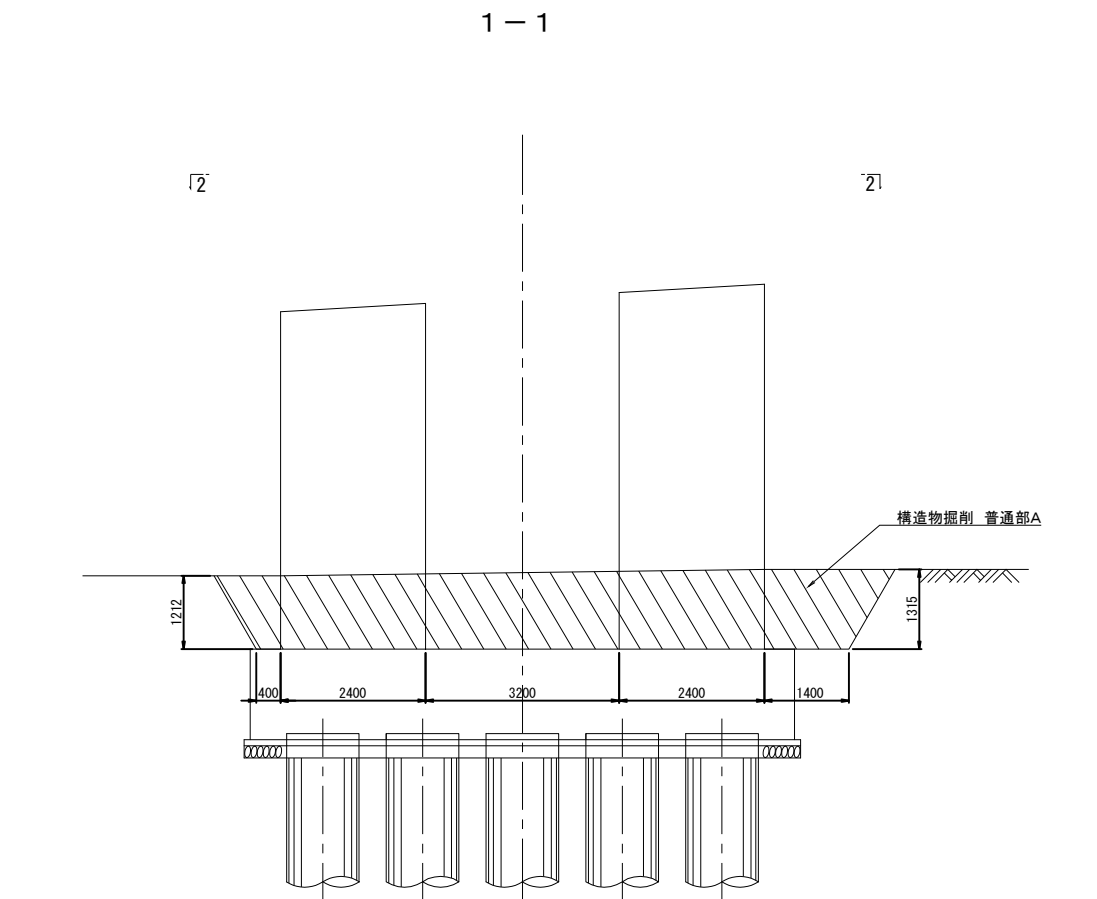
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 0 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		



注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

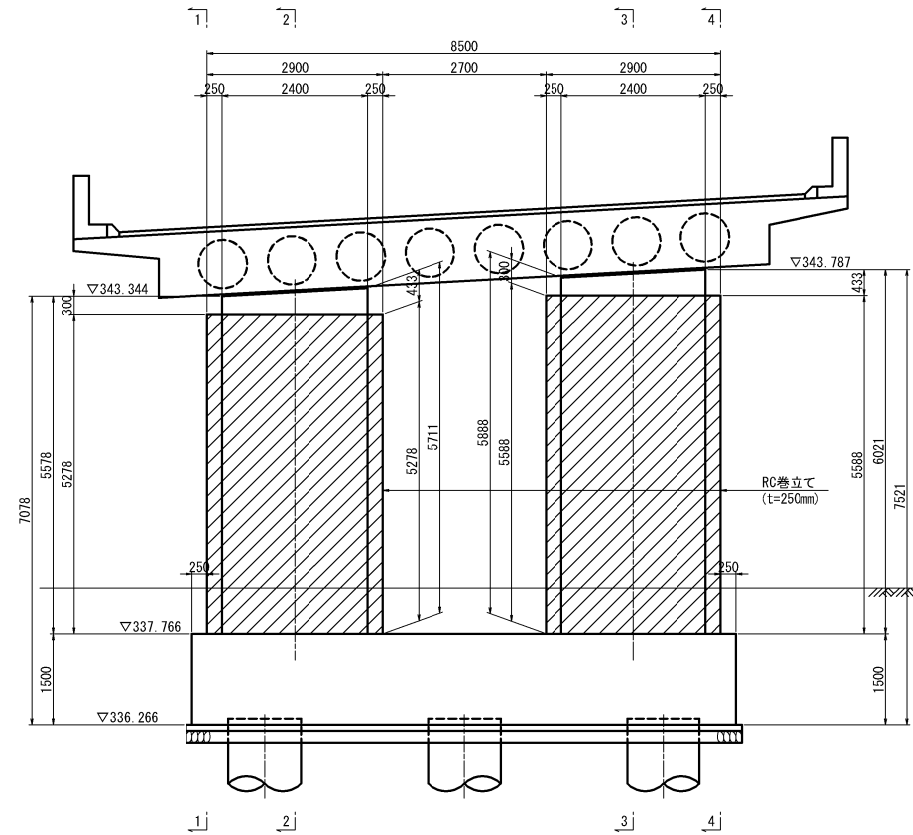
上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 1 橋脚 構造物掘削図 普通部A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		



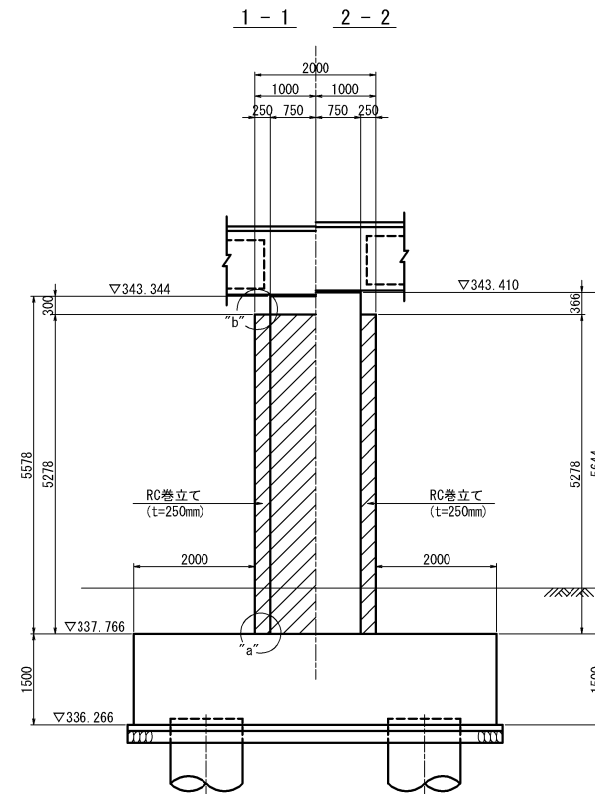
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 2 橋脚 構造物掘削図 普通部 A		
縮 尺	1:125	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

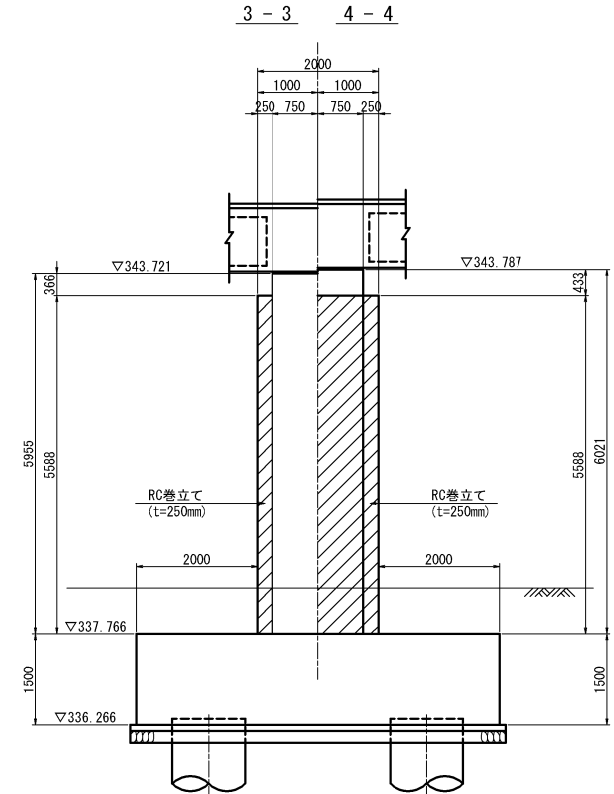
正面図



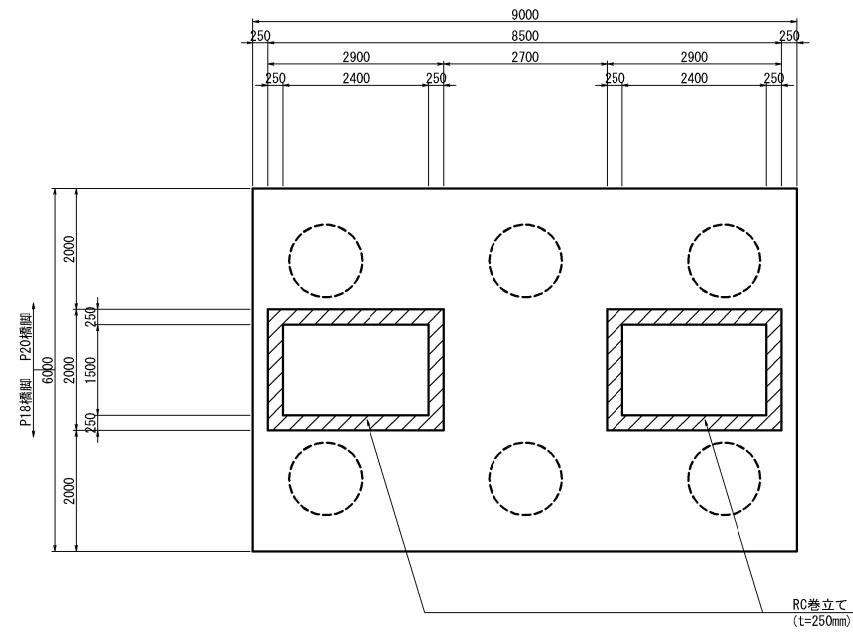
側面図



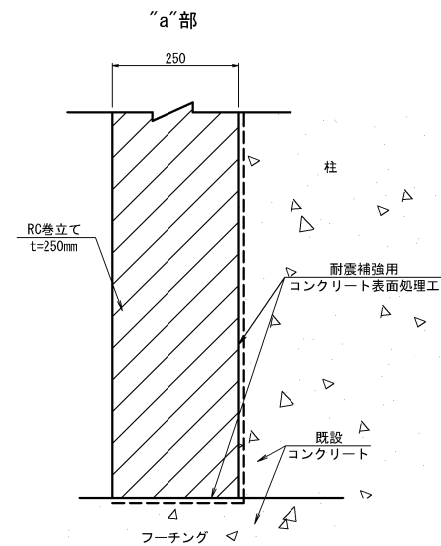
側面図



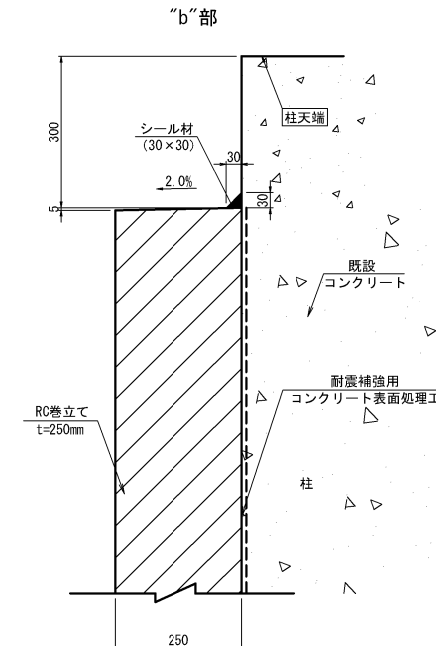
平面図



RC巻立て下端部詳細図 S=1:15



RC巻立て天端詳細図 S=1:15



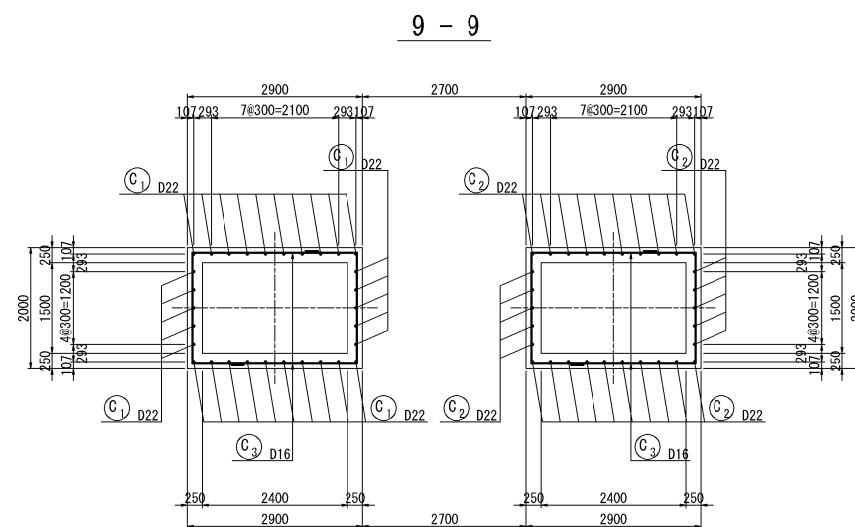
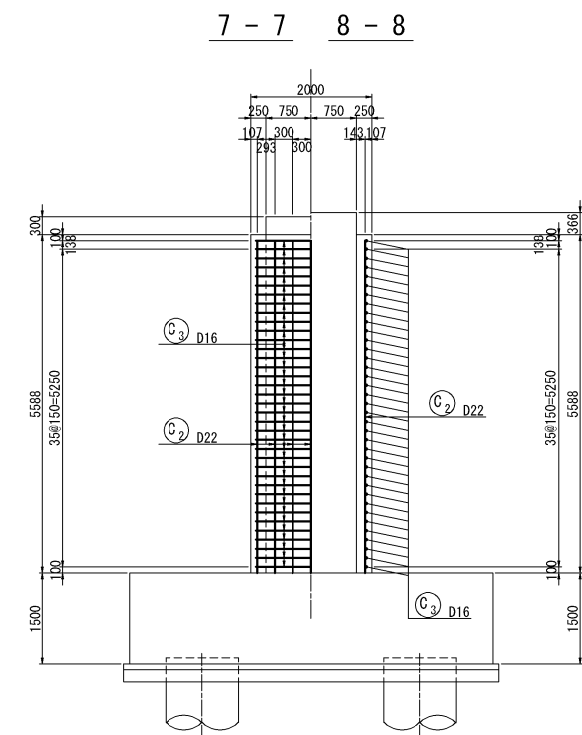
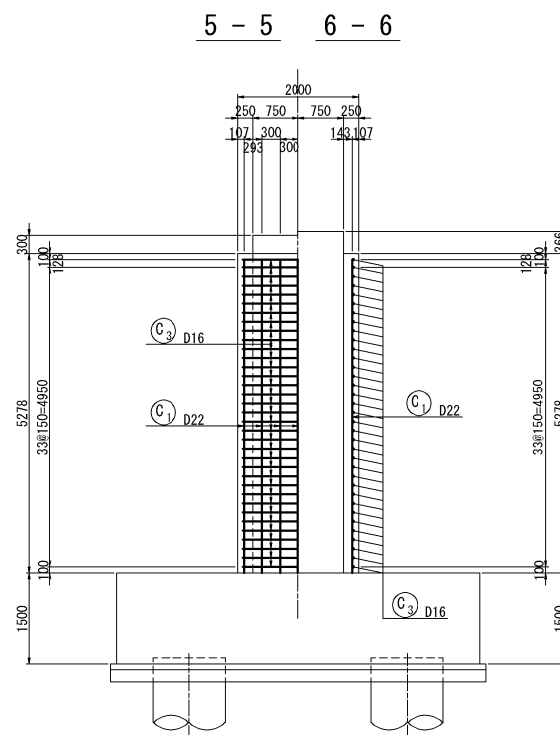
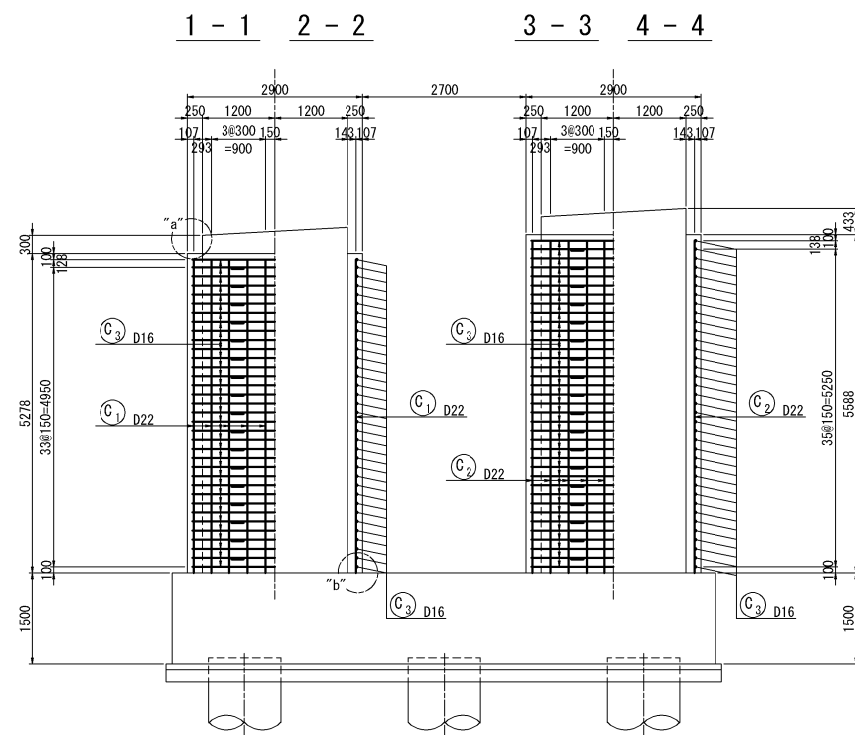
使用材料

工 種		仕 様
既 設 部	コンクリート	24N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補 強 部	コンクリート	30N/mm ²
	鉄 筋	SD345

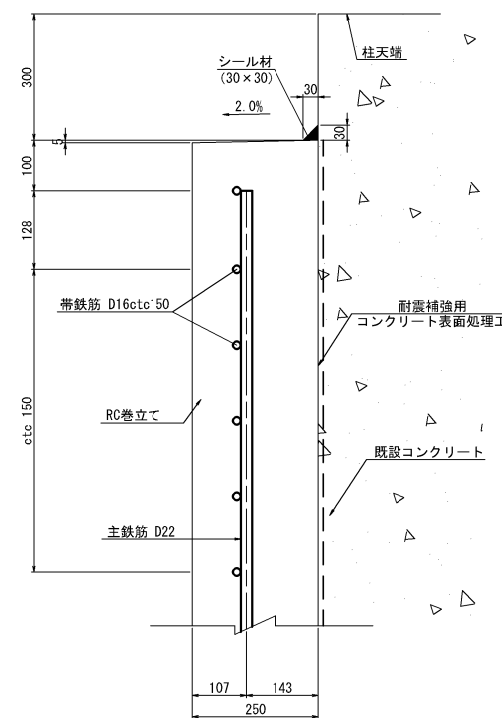
注記)

1.  は、補強部分を示す。
2. 補強部分（既設面）は、WJ1による表面処理を行う。
3. 補強部分の天端位置から2.0%の排水勾配を外側に向けて設ける。

上 信 越 自 動 車 道 豊 州 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	緒内高架橋（上り線） P19 橋脚		
R C 巻 立 て 一 般 図			
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		

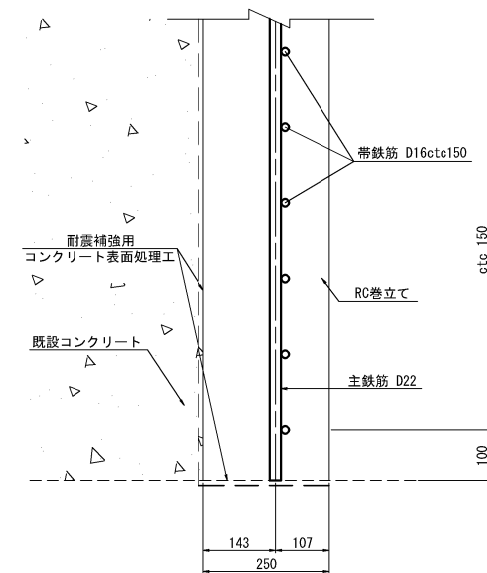


a部詳細図 S=1:15



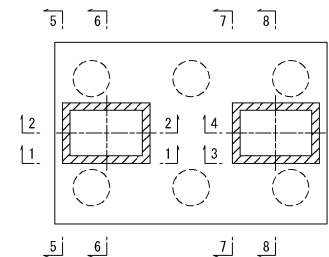
b部詳細図 S=1:15

(アンカー定着無し)

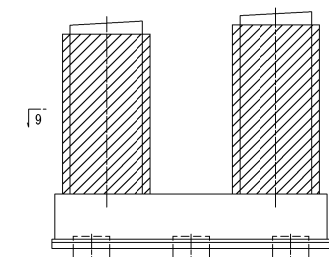


位置図

平面図



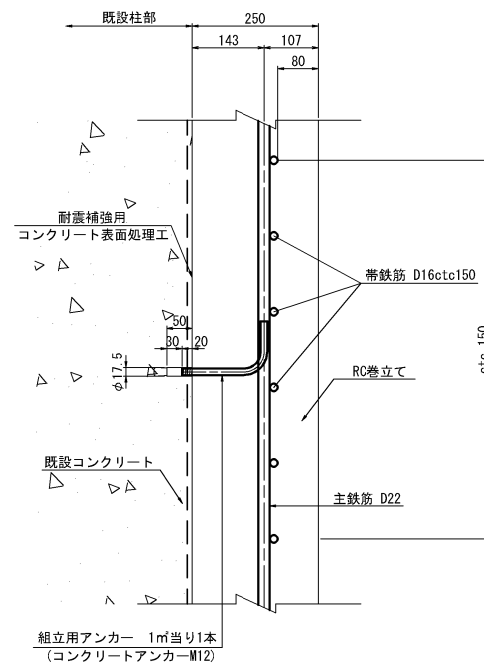
正面図



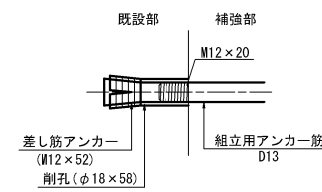
注記)
1. フレア溶接位置は千鳥配置とする。
2. 補強部分（既設面）は、WJによる表面処理を行う。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 9 橋脚 RC巻立て 配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

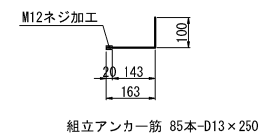
鉄筋かぶり詳細図 S=1:15



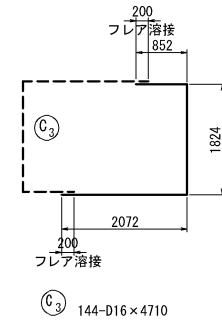
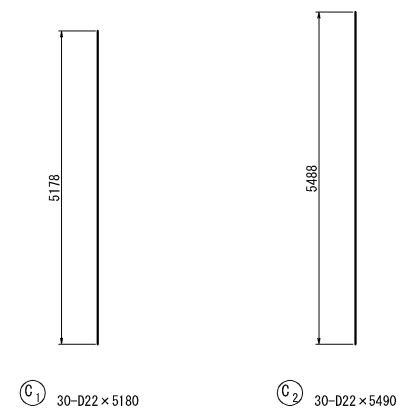
組立筋アンカー詳細図(参考図) S=1:5



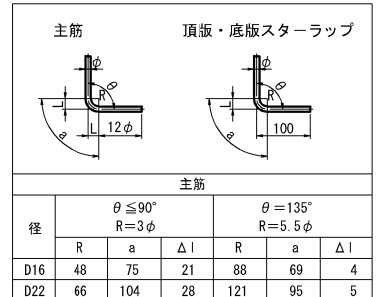
組立筋加工図(参考図) S=1:25



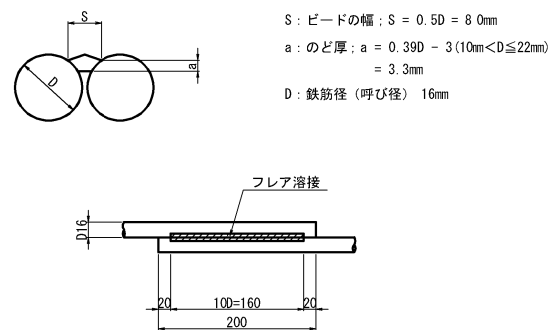
組立用アンカー筋は、既設橋脚面に対して、1㎡当り1本とする。



鉄筋曲げ加工表



フレア溶接詳細図 S=1:12.5



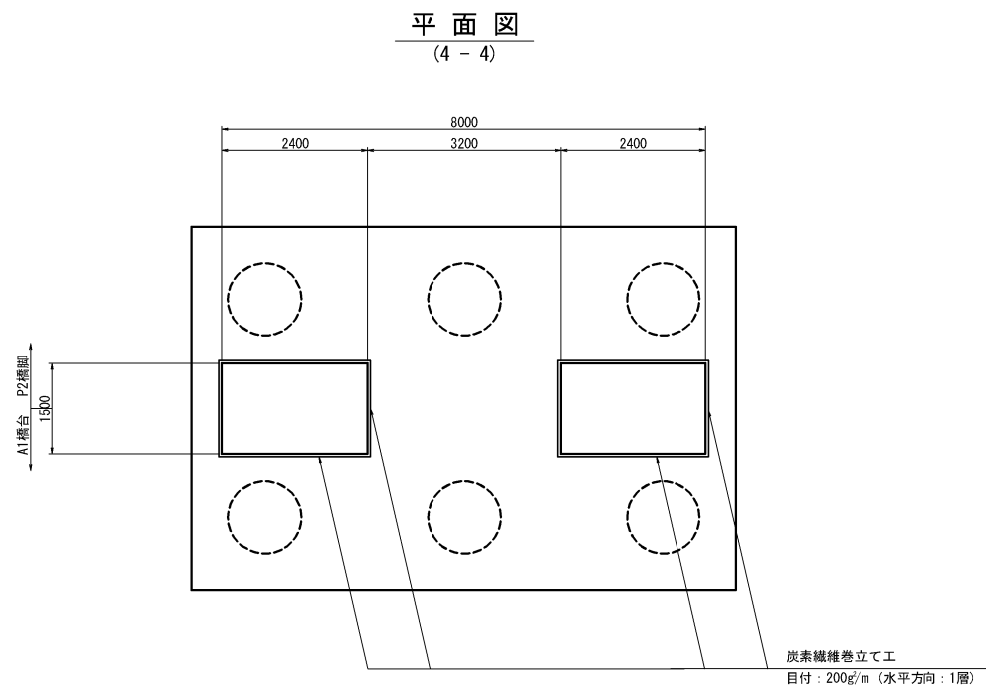
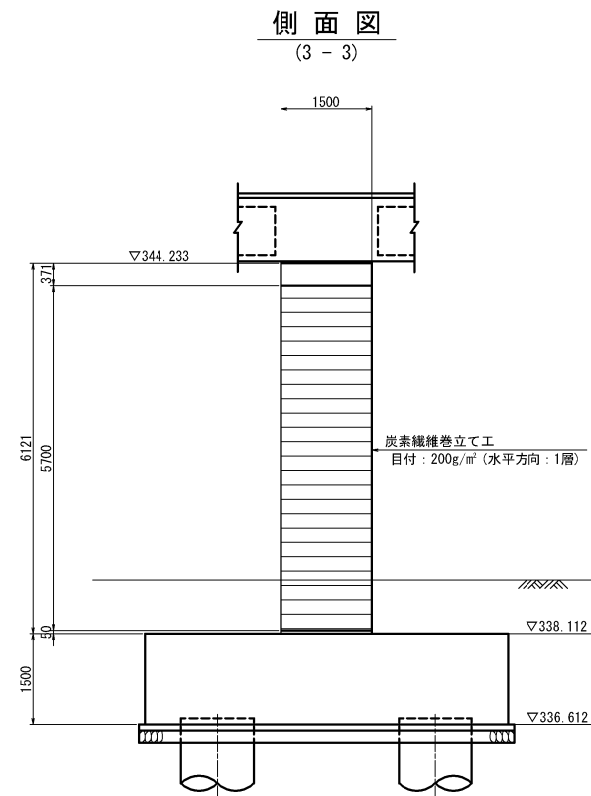
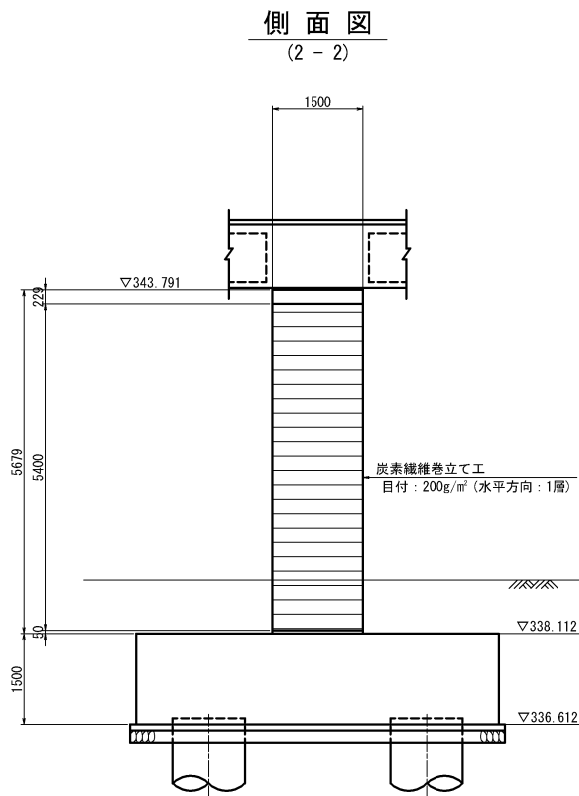
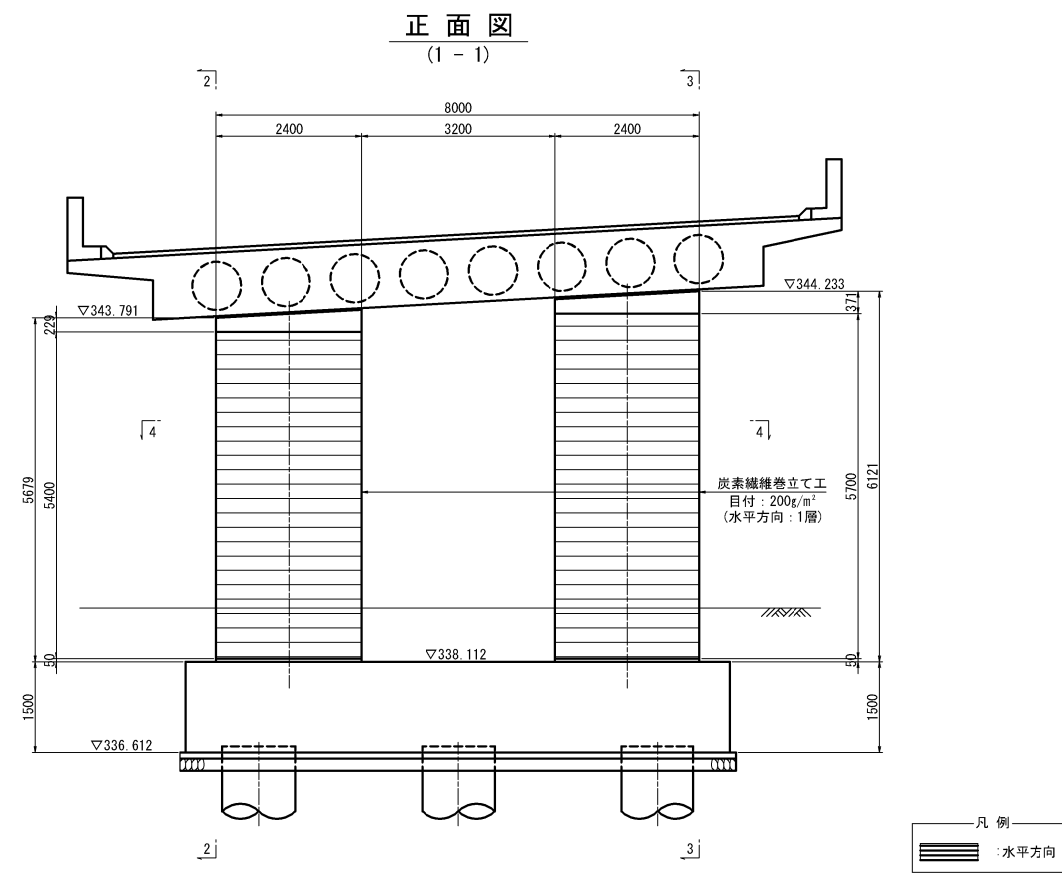
鉄筋質量表

[illegible]

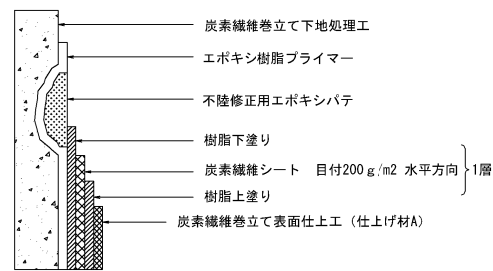
注記)

1. フレア溶接位置は千鳥配置とする。
2. 補強部分(既設面) は、WJによる表面処理を行う。

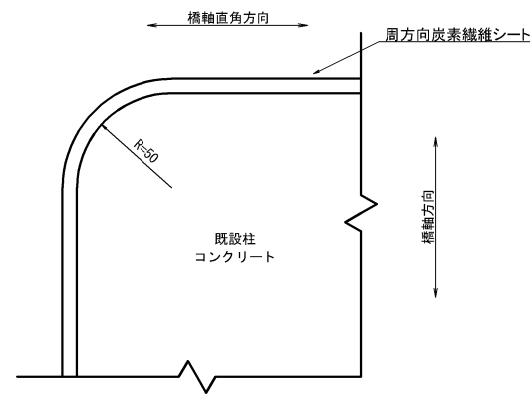
上 信 越 自 動 車 道 豊 州 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	縦内高架橋（上り線） P 19 橋脚 R C 巻立て 配筋図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計社社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速度道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所		



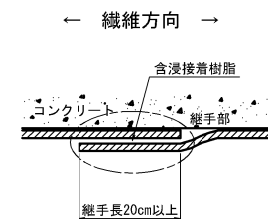
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



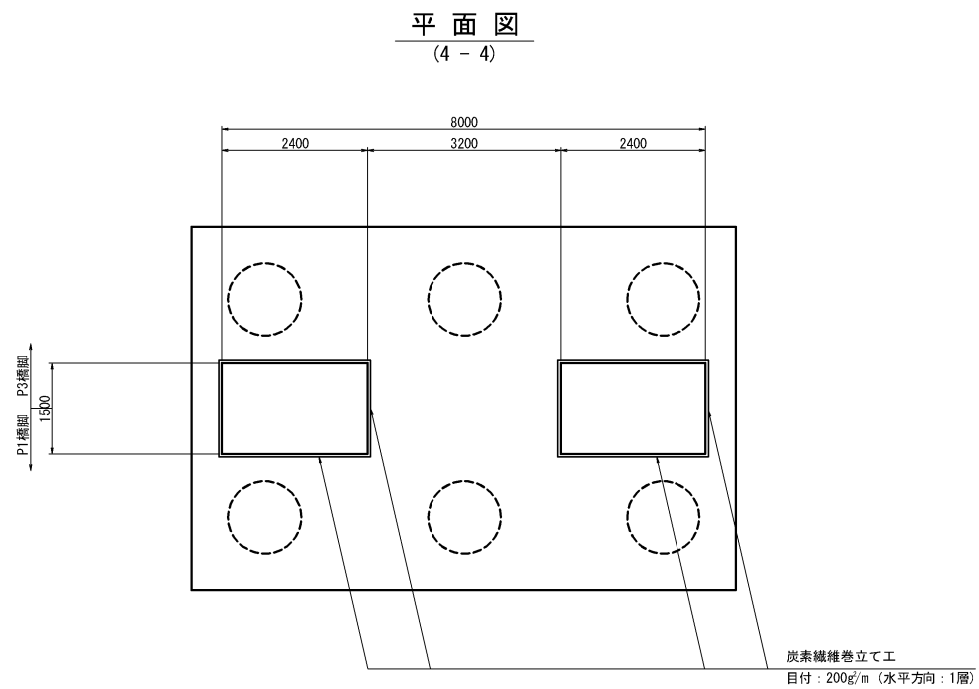
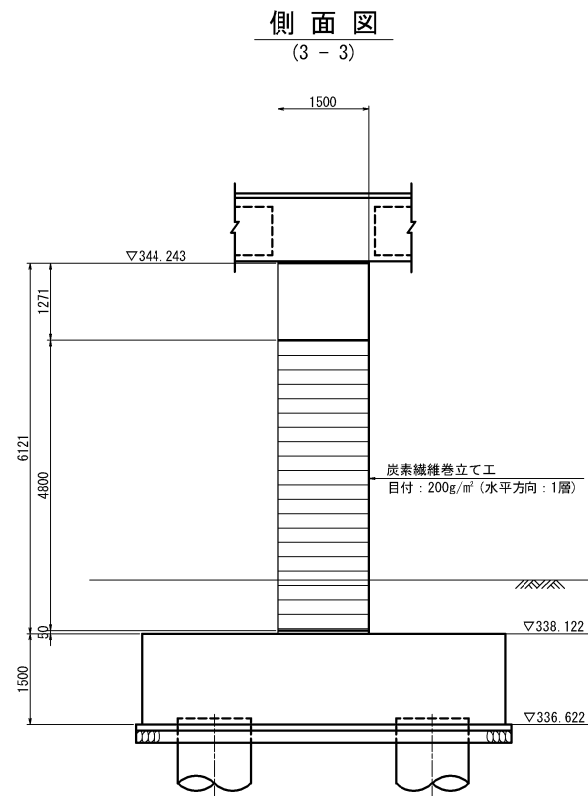
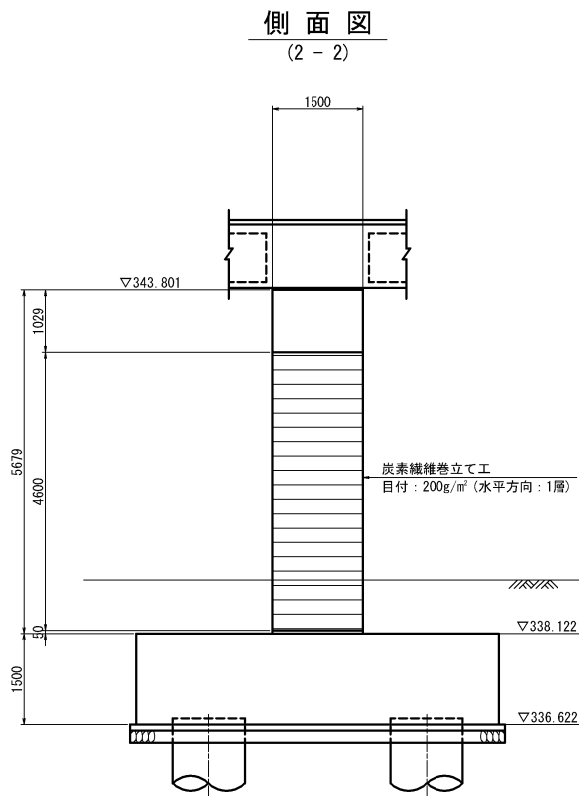
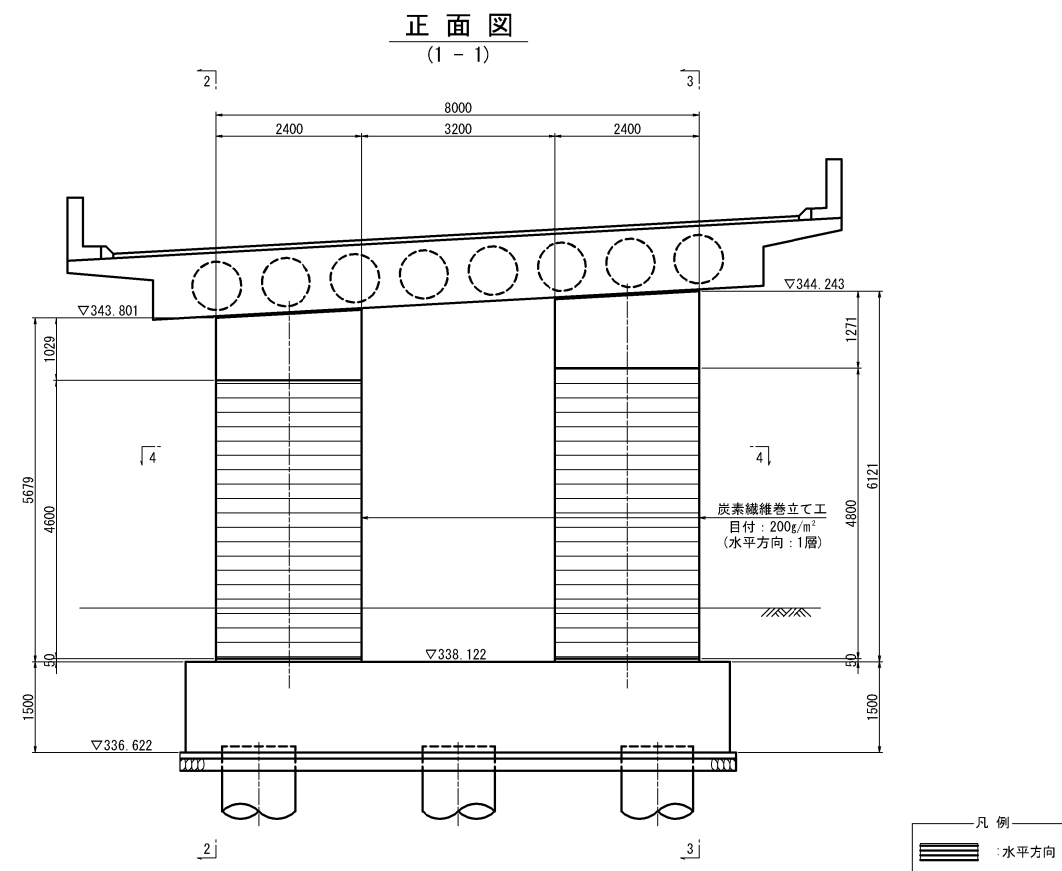
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111	高強度型

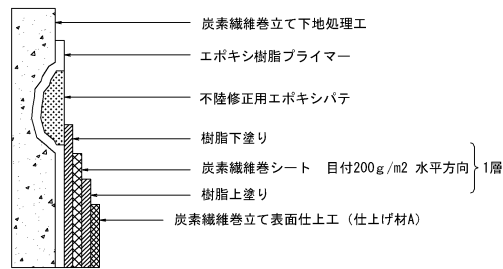
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

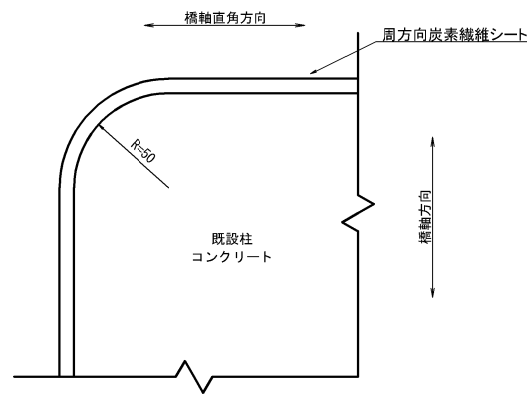
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



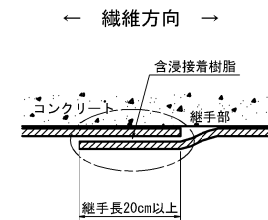
炭素繊維巻シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



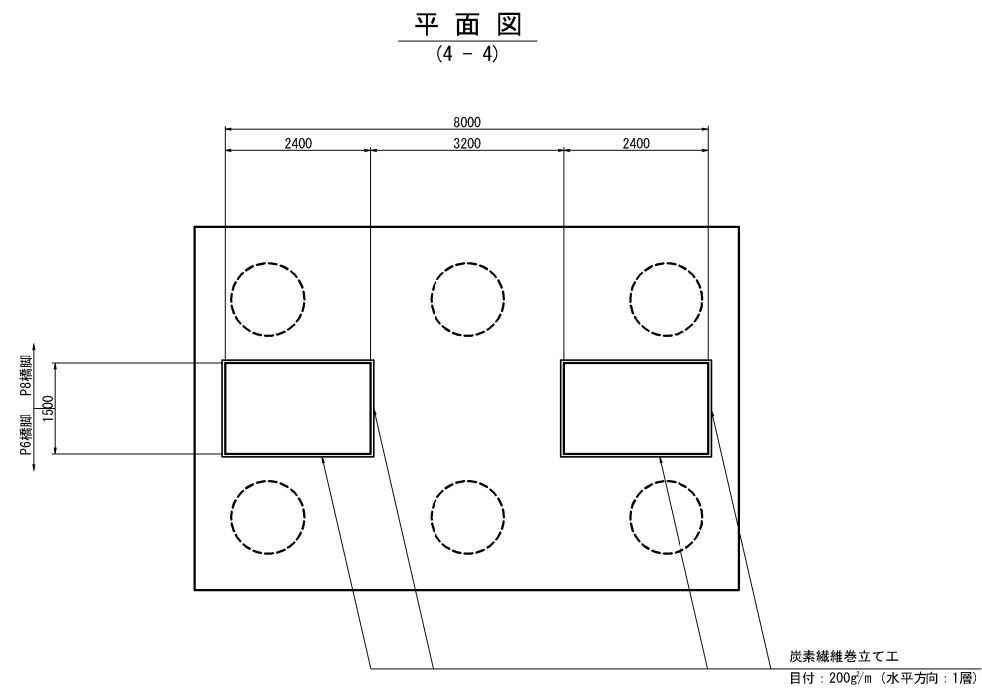
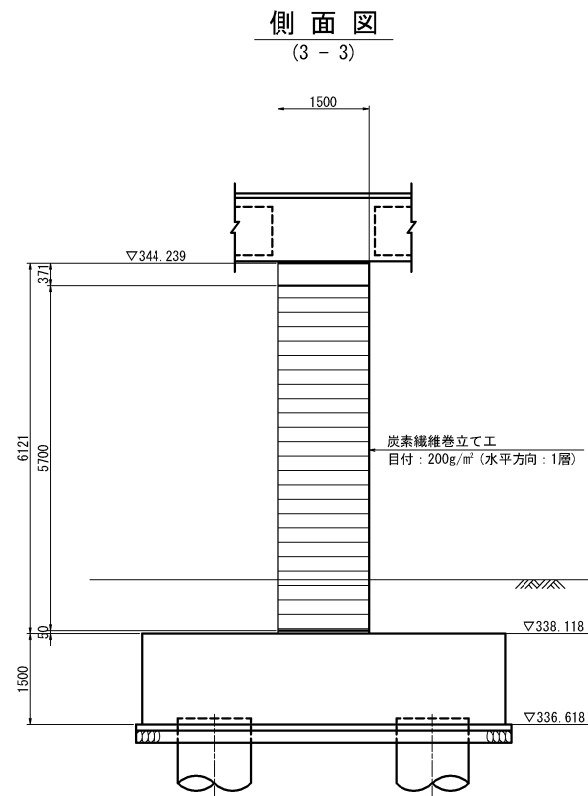
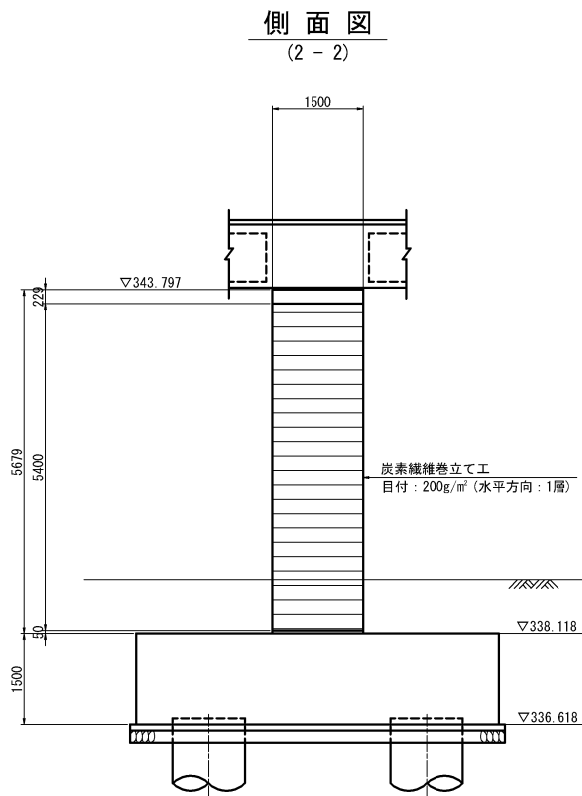
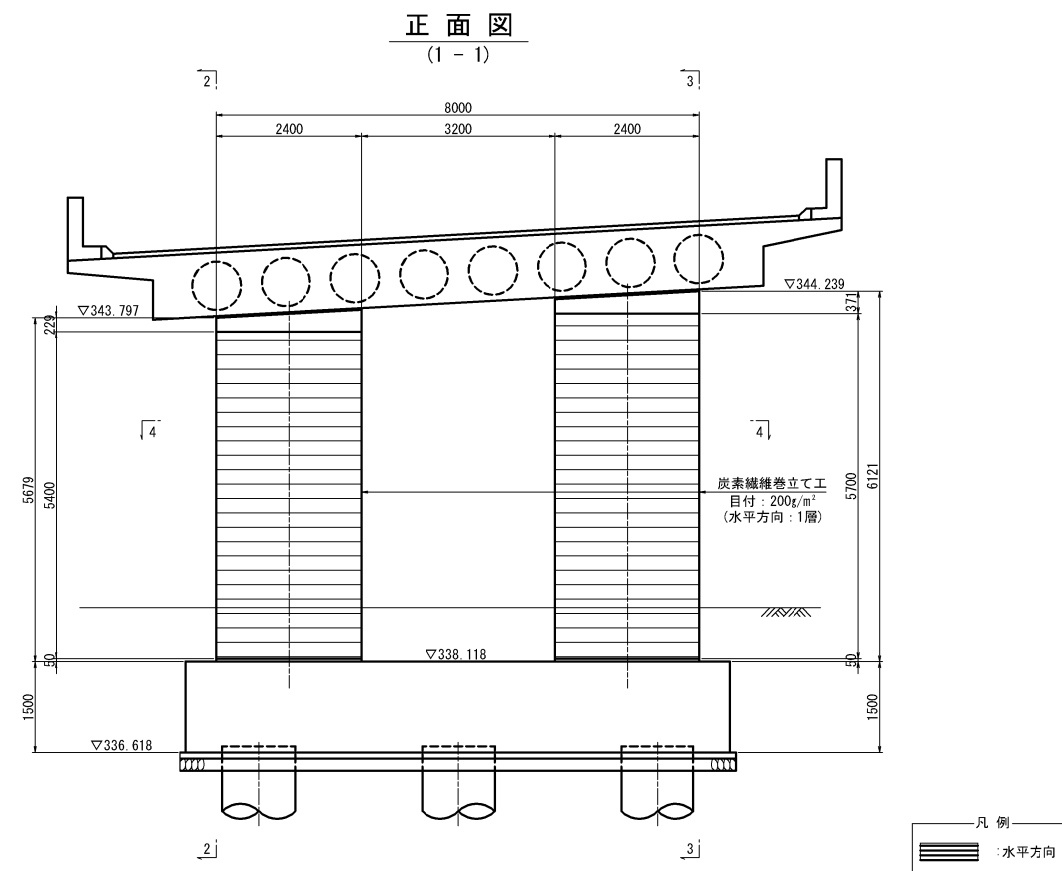
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ³	0.111	高強度型

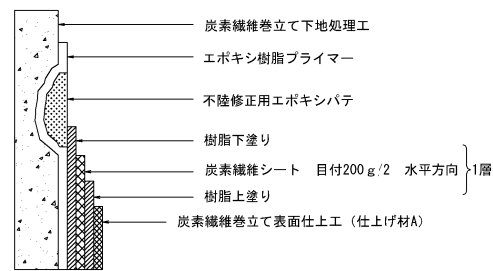
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

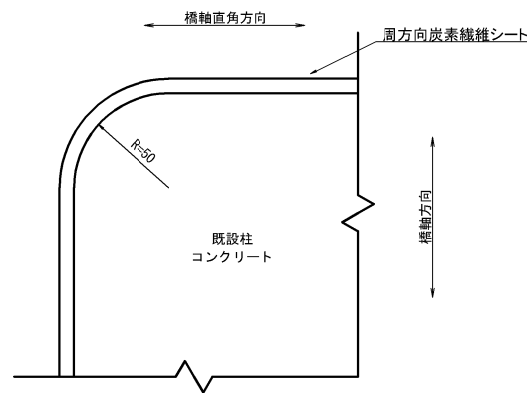
上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



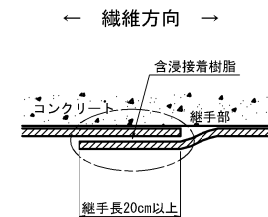
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



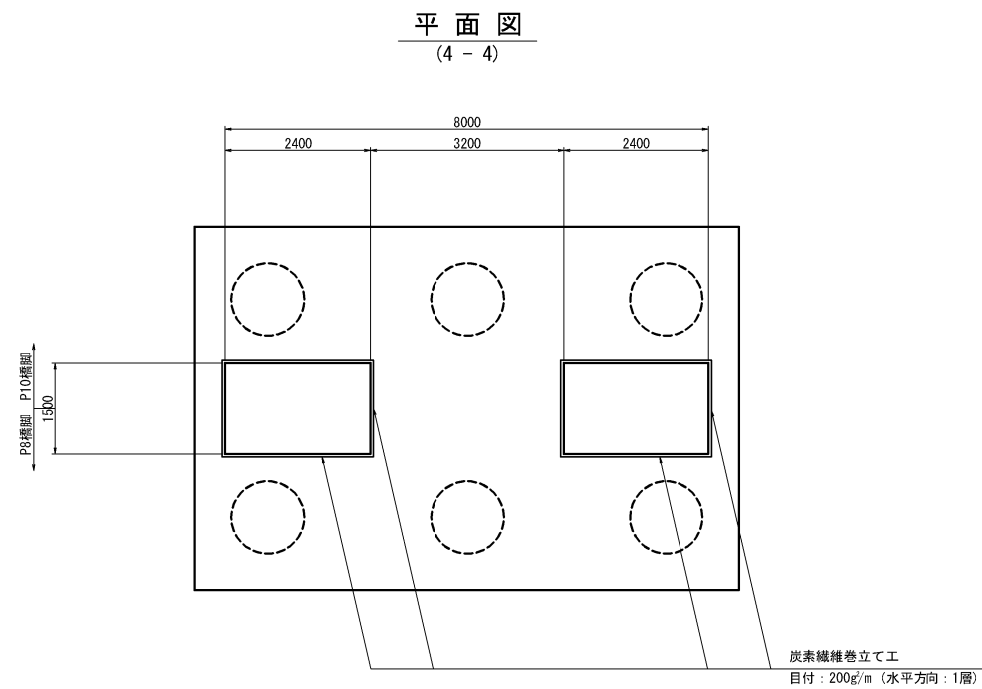
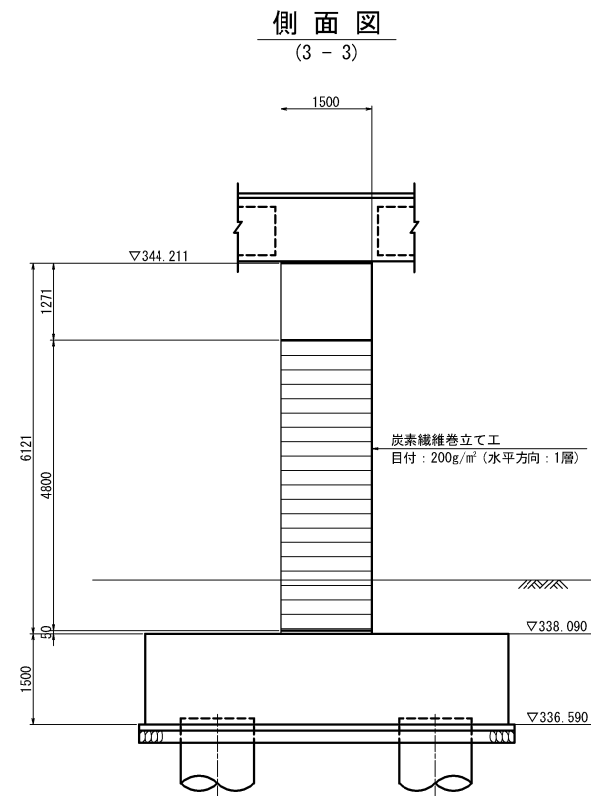
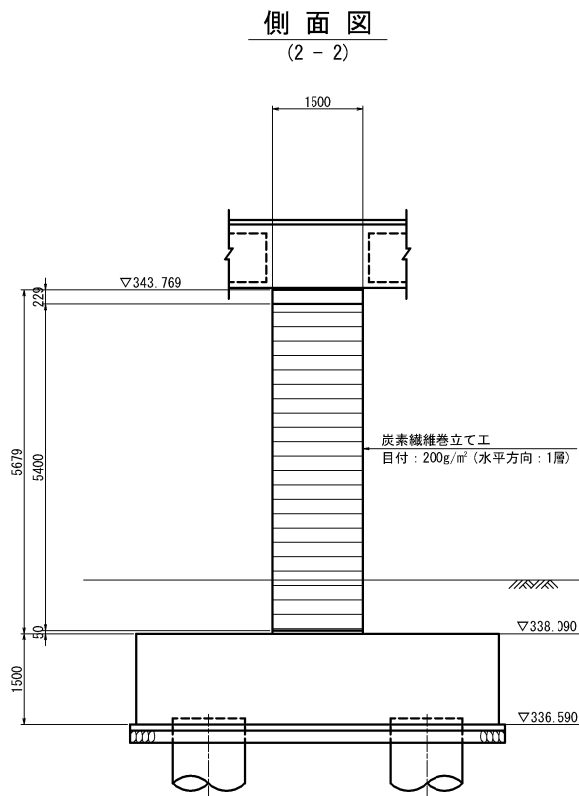
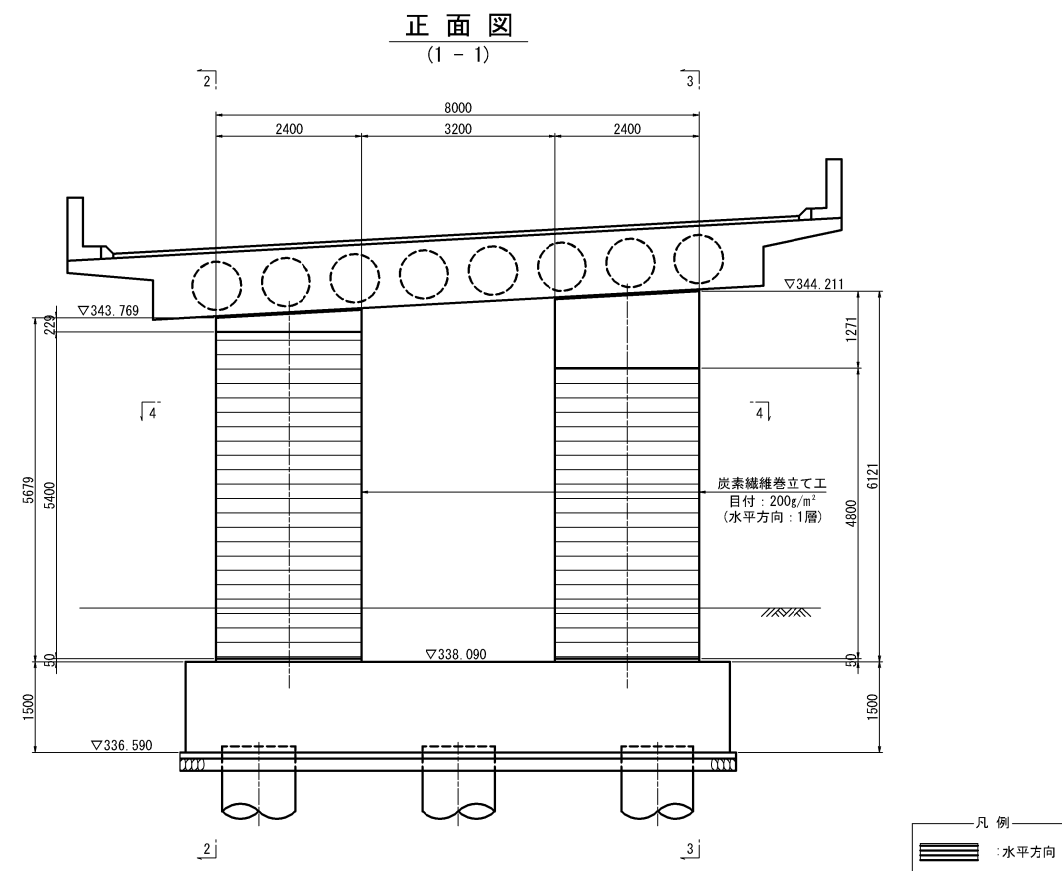
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111	高強度型

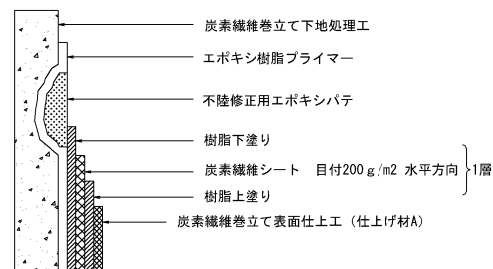
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

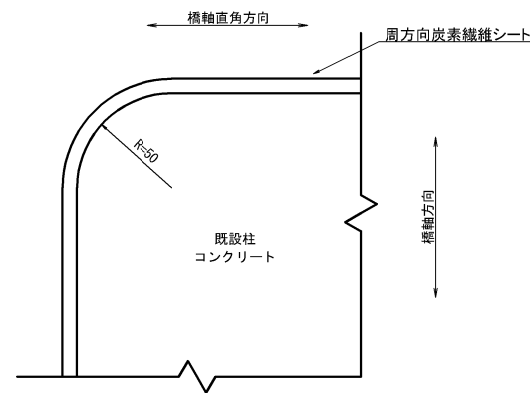
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 7 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



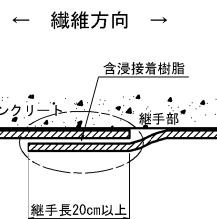
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



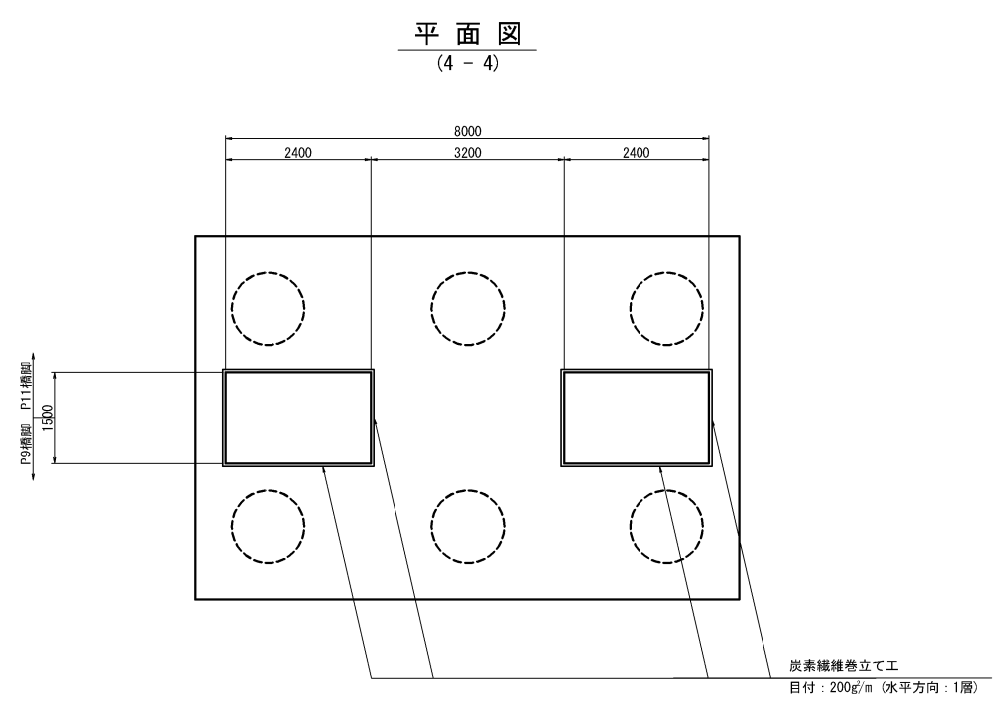
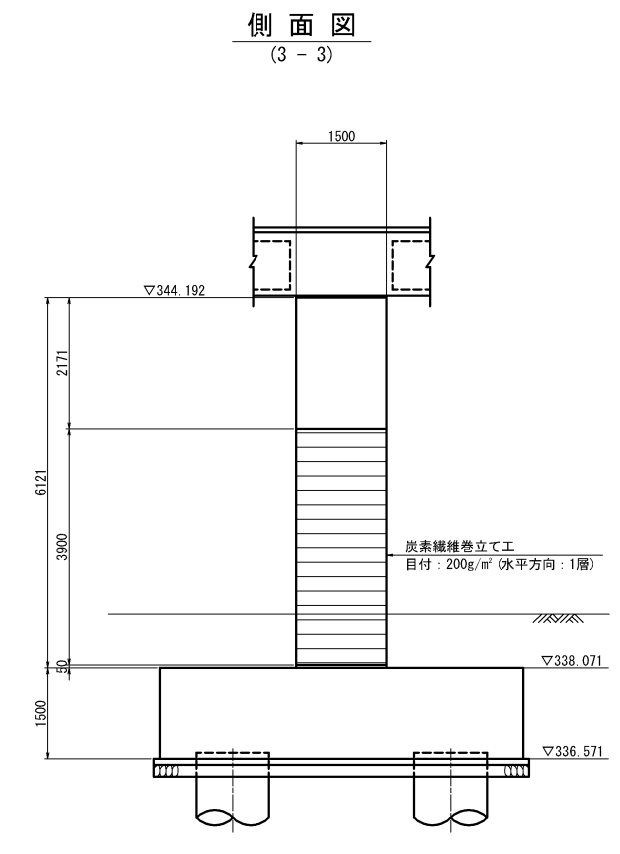
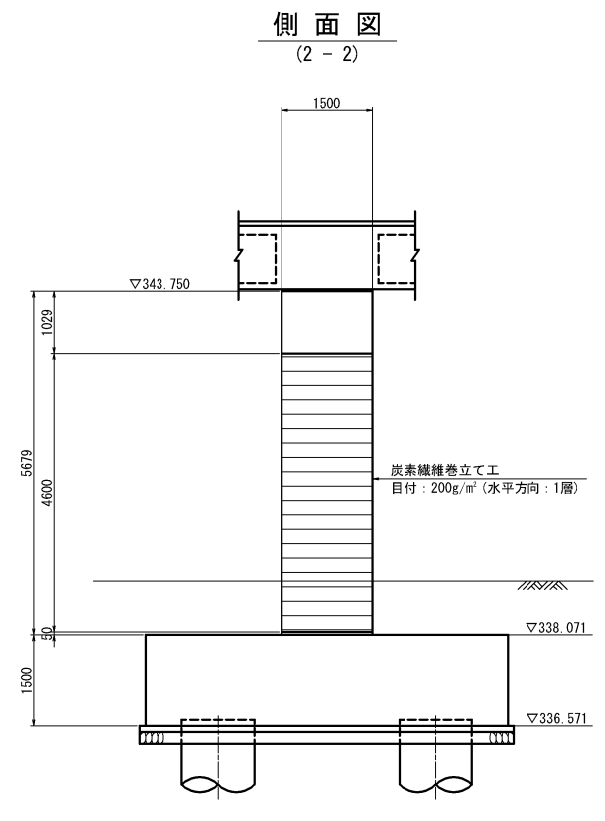
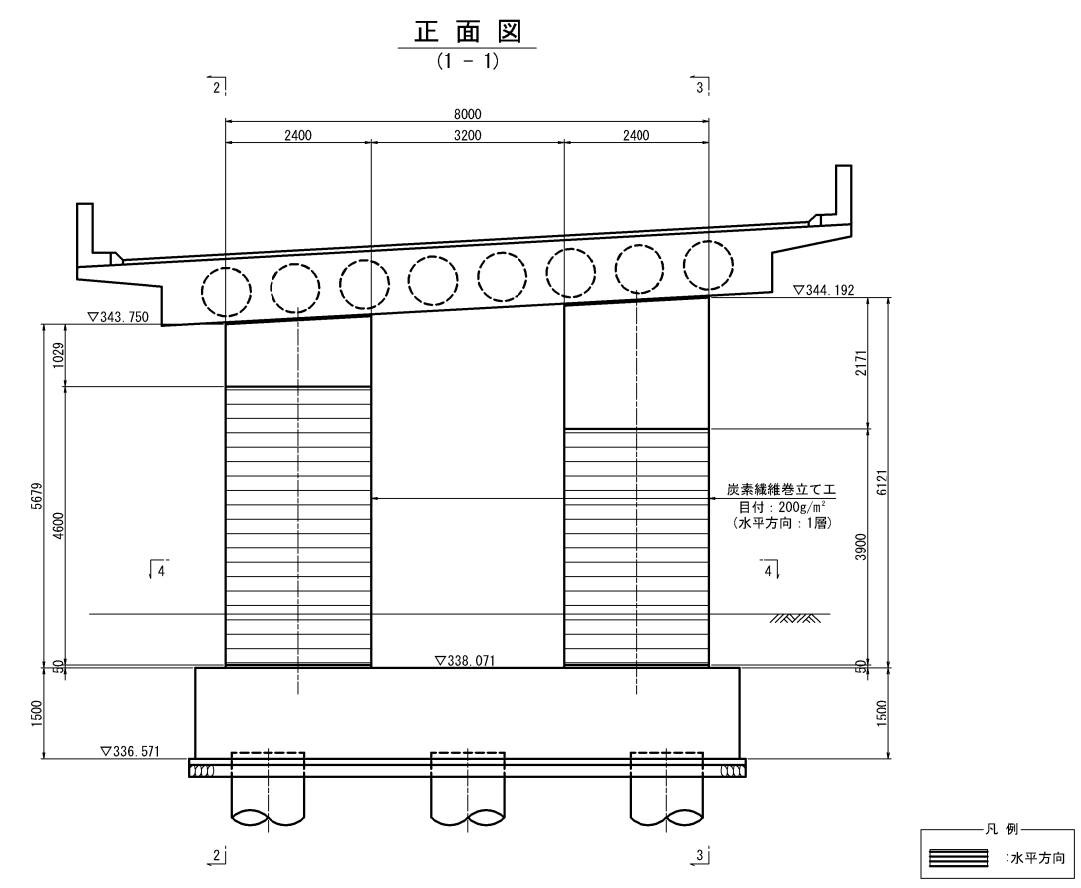
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm^2)	引張強度 (N/mm^2)	引張弾性係率 (N/mm^2)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	$(2.45 \pm 0.36) \times 10^5$	0.111	高強度型

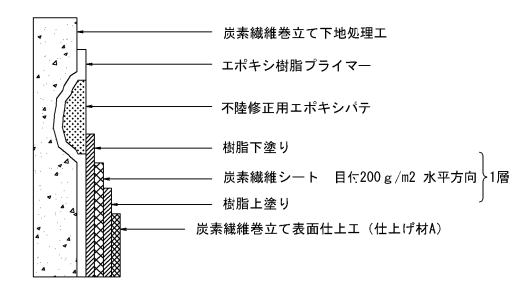
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

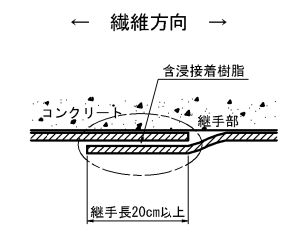
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 9 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		



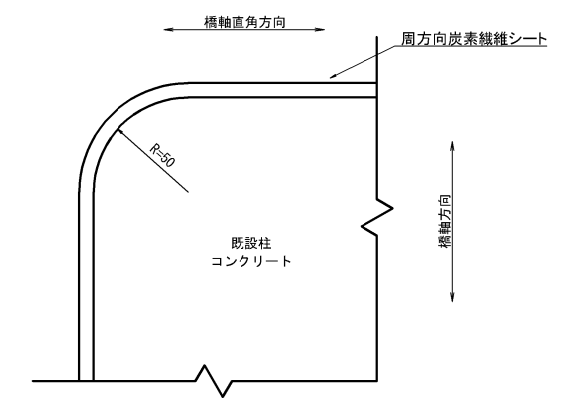
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



継手の設置方法 S=1:15



柱隅角部詳細図 S=1:5

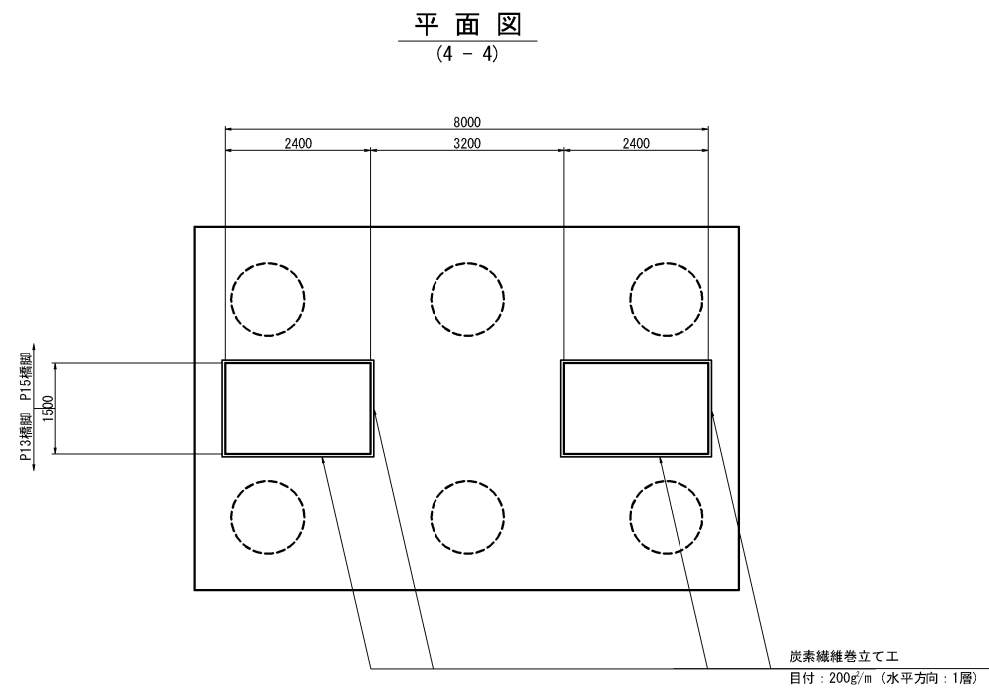
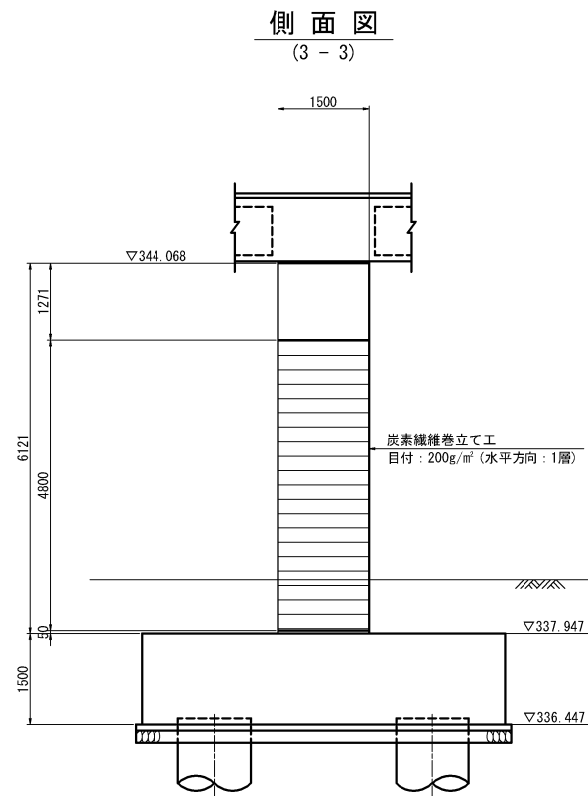
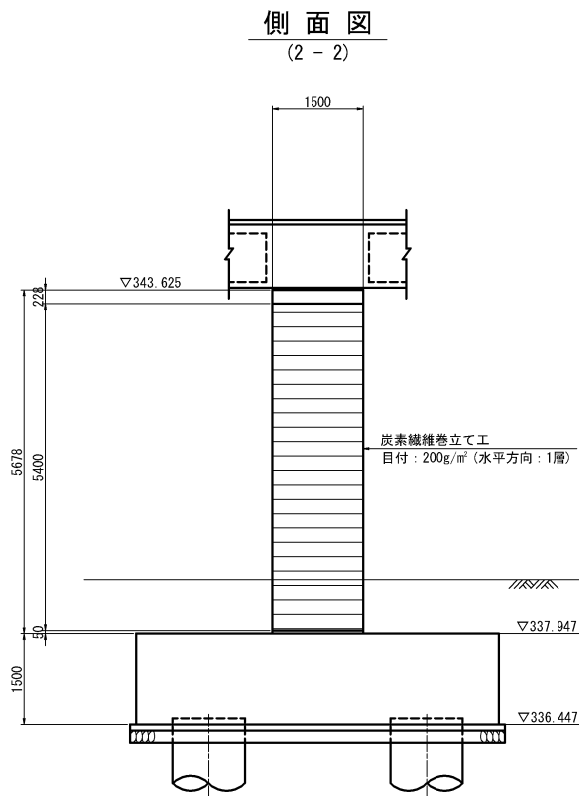
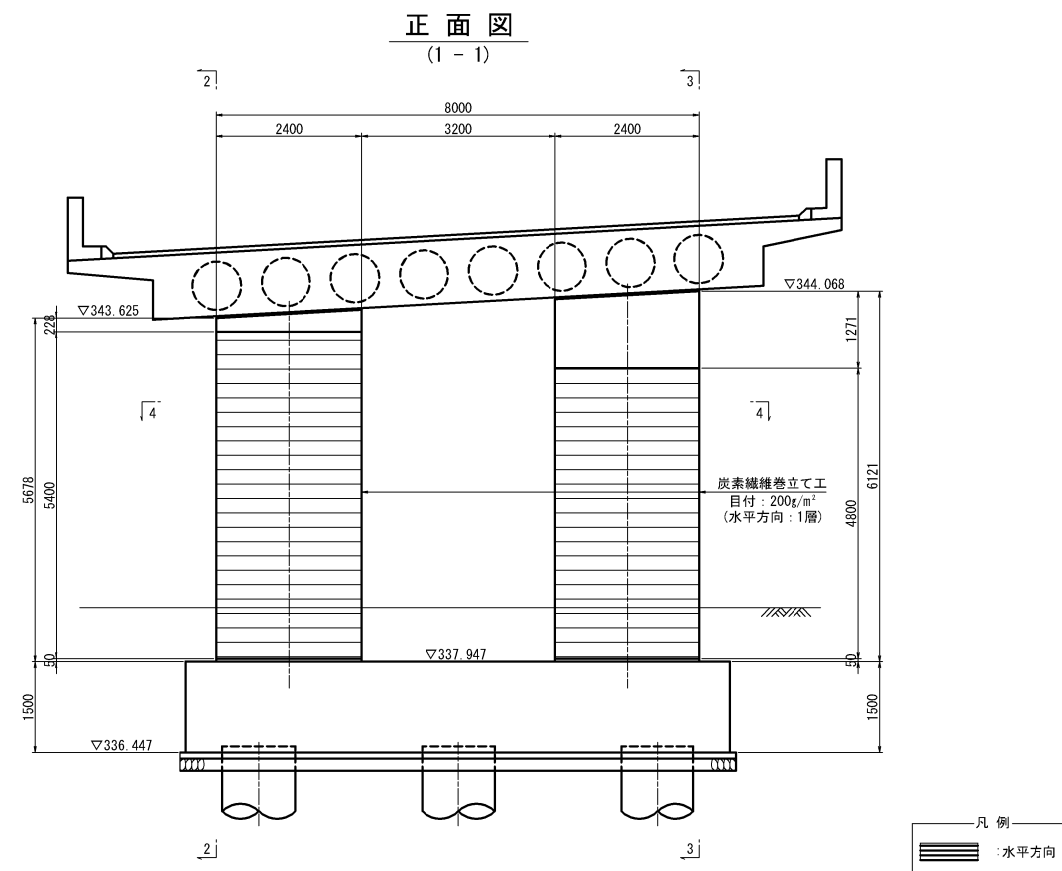


注記)
1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

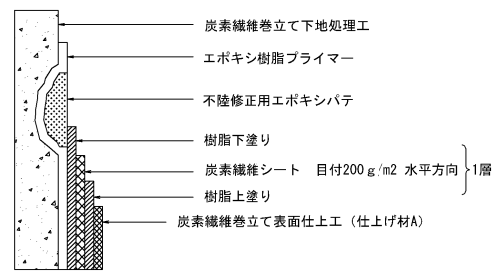
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36)×10 ⁵	0.111	高強度型

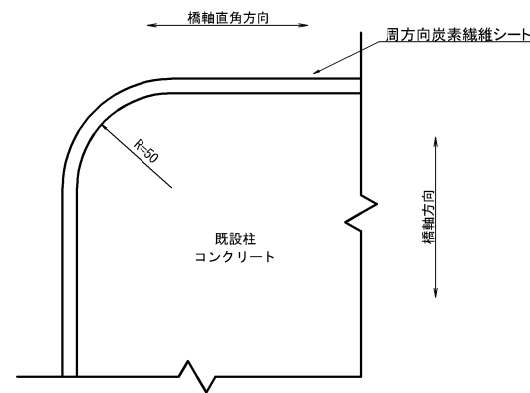
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 O 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



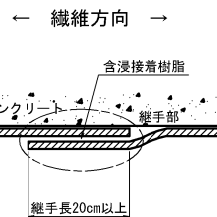
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



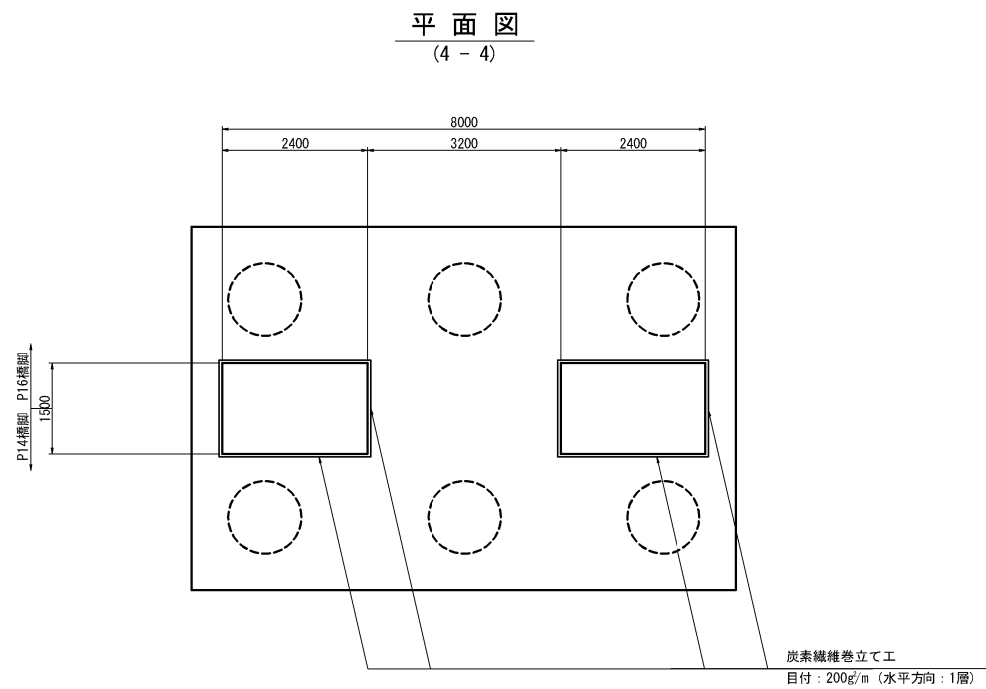
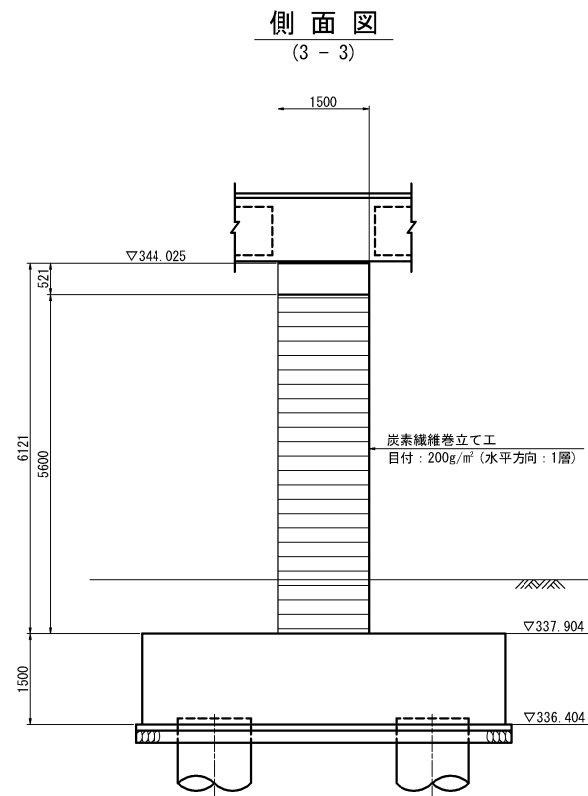
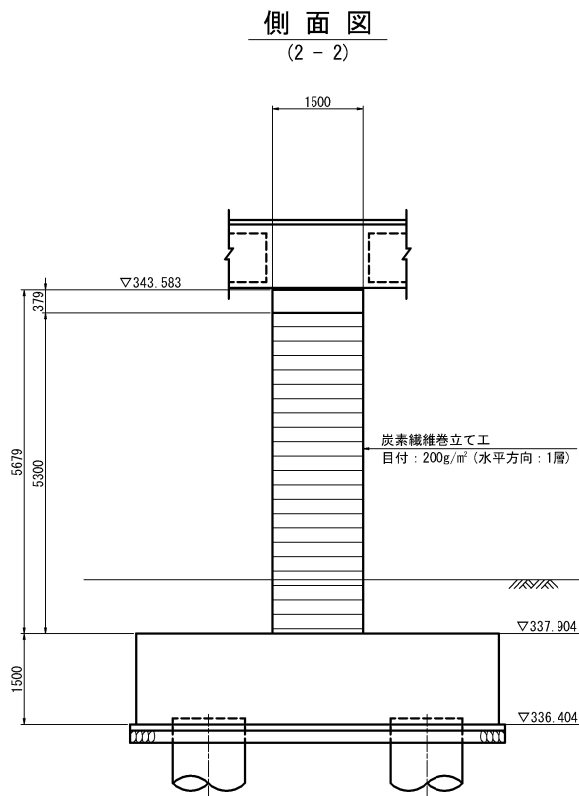
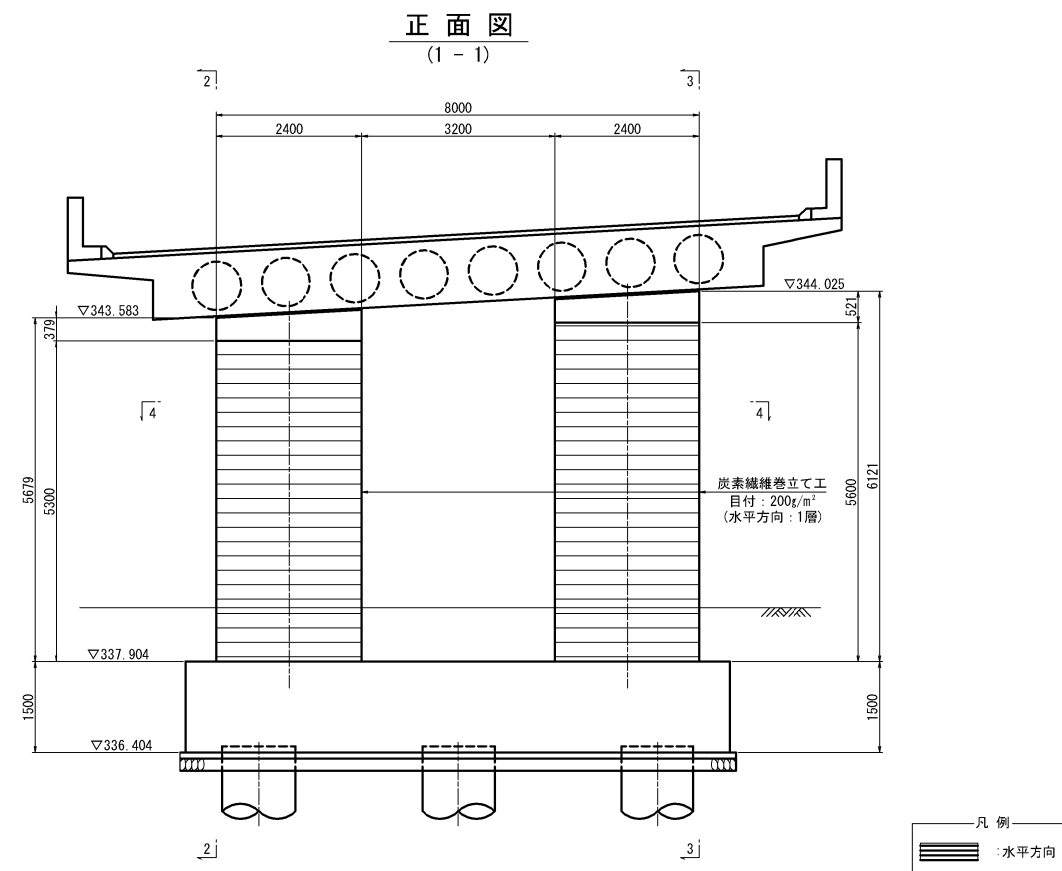
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm^2)	引張強度 (N/mm^2)	引張弾性係率 (N/mm^2)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	$(2.45 \pm 0.36) \times 10^5$	0.111	高強度型

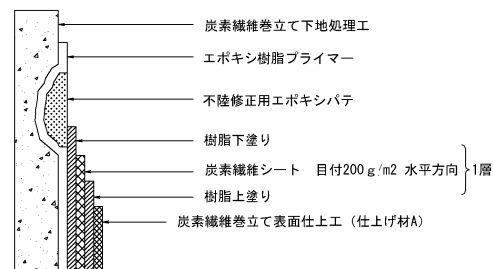
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

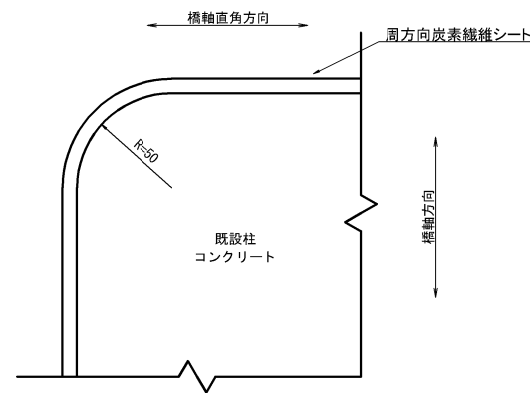
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 4 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事務所		



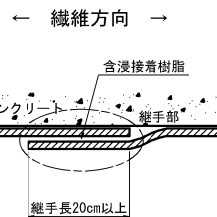
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



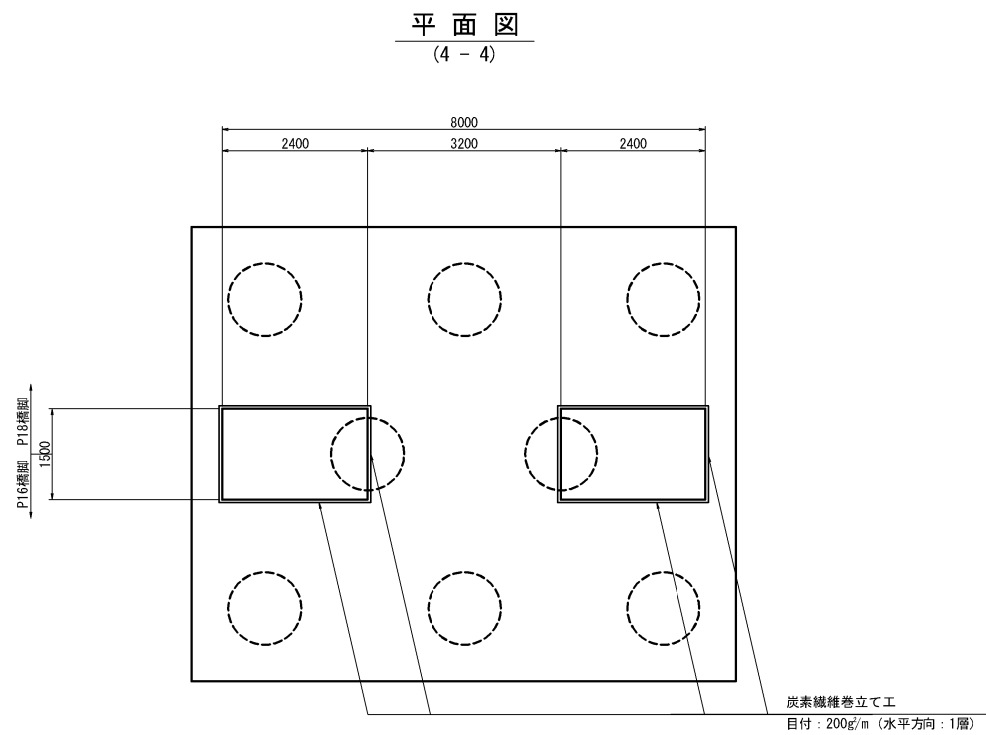
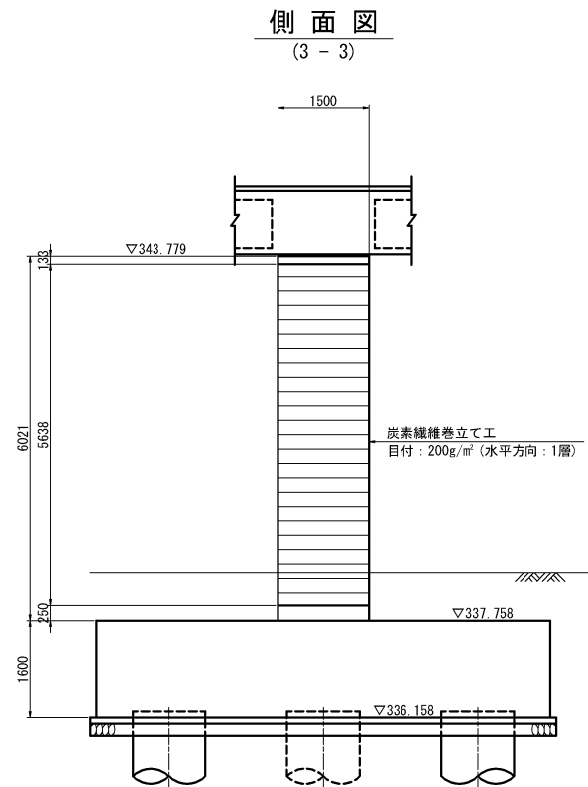
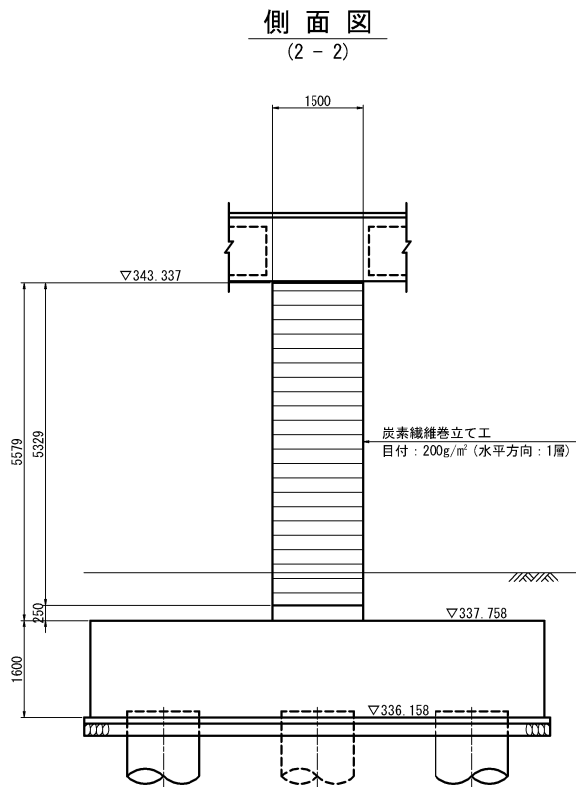
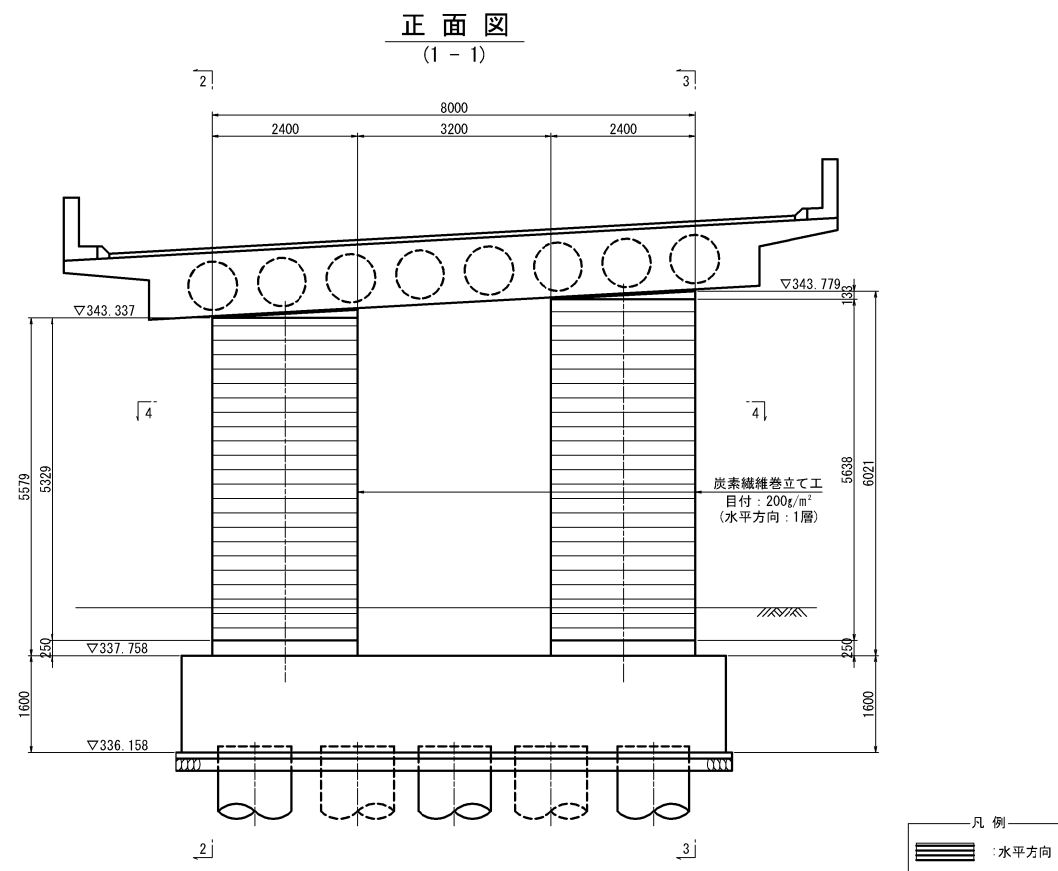
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111	高強度型

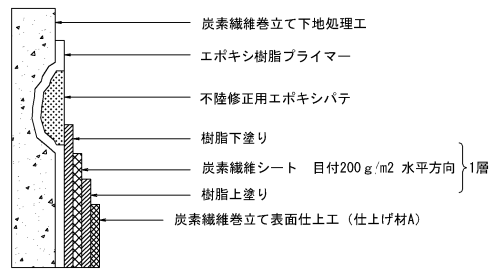
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

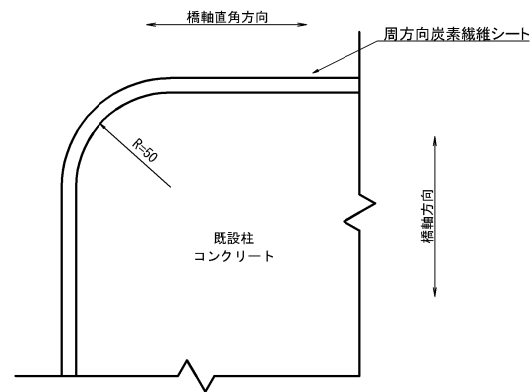
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 5 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事務所		



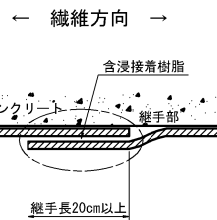
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



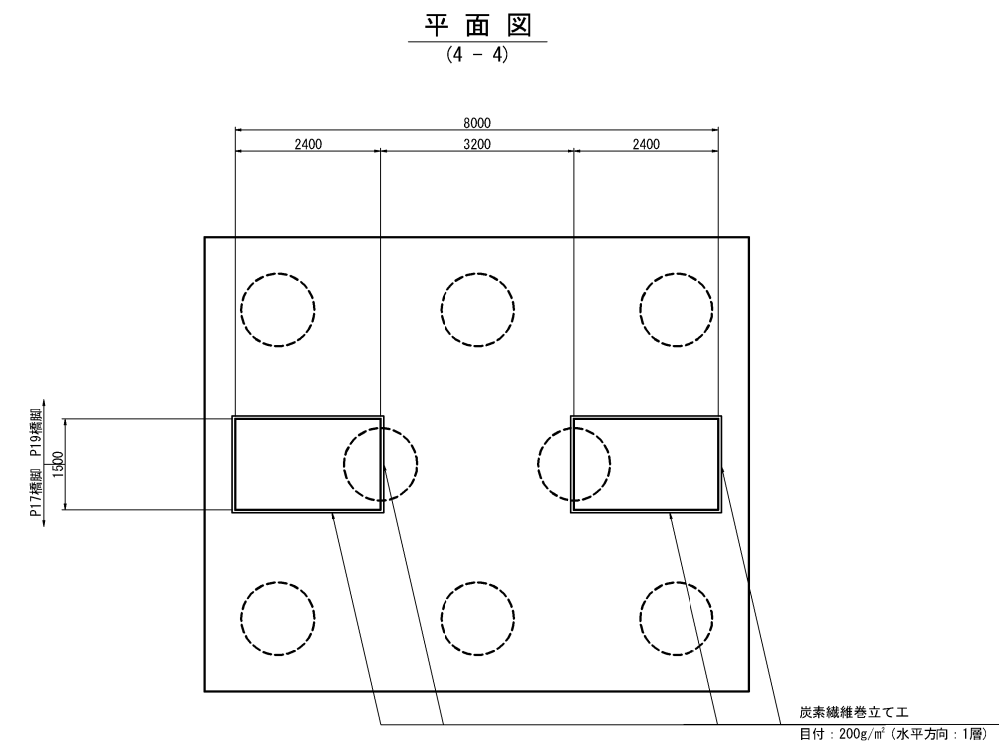
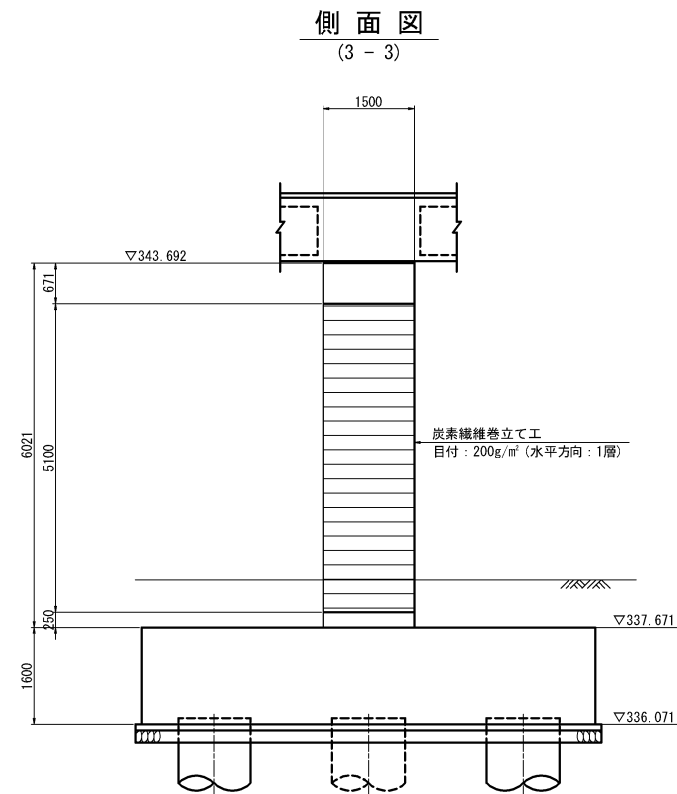
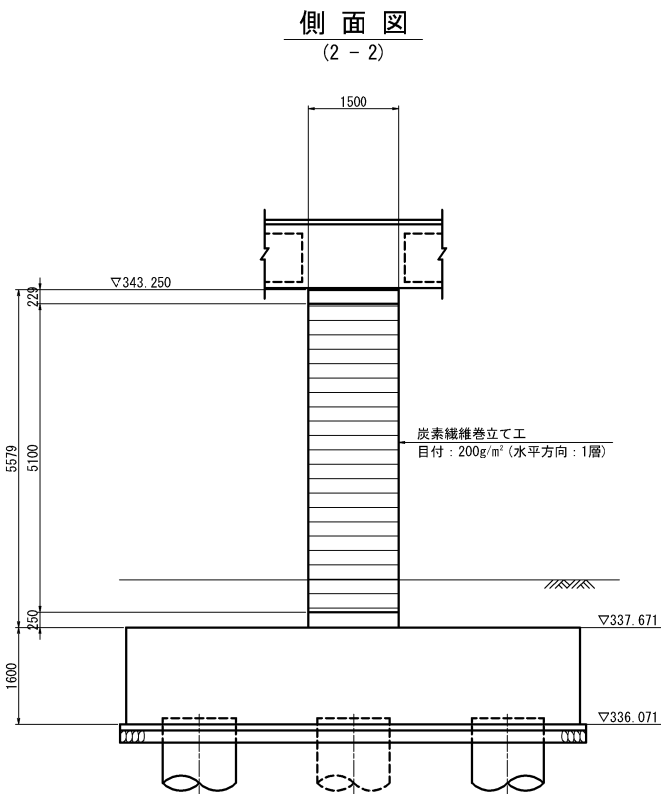
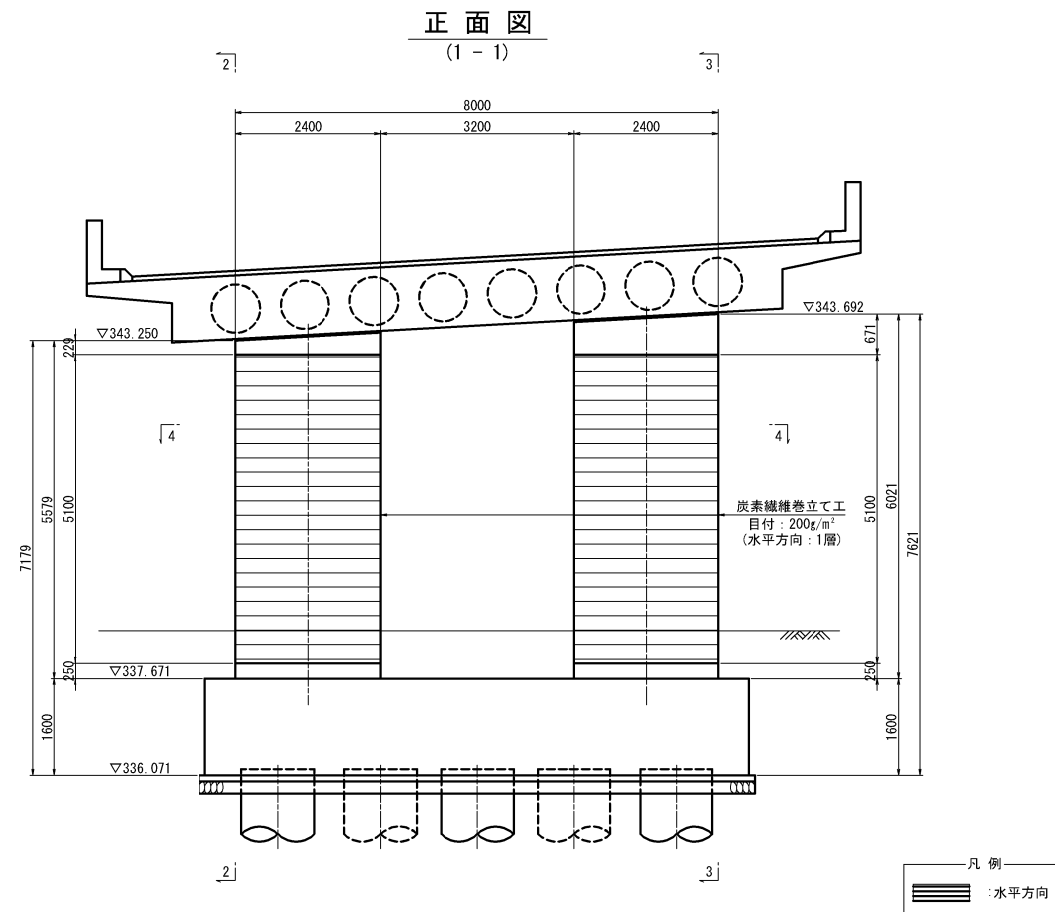
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36)×10 ³	0.111	高強度型

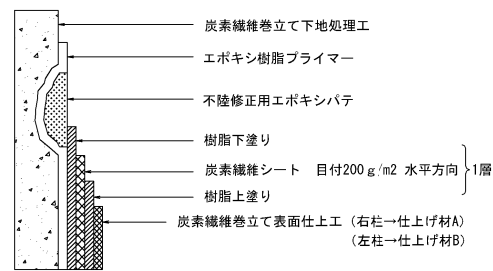
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

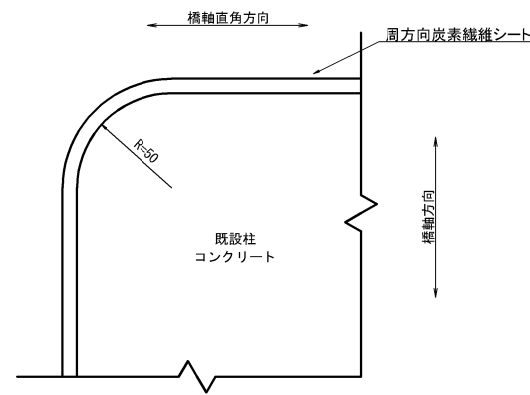
上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 7 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		



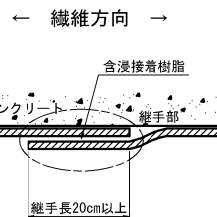
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



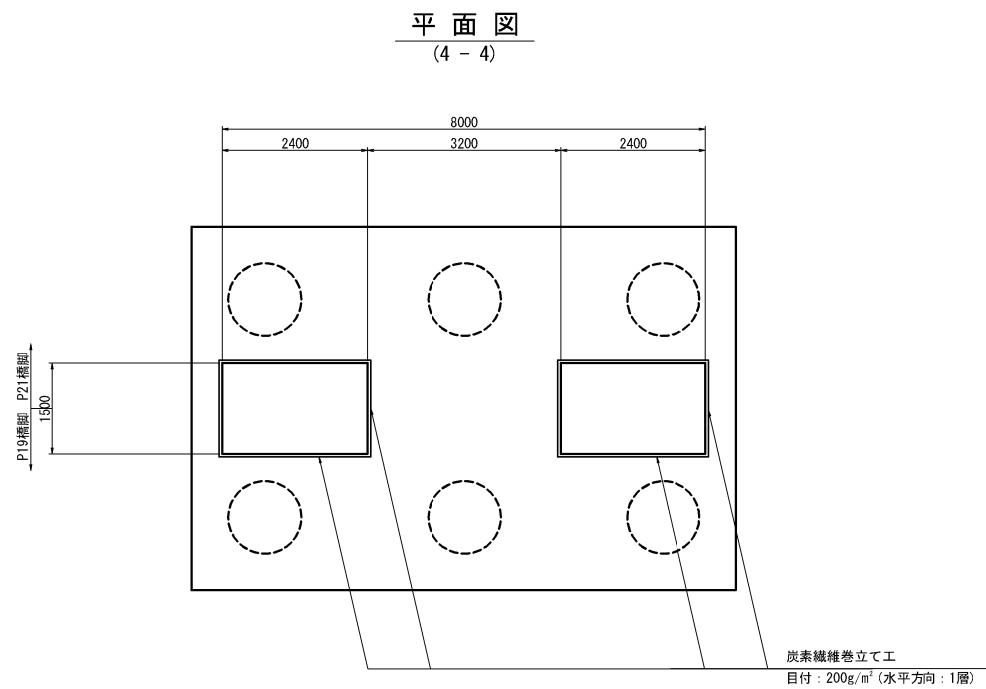
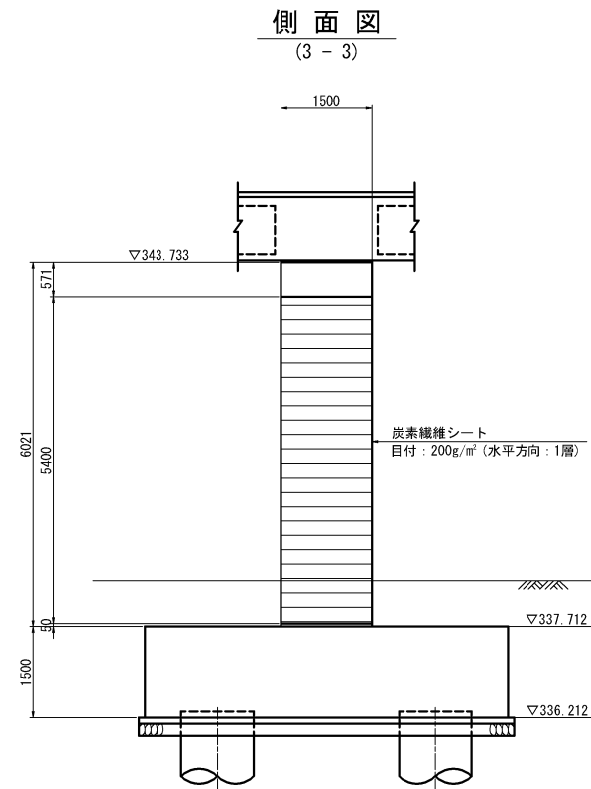
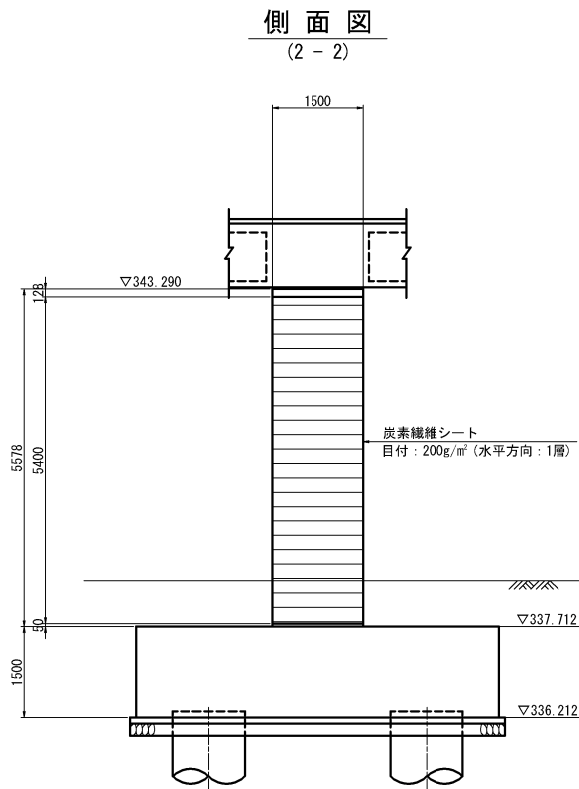
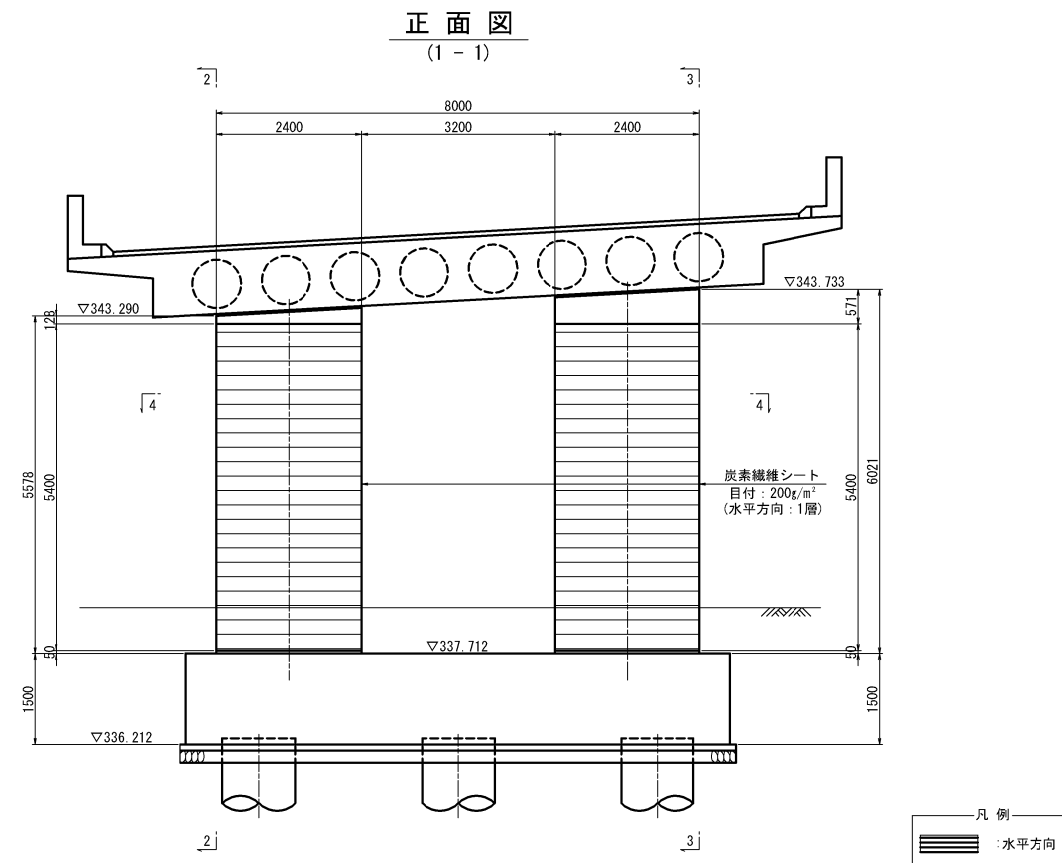
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36)×10 ³	0.111	高強度型

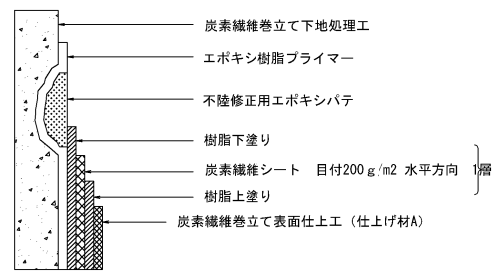
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造物寸法を再確認すること。

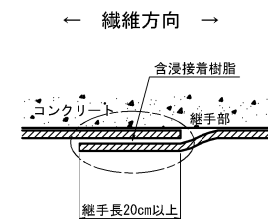
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 8 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		



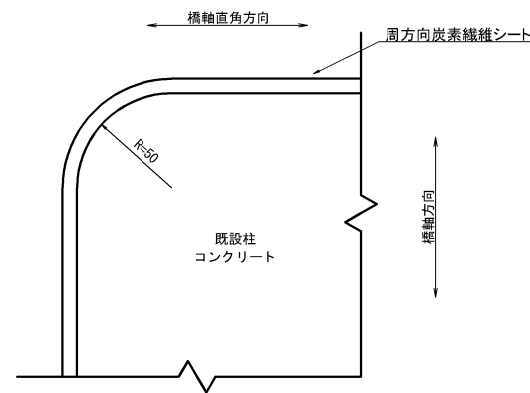
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



継手の設置方法 S=1:15



柱隅角部詳細図 S=1:5



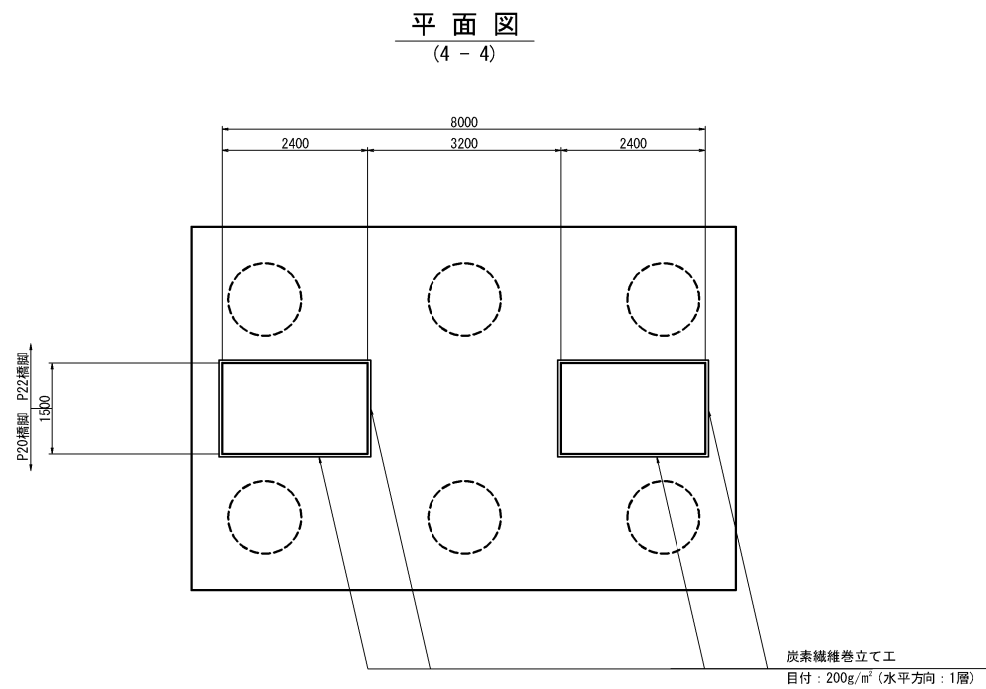
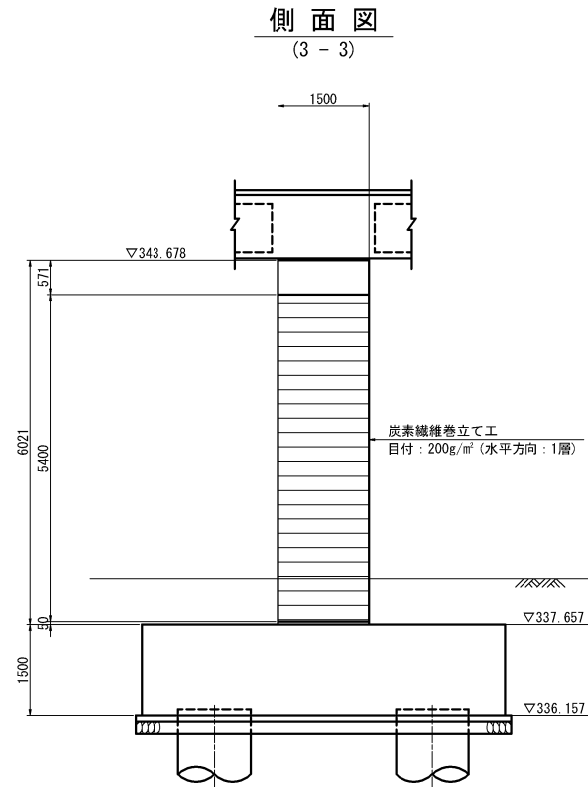
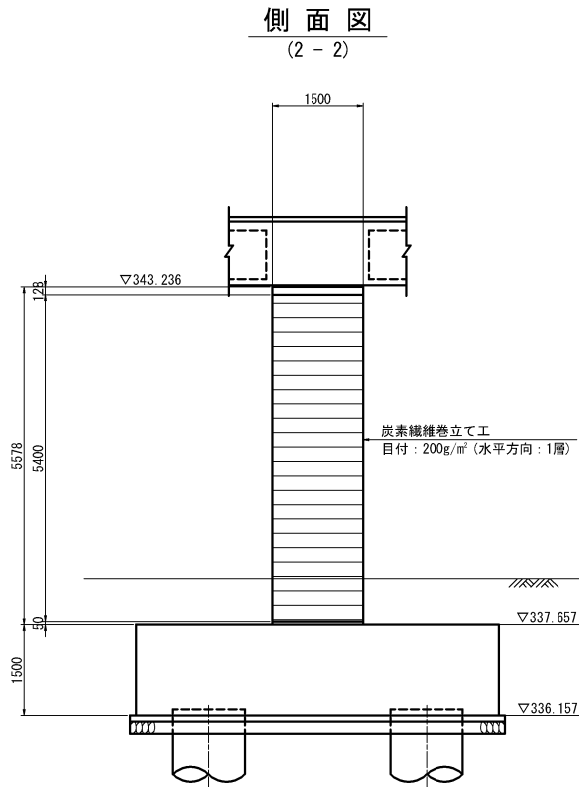
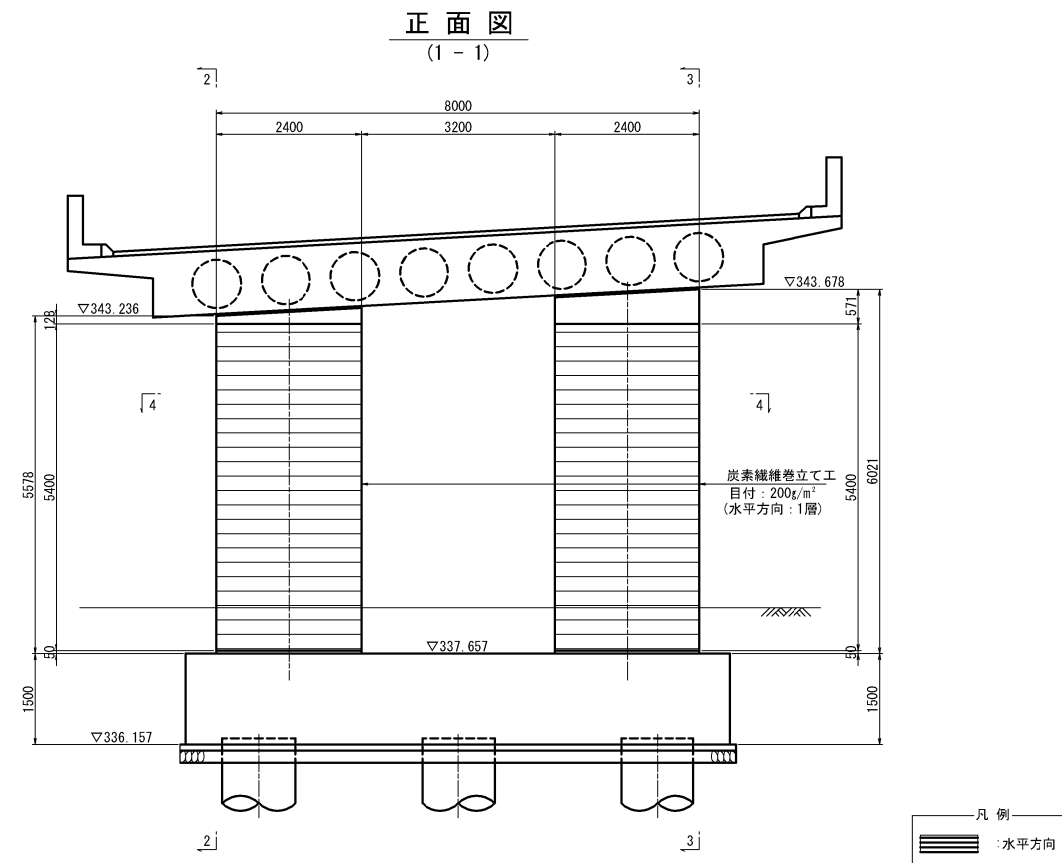
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36)×10 ³	0.111	高強度型

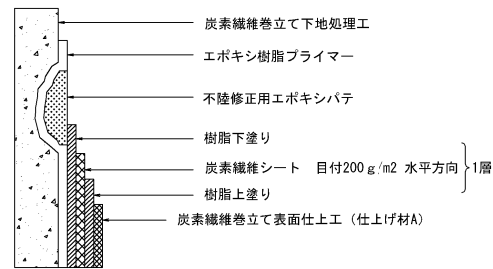
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

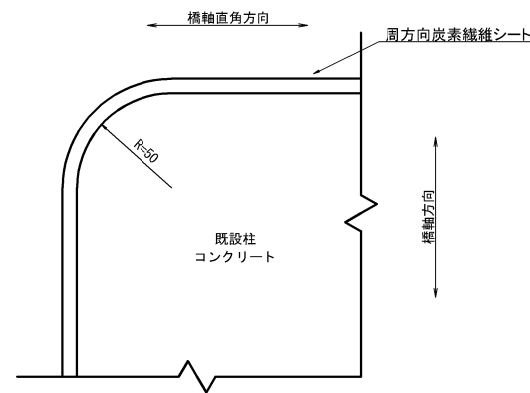
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 0 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		



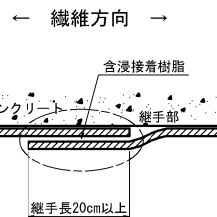
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



柱隅角部詳細図 S=1:5



継手の設置方法 S=1:15



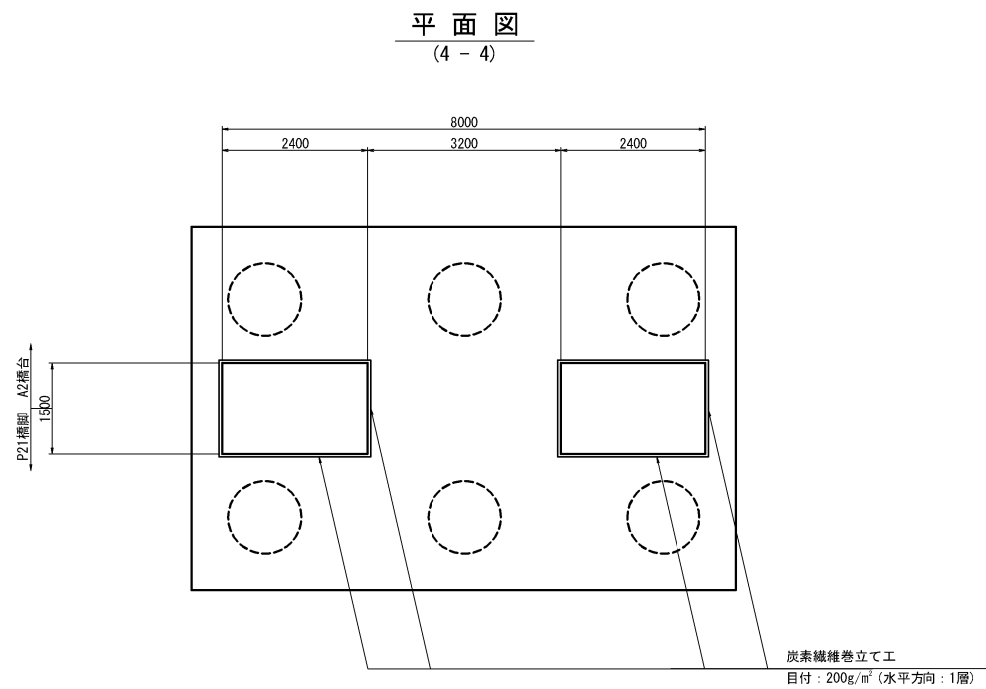
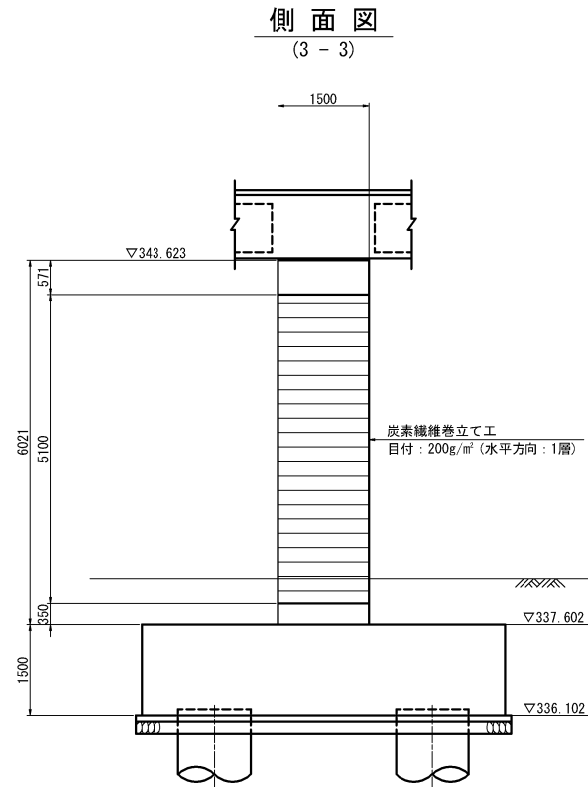
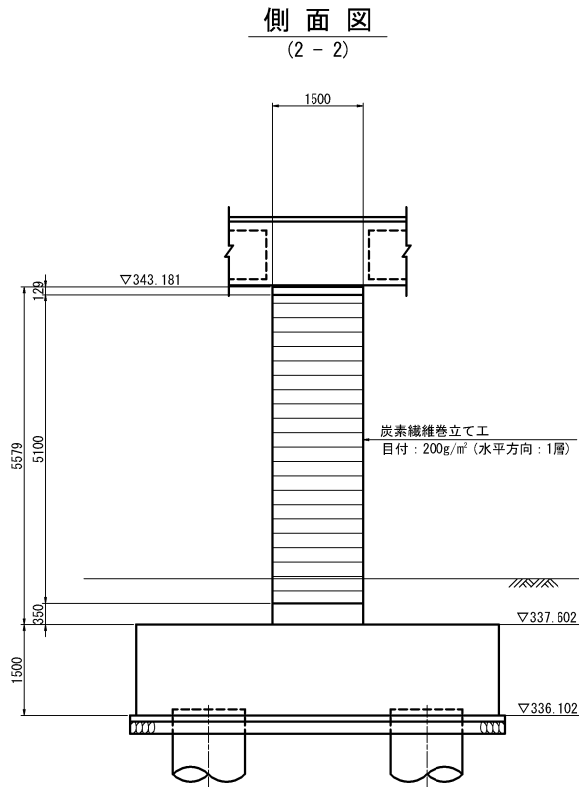
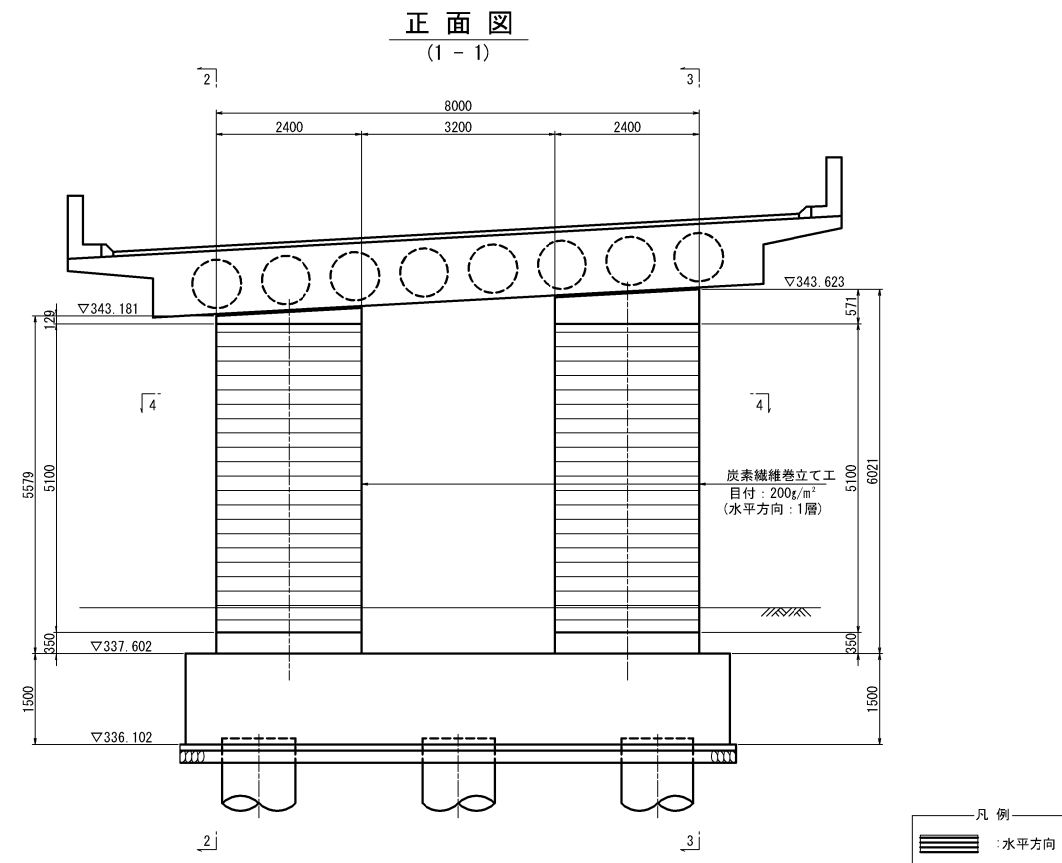
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111	高強度型

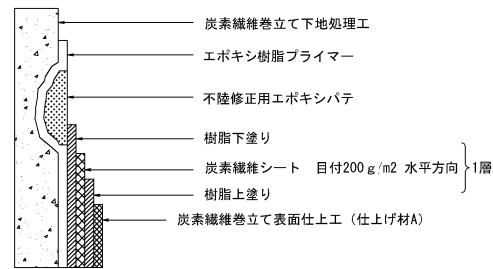
注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

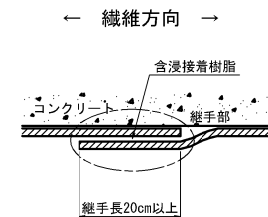
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 1 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		



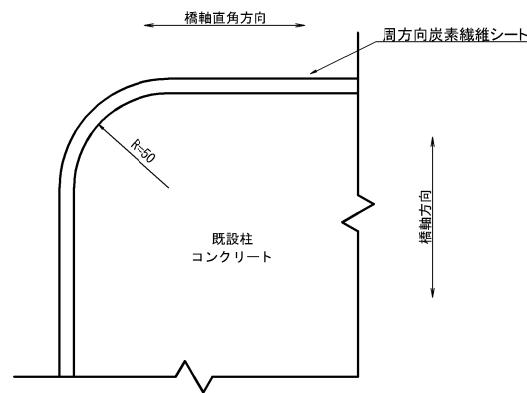
炭素繊維シート施工断面図
(区分: A1)



継手の設置方法 S=1:15



柱隅角部詳細図 S=1:5



注記)
1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。

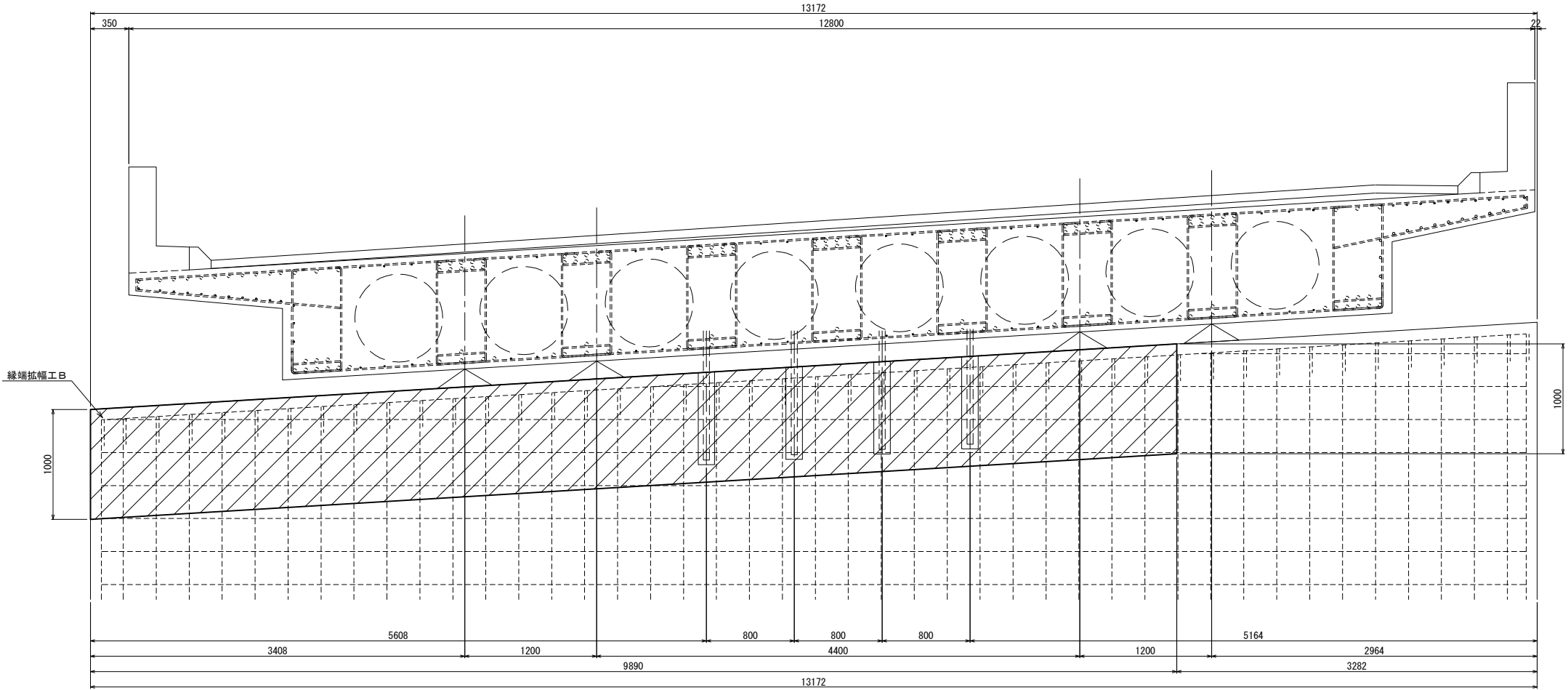
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/mm ²)	引張強度 (N/mm ²)	引張弾性係率 (N/mm ²)	設計厚さ (mm)	備考
200	3400	(2.45±0.36) × 10 ³	0.111	高強度型

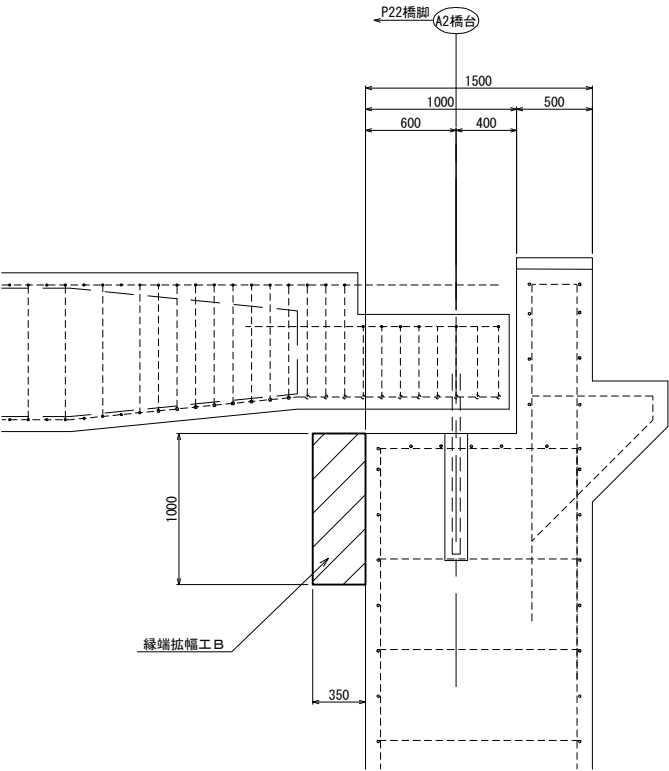
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 2 2 橋脚 炭素繊維巻立て工 詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		

配置図

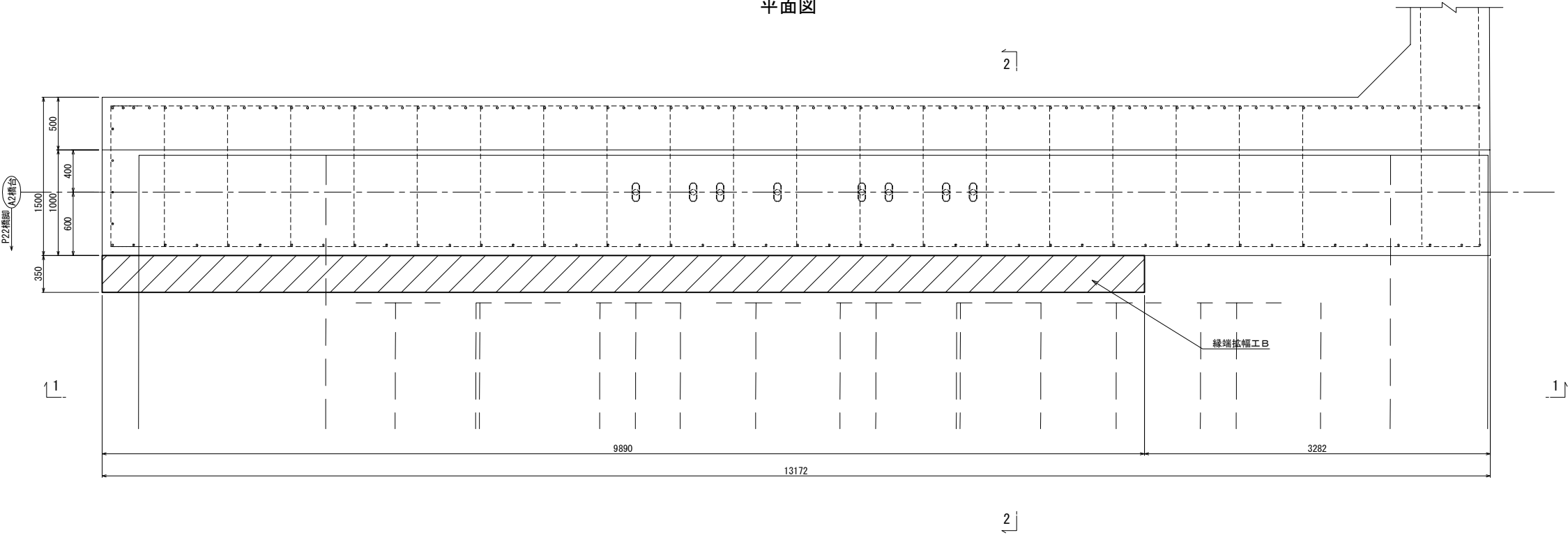
正面図
1 - 1



側面図
2 - 2



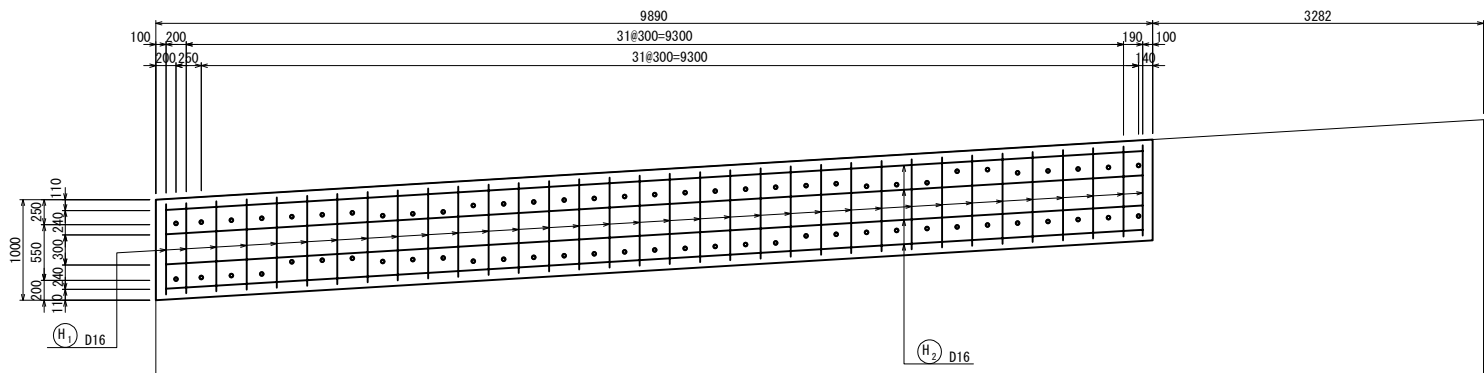
平面図



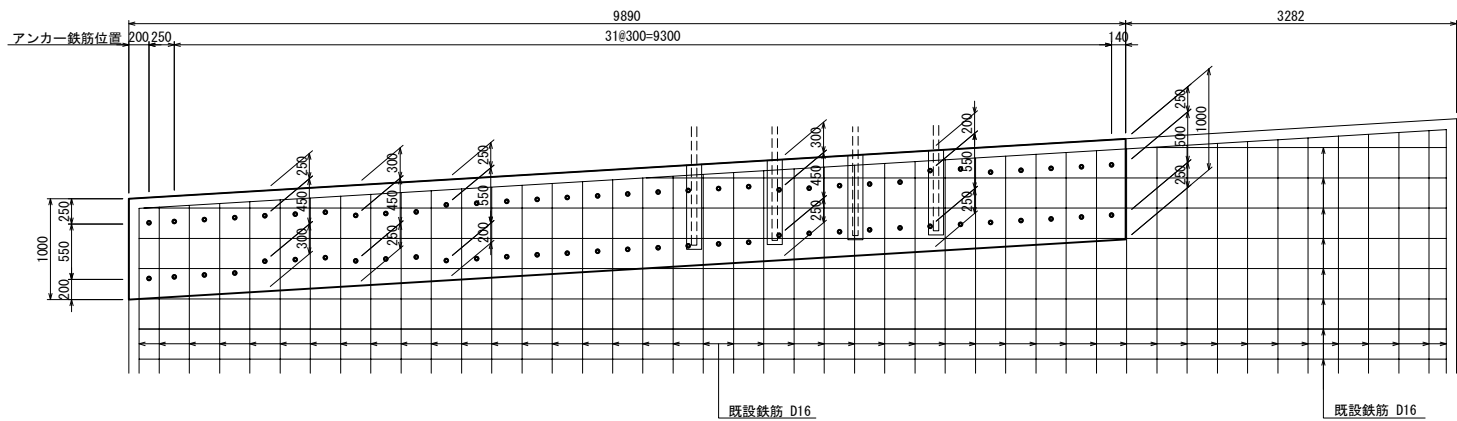
- 注記)
1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ok}=30N/mm^2$ とし、鉄筋はSD345を使用する。
 2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
 3. 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 4. 既設コンクリート表面は、新旧コンクリートの付着性をよくするため、WJによる表面処理を行うこと。
 5. アンカー削孔前に鉄筋探査を行い、既設鉄筋を避けて施工のこと。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 2 橋台 縁端拡幅工 B 詳細図（その 1）		
	縮 尺	1:50	図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

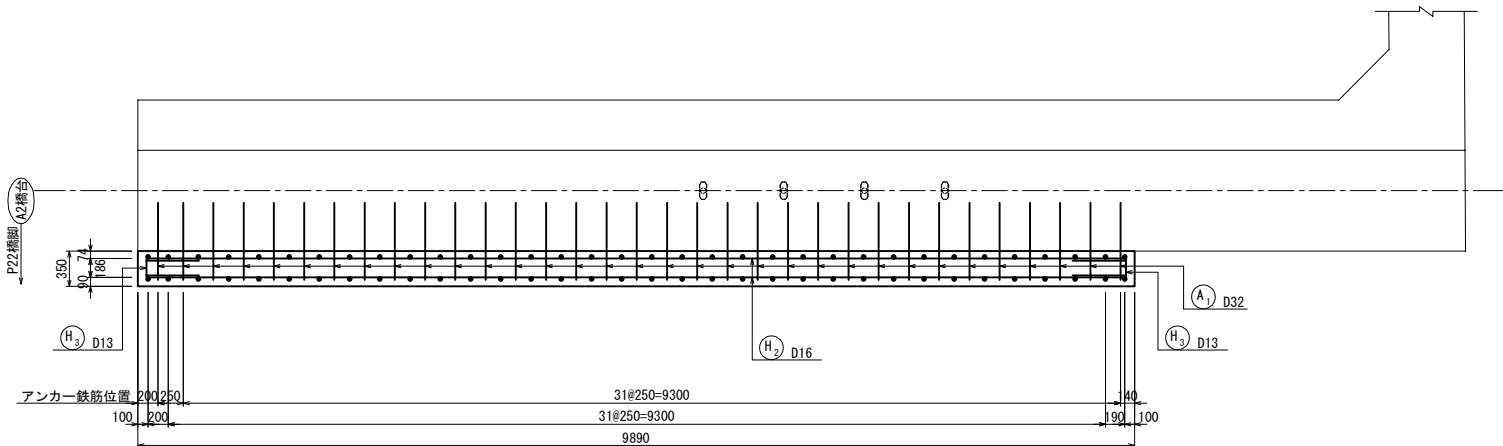
正面図



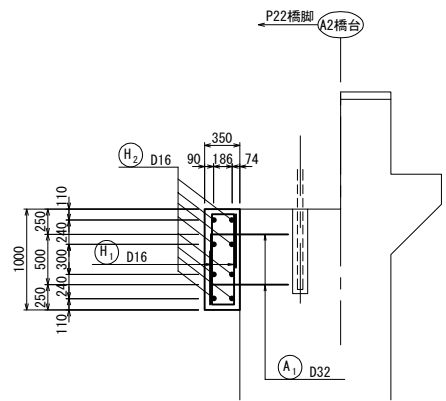
正面図



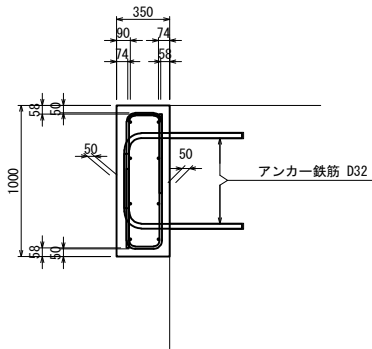
平面図



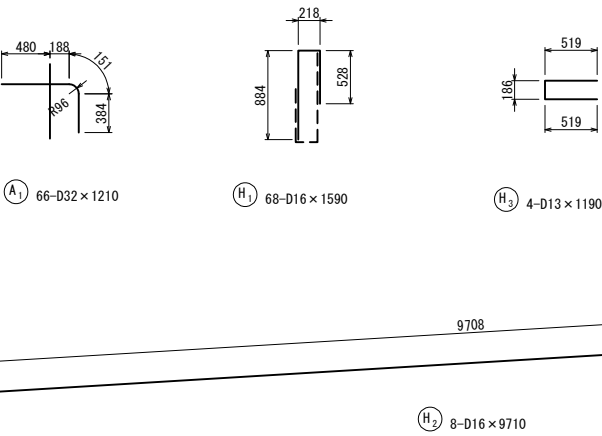
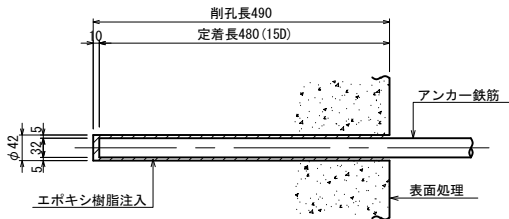
側面図



かぶり詳細図 S=1:50



アンカー鉄筋 S=1:12.5



鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
下部工施工鉄筋 (SD345)							
A1	D32	1210	66	6.23	7.54	498	
						498	kg
H1	D16	1590	68	1.56	2.48	169	
H2	D16	9710	8	1.56	15.1	121	
H3	D13	1190	4	0.995	1.18	5	
						295	kg
鉄筋質量集計 (SD345)							
						D32	498 kg
						D16	290 kg
						D13	5 kg
						合計	793 kg

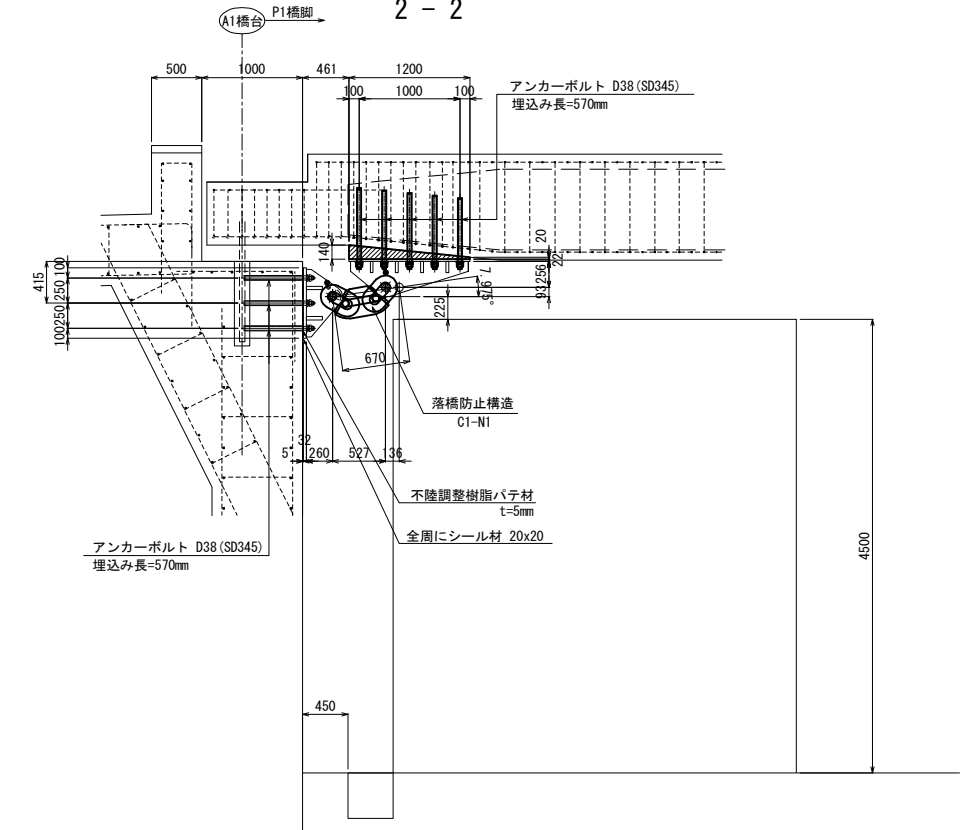
鉄筋曲げ加工表

注) 曲げ半径 (R=3φ、5.5φ) は鉄筋中心までの長さとする。				
径	θ ≤ 90° R=3φ	θ > 90° R=5.5φ	θ=90°	
	a	△L	a	△L
D13	39	71.5	61	17
D16	48	88	75	21
D32	96	176	151	41

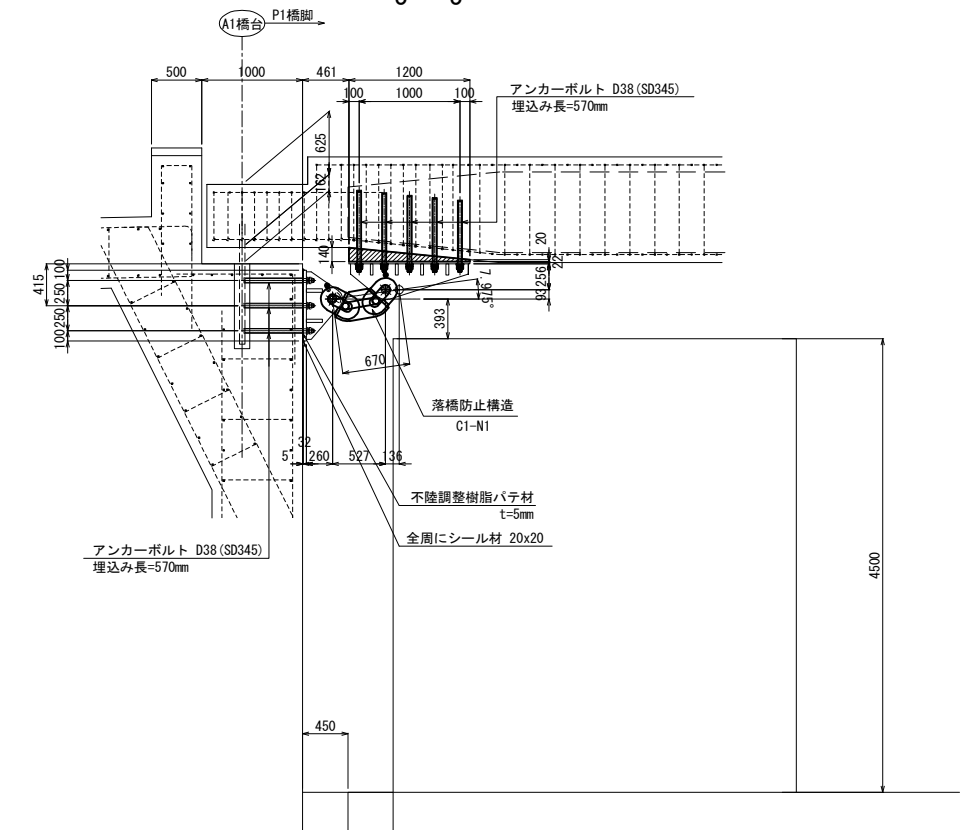
- 注記)
- コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とし、鉄筋はSD345を使用する。
 - 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
 - 施工に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 - 既設コンクリート表面は、新旧コンクリートの付着性をよくするため、WJによる表面処理を行うこと。
 - アンカー削孔前に鉄筋探査を行い、既設鉄筋を避けて施工のこと。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 2橋台 縁端拡幅工B詳細図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

2 - 2



3 - 3



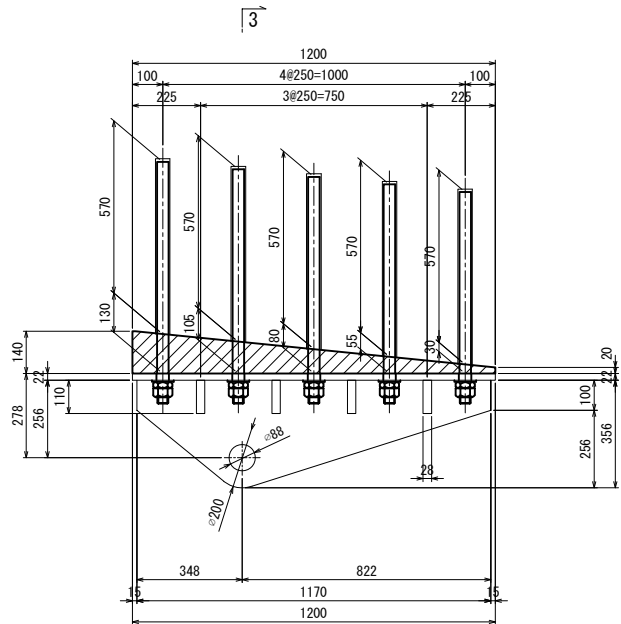
(注記)

1. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
2. 既設構造物への削孔の際には、鉄筋探査等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削孔位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より15D (D:アンカー径)以上確保すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 岡 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事	
図面の種類	線内高架橋（上り橋） A 1 橋台 落橋防止構造 C 1 - N 1 構造詳細図（その 1）
縮 尺	1:75 図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所

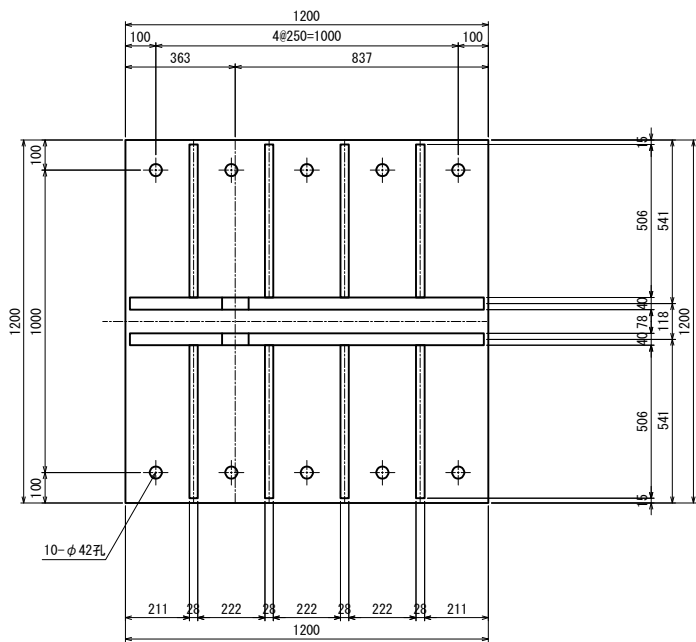
上部エブラケット
TYPE－1、2

側面図
1－1

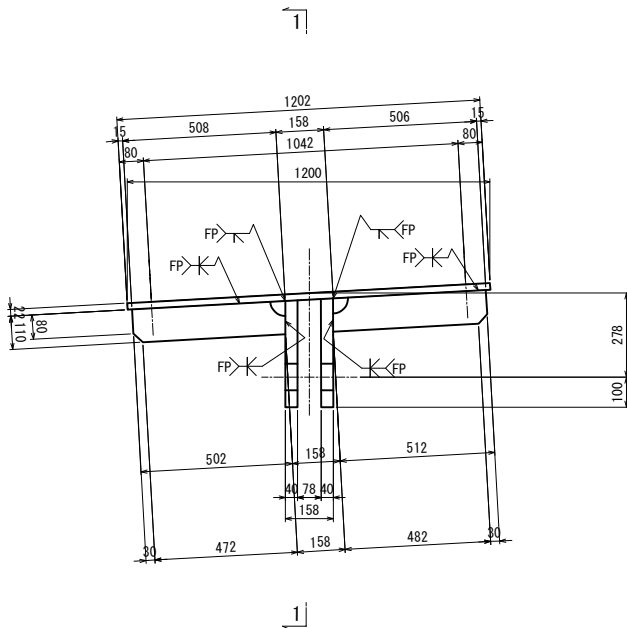


ブラケット1基当り(製作数: 2基)
1-Base. PL 1200x22x1202 (SM490YB)
2-PL 356×40×1170 (SM490YB)
4-Rib. PL 110×28×508
4-Rib. PL 110×28×512
10-Anc Bolt D38xL (SD345)
10-1種 Nut M36用 (SS400)
10-3種 Nut M36用 (SS400)
10-WASHER M36用 (SS400)

2－2

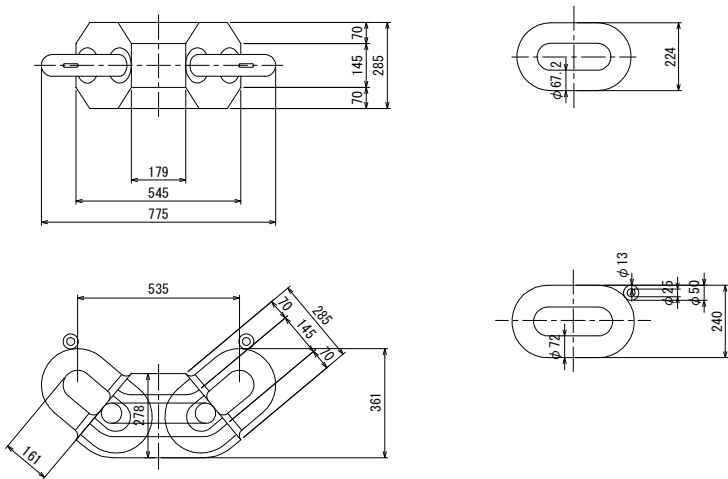


3－3



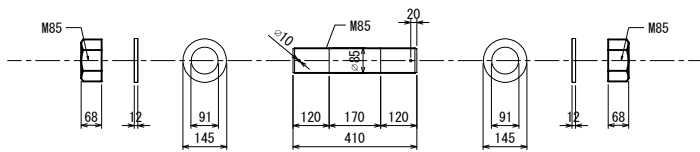
ブロック型ゴム被覆チェーン(参考図)

(許容荷重: 1710kNタイプ)



*1 調整リングの溶接は全周隅肉溶接とする。
*2 端末リンクの塗装膜厚は「カブリ-エ」 杉塗装240μ以上とする。
*3 製品計算重量: 101.7 kgf

ピン詳細 (参考図)



ピン材料1基当り(製作数: 2基)
2-R. B φ85×410 (SOM435)
4-Nut M85 (1種) (SS400)
4-Washer M85 (SS400)
4-割ピンφ10×100 (SUS304)

t	L1	L2	L	n
130	27	235	805	2
105	27	210	780	2
80	27	185	756	2
55	27	160	730	2
30	27	135	705	2

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探索を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

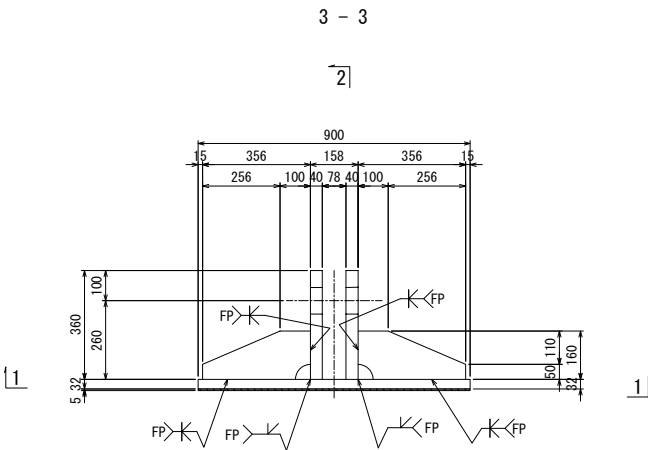
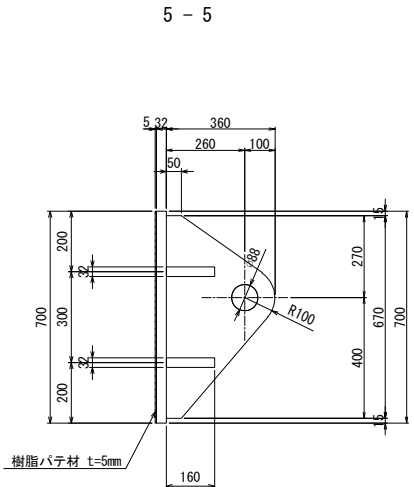
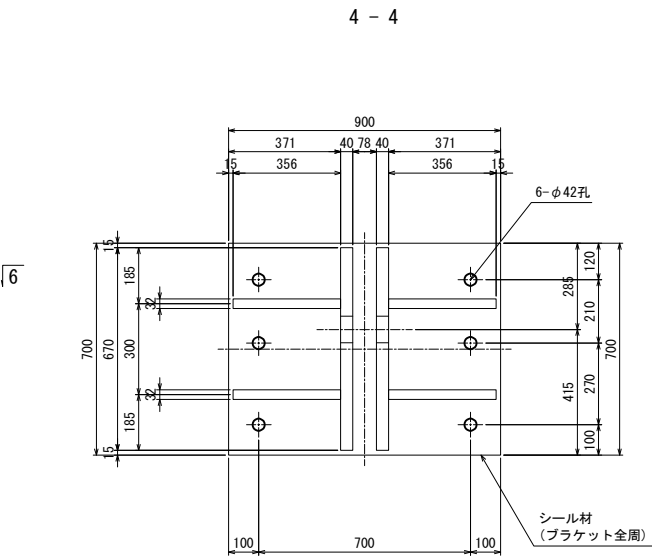
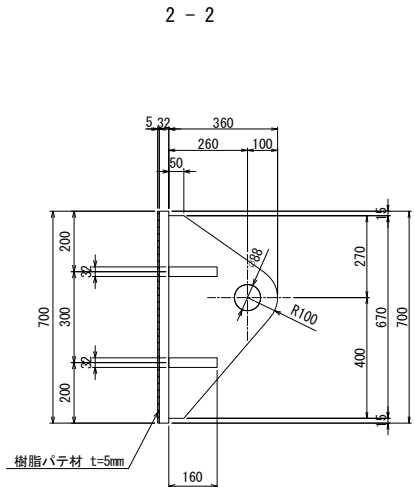
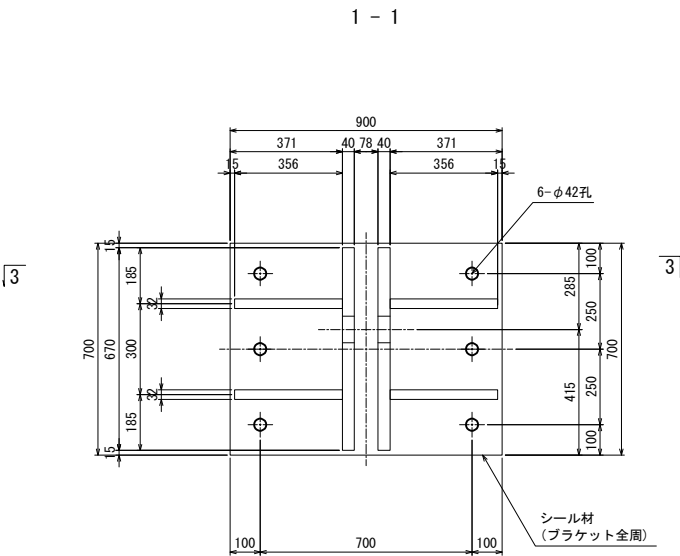
材料: (1本当り)
1-ANC Bolt D38xL (SD345)
1-NUT M36 (1種) (SS400)
1-NUT M36 (3種) (SS400)
1-平座金 M36 (SS400)

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋(上り線) A 1橋台 落橋防止構造 C 1－N 1 構造詳細図(その 2)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

下部エブラケット
TYPE-1、2

TYPE-1

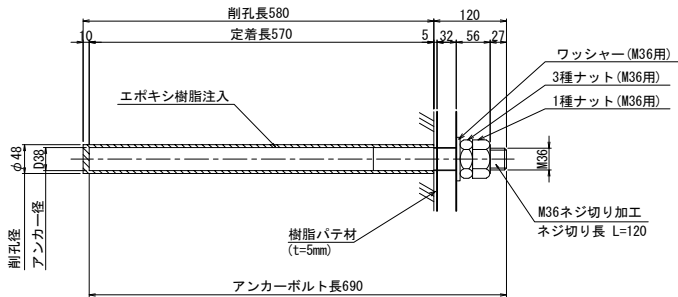
TYPE-2



ブラケット1基当り(製作数: 1基)

- 1-Base. PL 700x32x900 (SM490YB)
- 2-Rib. PL 360x40x670 (SM490YB)
- 4-Rib. PL 160x32x356 (SM490YB)
- 6-Anc Bolt D38x690 (SD345)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-WASHER M36用 (SS400)

下部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5

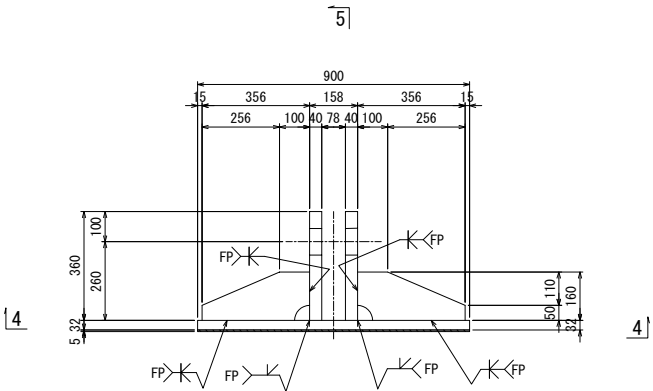


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

材料: (1本当り)

- 1-Anc Bolt D38x690 (SD345)
- 1-1種 Nut M36用 (SS400)
- 1-3種 Nut M36用 (SS400)
- 1-WASHER M36用 (SS400)

6 - 6

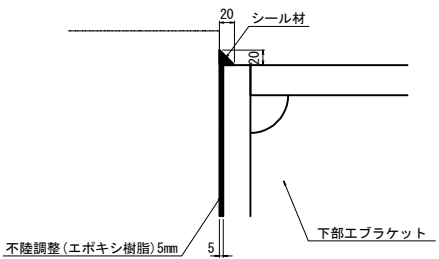


ブラケット1基当り(製作数: 1基)

- 1-Base. PL 700x32x900 (SM490YB)
- 2-Rib. PL 360x40x670 (SM490YB)
- 4-Rib. PL 160x32x356 (SM490YB)
- 6-Anc Bolt D38x690 (SD345)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-WASHER M36用 (SS400)

シーリング材詳細図

縮尺 1:10

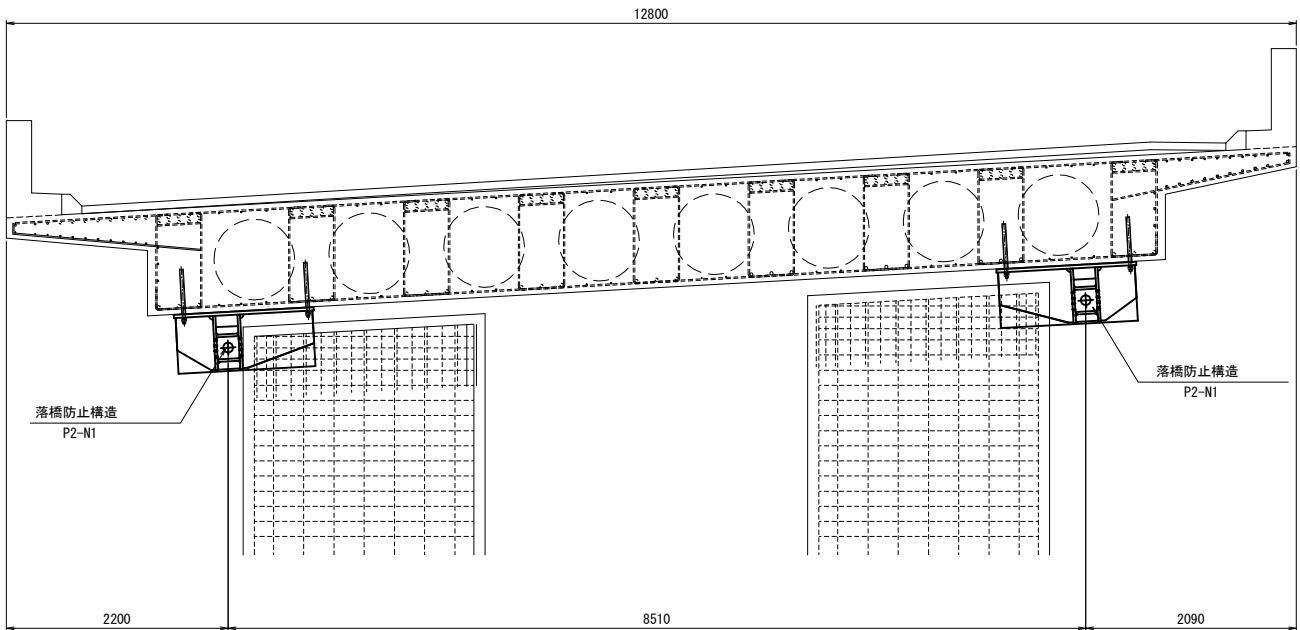


注記)

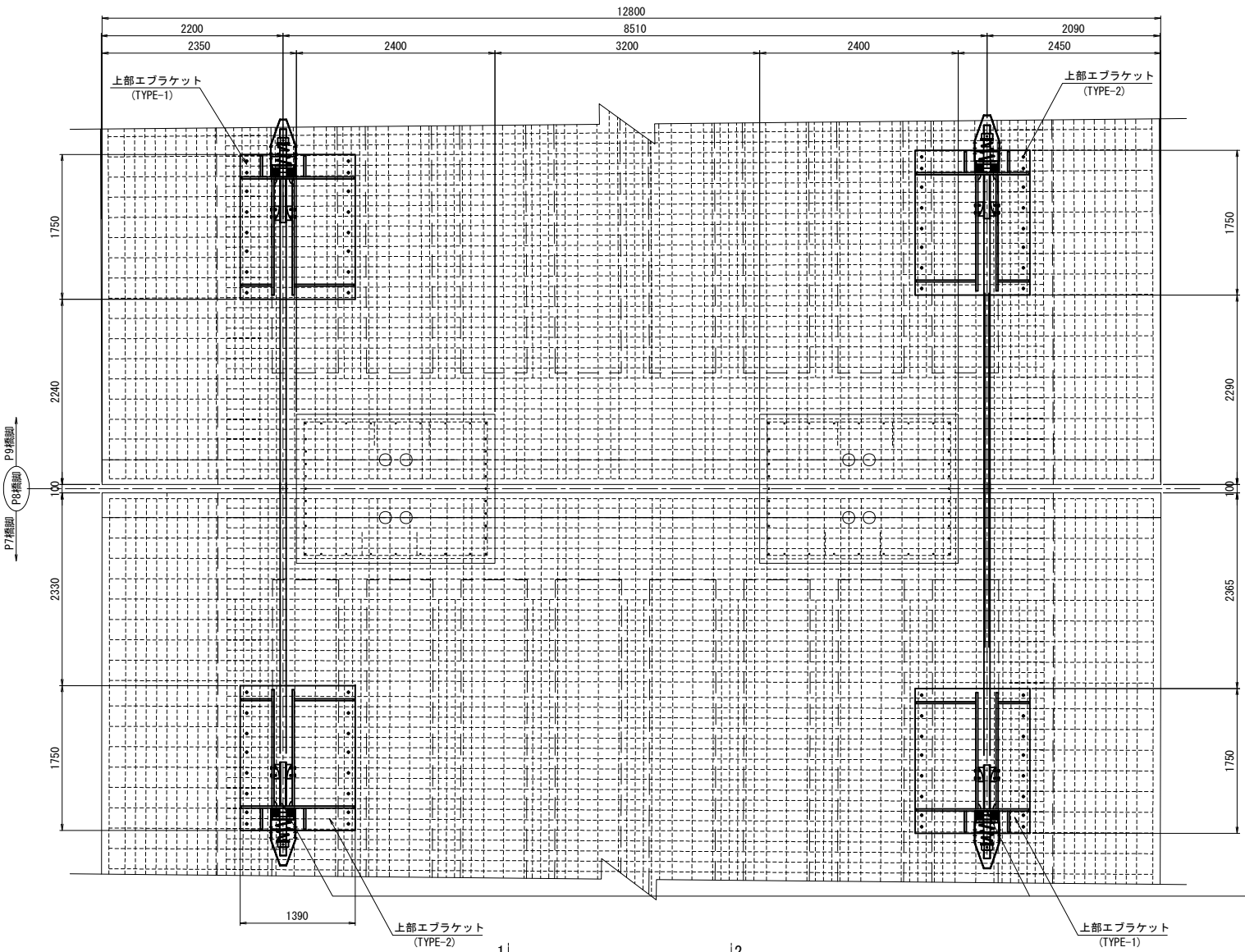
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
- 特記なきスカーラップは全てR50とする。
- 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
- 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探索を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
- FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋(上り線) A 1橋台 落橋防止構造 C 1－N 1 構造詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		

正面図

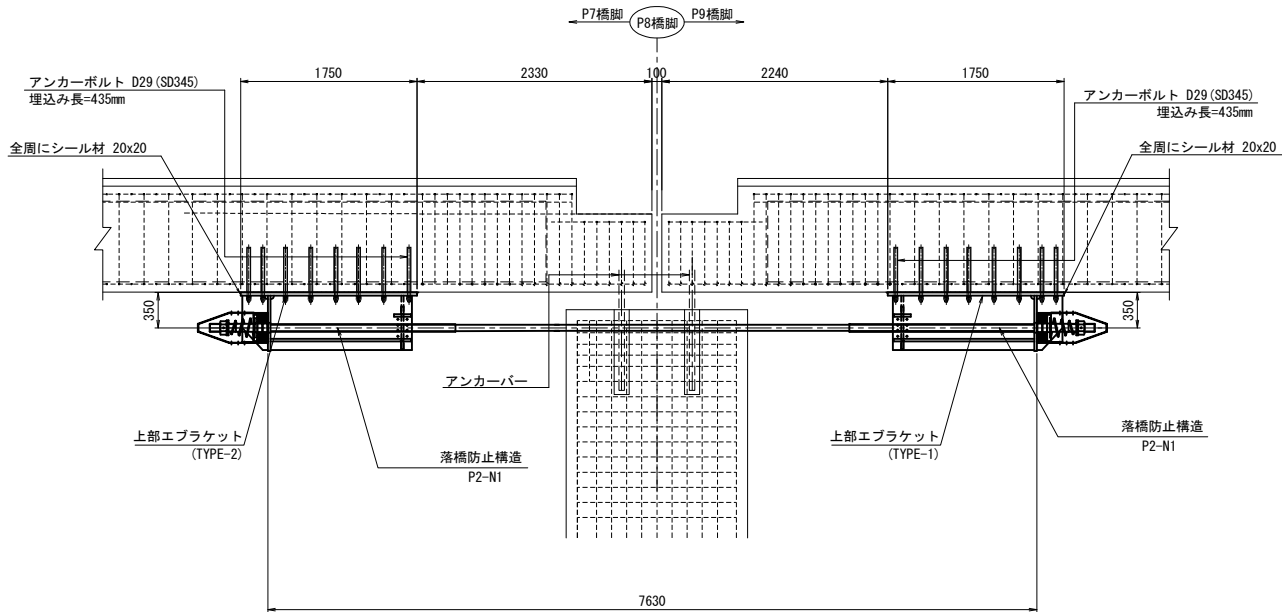


平面図

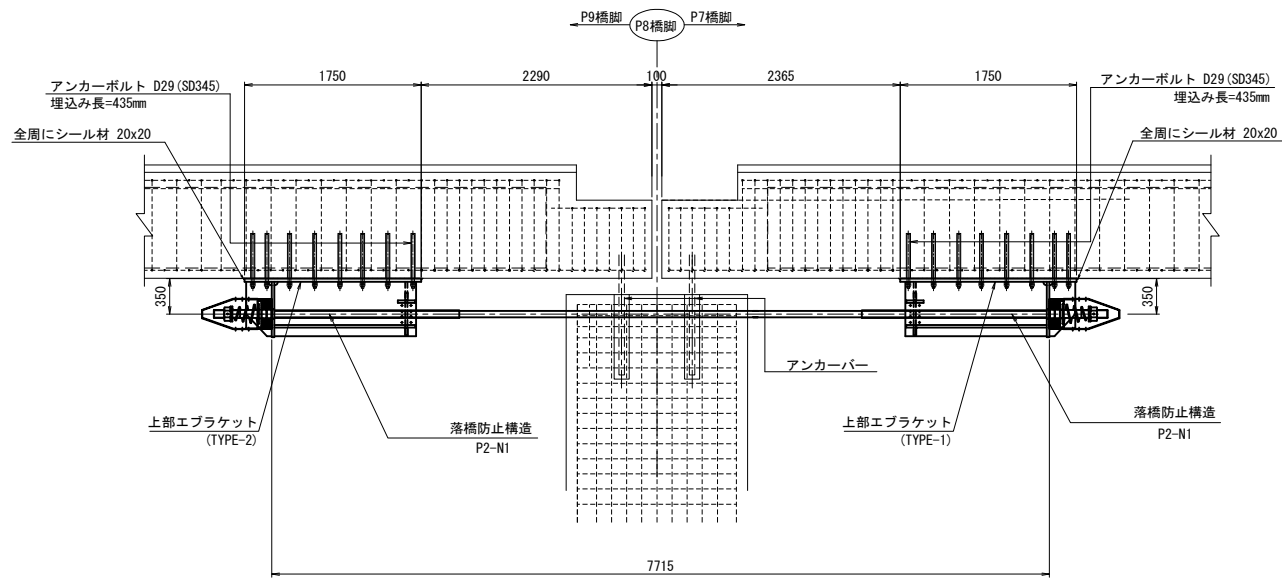


側面図

1 - 1



2 - 2



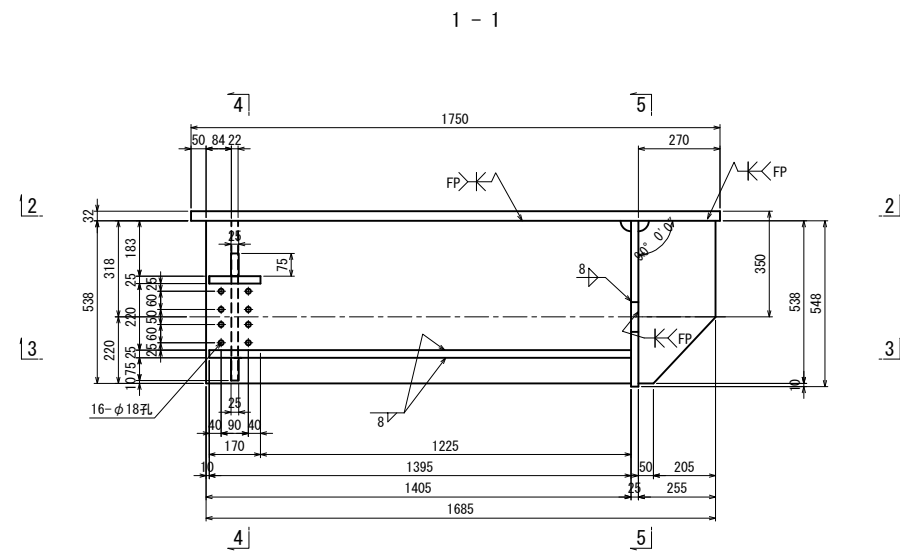
注記

1. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
2. 既設構造物への削孔の際には、鉄筋探索等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削孔位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より150 (D:アンカー径)以上確保すること。

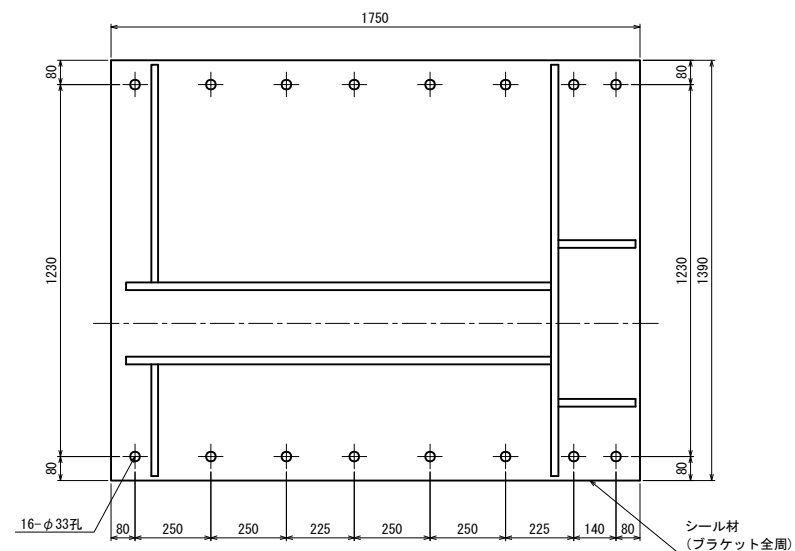
死荷重反力	1750 kN
設計水平力	2650 kN
1本当たりの引張力	1325 kN
設計遊間量	75 mm

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 1 構造詳細図（その 1）		
縮 尺	1:75	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

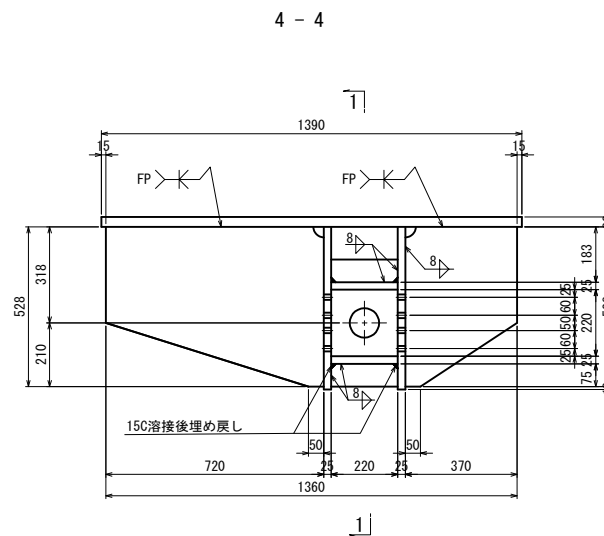
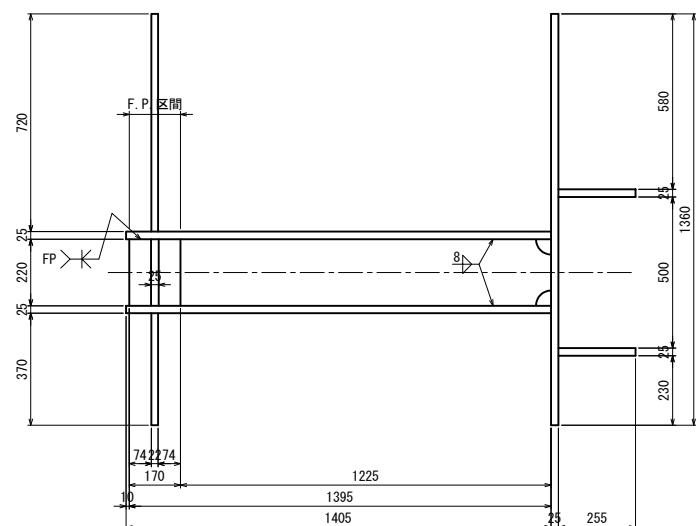
上部エブラケット (TYPE-1)



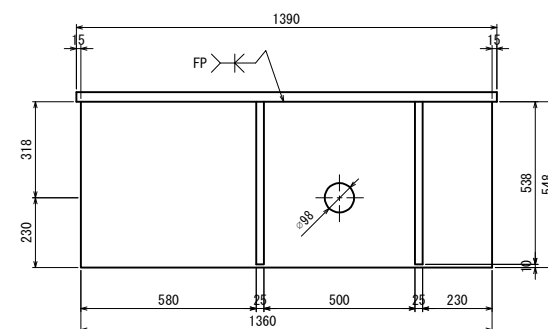
2 - 2



3 - 3

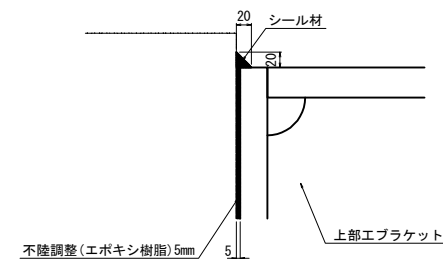


5 - 5



シール材詳細図

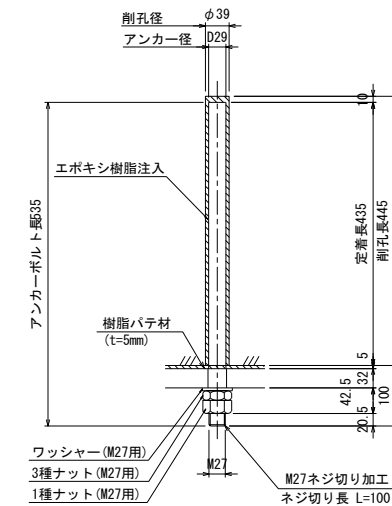
縮尺 1:10



ブラケット1基当り(製作数: 2基)

- 2-PL 255x25x538
2-PL 538x25x1405
1-PL 370x22x528
1-PL 720x22x528
2-PL 75x25x220
1-PL 220x25x1395
1-PL 170x25x220
1-PL 1360x25x548
1-PL 1390x32x1750
16-Anc Bolt D29x535 (SD345)
16-1種 Nut M27用 (SS400)
16-3種 Nut M27用 (SS400)
16-WASHER M27用 (SS400)

上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

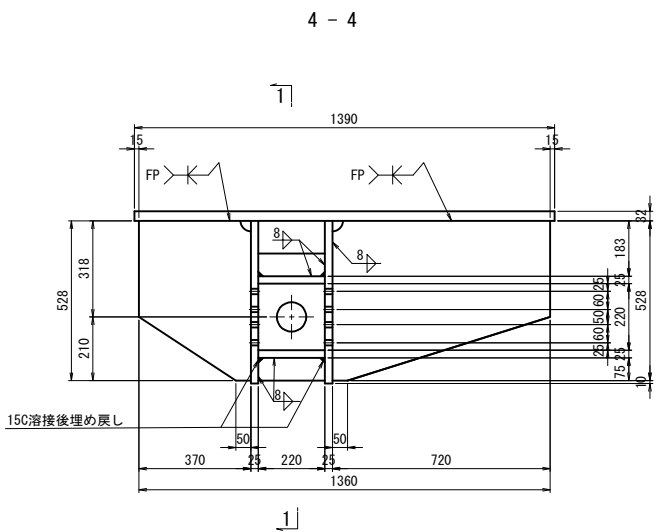
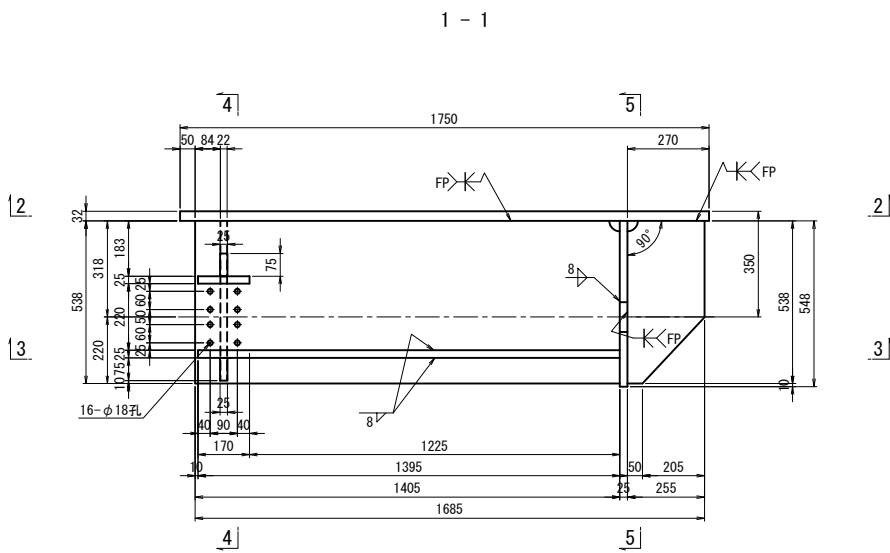
材料：(1本当り)
 1-Anc Bolt D29x535 (SD345)
 1-1種 Nut M27用 (SS400)
 1-3種 Nut M27用 (SS400)
 1-WASHER M27用 (SS400)

注記)

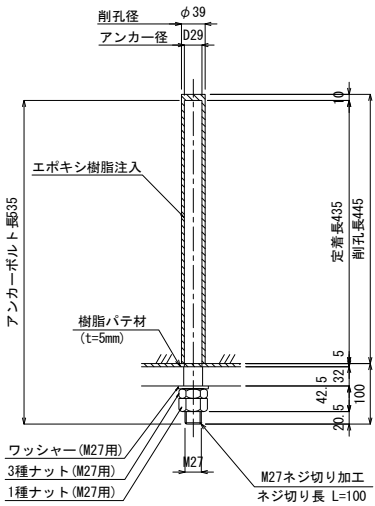
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカラーアップは全てR50とする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
鋼厚は、JIS H0401 H02T77とする。
ただし、ボルト・ナット類はH02T49とする。
5. 既設コンクリートへの穿孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
6. FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事	
図面の種類	線内高架橋（上り線） P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2 ー N 1 構造詳細図（その 2）
縮 尺	図 示 図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所

上部エブラケット（TYPE-2）

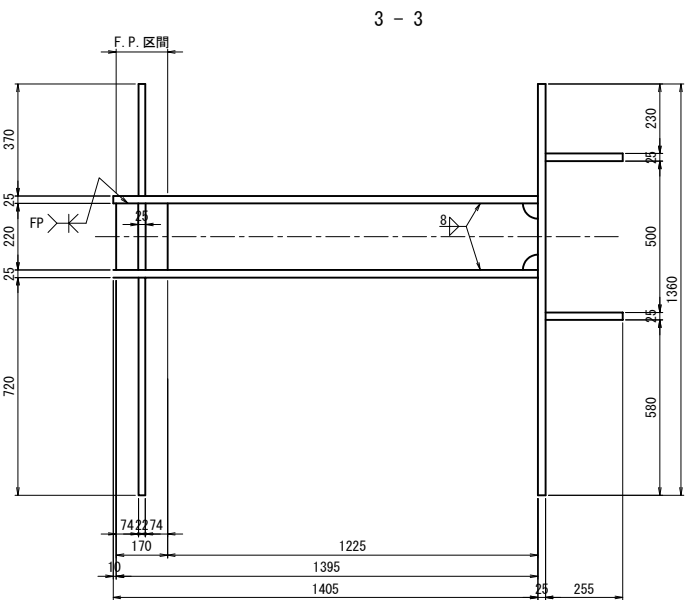
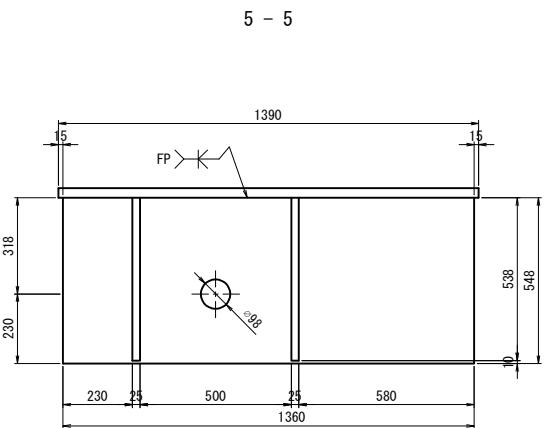
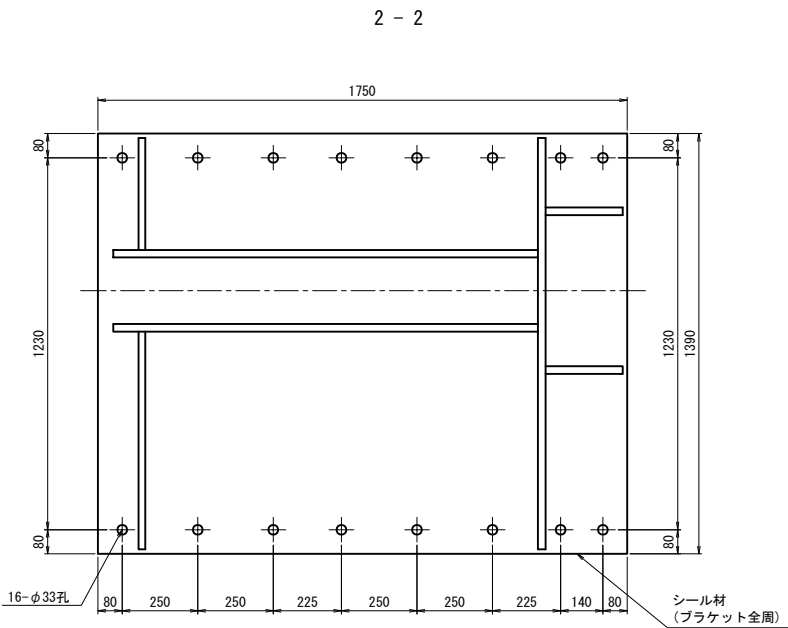


上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

材料：(1本当り)
1-Anc Bolt D29x535 (SD345)
1-1種 Nut M27用 (SS400)
1-3種 Nut M27用 (SS400)
1-WASHER M27用 (SS400)



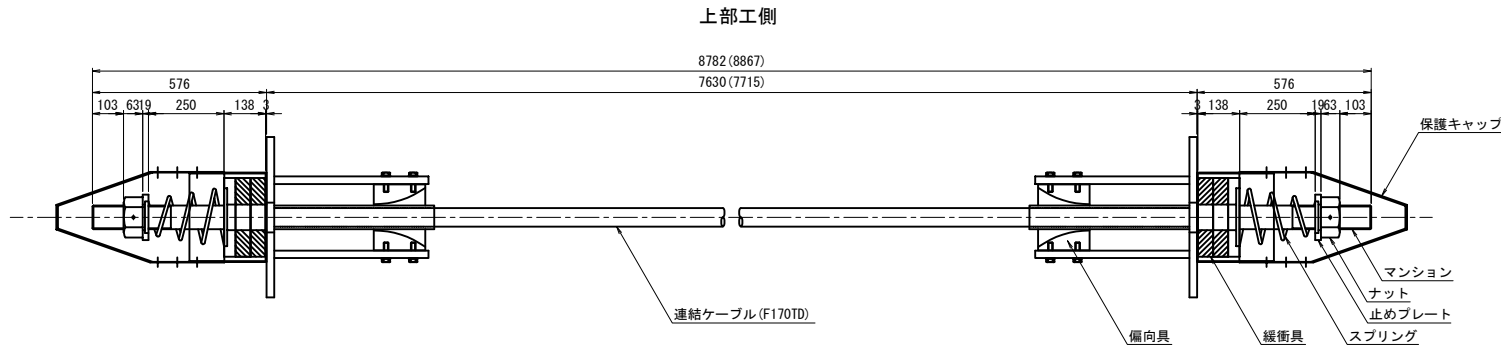
ブラケット1基当り (製作数：2基)

2-PL 255x25x538
2-PL 538x25x1405
1-PL 370x22x528
1-PL 720x22x528
2-PL 75x25x220
1-PL 220x25x1395
1-PL 170x25x220
1-PL 1360x25x548
1-PL 1390x32x1750
16-Anc Bolt D29x535 (SD345)
16-1種 Nut M27用 (SS400)
16-3種 Nut M27用 (SS400)
16-WASHER M27用 (SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めっき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 1 構造詳細図（その3）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

取付詳細図

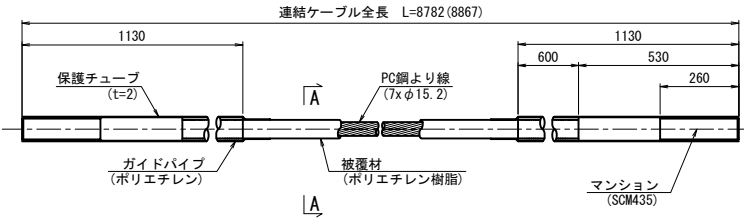


材 料 表（落橋防止構造1本当たり）

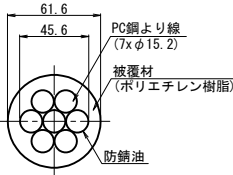
全1(1)本

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	F170TD L=8782 (8867) mm	本	1	PC鋼より線、ポリエチレン被覆
（マンション）	F170TD用 標準	個	2	SCM435、ネジきり標準 〈ケーブルに組込〉
（ガイドパイプ）	F170TD用 600mm	本	2	ポリエチレン 〈ケーブルに組込〉
ナット	F170TD用	個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	F170TD用	個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	F170TD用 L=400	個	2	SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理
異型緩衝具	F170TD用	個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	F170TD用	個	2	ポリエチレン
（取付ボルト）	M16x55 1W付	本	32	SS400相当品:垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	F170TD用	組	2	ポリエチレン:6-止めビス付

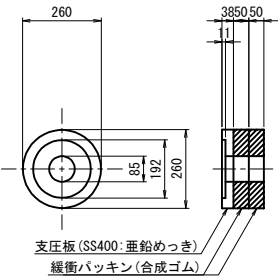
連結ケーブル



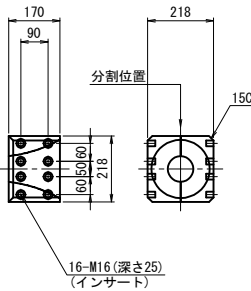
A-A断面図 S=1:5



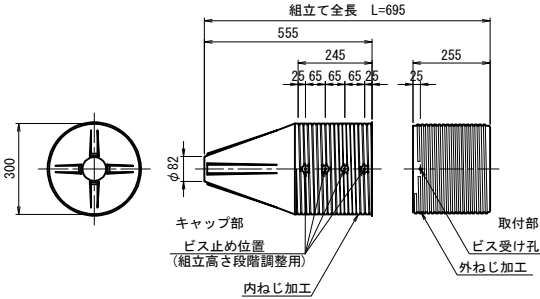
異型緩衝具
（支圧板+緩衝パッキン）



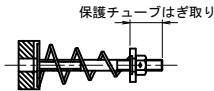
偏 向 具
（ポリエチレン）



保護キャップ
（ポリエチレン）

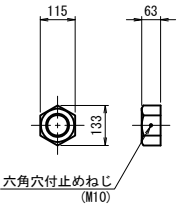


マンション端部処理

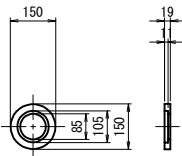


※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマンション先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

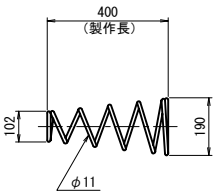
ナット
（S45C:垂鉛めっき）



止めプレート
（SS400:垂鉛めっき）

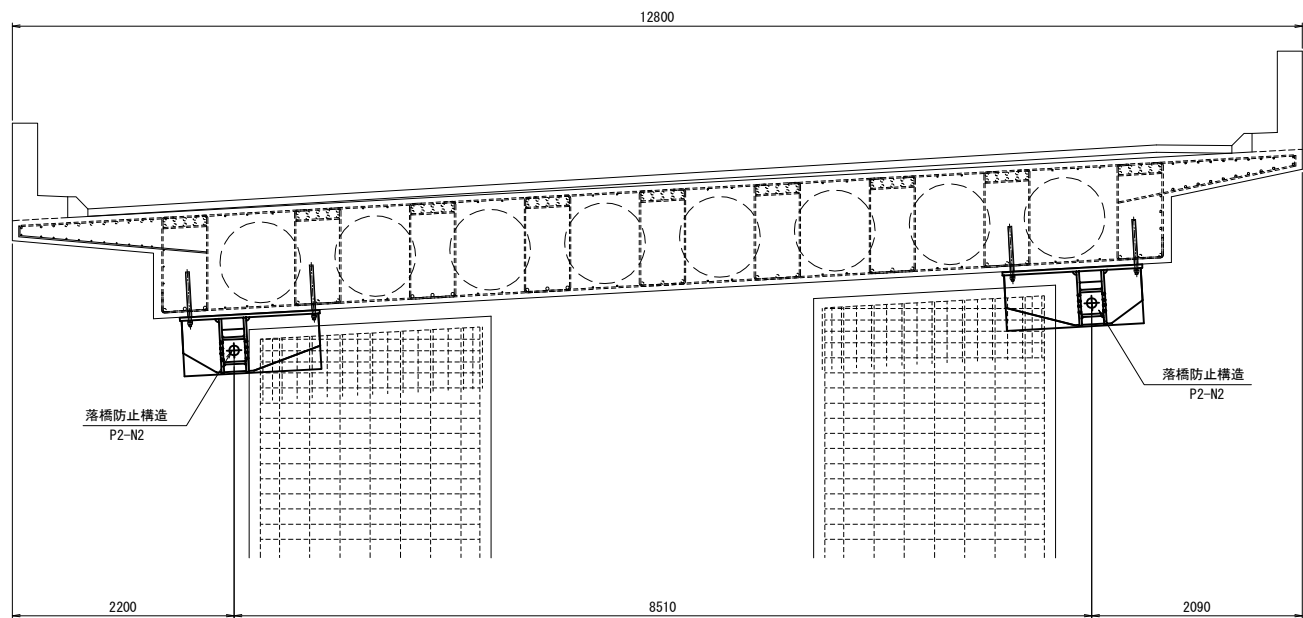


スプリング
（SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理）

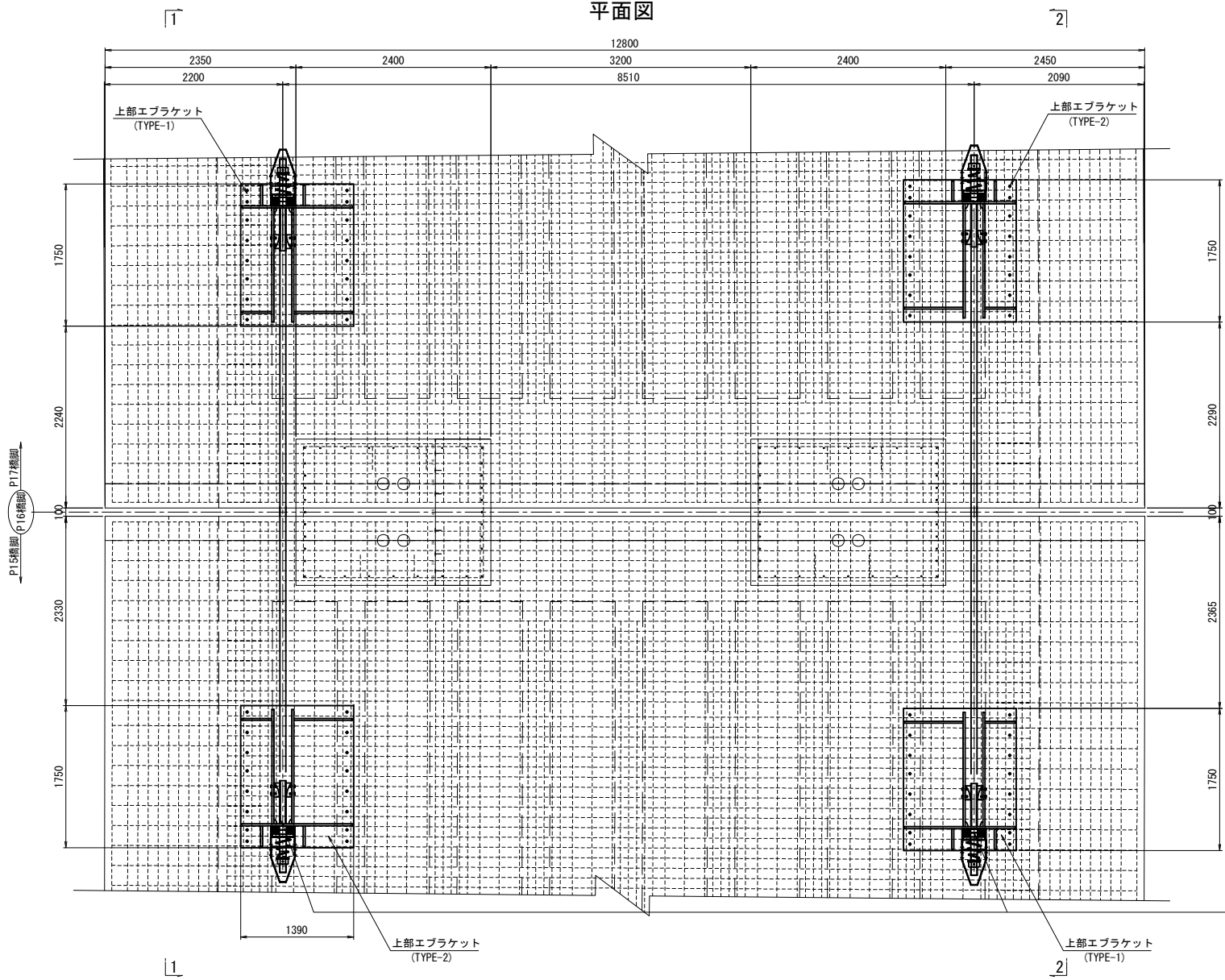


注記
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. () 内はTYPE2寸法を示す。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 1 構造詳細図（その 4）（参考図）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

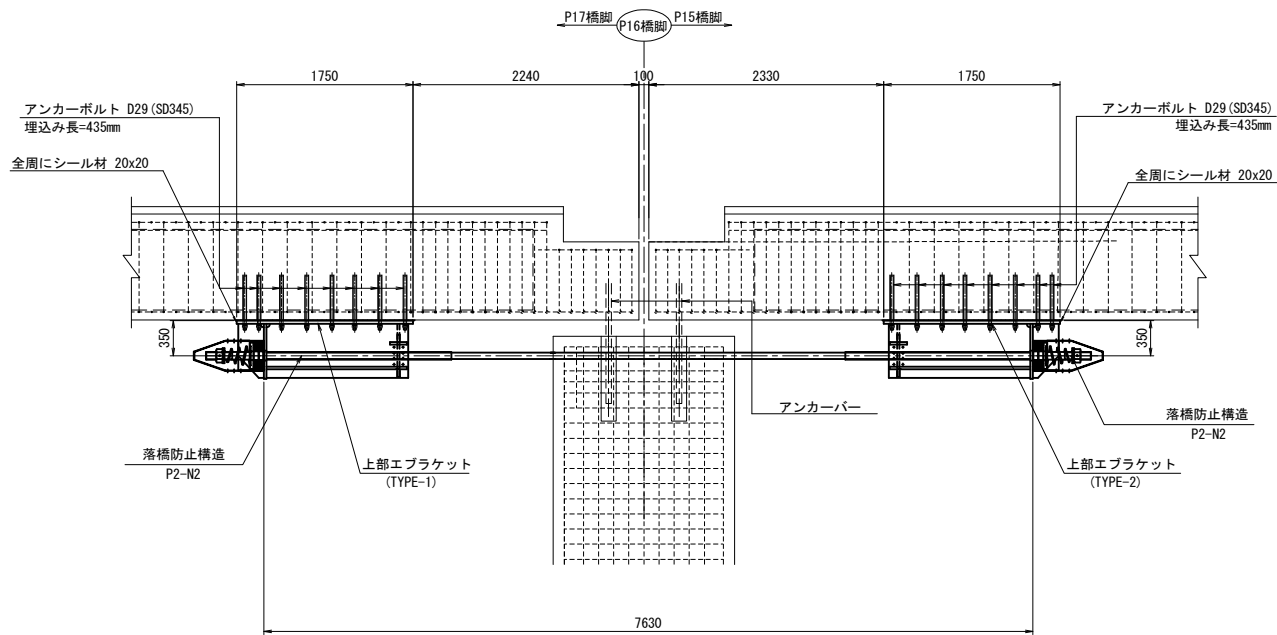


平面図

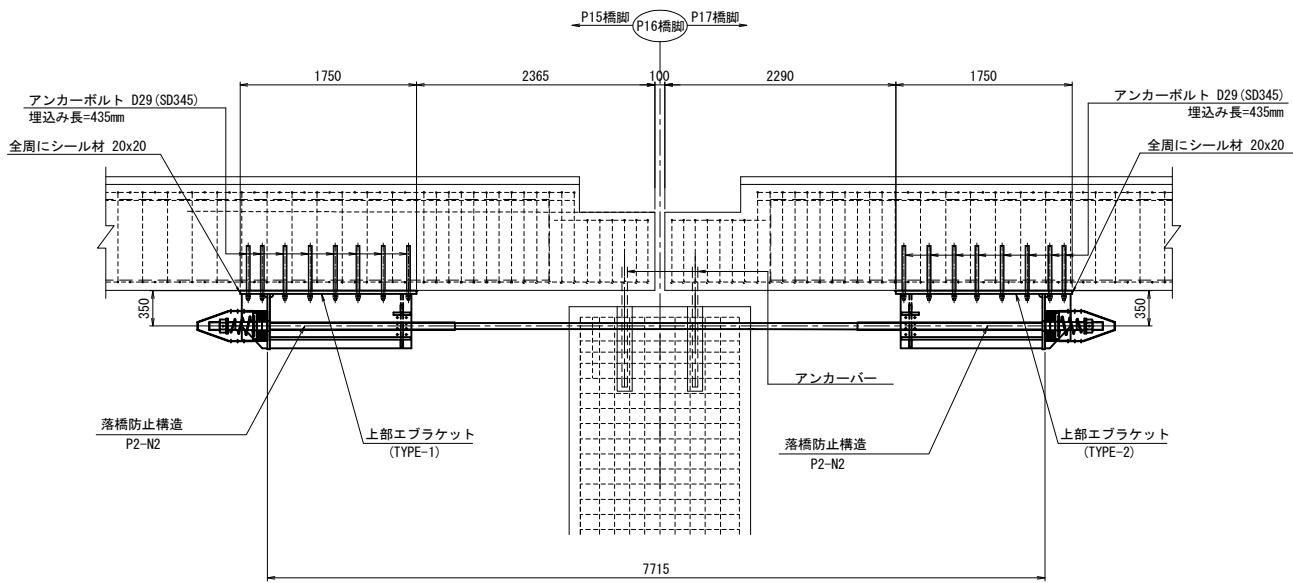


側面図

1 - 1



2 - 2



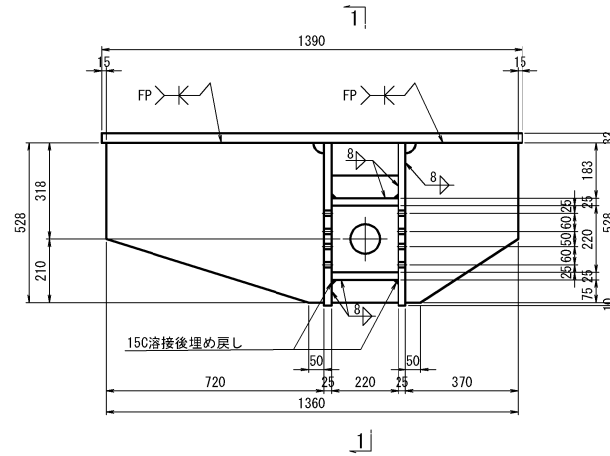
死荷重反力	1800 kN
設計水平力	2700 kN
1本当たりの引張力	1350 kN
設計遊間量	75 mm

注記

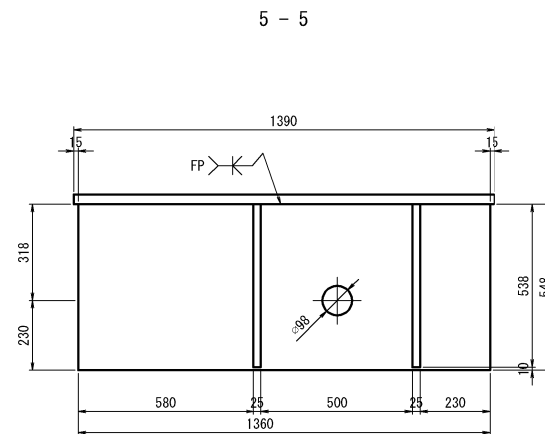
1. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
2. 既設構造物への削孔の際には、鉄筋探索等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削孔位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より150 (0:アンカー径)以上確保すること。

上信越自動車道	
豊洲高架橋耐震補強工事	
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 2 構造詳細図（その 1）
縮 尺	1:75 図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所

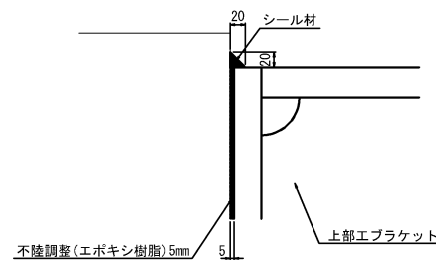
4 - 4

[illegible]

材料：(1本当り)
 1-Anc Bolt D29x535 (SD345)
 1-1種 Nut M27用 (SS400)
 1-3種 Nut M27用 (SS400)
 1-WASHER M27用 (SS400)



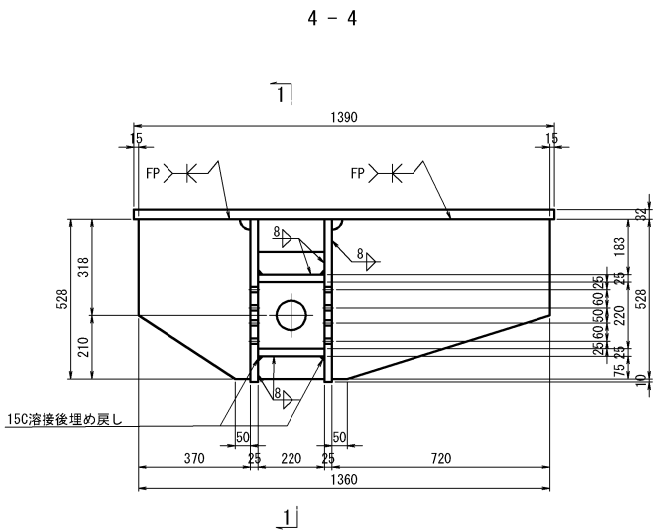
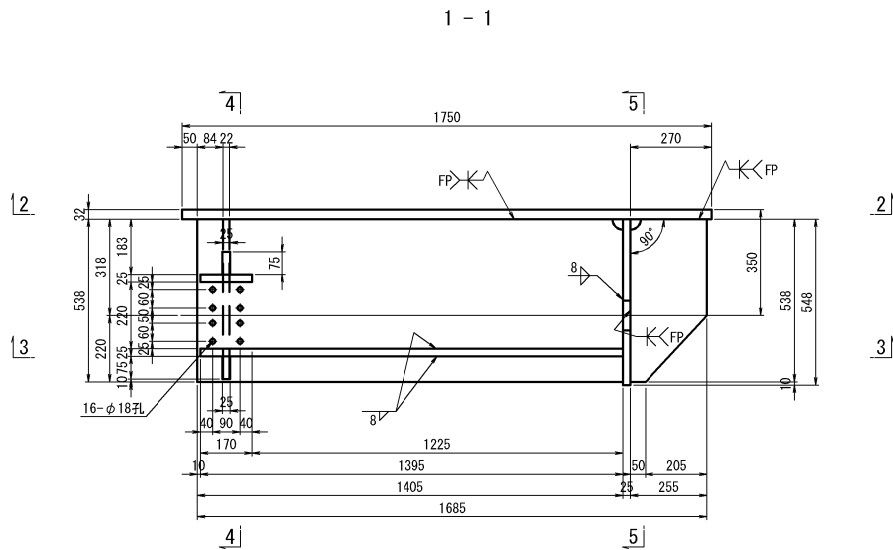
縮尺 1:10



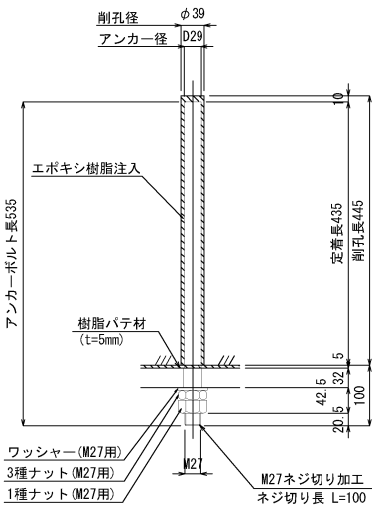
2-PL 255x25x538
2-PL 538x25x1405
1-PL 370x22x528
1-PL 720x22x528
2-PL 75x25x220
1-PL 220x25x1395
1-PL 170x25x220
1-PL 1360x25x548
1-PL 1390x32x1750
16-Anc Bolt D29x535 (SD345)
16-1種 Nut M27用 (SS400)
16-3種 Nut M27用 (SS400)
16-WASHER M27用 (SS400)

上 信 越 自 動 車 道			
豊 州 高 架 梁 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	線内高架橋(上り線) P 16橋脚 落橋防止構造 P 2-N 2 構造詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

上部エブラケット（TYPE-2）

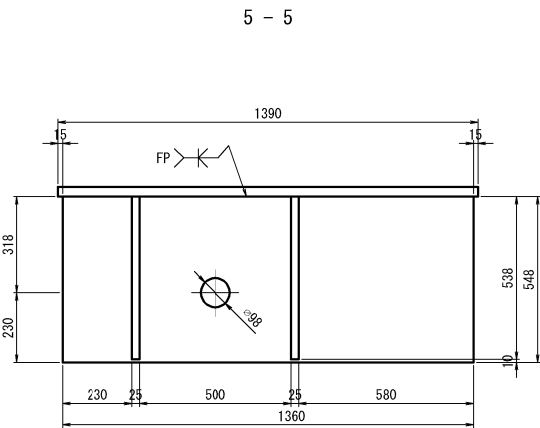
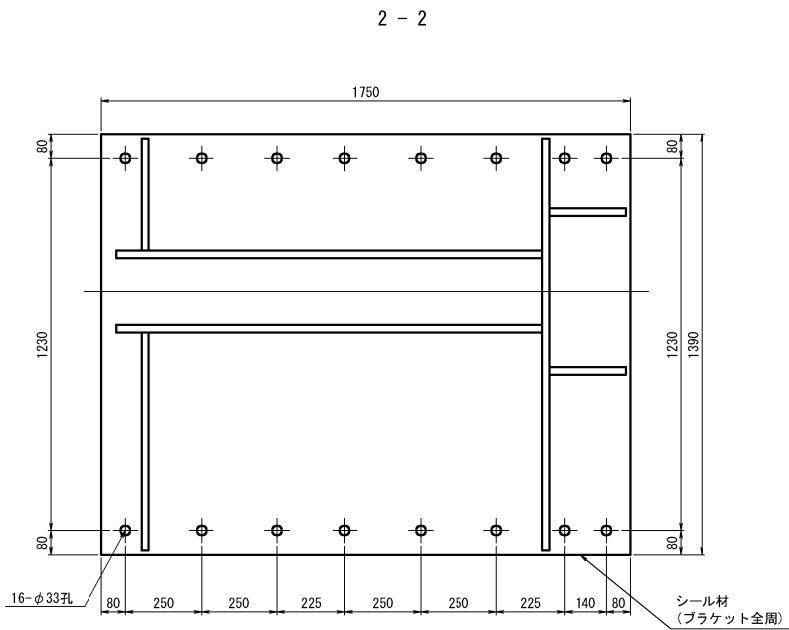


上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5

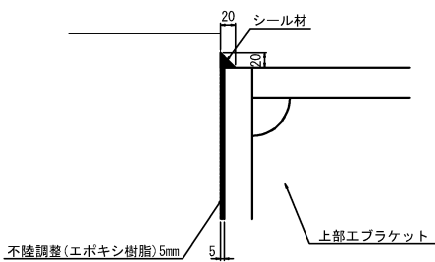


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

材料：(1本当り)
1-Anc Bolt D29x535 (SD345)
1-1種 Nut M27用 (SS400)
1-3種 Nut M27用 (SS400)
1-WASHER M27用 (SS400)



シーラ材詳細図 縮尺 1:10

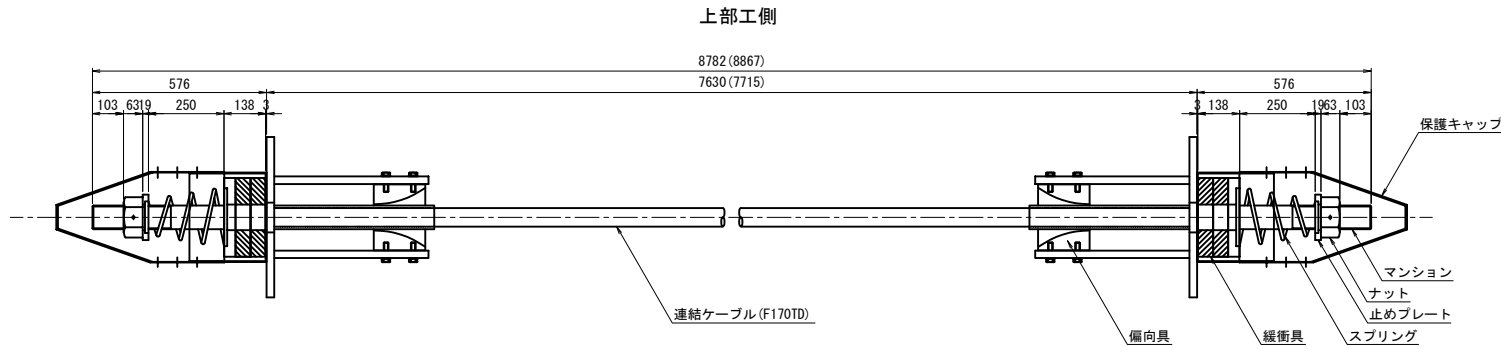


ブラケット1基当り(製作数: 2基)
2-PL 255x25x538
2-PL 538x25x1405
1-PL 370x22x528
1-PL 720x22x528
2-PL 75x25x220
1-PL 220x25x1395
1-PL 170x25x220
1-PL 1360x25x548
1-PL 1390x32x1750
16-Anc Bolt D29x535 (SD345)
16-1種 Nut M27用 (SS400)
16-3種 Nut M27用 (SS400)
16-WASHER M27用 (SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 2 構造詳細図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

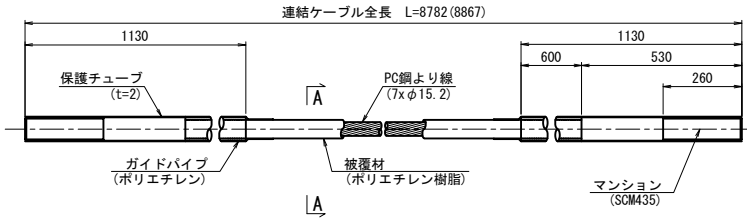
取付詳細図



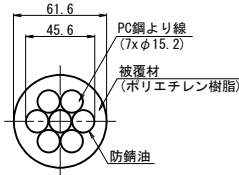
材 料 表（落橋防止構造1本当たり） 全1(1)本

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	F170TD L=8782 (8867) mm	本	1	PC鋼より線、ポリエチレン被覆
（マシジョン）	F170TD用 標準	個	2	SCM435、ネジきり標準（ケーブルに組込）
（ガイドパイプ）	F170TD用 600mm	本	2	ポリエチレン（ケーブルに組込）
ナット	F170TD用	個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	F170TD用	個	2	S45C:垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	F170TD用 L=400	個	2	SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理
異型緩衝具	F170TD用	個	2	SS400:垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	F170TD用	個	2	ポリエチレン
（取付ボルト）	M16x55 1W付	本	32	SS400相当品:垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	F170TD用	組	2	ポリエチレン:6-止めビス付

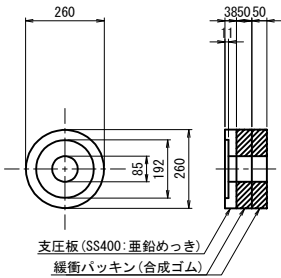
連結ケーブル



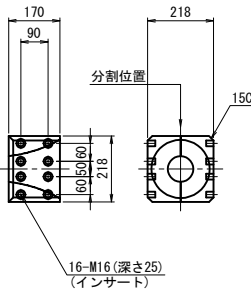
A-A断面図 S=1:5



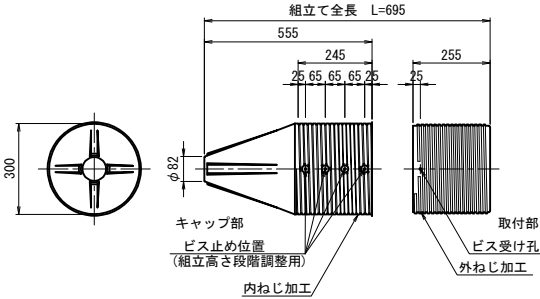
異型緩衝具
（支圧板+緩衝パッキン）



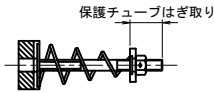
偏 向 具
（ポリエチレン）



保護キャップ
（ポリエチレン）

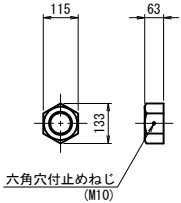


マシジョン端部処理

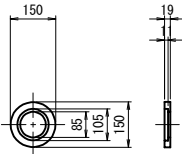


※取付前に保護チューブをはぎ取る。
取付後はマシジョン先端ねじ部に
防錆処理をおこなうこと。

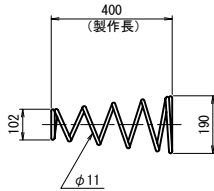
ナット
（S45C:垂鉛めっき）



止めプレート
（SS400:垂鉛めっき）



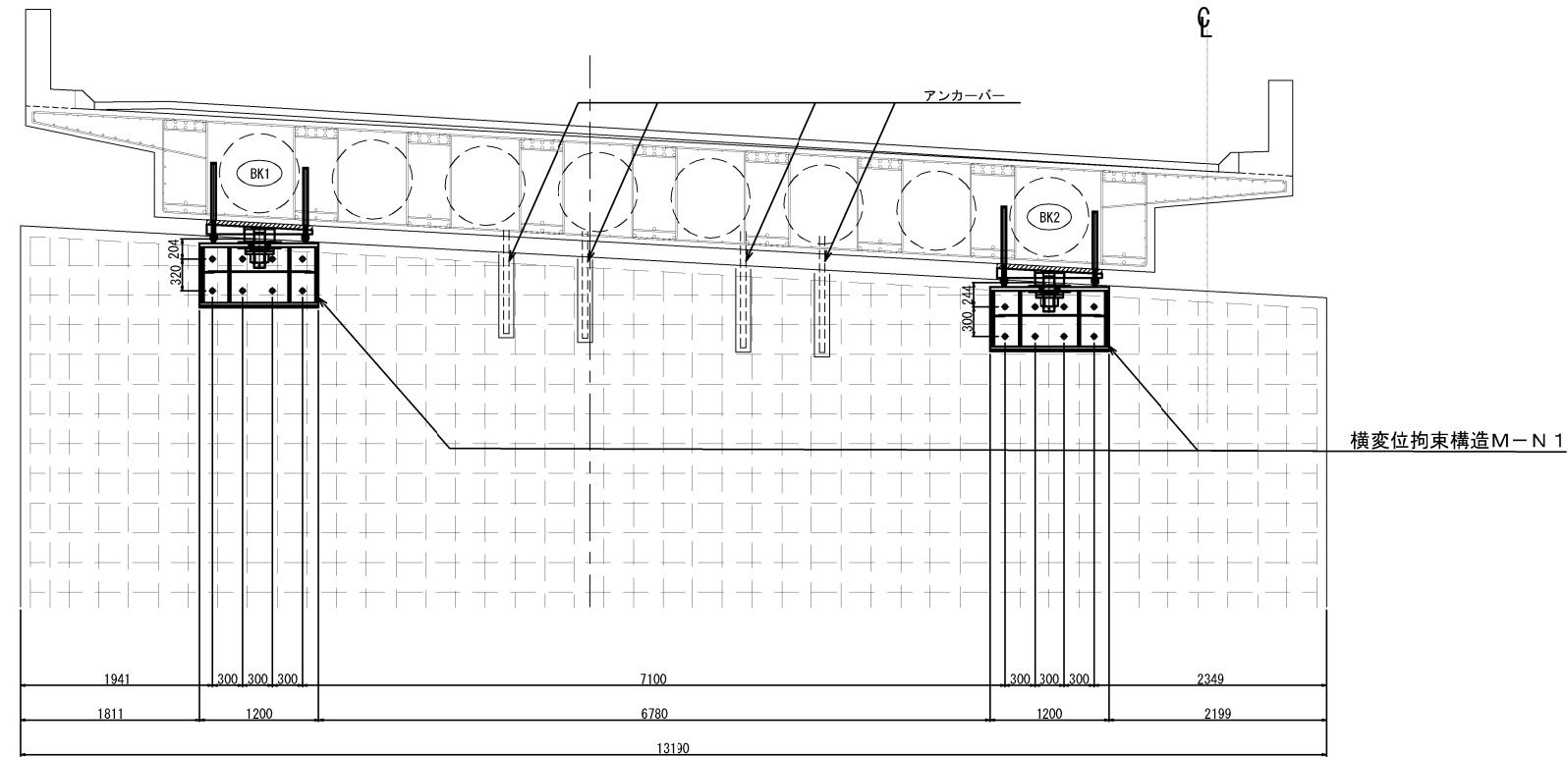
スプリング
（SW-C:垂鉛めっき、クロメート処理）



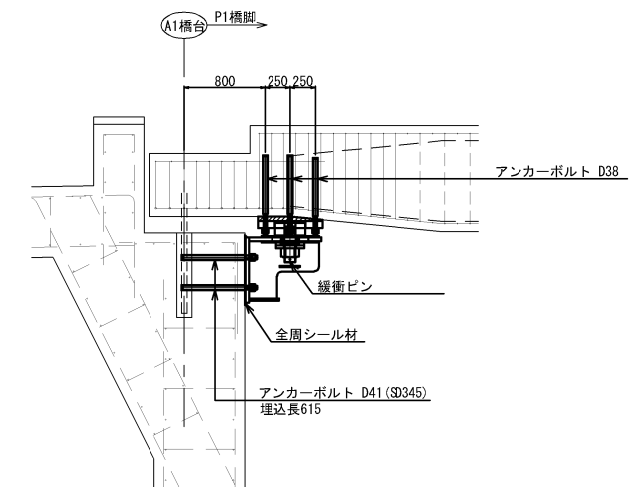
注記
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. () 内はTYPE2寸法を示す。

上 信 越 自 動 車 道	豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚 落橋防止構造 P 2—N 2 構造詳細図（その4）（参考図）
縮 尺	図 示 図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所

正面図

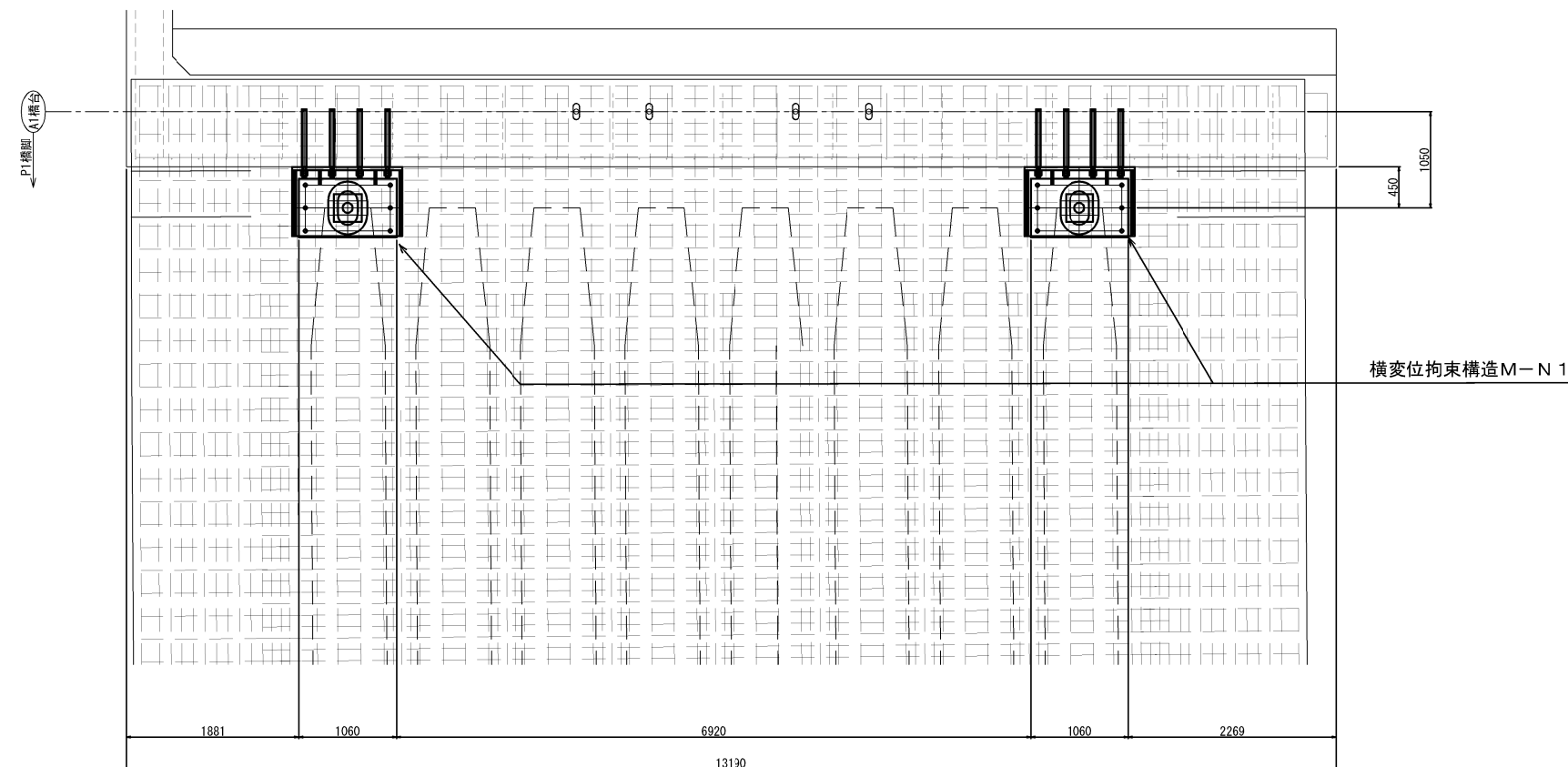


側面図



死荷重反力	1700 kN
設計水平力	1530 kN

平面图

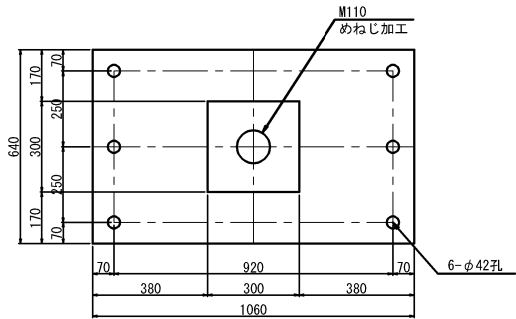


注記)

1. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地計測の上、最終決定すること。
仕様を変更する場合には必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
2. 縦桁のピン本体形状は、現地で再調査の上、最終決定すること。
仕様を変更する場合には必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
3. 縦桁の縦桁部の形状は、現地で再調査の上、最終決定すること。
仕様を変更する場合には必要に応じて縦桁部の応力計算を行うこと。
4. 施工にあたっては事前に筋鉄張出しを行い、鉄筋を必要のようにすること。

上 信 赴 自 動 車 道			
豊 州 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 1橋合		
	横変位拘束構造 M-N 1		
	構造詳細図（その1）		
縮 尺	1:75	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
	長野工事事務所		

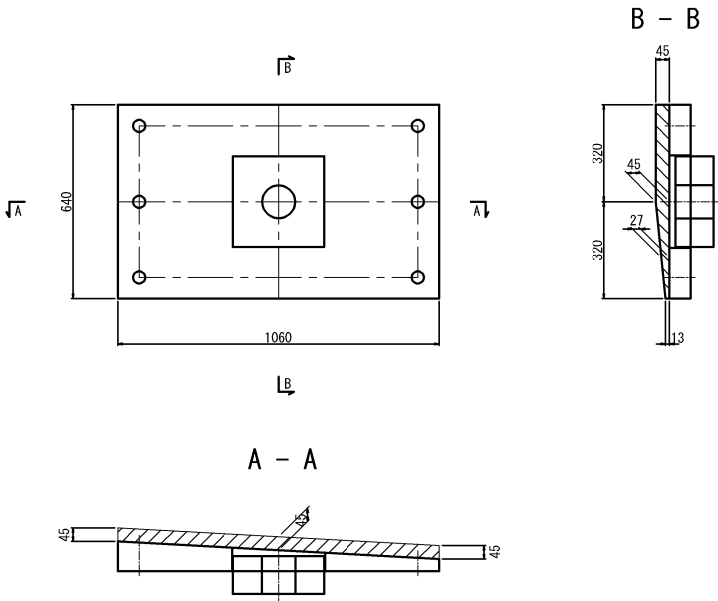
上部エブラケット詳細図



1基あたり(製作数:2)

1-Base PL	640×100×1060	(SM520C)
1- PL	300×125×300	(SM520C)
1-アンカーボルト	D38×710	(SD345)
2-アンカーボルト	D38×735	(SD345)
1-アンカーボルト	D38×760	(SD345)
2-アンカーボルト	D38×785	(SD345)
6-ナット(1種)	M36	(SS400)
6-ナット(3種)	M36	(SS400)
6-ワッシャー	M36	(SS400)

上部工 台座調整モルタル詳細図

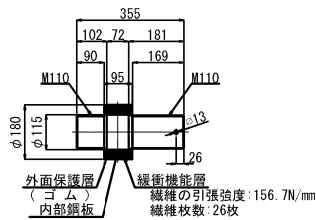


緩衝ピン（参考図）

800kN：橋軸方向移動量±92mm

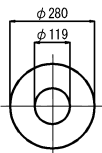
緩衝ピン詳細図

1基あたり(製作数:2)

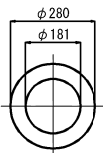


1-PRF緩衝ピンB 800kN型 φ115×355L (S45CN)

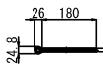
1-ナット(一種) M110 (SS400)



1-ワッシャー φ280(φ119)×28t (SS400)

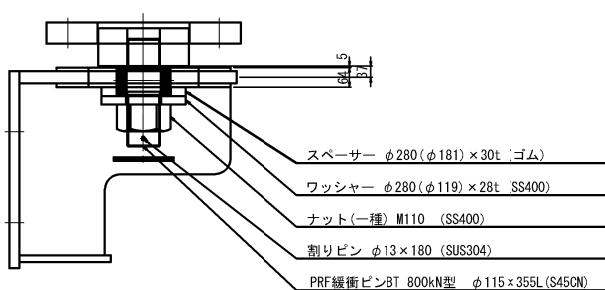


1-スペーサー φ260(φ181)×30t(ゴム)



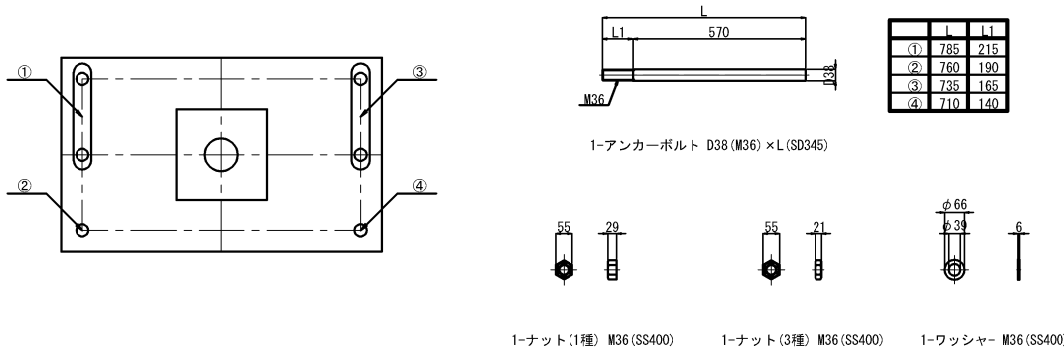
1-割りピン φ13x180L (SUS304)

緩衝ピン取付詳細図



スペーサー φ280(φ181)×30t (ゴム)
ワッシャー φ280(φ119)×28t (SS400)
ナット(一種) M110 (SS400)
割りピン φ13×180 (SUS304)
PRF緩衝ピンB 800kN型 φ115×355L (S45CN)

上部工用アンカーボルト詳細図

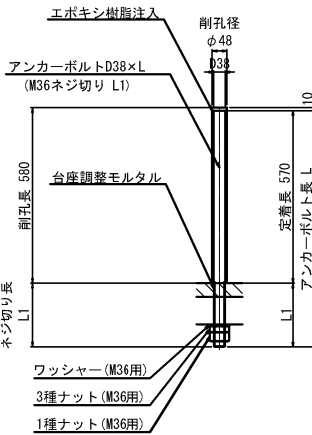


1-ナット(1種) M36 (SS400)

1-ナット(3種) M36 (SS400)

1-ワッシャー M36 (SS400)

上部工用アンカーボルト取付詳細図



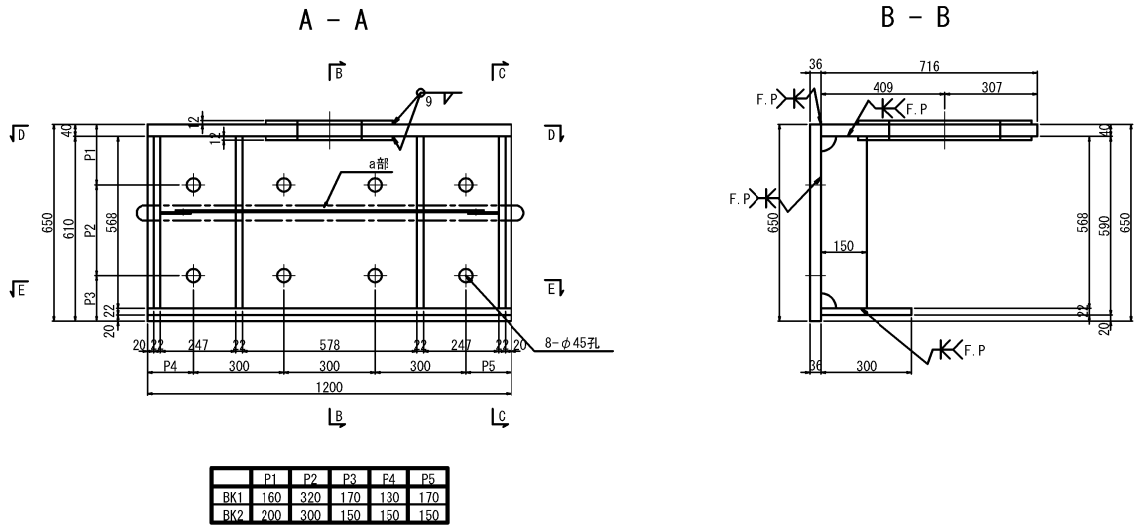
エポキシ樹脂注入
アンカーボルトD38×L
(M36ネジ切り L1)
台座調整モルタル
ネジ切り長 L1
ワッシャー(M36用)
3種ナット(M36用)
1種ナット(M36用)

注記

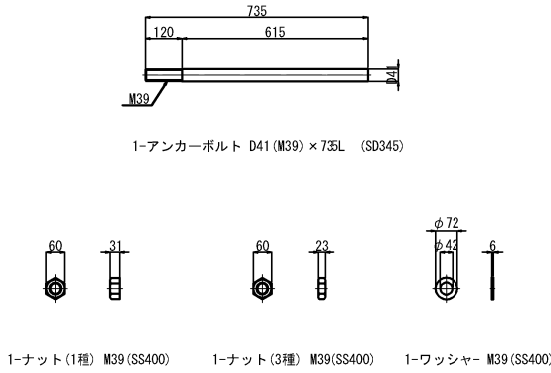
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 上部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき（JIS H 0401）とする。
取付金具類の膜厚はHDZT77とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZT49とする。
- 緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
- 緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
- 緩衝ピン類は、※印の部材に溶融亜鉛めっき（JIS H 0401）を施すものとし、膜厚はHDZT49とする。

上 信 越 自 動 車 道	
豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事	
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 1 橋台 横変位拘束構造M-N 1 構造詳細図（その2）
縮 尺	1:25 図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所

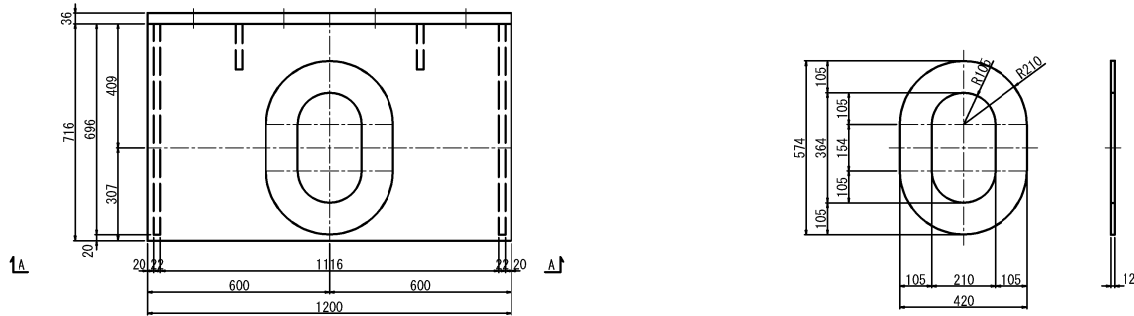
下部エブラケット詳細図



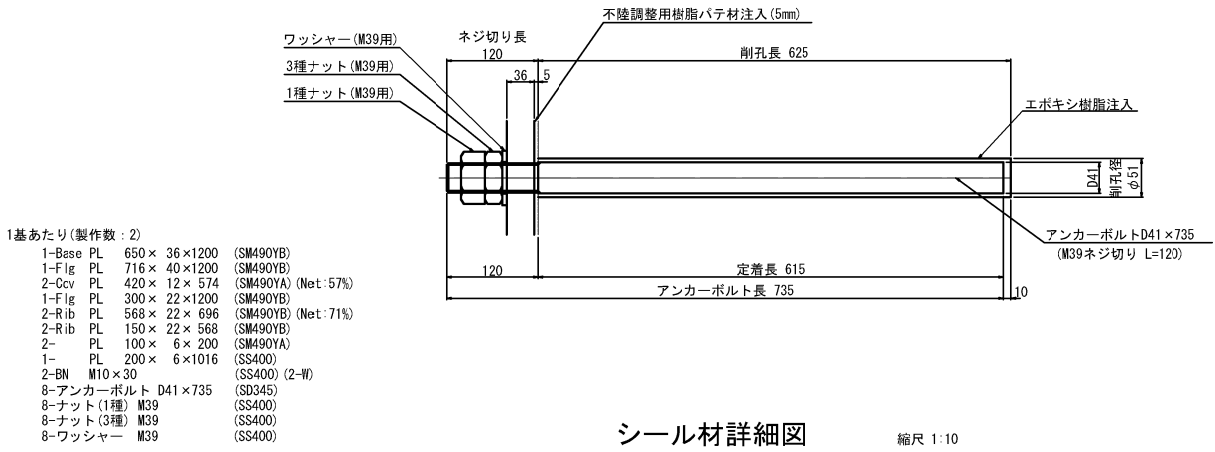
下部工用アンカーボルト詳細図



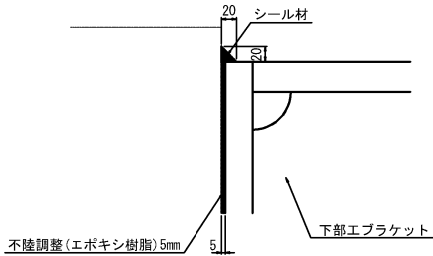
補強板詳細図



下部工用アンカーボルト取付詳細図 縮尺 1:10



シール材詳細図 縮尺 1:10

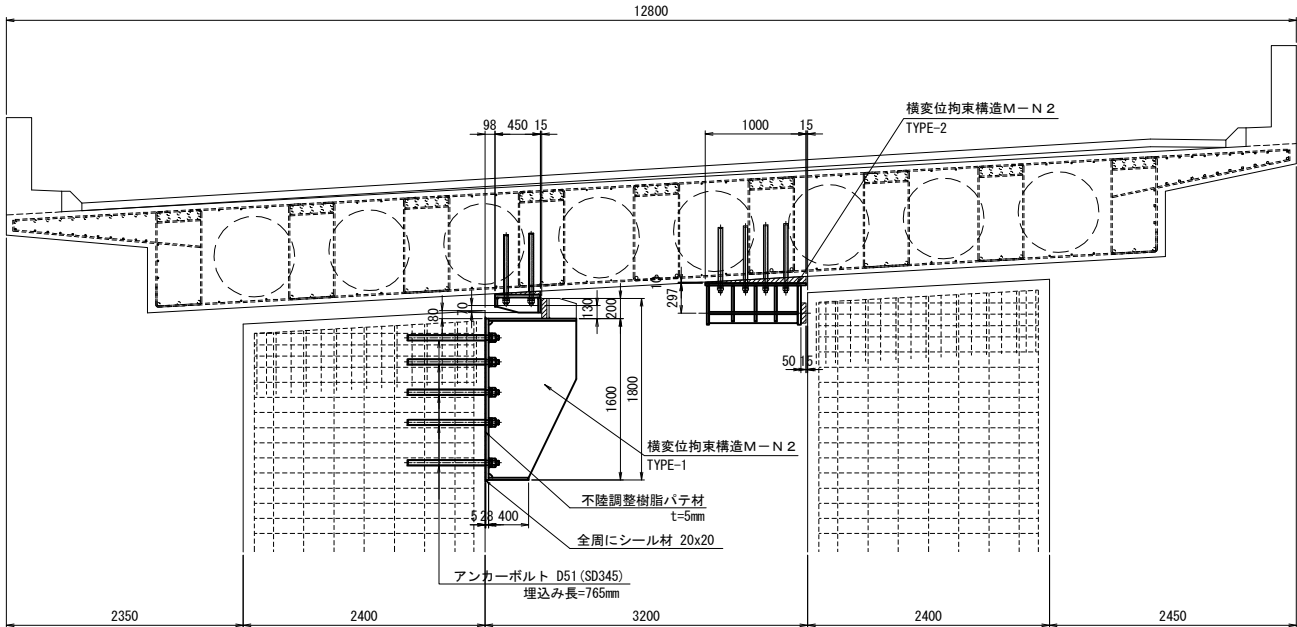


注記)

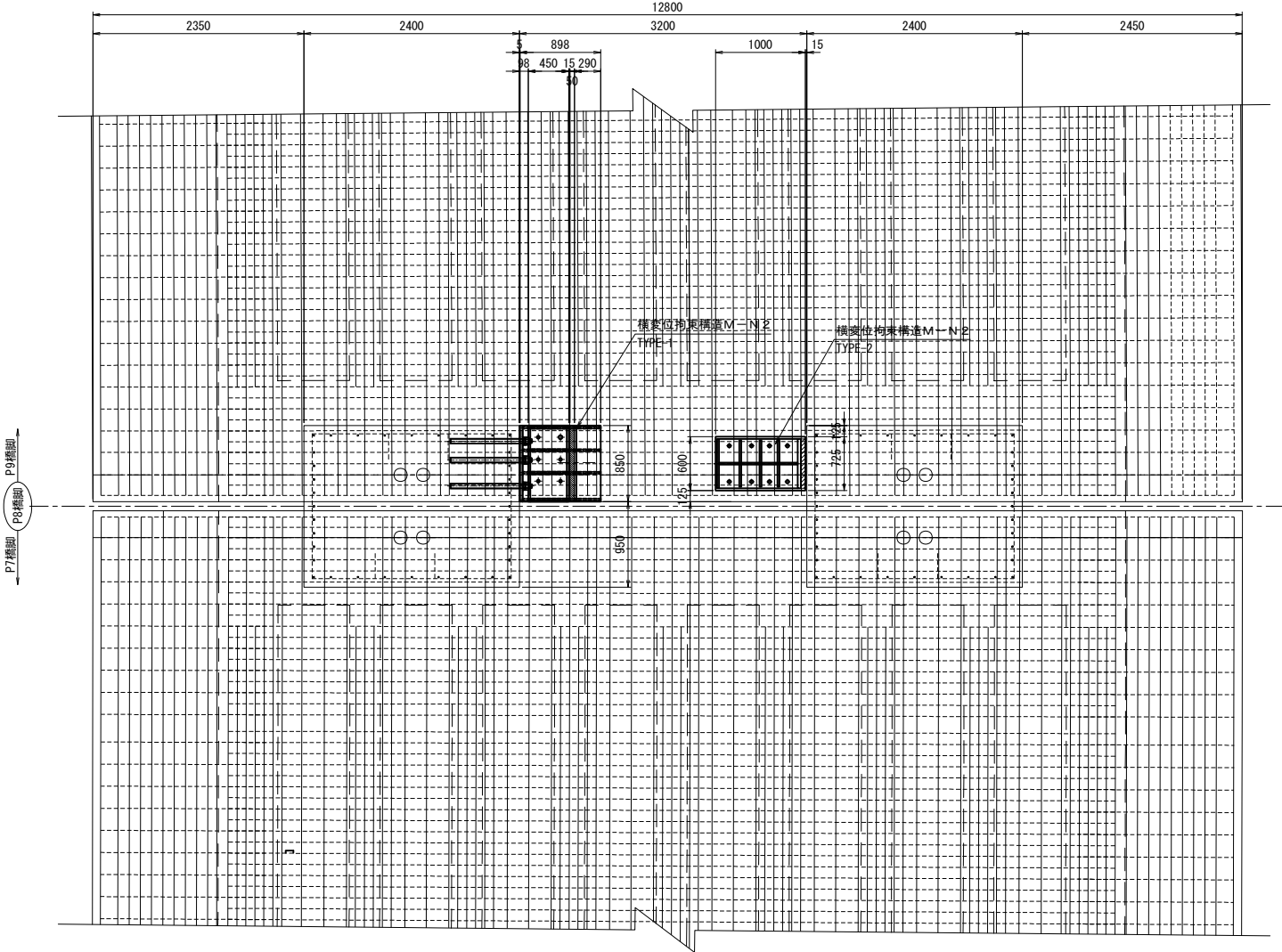
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 特記なきスカーラップは全てR50とすること。
- 下部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 0401) とする。
取付金具類の膜厚はHDZT77とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZT49とする。
- FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 1 橋台 横変位拘束構造M－N 1 構造詳細図（その3）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

正面図

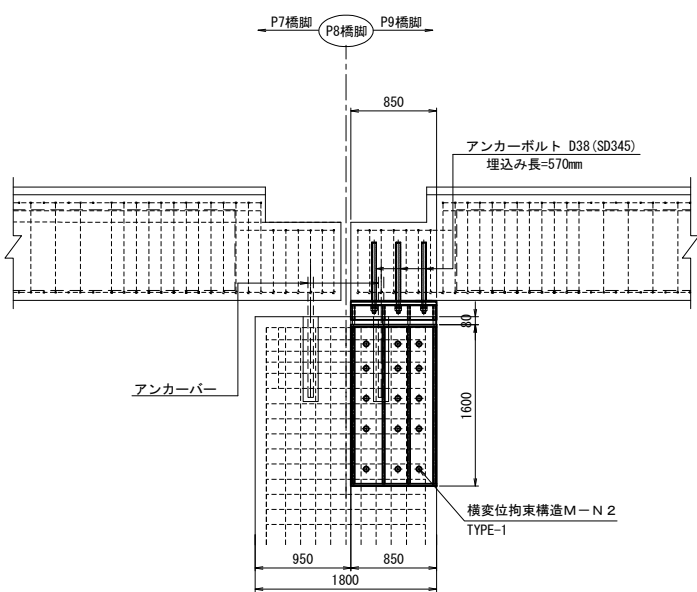


平面図

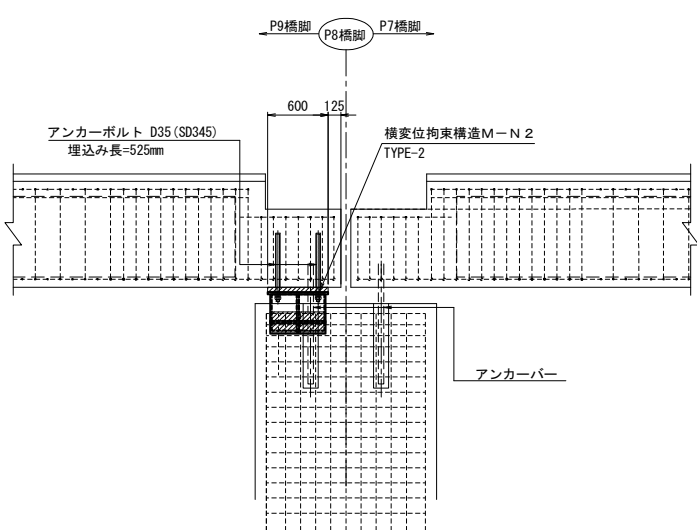


側面図

1 - 1



2 - 2



注記)

1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 既設構造物への削孔の際には、鉄筋探索等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削孔位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より150 (D:アンカー径)以上確保すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚（終点側） 横変位拘束構造M－N 2 構造詳細図（その 1）		
縮 尺	1:75	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

TYPE-1

下部エブラケット

上部エブラケット

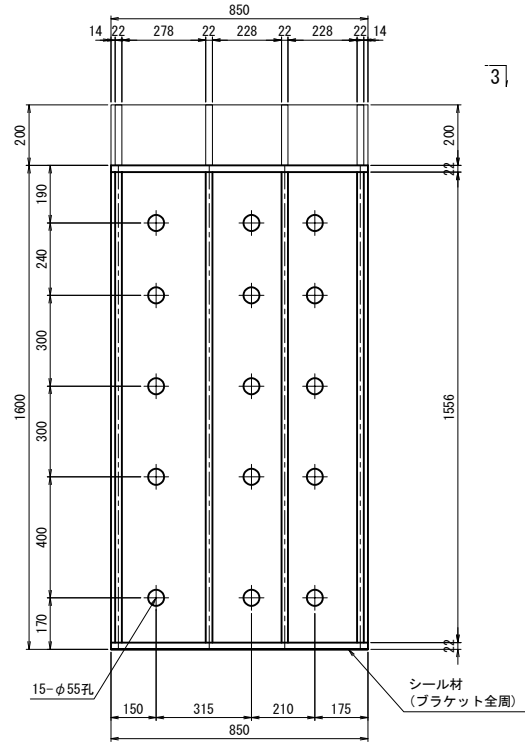
1 - 1

2 - 2

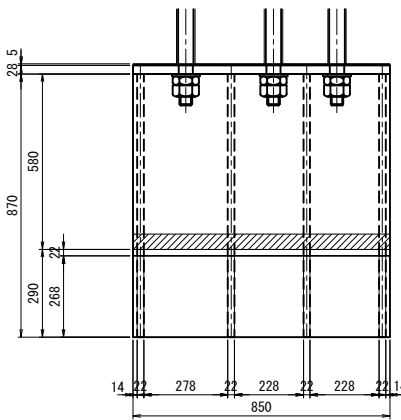
4 - 4

5 - 5

3

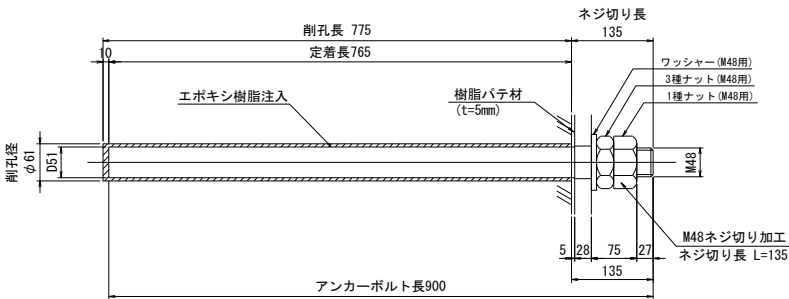


3 - 3



2

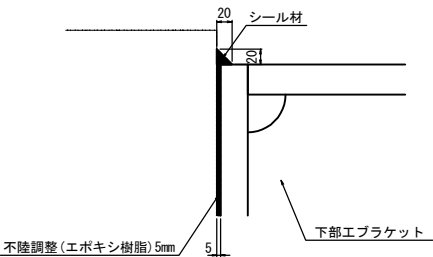
下部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

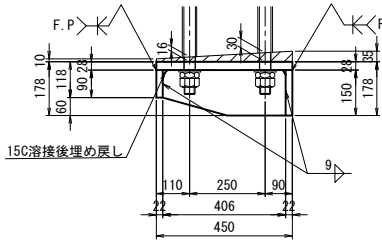
- ブラケット1基当り (製作数: 1基)
- 1-U.FLG PL 870x22x850
 - 1-L.FLG PL 400x22x850
 - 1-BASE PL 850x28x1600 (SM490B)
 - 4-RIB PL 870x22x1556
 - 1-BASE PL 200x22x850
 - 4-RIB PL 268x22x200
 - 15-Anc Bolt D51x900 (SD345)
 - 15-1種 Nut M48用 (SS400)
 - 15-3種 Nut M48用 (SS400)
 - 15-WASHER M48用 (SS400)
 - 1-緩衝材 200x50x850 (クロロレンゴム相当) <硬度55° ±5° 程度>
 - 6-BN M16x70 (1-Uナット, 2-W付)

不陸調整・シール材詳細図 縮尺 1:10

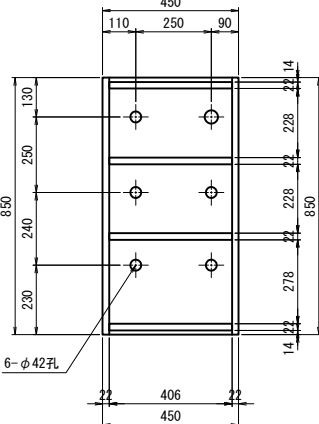


- 材料: (1本当り)
- 1-Anc Bolt D51x900 (SD345)
 - 1-1種 Nut M48用 (SS400)
 - 1-3種 Nut M48用 (SS400)
 - 1-WASHER M48用 (SS400)

6

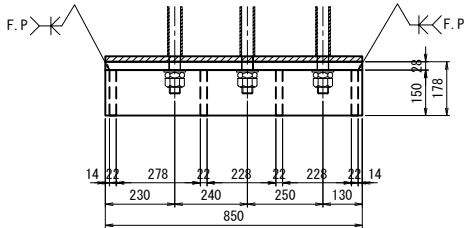


6 - 6



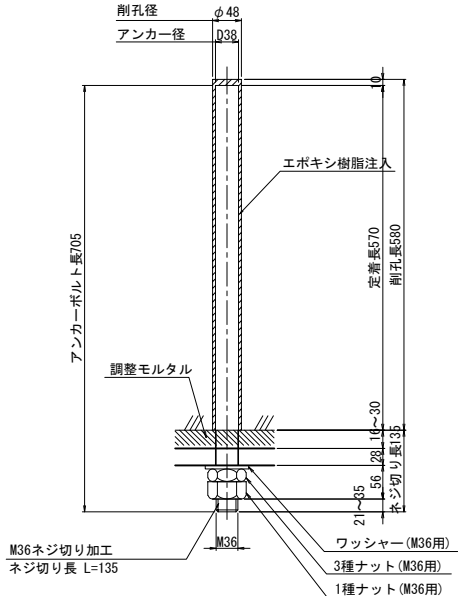
5

6



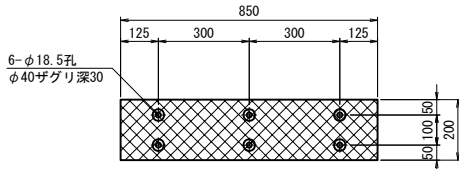
- ブラケット1基当り (製作数: 1基)
- 1-BASE PL 450x28x850 (SM490B)
 - 1-PL 150x22x850
 - 1-PL 90x22x850
 - 4-PL 406x22x150
 - 6-Anc Bolt D38x705 (SD345)
 - 6-1種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-3種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-WASHER M36用 (SS400)

上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



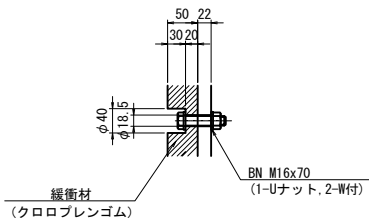
- 材料: (1本当り)
- 1-Anc Bolt D38x705 (SD345)
 - 1-1種 Nut M36用 (SS400)
 - 1-3種 Nut M36用 (SS400)
 - 1-WASHER M36用 (SS400)

緩衝材詳細図



- 1基当り
- 6-BN M16x70 (SS400) (1-Uナット, 2-W付)
 - 1-クロロレンゴム 200x50x850 (硬度55° ±5° 程度)

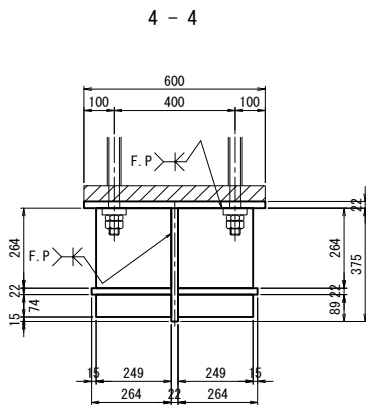
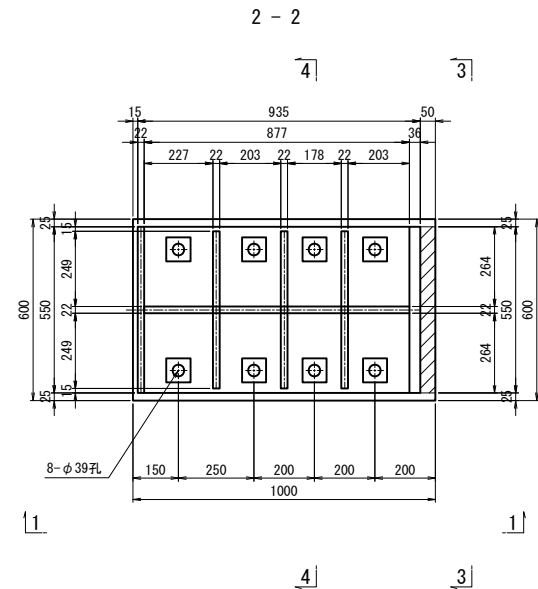
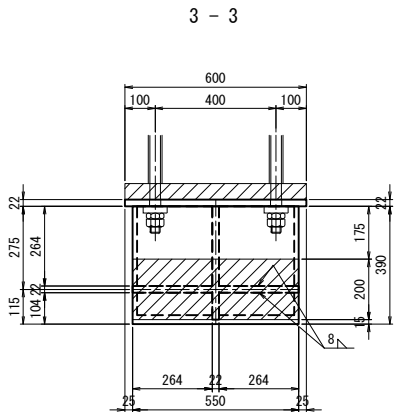
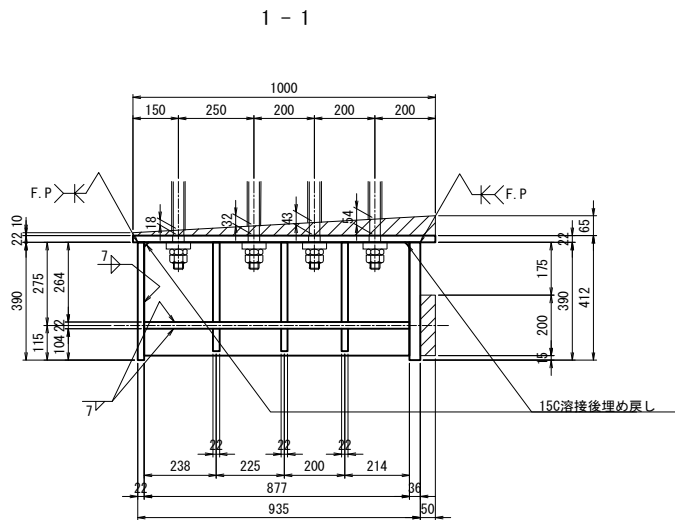
緩衝材取付図 S=1:12.5



- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
鉄厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚（終点側） 横変位拘束構造M-N 2 構造詳細図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

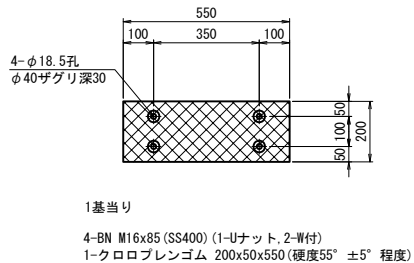
TYPE-2



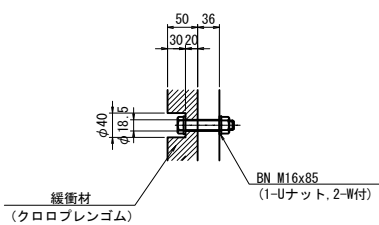
ブラケット1基当り (製作数: 1基)

- 1-BASE PL 600x22x1000
- 1-PL 390x36x550 (SM400B)
- 1-PL 390x22x550
- 1-PL 375x22x878
- 2-PL 264x22x878
- 3-PL 249x22x264
- 3-PL 249x22x74
- 8-PL 80x22x80 (SM490A)
- 8-Anc Bolt D35x690 (SD345)
- 8-1種 Nut M33用 (SS400)
- 8-3種 Nut M33用 (SS400)
- 1-緩衝材 200x50x550 (クロロブレンゴム) <硬度55° ±5° 程度>
- 4-BN M16x85 (1-Uナット, 2-W付)

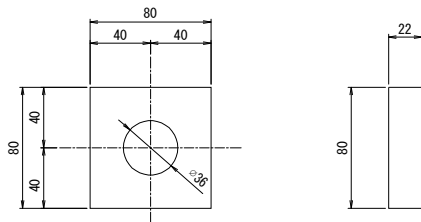
緩衝材詳細図



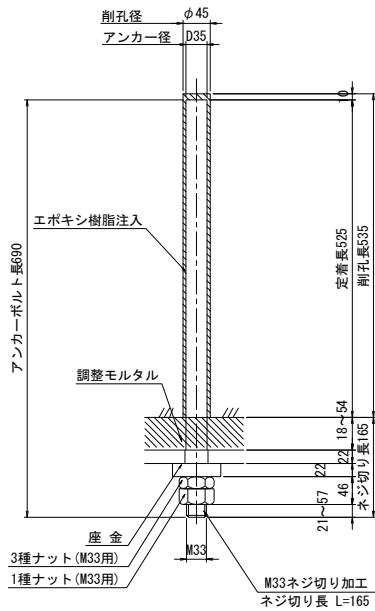
緩衝材取付図 S=1:12.5



座金詳細図 S=1:5



上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

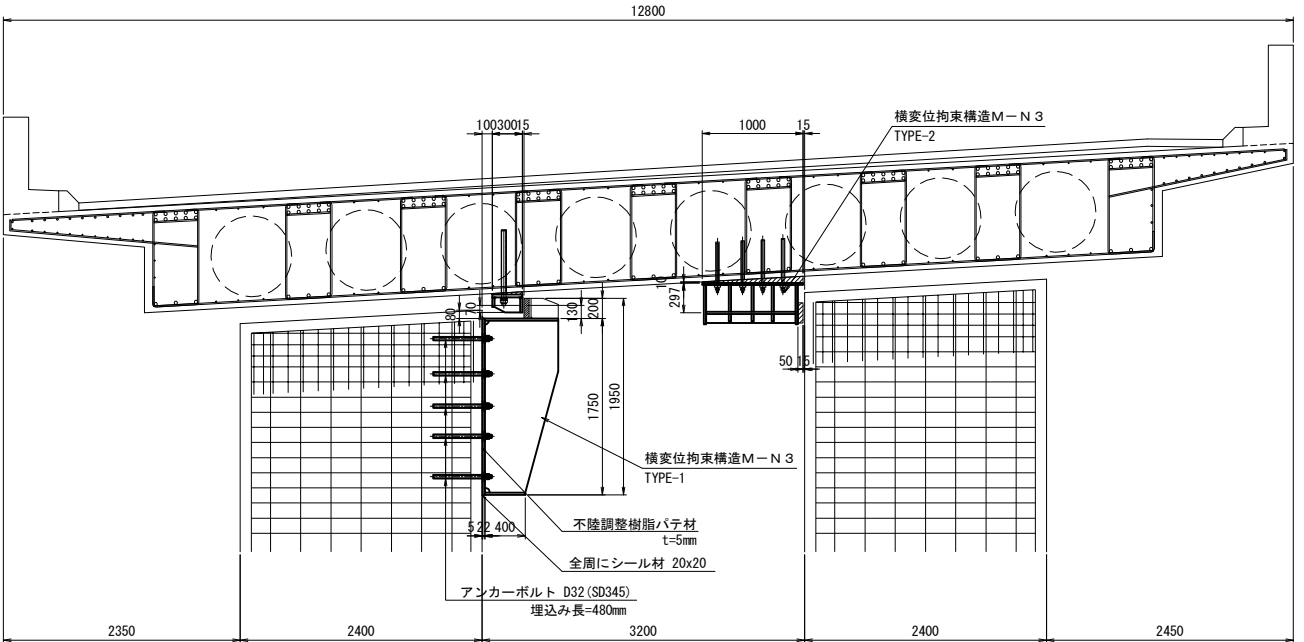
材料: (1本当り)

- 1-Anc Bolt D35x690 (SD345)
- 1-1種 Nut M33用 (SS400)
- 1-3種 Nut M33用 (SS400)
- 1-PL 80x22x80 (SM490A)

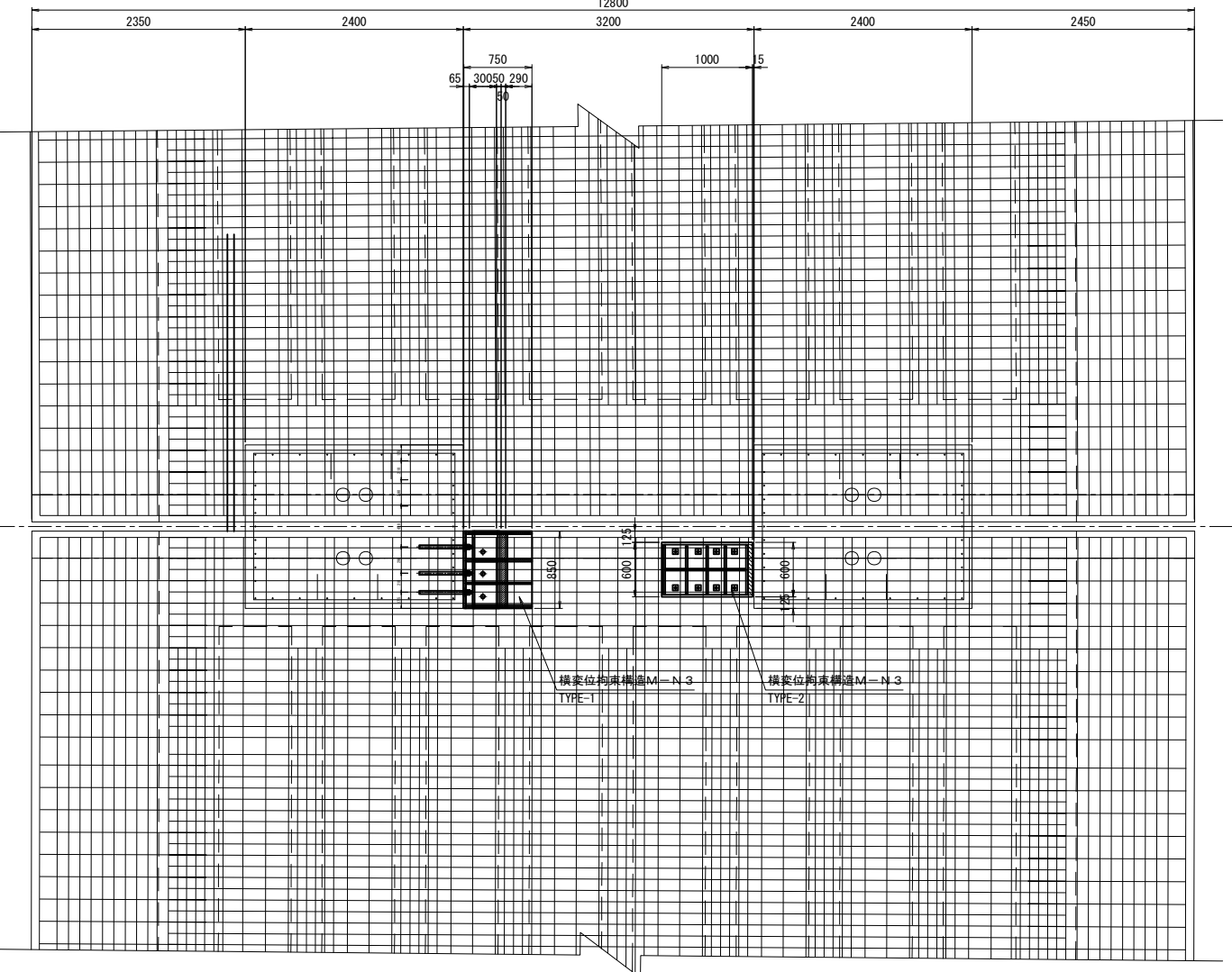
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 8 橋脚（終点側） 横変位拘束構造M－N 2 構造詳細図（その3）		
	縮尺	図示	図面番号
	設計会社名	大成エンジニアリング株式会社	
施工会社名		東日本高速道路株式会社 関東支社	
事務所名		長野工事事務所	

正面図

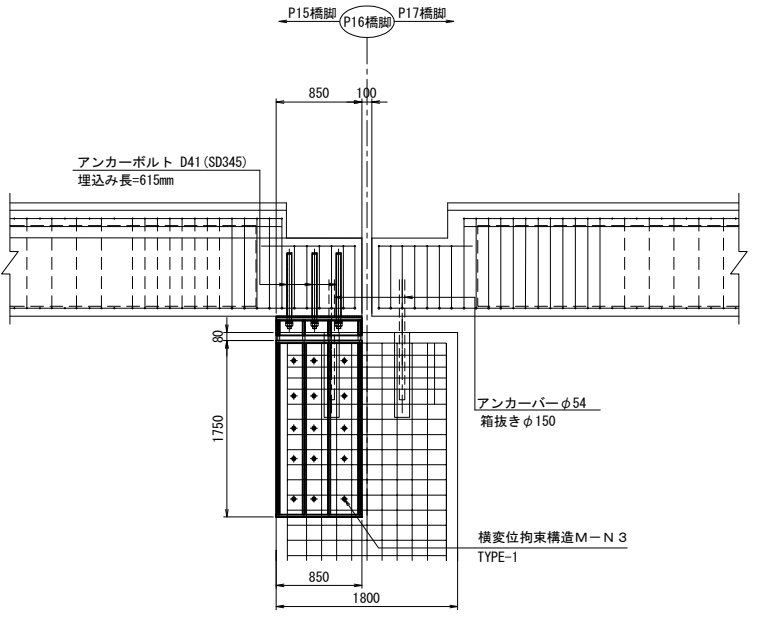


平面図

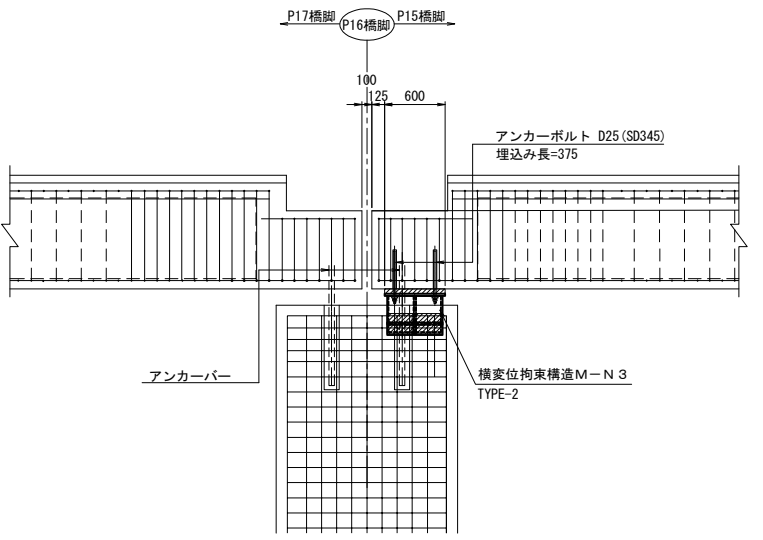


側面図

1 - 1



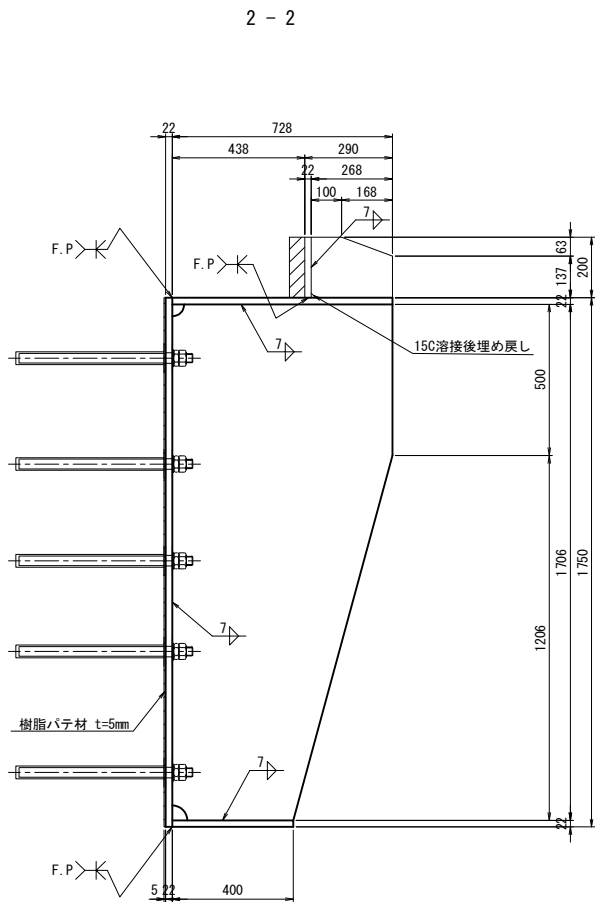
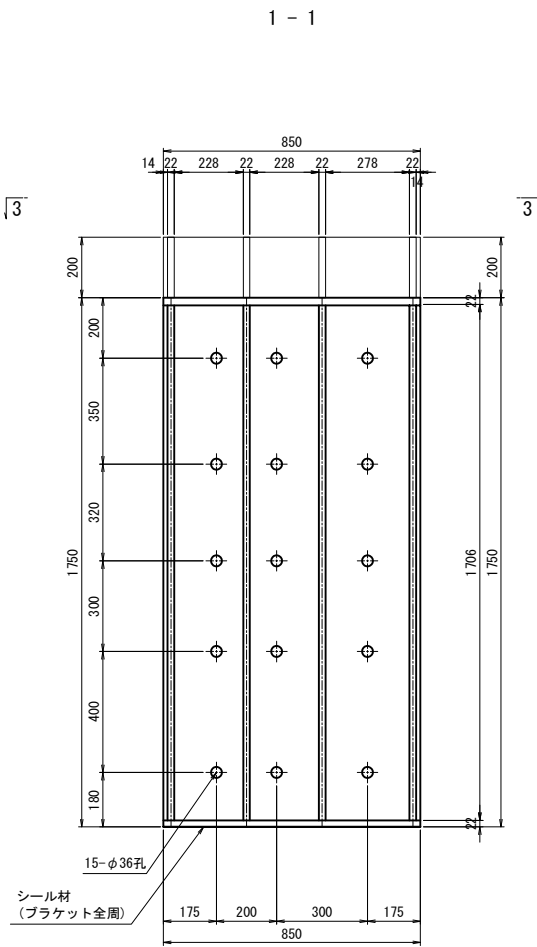
2 - 2



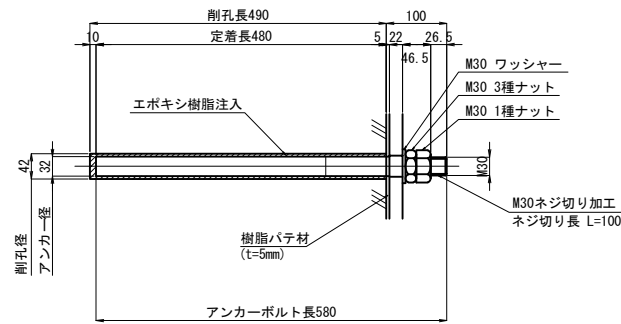
- 注記)
1. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
 2. 既設構造物への削孔の際には、鉄筋探索等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削孔位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
 3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より150 (D:アンカー径)以上確保すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（起点側） 横変位拘束構造M－N 3 構造詳細図（その 1）		
縮 尺	1:75	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

TYPE-1
下部エブラケット



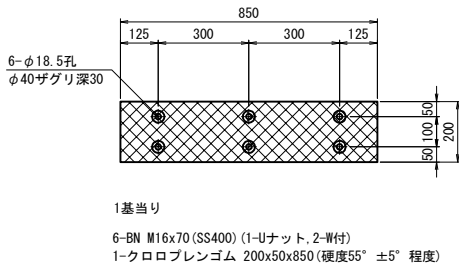
下部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



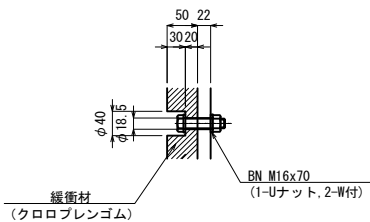
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

材料：(1本当り)
1-ANC Bolt D32x580 (SD345)
1-NUT M30 (1種) (SS400)
1-NUT M30 (3種) (SS400)
1-平座金 M30 (SS400)

緩衝材詳細図

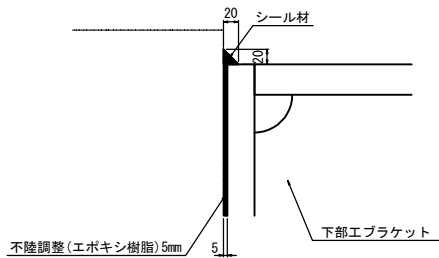


緩衝材取付図 S=1:12.5



ブラケット1基当り (製作数: 1基)
1-U. FLG PL 728x22x850
1-L. FLG PL 400x22x850
1-BASE PL 850x22x1750 (SM490A)
4-RIB PL 728x22x1706
1-BASE PL 200x22x850
4-RIB PL 268x22x200
15-Anc Bolt D32x580 (SD345)
15-1種 Nut M30用 (SS400)
15-3種 Nut M30用 (SS400)
15-WASHER M30用 (SS400)
1-緩衝材 200x50x850 (クロロブレンゴム相当) <硬度55° ±5° 程度>
6-BN M16x70 (1-Uナット, 2-W付)

シーリング材詳細図 縮尺 1:10

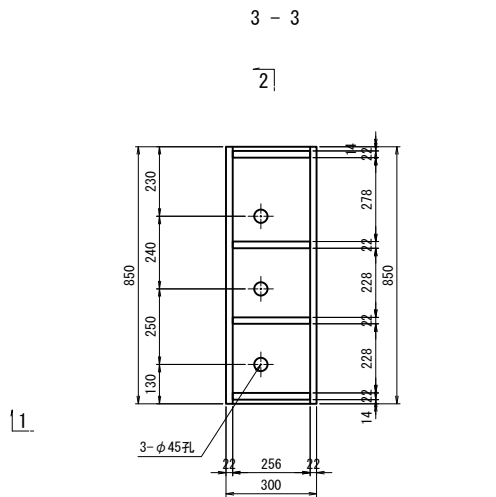
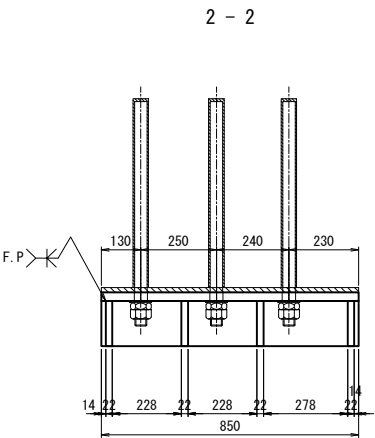
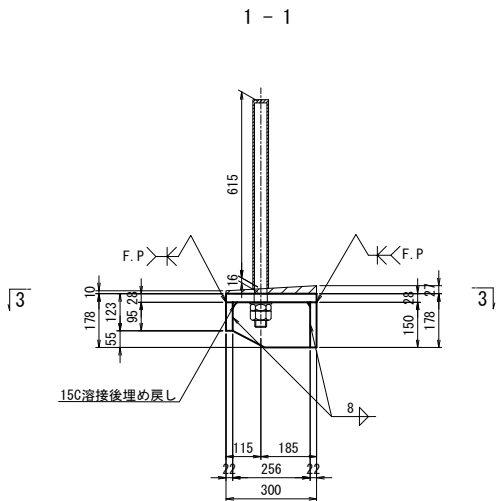


- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（起点側） 横変位拘束構造M-N 3 構造詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

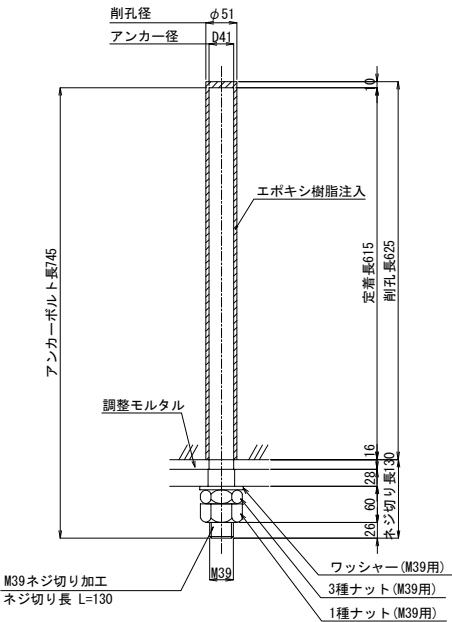
TYPE-1

上部エブラケット



- ブラケット1基当り(製作数: 1基)
- 1-BASE PL 300x28x850 (SM490B)
 - 1-PL 150x22x850
 - 1-PL 95x22x850
 - 4-PL 256x22x150
 - 3-Anc Bolt D41x745 (SD345)
 - 3-1種 Nut M39用 (SS400)
 - 3-3種 Nut M39用 (SS400)
 - 3-WASHER M39用 (SS400)

上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

- 材料: (1本当り)
- 1-Anc Bolt D41x745 (SD345)
 - 1-1種 Nut M39用 (SS400)
 - 1-3種 Nut M39用 (SS400)
 - 1-WASHER M39用 (SS400)

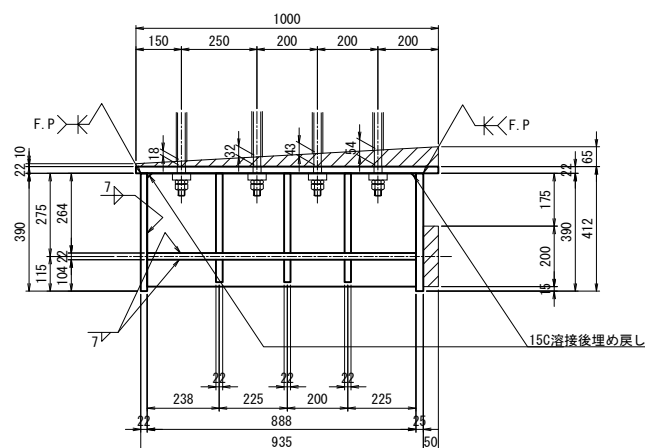
注記)

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップは全てR50とする。
- 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
- 部材は、全て溶融垂鉛めっき仕上げとする。
鉄厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
- FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

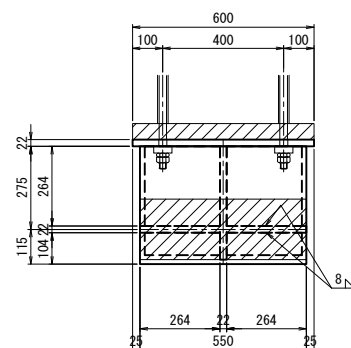
上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（起点側） 横変位拘束構造M－N 3 構造詳細図（その3）		
	縮 尺	図 示	図 面 番 号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

TYPE-2

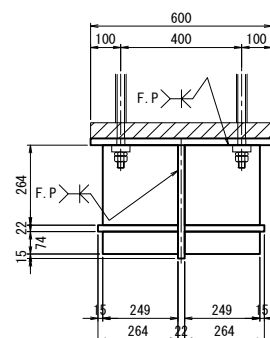
1 - 1



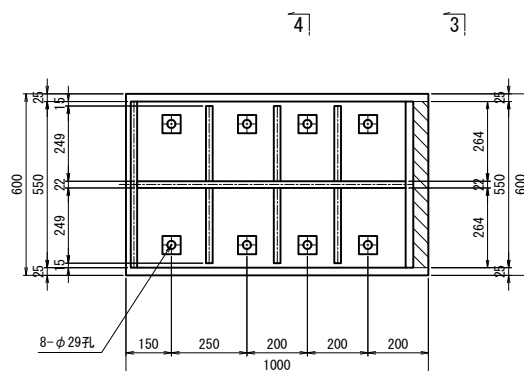
3 - 3



4 - 4



2 - 2



11

11

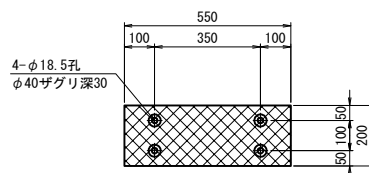
4 |

3

ブラケット1基当たり(製作数: 1基)

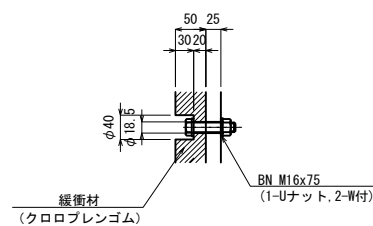
- 1-BASE PL 600x22x1000
- 1-PL 390x25x550
- 1-PL 390x22x550
- 1-PL 375x22x888
- 2-PL 264x22x888
- 3-PL 249x22x264
- 3-PL 249x22x74
- 8-PL 60x22x60
- 8-Anc Bolt D25x525 (S0345)
- 8-1種 Nut M24用 (SS400)
- 8-3種 Nut M24用 (SS400)
- 1-緩衝材 200x50x550 (クロロブレンゴム相当) <硬度55° ±5° 程度>
- 4-BN M16x75 (1-Uナット、2-W付)

緩衝材詳細図

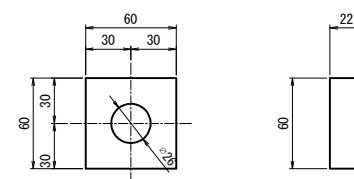


1基当り
4-BN M16x75(SS400) (1-Uナット, 2-W付)
1-クロロブレンゴム 200x50x550(硬度55° ±5° 程度)

緩衝材取付図 S=1:12.5



座金詳細図 S=1:5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

材料：(1本当り)
1-Anc Bolt D25x525 (SD345)
1-1種 Nut M24用 (SS400)
1-3種 Nut M24用 (SS400)
1-PL 60x22x60

(注記)

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカープは全てR50とする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶接垂犯めった仕上りとする。

厚板は、JIS H0401 HDZ777とする。

ただし、ボルト・ナット類はHDZ749とする。

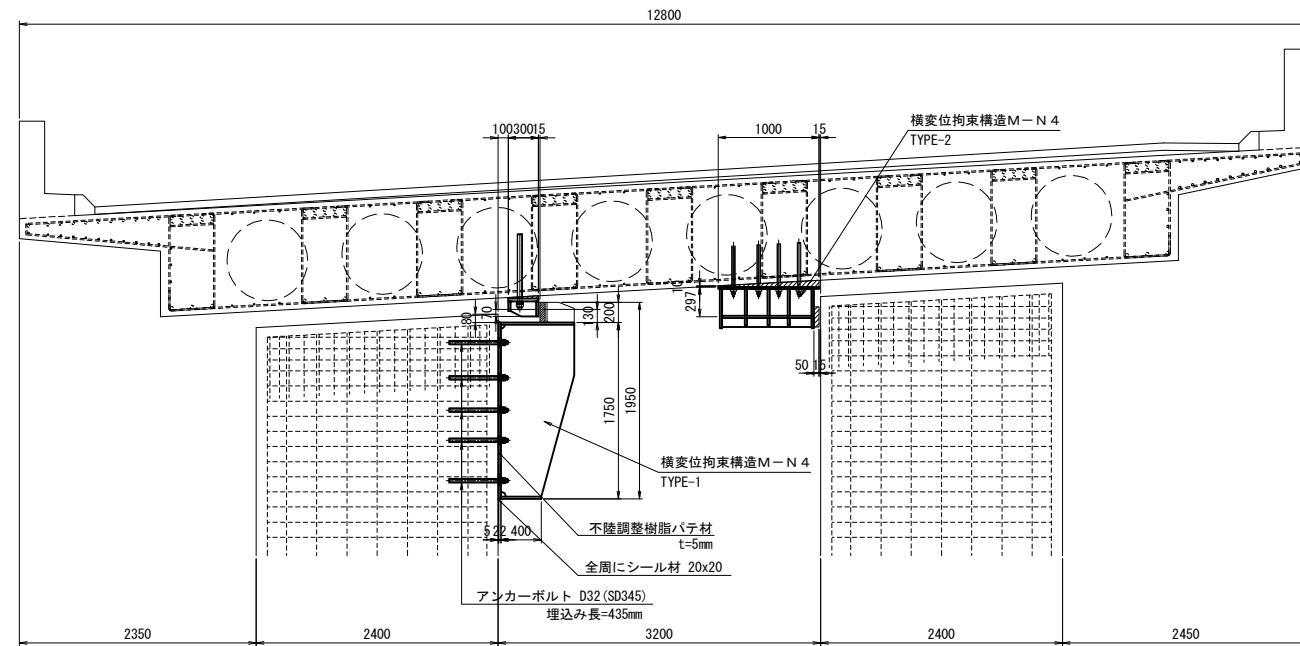
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。

また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

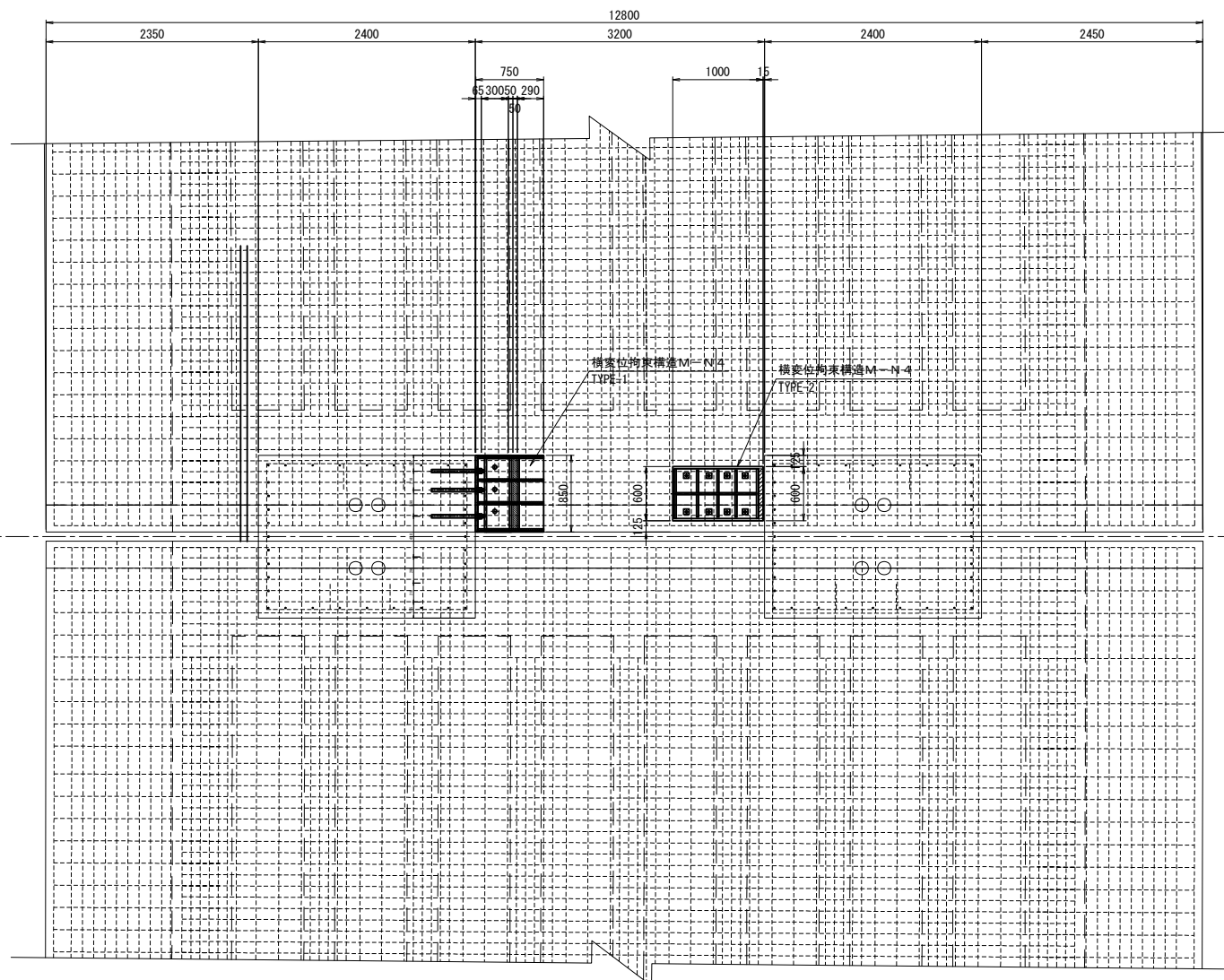
6. FP表記の関先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上 信 越 自 動 車 道			
豊 田 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	橋内高架橋(上り線) P16橋脚(起点)		
	橋変位拘束構造M-N3		
	構造詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速度道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 務 所		

正面図

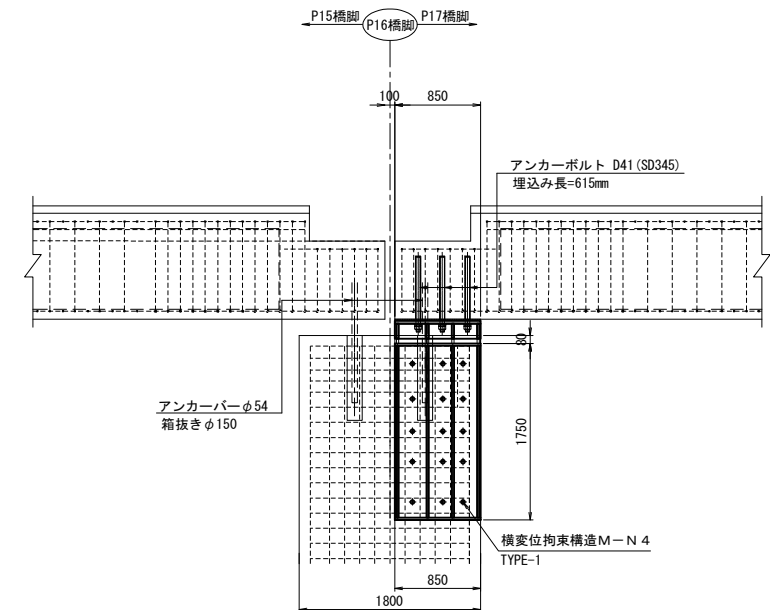


平面图

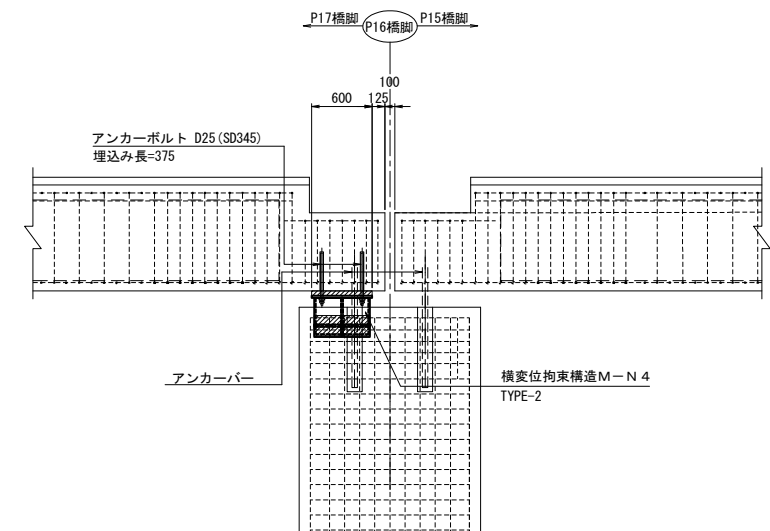


側面図

1 - 1



2 - 2

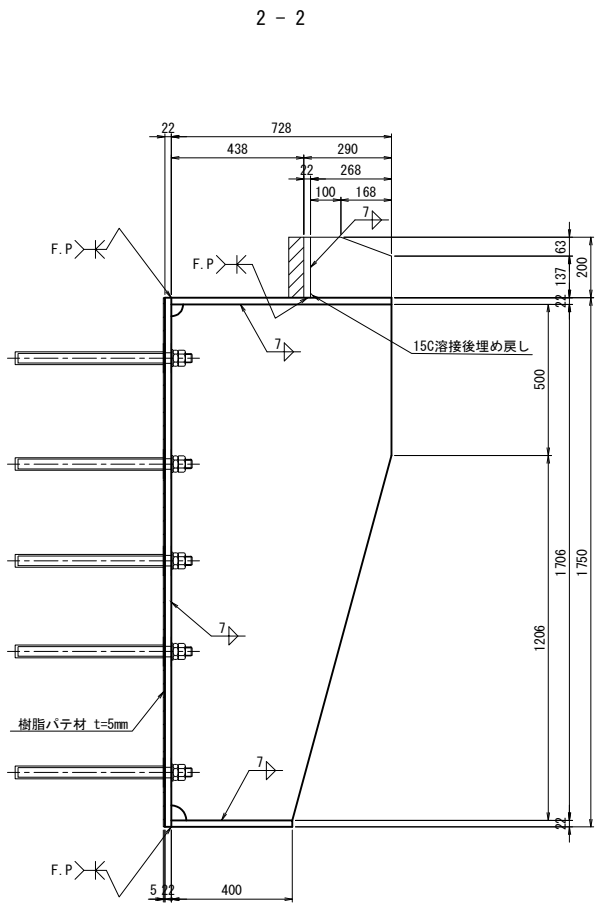
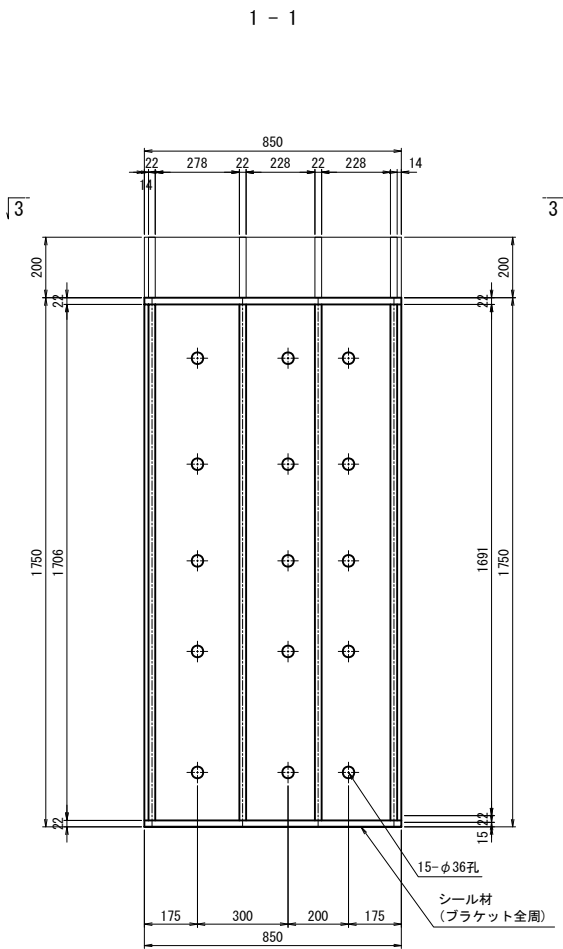


注記)

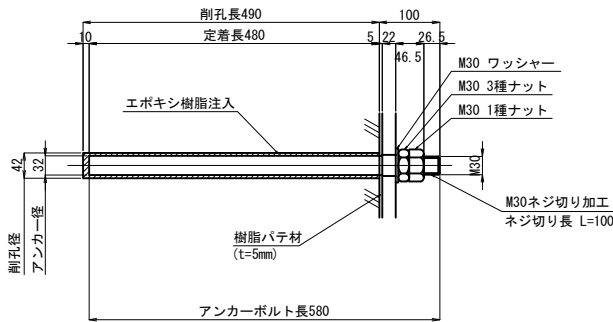
1. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。
2. 既設構造物への削削の際には、鉄筋探査等を実施し既設鉄筋を切断しないよう注意すること。必要に応じて、削削位置、アンカー位置を調整し部材の製作に反映すること。
3. アンカーボルトの定着は、既設構造物より150(D: アンカー径)以上確保すること。

上 信 越 自 動 車 道 豊 洲 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事	
図面の種類	橋内高架橋（上り線） P 16 橋脚（終点側） 横変位拘束構造M-N 4 構造詳細図（その1）
縮 尺	1:75 図面 番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長 野 工 事 事 務 所

TYPE-1
下部エブラケット



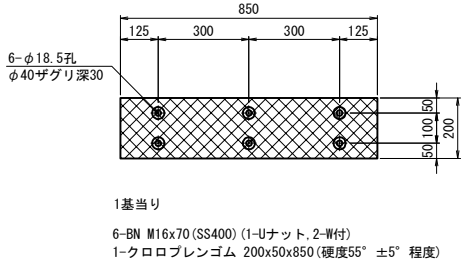
下部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



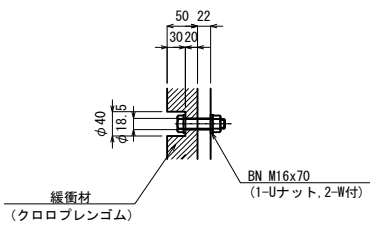
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

材料：(1本当り)
1-ANC Bolt D32x580 (SD345)
1-NUT M30 (1種) (SS400)
1-NUT M30 (3種) (SS400)
1-平座金 M30 (SS400)

緩衝材詳細図

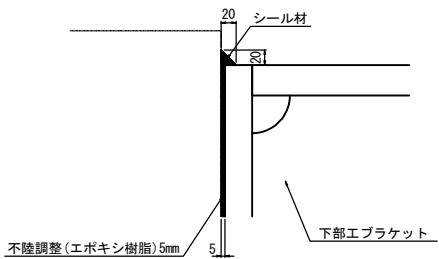


緩衝材取付図 S=1:12.5



ブラケット1基当り (製作数: 1基)
1-U. FLG PL 728x22x850
1-L. FLG PL 400x22x850
1-BASE PL 850x22x1750 (SM490A)
4-RIB PL 728x22x1706
1-BASE PL 200x22x850
4-RIB PL 268x22x200
15-Anc Bolt D32x580 (SD345)
15-1種 Nut M30用 (SS400)
15-3種 Nut M30用 (SS400)
15-WASHER M30用 (SS400)
1-緩衝材 200x50x850 (クロロブレンゴム相当) <硬度55° ±5° 程度>
6-BN M16x70 (1-Uナット, 2-W付)

シール材詳細図 縮尺 1:10

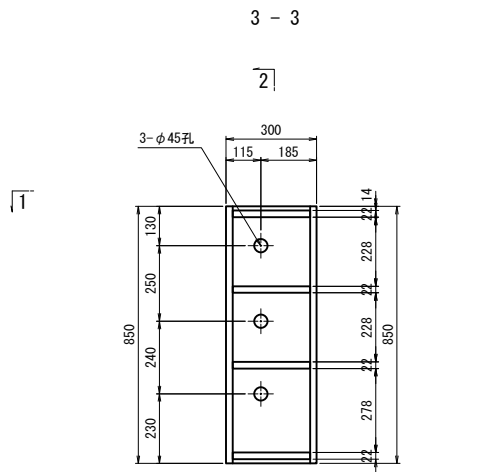
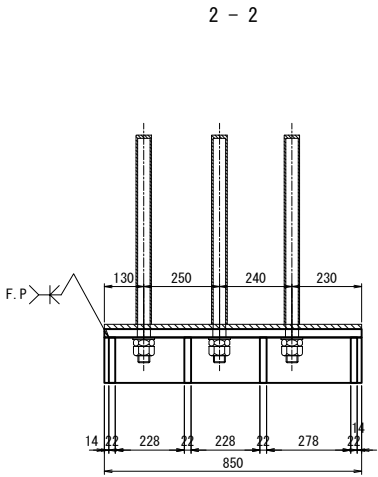
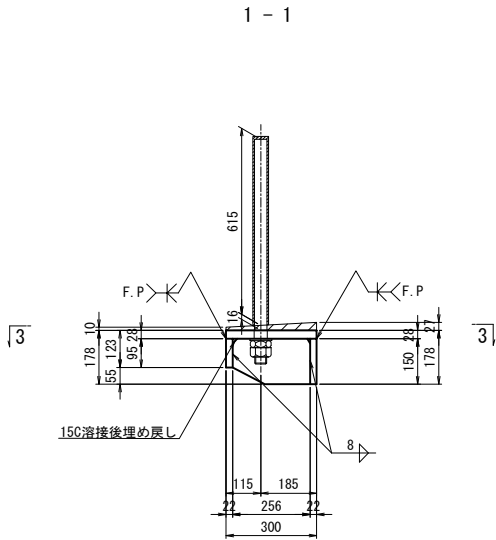


- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探索を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（終点側）		
	横変位拘束構造M－N 4		
	構造詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

TYPE-1

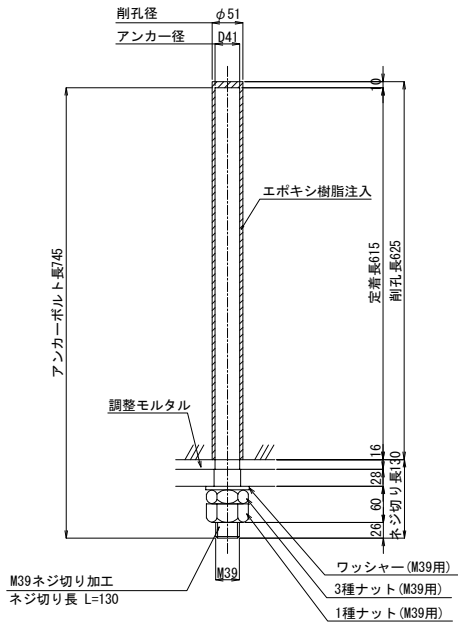
上部エブラケット



ブラケット1基当り(製作数: 1基)

- 1-BASE PL 300x28x850 (SM490B)
- 1-PL 150x22x850
- 1-PL 95x22x850
- 4-PL 256x22x150
- 3-Anc Bolt D41x745 (SD345)
- 3-1種 Nut M39用 (SS400)
- 3-3種 Nut M39用 (SS400)
- 3-WASHER M39用 (SS400)

上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めつきを施すものとする。

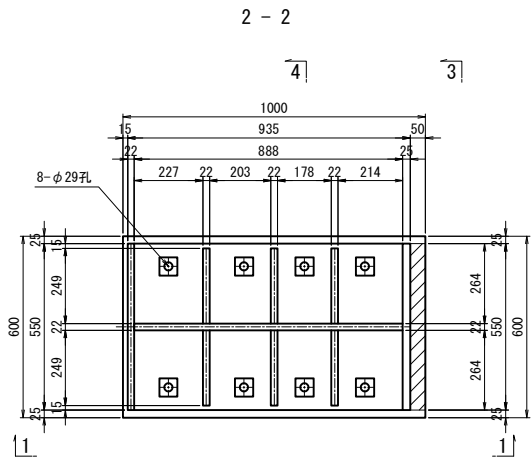
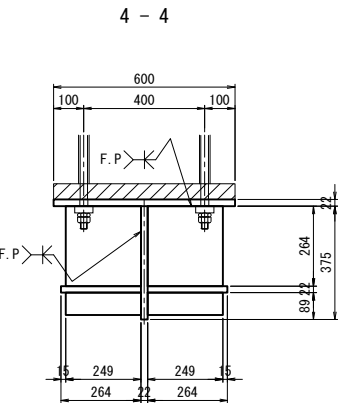
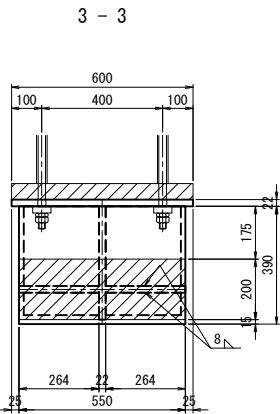
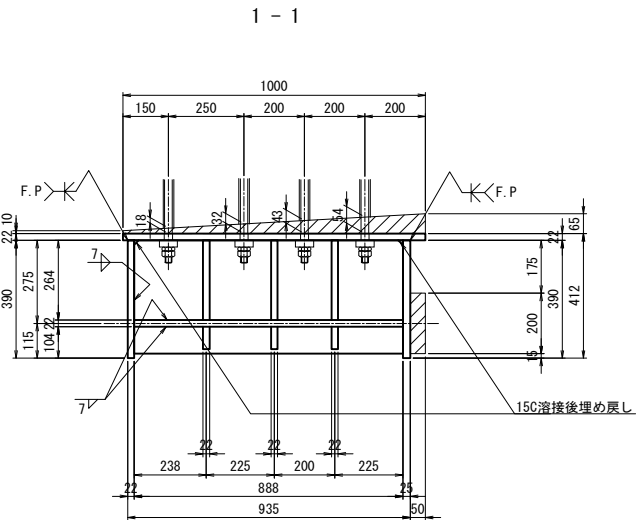
材料: (1本当り)

- 1-Anc Bolt D41x745 (SD345)
- 1-1種 Nut M39用 (SS400)
- 1-3種 Nut M39用 (SS400)
- 1-WASHER M39用 (SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全てR50とする。
 - 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
 - 部材は、全て溶融垂鉛めつき仕上げとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 - FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（終点側） 横変位拘束構造M-N 4 構造詳細図（その3）		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		

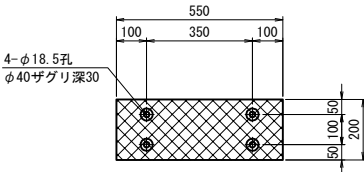
TYPE-2



ブラケット1基当り (製作数: 1基)

1-BASE PL 600x22x1000
1-PL 390x25x550
1-PL 390x22x550
1-PL 375x22x888
2-PL 264x22x888
3-PL 249x22x264
3-PL 249x22x74
8-PL 60x22x60
8-Anc Bolt D25x525 (SD345)
8-1種 Nut M24用 (SS400)
8-3種 Nut M24用 (SS400)
1-緩衝材 200x50x550 (クロブレングム相当) <硬度55° ±5° 程度>
4-BN M16x75 (1-Uナット, 2-W付)

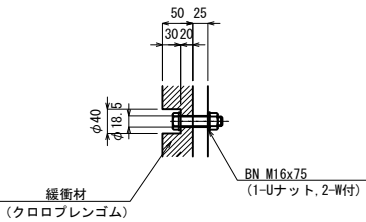
緩衝材詳細図



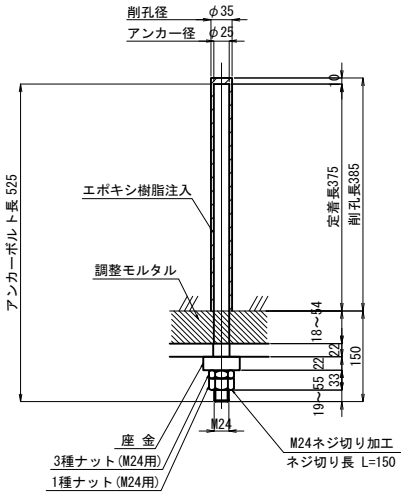
1基当り

4-BN M16x75 (SS400) (1-Uナット, 2-W付)
1-クロブレングム 200x50x550 (硬度55° ±5° 程度)

緩衝材取付図 S=1:12.5



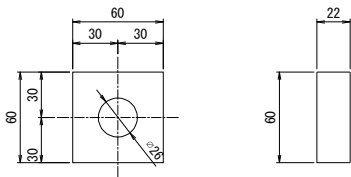
上部エアンカーボルト詳細図 S=1:12.5



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

材料: (1本当り)
1-Anc Bolt D25x525 (SD345)
1-1種 Nut M24用 (SS400)
1-3種 Nut M24用 (SS400)
1-PL 60x22x60

座金詳細図 S=1:5

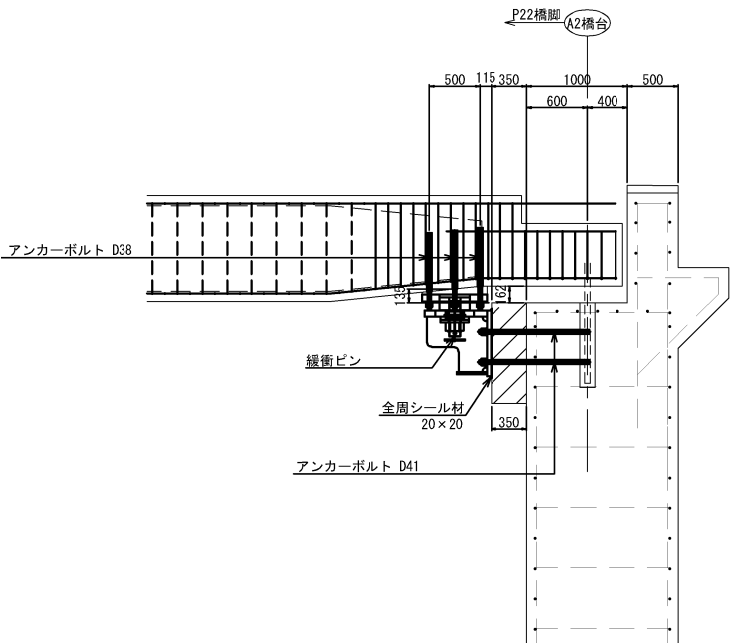


注記)

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーップは全てR50とする。
- 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
- 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上りとする。
膜厚は、JIS H0401 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
- FP表記の開先溶接の箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

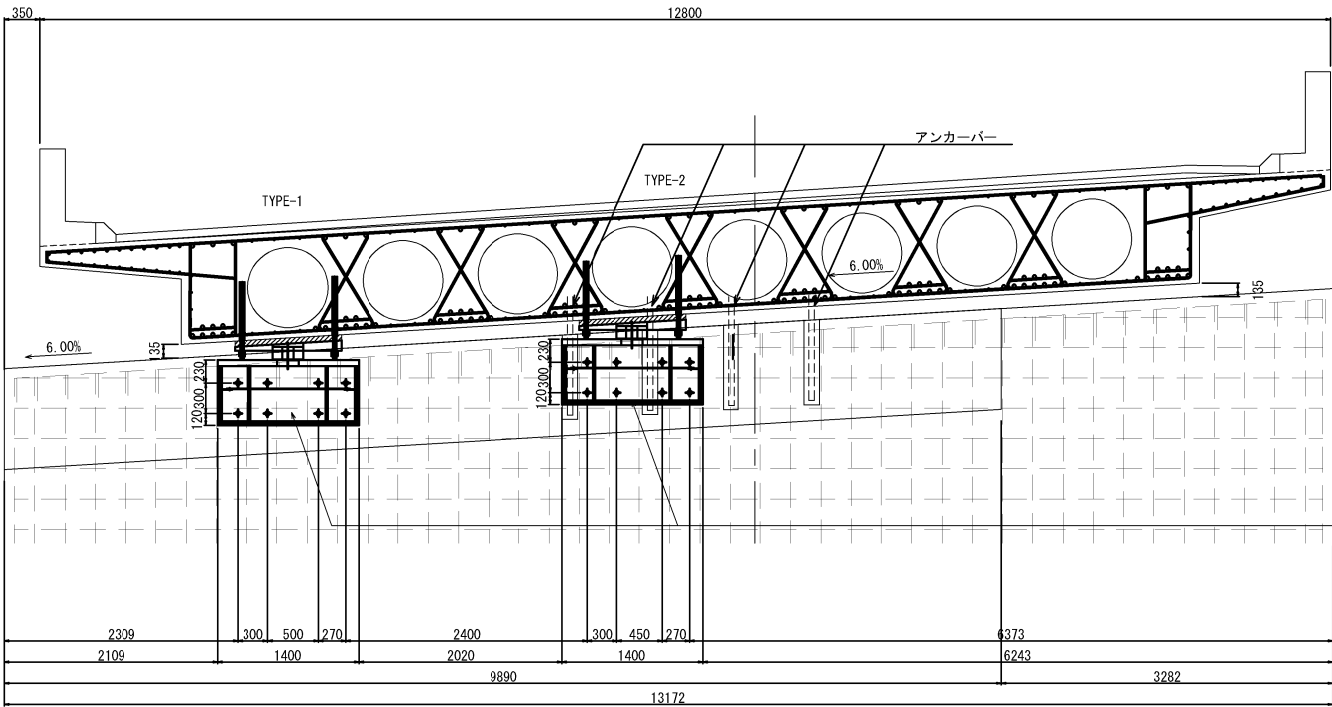
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） P 1 6 橋脚（終点側）		
	横変位拘束構造M－N 4		
	構造詳細図（その4）		
縮尺	図示	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

側面図
1 - 1

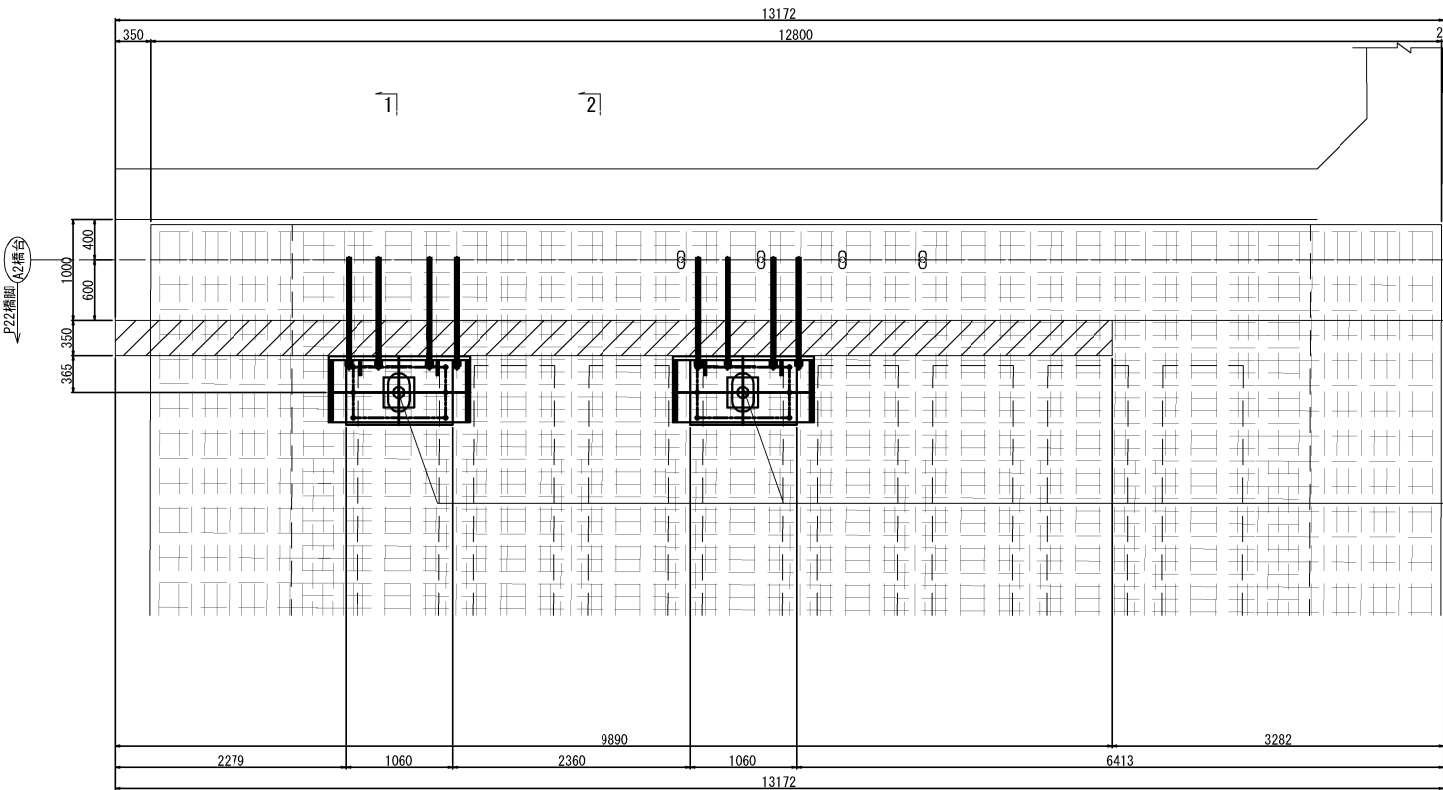


死荷重反力	1800 kN
設計水平力	1620 kN

正面図



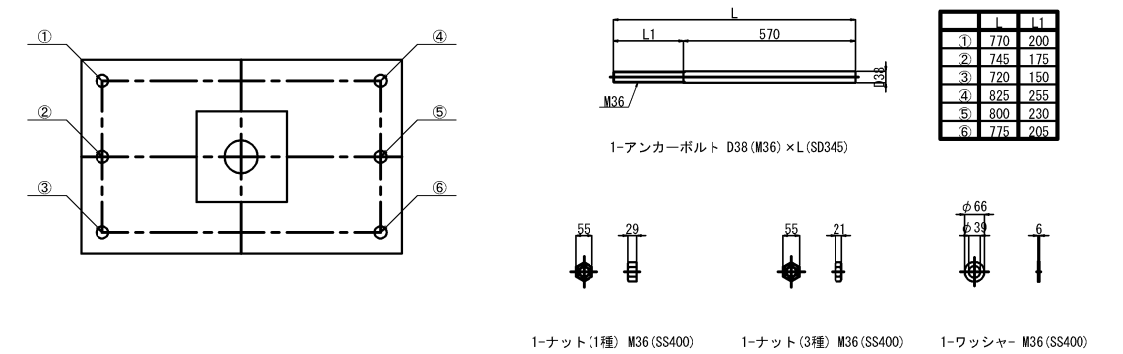
平面図



- 注記)
- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地計測の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
 - 緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
 - 緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探索を行い、鉄筋を切らないようにすること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 2 橋台 横変位拘束構造M－N 5 構造詳細図（その 1）		
縮 尺	1:75	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

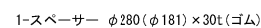
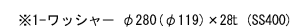
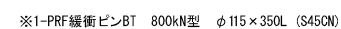
上部工用アンカーボルト詳細図



1基あたり(製作数 2)

1-Base PL	640 × 105 × 1060	(SM520C)
1- PL	300 × 125 × 300	(SM520C)
1-アンカーボルト	D38 × 720	(SD345)
1-アンカーボルト	D38 × 745	(SD345)
1-アンカーボルト	D38 × 770	(SD345)
1-アンカーボルト	D38 × 775	(SD345)
1-アンカーボルト	D38 × 800	(SD345)
1-アンカーボルト	D38 × 825	(SD345)
6-ナット(1種)	M36	(SS400)
6-ナット(3種)	M36	(SS400)
6-ワッシャー	M36	(SS400)

1基あたり(製作数:2)



※1-ナット(一種) M110 (SS400)

Technical drawing of a bolt assembly for a PRF edge pin. The drawing shows a cross-section of a metal plate with a bolt, washer, spacer, and nut. Dimensions are given for the spacer (φ280(φ181) × 30t), washer (φ280(φ119) × 28t), nut (M110), and edge pin (φ115 × 350L). A dimension of 100 is also indicated for the distance from the edge of the plate to the center of the bolt.

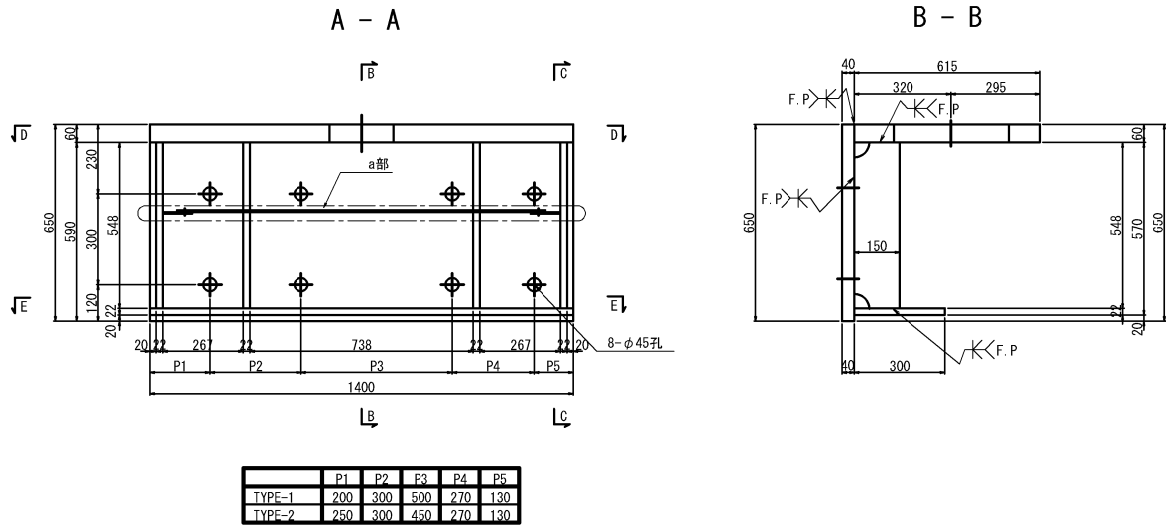
- スプーサー φ280(φ181) × 30t (ゴム)
- ワッシャー φ280(φ119) × 28t (SS400)
- ナット(一種) M110 (SS400)
- 割リピン φ13 × 180 (SUS304)
- PRF縁衝ピンBT 800K型 φ115 × 350L (S45CN)

注記)

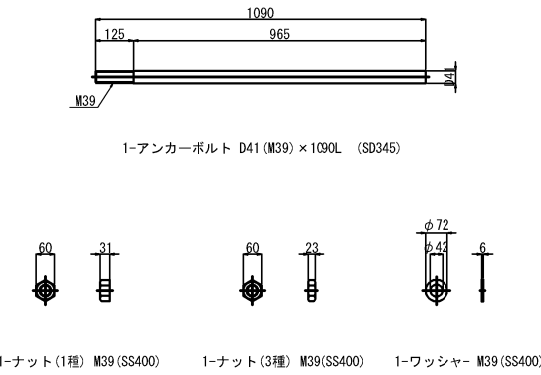
1. 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
2. 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
3. 上部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき（JIS H 0401）とする。
取付金具類の膜厚はHDZ77とする。
アンカーボルト類の膜厚はHDZ49とする。
4. 緩衝ピンのピン本体形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じてピン本体の応力計算を行うこと。
5. 緩衝ピンの緩衝部の形状は、現地再調査の上、最終決定すること。
寸法を変更する場合は必要に応じて緩衝部の応力計算を行うこと。
6. 緩衝ピン類は、※印の部材に溶融亜鉛めっき（JIS H 0401）を施すものとし、
膜厚はHDZ49とする。

上 信 越 自 動 車 道			
豊 州 高 梁 渠 耐 震 補 強 工 事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 2 橋合 横変位拘束構造 M-N 5 構造詳細図（その 2）		
縮 尺	1:25	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高遠橋株式会社		関東支社
	長 野 工 事 務 所		

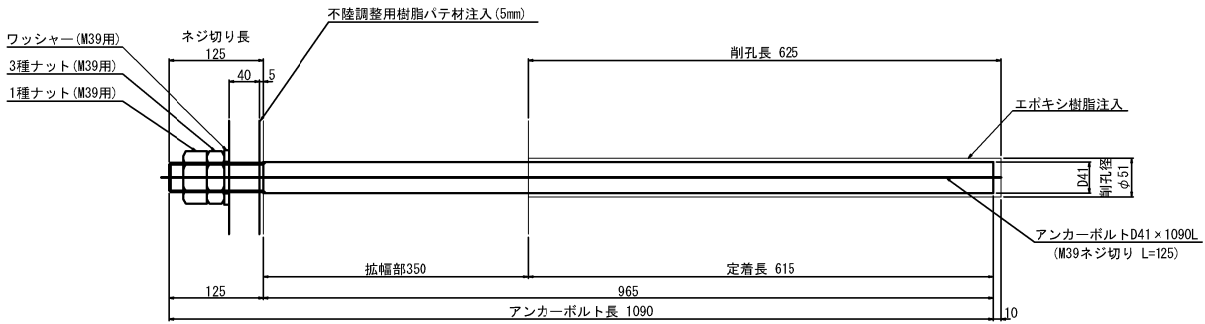
下部エブラケット詳細図



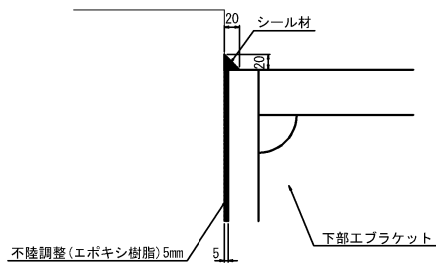
下部工用アンカーボルト詳細図



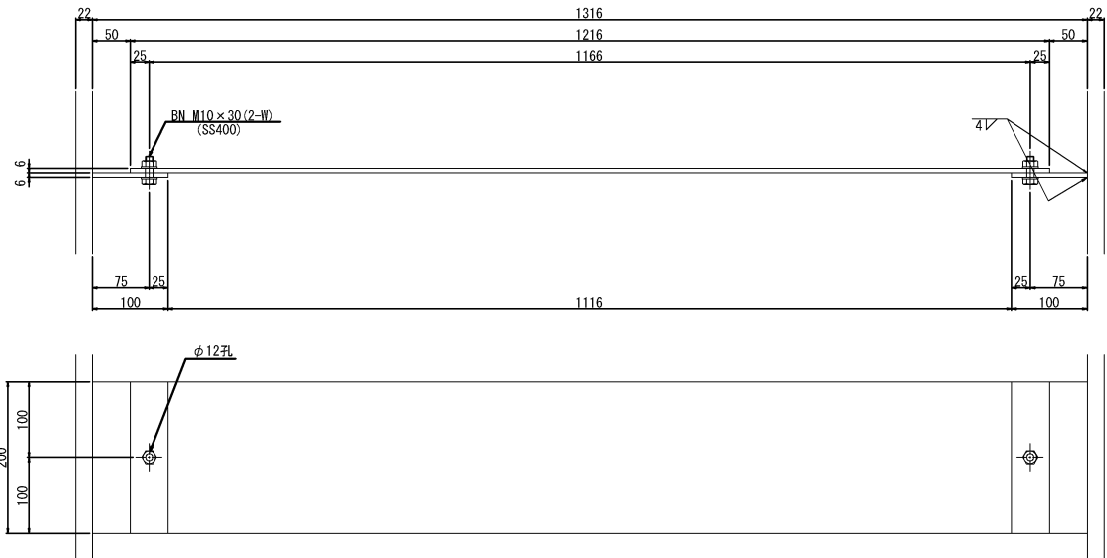
下部工用アンカーボルト取付詳細図 縮尺 1:10



シーラ材詳細図 縮尺 1:10



“a”部詳細図 縮尺 1:10

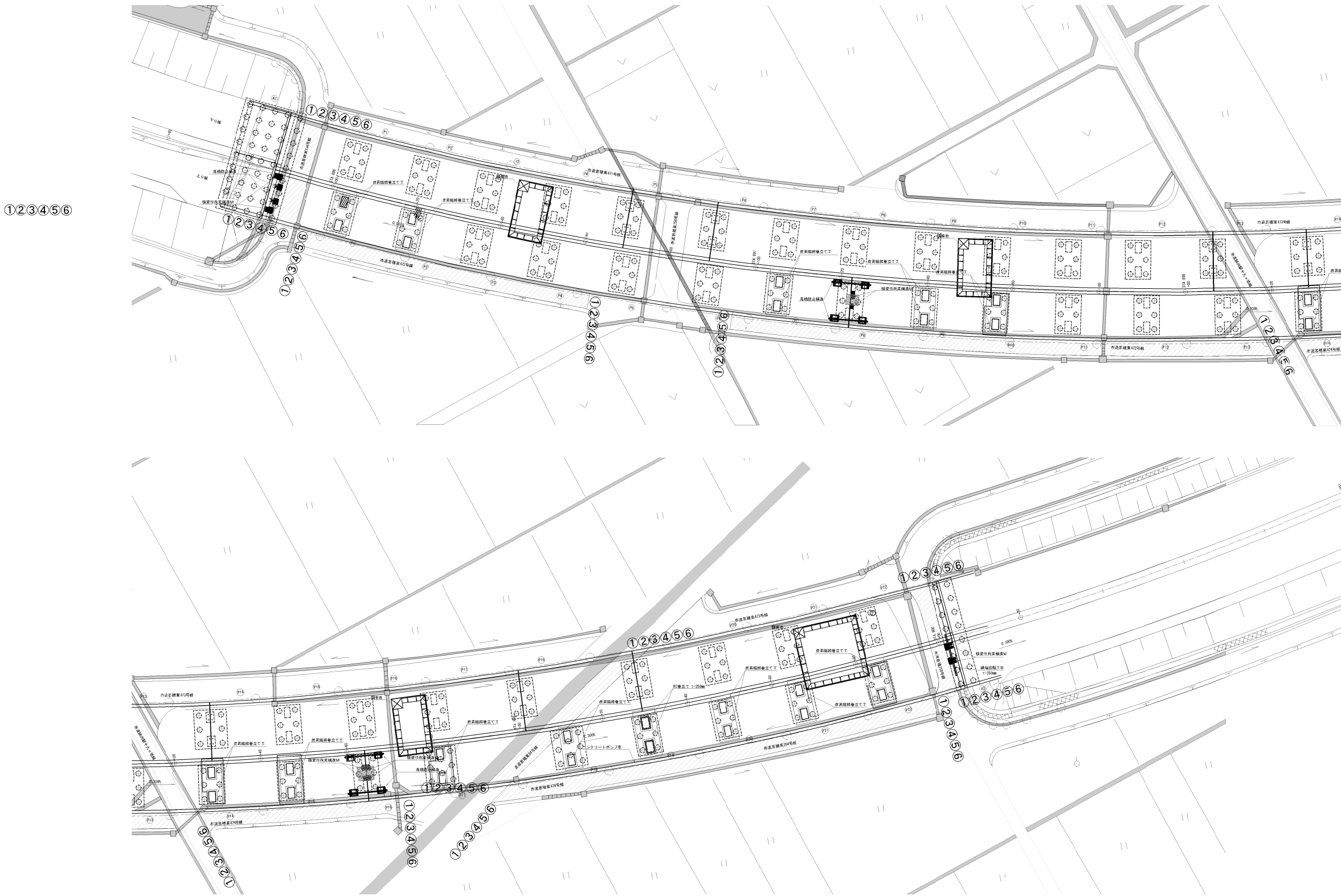


注記)

- 鋼材加工及びブラケットの取付位置等は、現地再調査の上、最終決定すること。寸法を変更する場合は必要に応じて各構造の応力計算を行うこと。
- 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、鉄筋を切らないようにすること。
- 特記なきスカーラップは全てR50とすること。
- 下部エブラケットの表面処理は、溶融亜鉛めっき (JIS H 0401) とする。取付金具類の膜厚はHDZT77とする。アンカーボルト類の膜厚はHDZT49とする。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） A 2 橋台 横変位拘束構造M－N 5 構造詳細図（その3）		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		

平面図



保安施設設置一覧

記号	保安施設
①	矢印板
②	規制標識
③	工事情報看板
④	工事説明看板
⑤	迂回路標示板
⑥	通行止め看板

注記)

1. 市道若穂東234号線、472号線、474号線、254号線、258号線、農道若穂東84号線を通行止めとする。
2. 保安施設等の位置及び設置間隔、保安施設の設置内容等は当該警察署と協議し決定することとする。

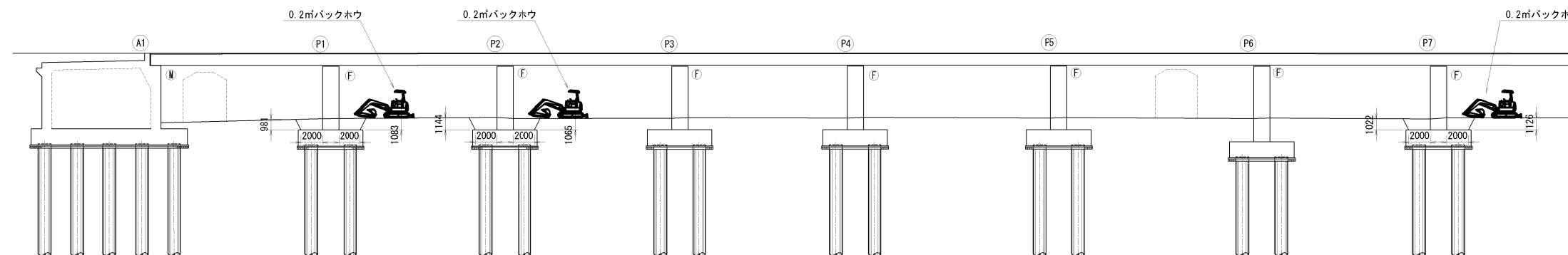
通行止め箇所

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 通行止め計画図（参考図）		
縮尺	1:1000	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

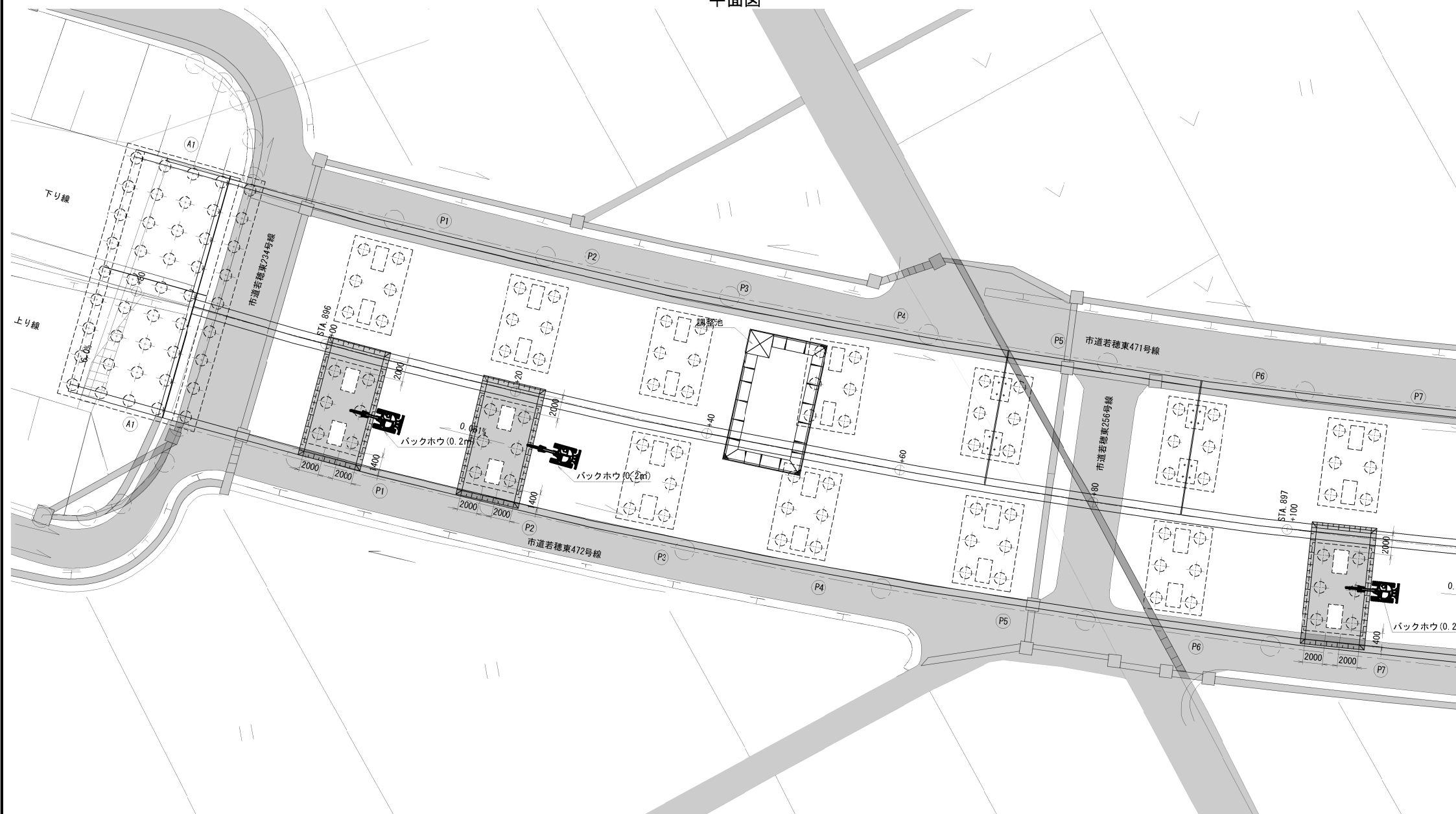
綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その１）（参考図） S=1:500
構造物掘削工（普通部A）
A 1 橋台～P 7 橋脚

71 / 80

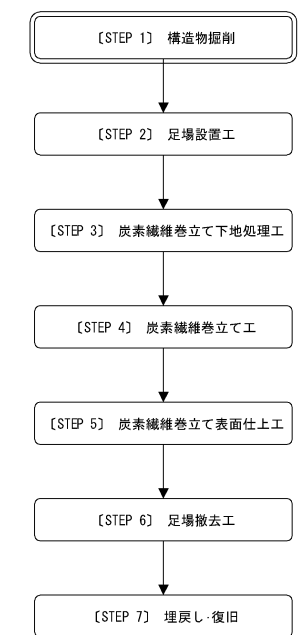
側面図



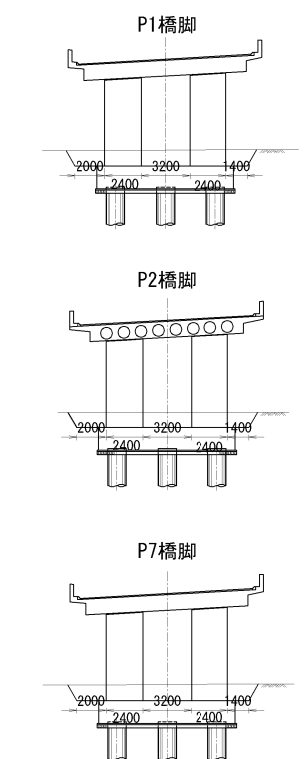
平面図



炭素繊維巻立て工 施工フロー



正面図



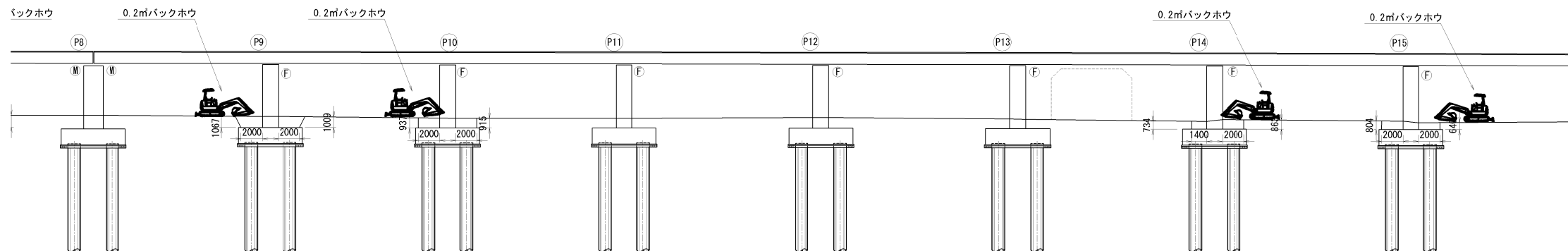
注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、
必要に応じて、施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その１）（参考図）		
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

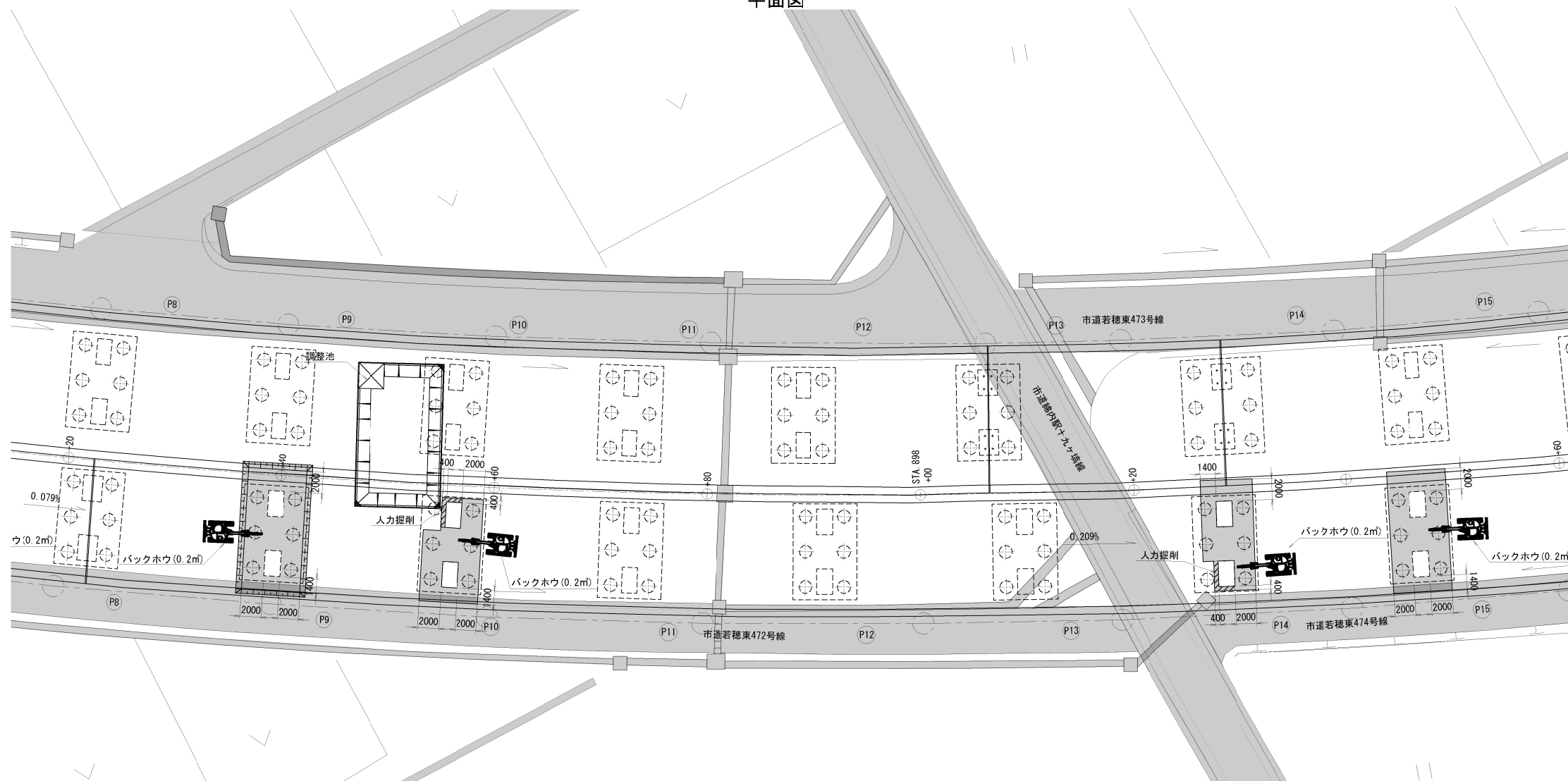
綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その2）（参考図） S=1:500
構造物掘削工（普通部A）
P 8 橋脚～P 1 5 橋脚

72 / 80

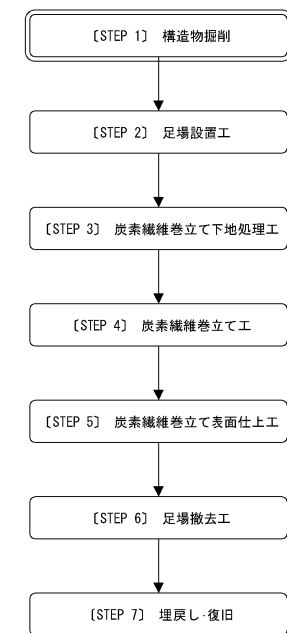
側面図



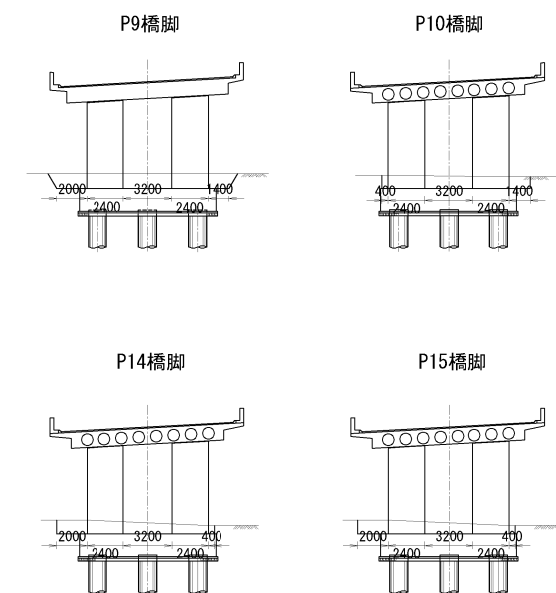
平面図



炭素繊維巻立て工 施工フロー



正面図



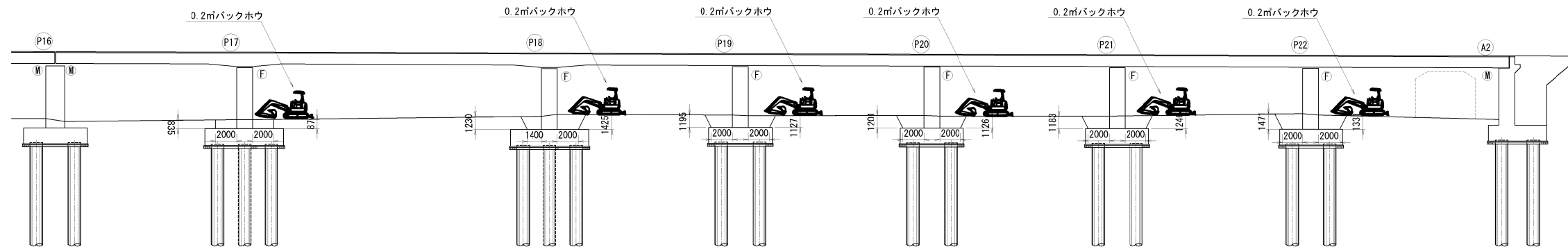
- 注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
 2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その2）（参考図）		
縮 尺	1:500	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

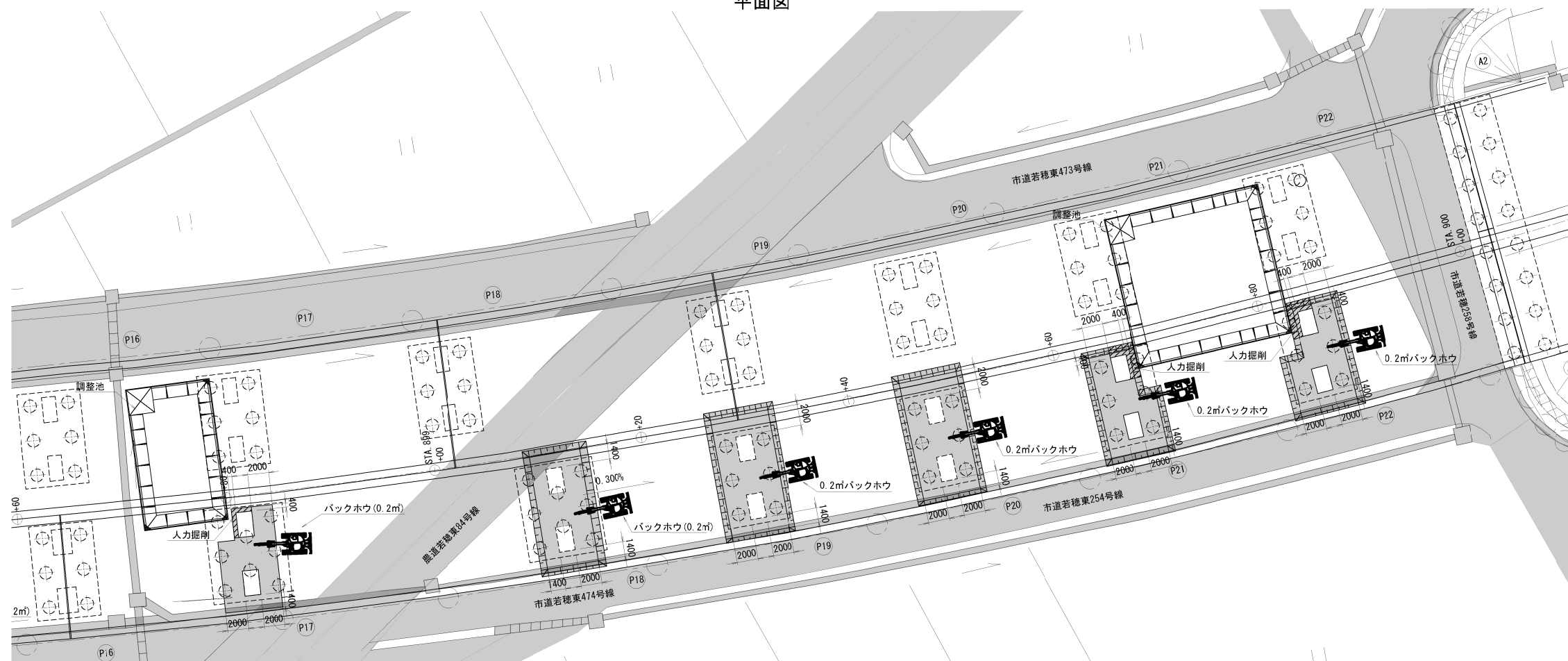
綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その3）（参考図） S=1:500
構造物掘削工（普通部A）
P 1 6 橋脚～A 2 橋台

73 / 80

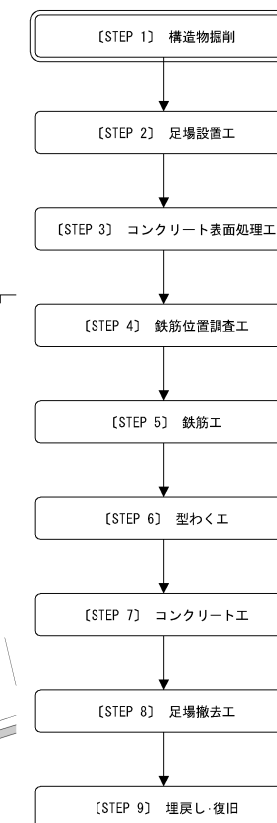
側面図



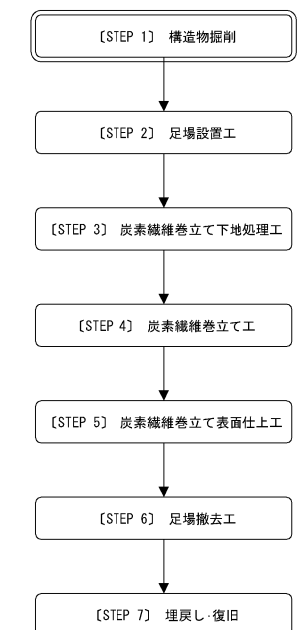
平面図



RC巻立て工法 施工フロー

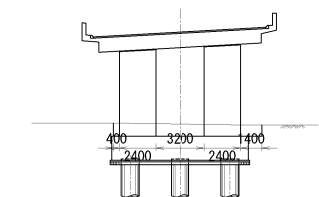


炭素繊維巻立て工 施工フロー

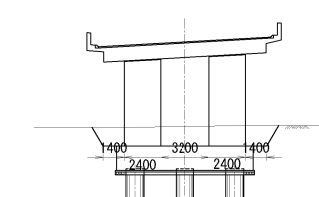


正面図

P17橋脚

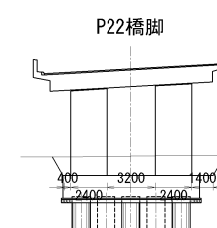
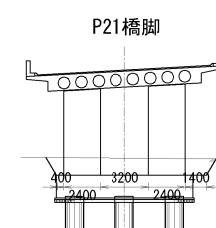
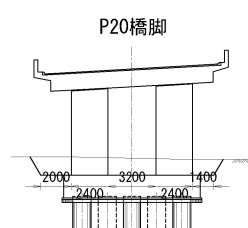
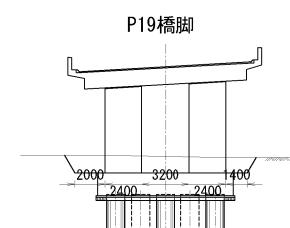


P18橋脚



注記)

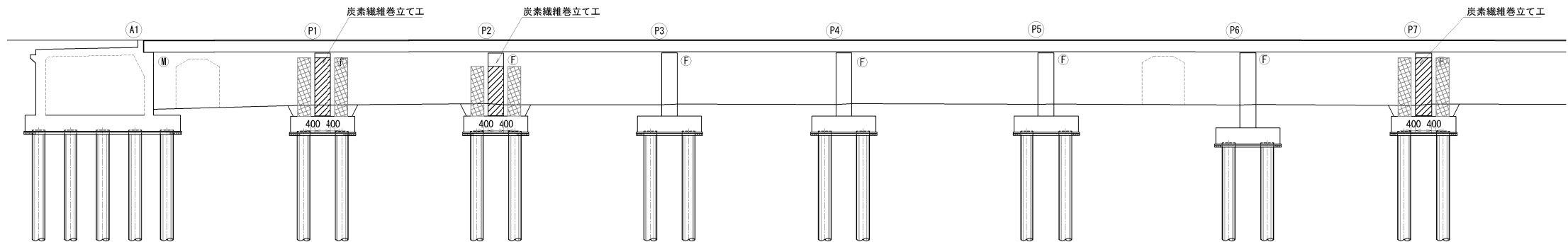
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。



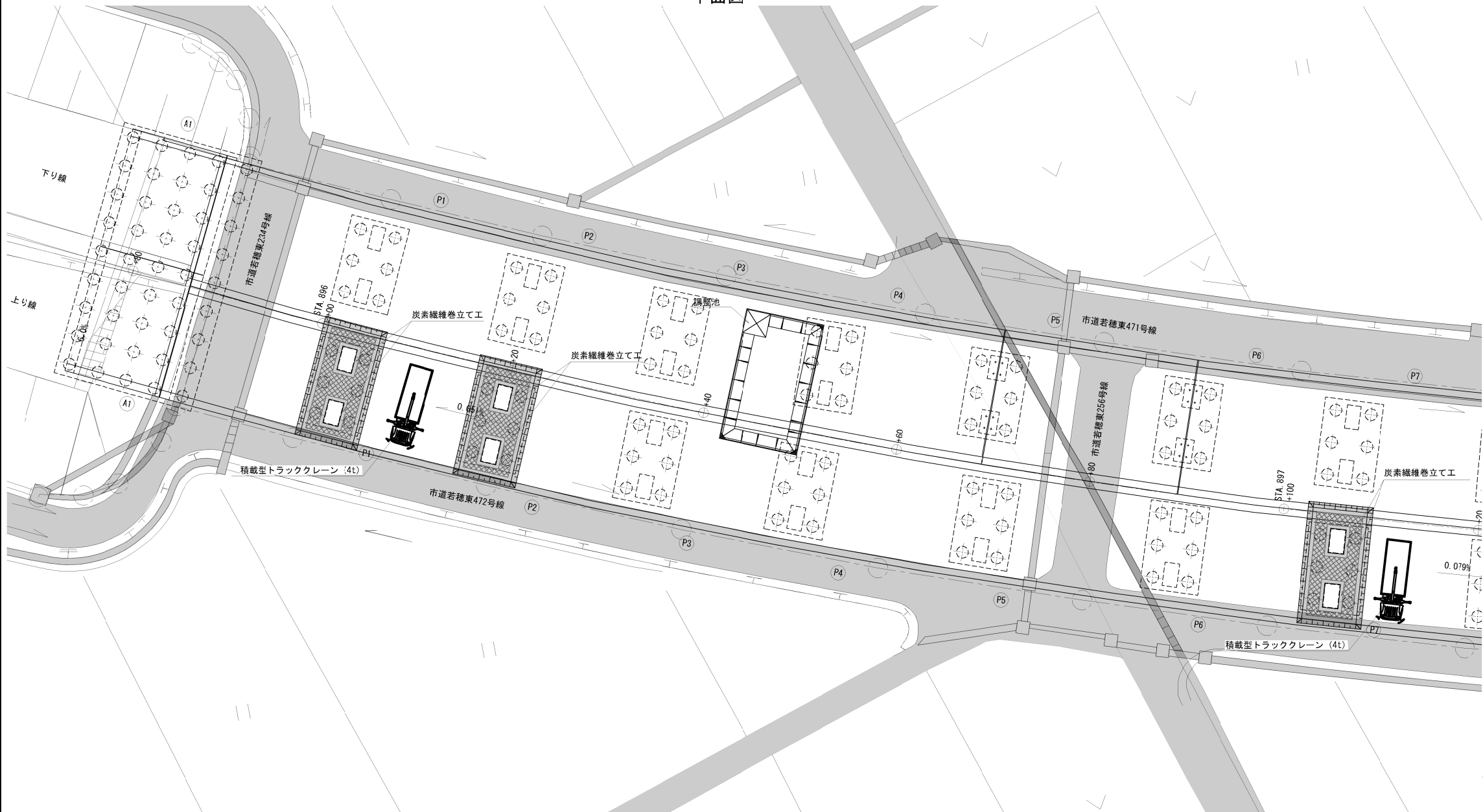
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その3）（参考図）		
縮 尺	1:500	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工 事 務 所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その4）（参考図） S=1:500
炭素繊維巻立て工
A1橋台～P7橋脚

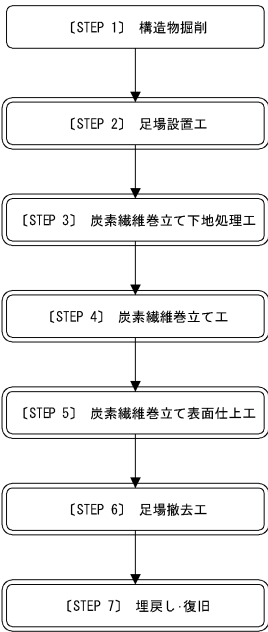
側面図



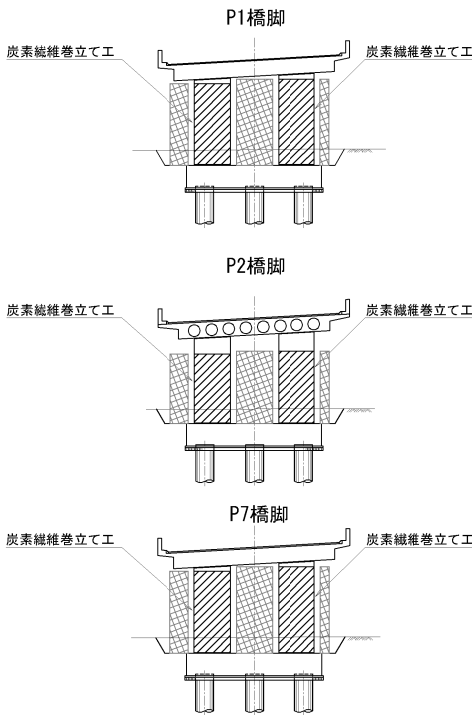
平面図



炭素繊維巻立て工 施工フロー



正面図

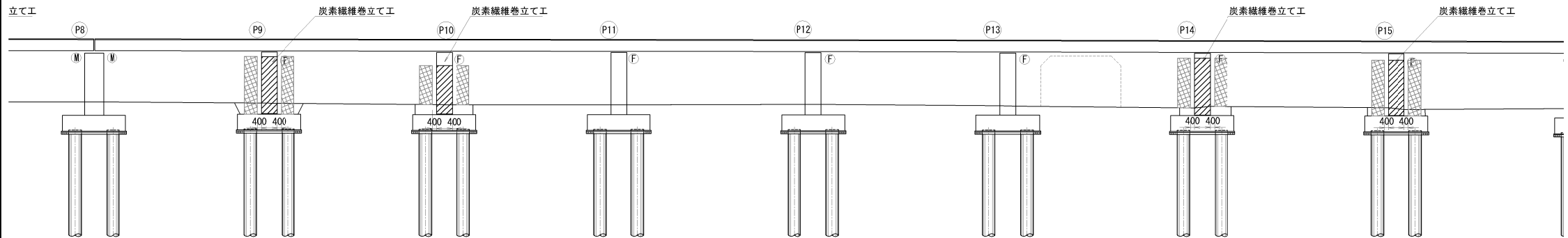


注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。

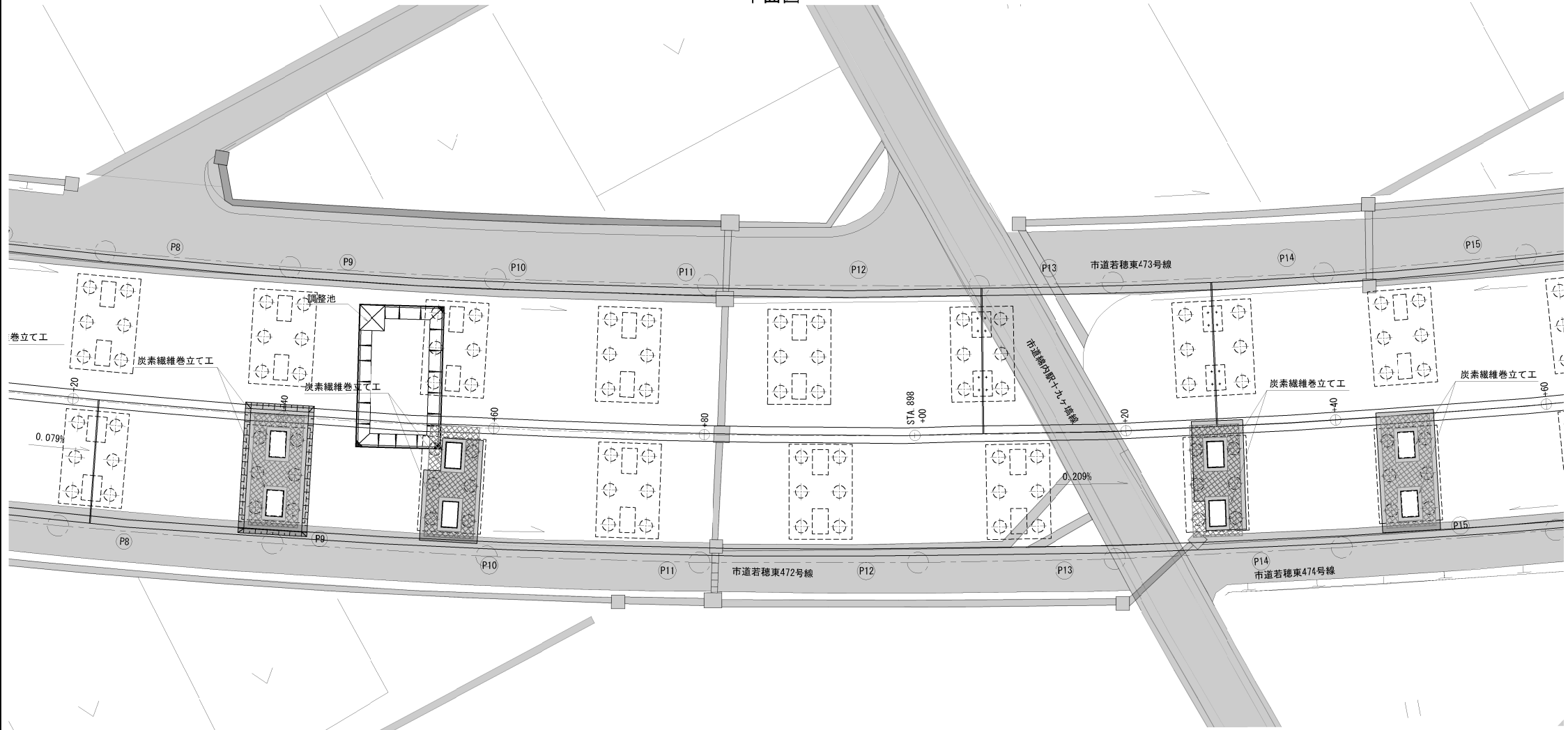
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その4）（参考図）		
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	長野工務事務所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その5）（参考図） S=1:500
炭素繊維巻立て工
P 8 橋脚～P 1 5 橋脚

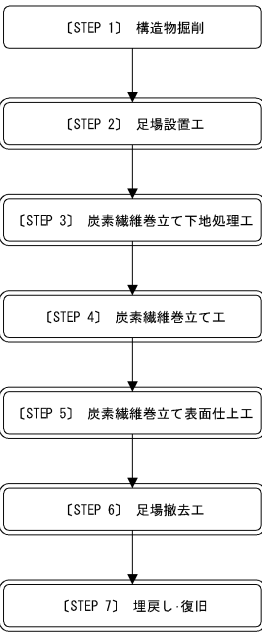
側面図



平面図

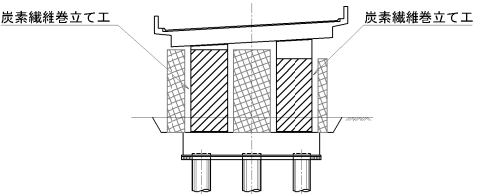


炭素繊維巻立て工 施工フロー

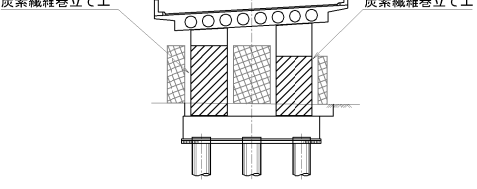


正面図

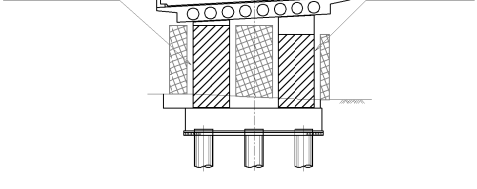
P9橋脚



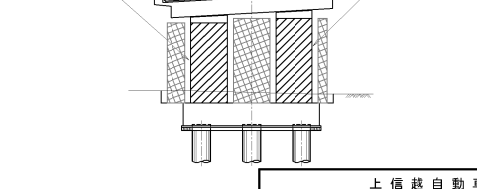
P10橋脚



P14橋脚



P15橋脚

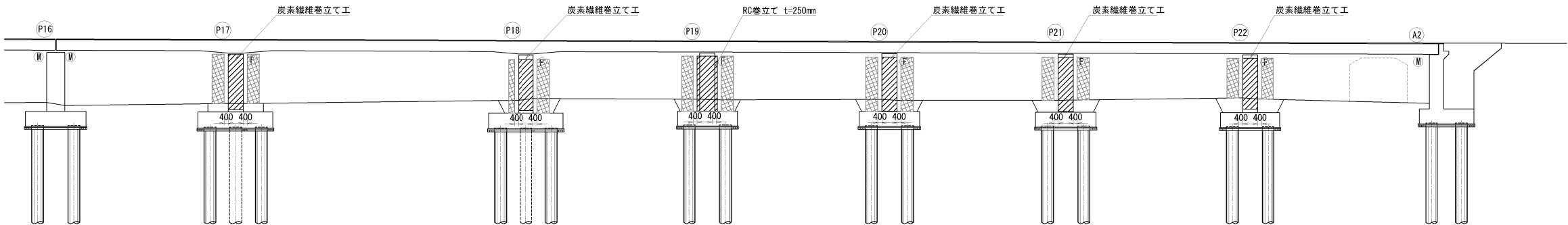


注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

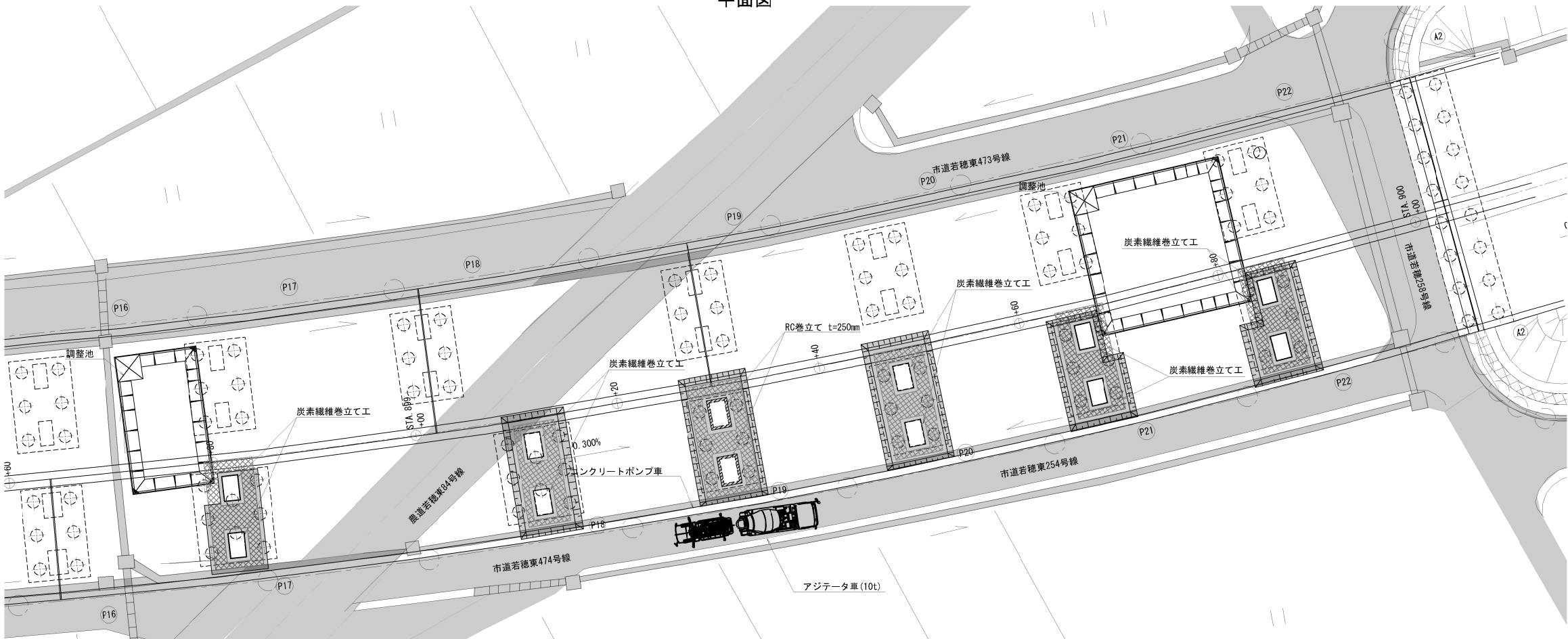
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その5）（参考図）		
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その6）（参考図） S=1:500
RC巻立て工・炭素繊維巻立て工
P 1 6 橋脚～A 2 橋台

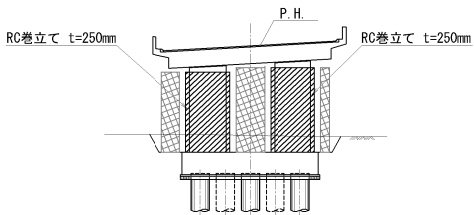
側面図



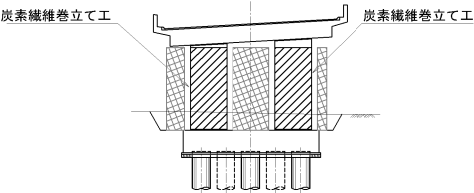
平面図



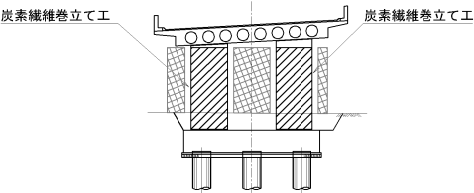
P19橋脚



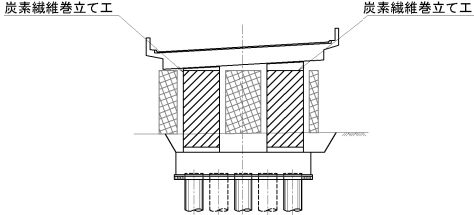
P20橋脚



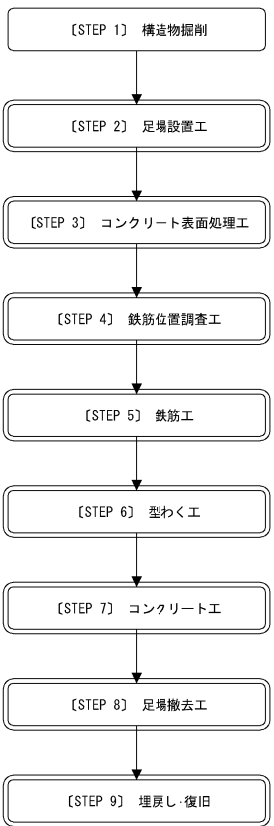
P20橋脚



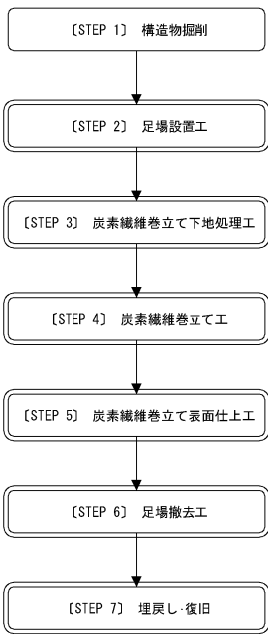
P22橋脚



RC巻立て 施工フロー

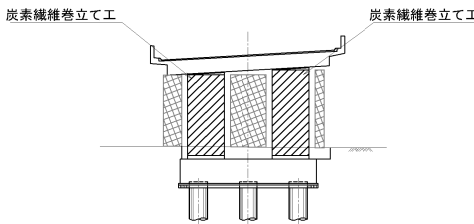


炭素繊維巻立て工 施工フロー

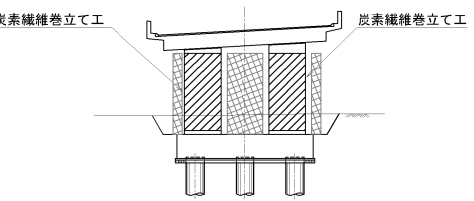


正面図

P17橋脚



P18橋脚



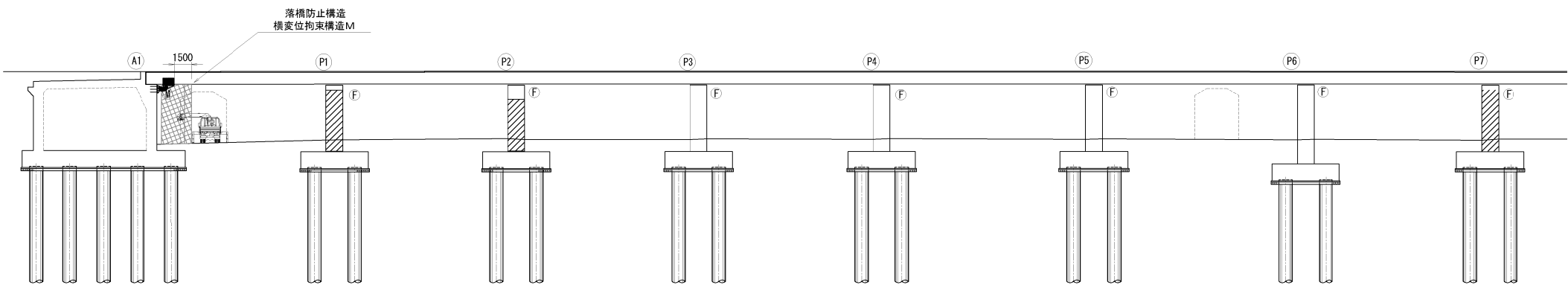
注記

1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、施工内容を精査すること。

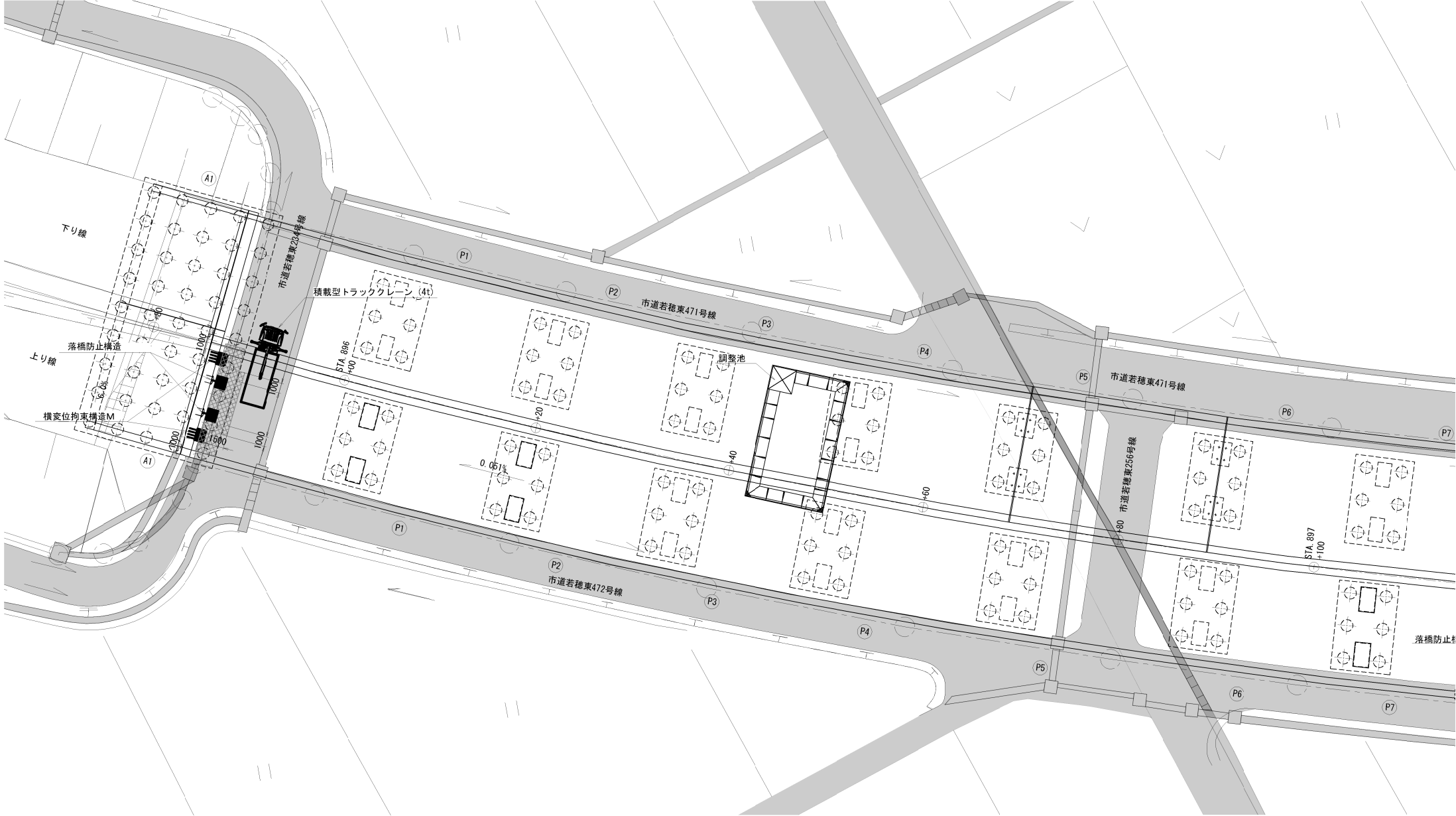
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その6）（参考図）		
縮尺	1:500	図面番号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工事事務所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その7）（参考図） S=1:500
落橋防止構造C 1－N 1・横変位拘束構造M－N 1
A 1 橋台～P 7 橋脚

側面図

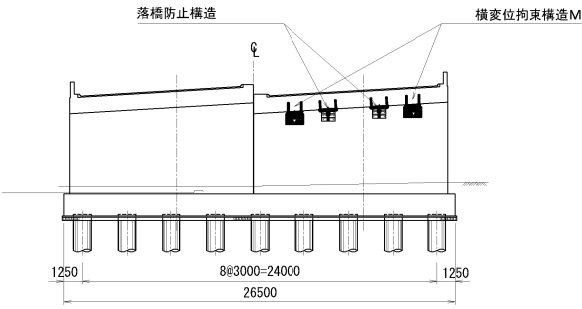


平面図



正面図

A1橋台

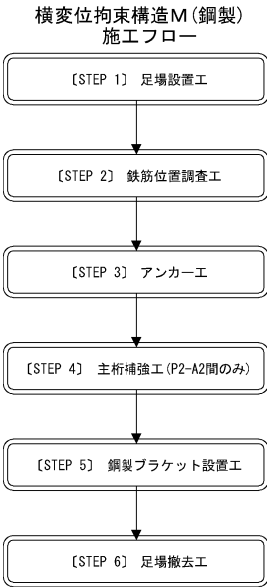
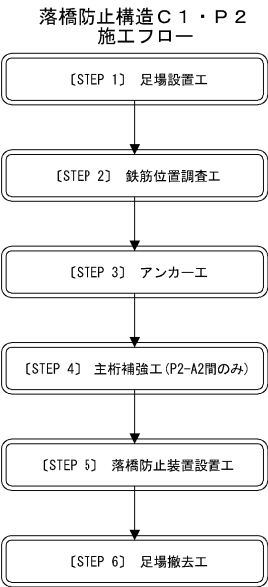
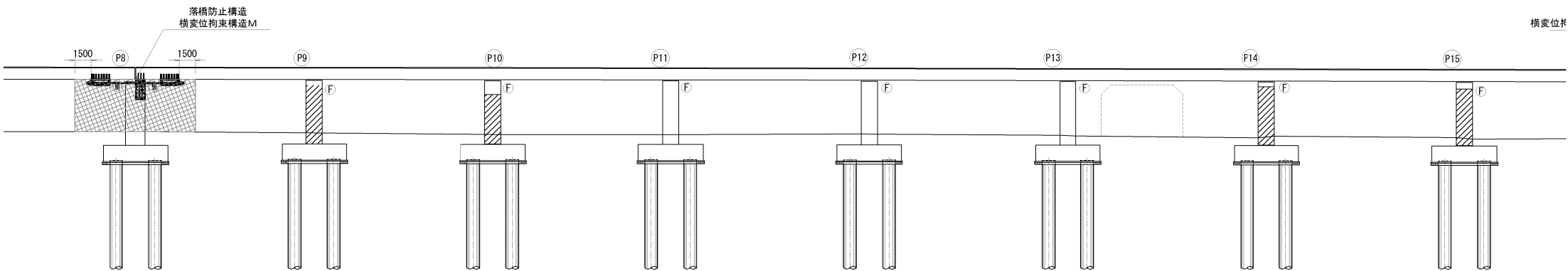


注記
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

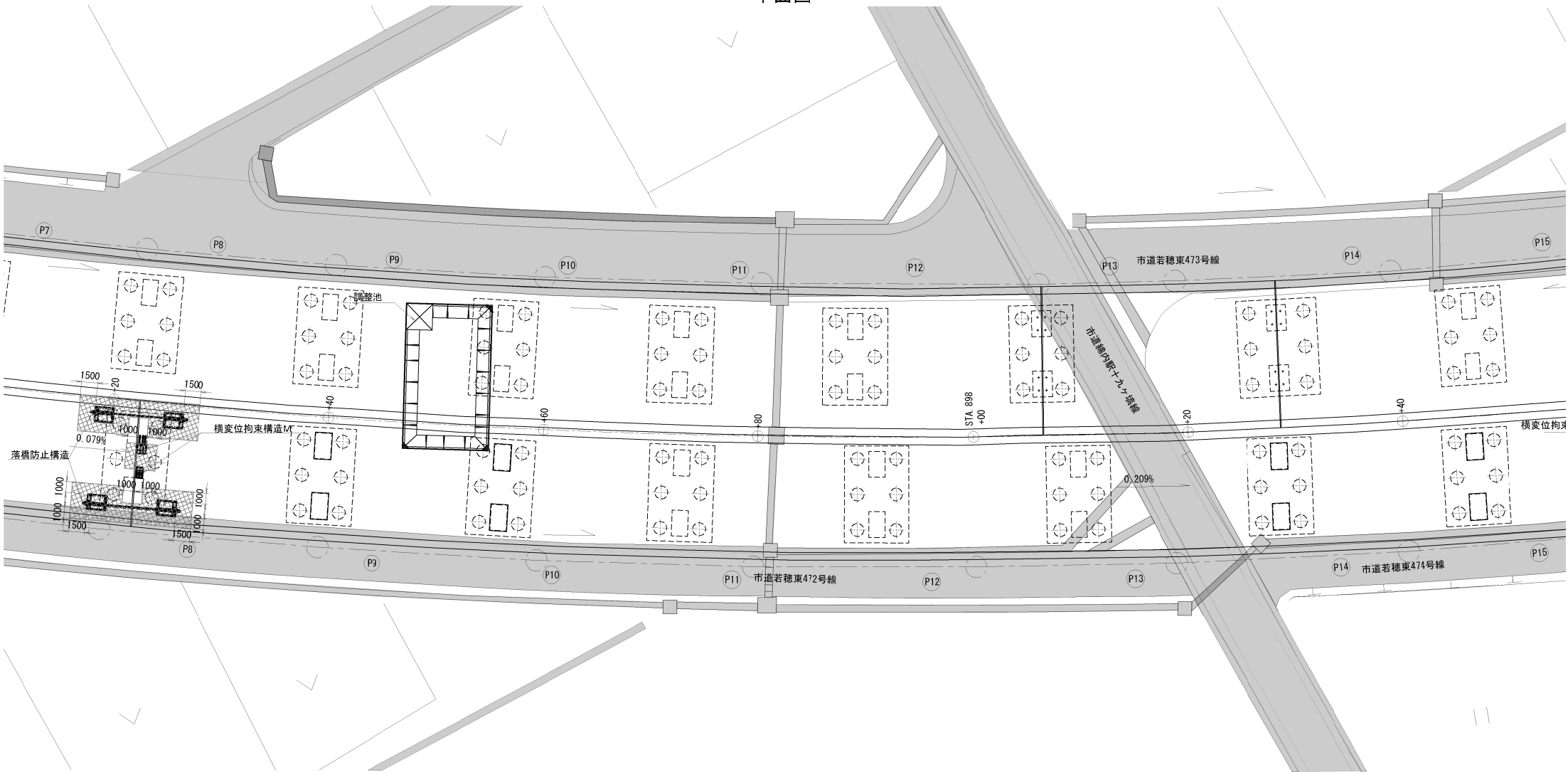
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その7）（参考図）		
縮 尺	1:500	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その8）（参考図） S=1:500
落橋防止構造P 2－N 1・横変位拘束構造M－N 2
P 8 橋脚～P 1 5 橋脚

側面図

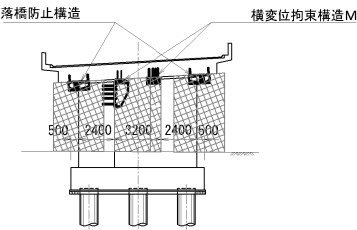


平面図



正面図

P8橋脚

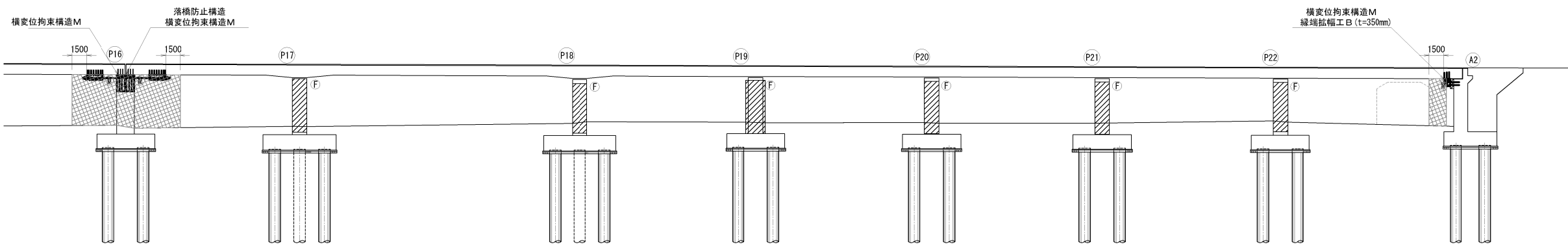


注記)
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

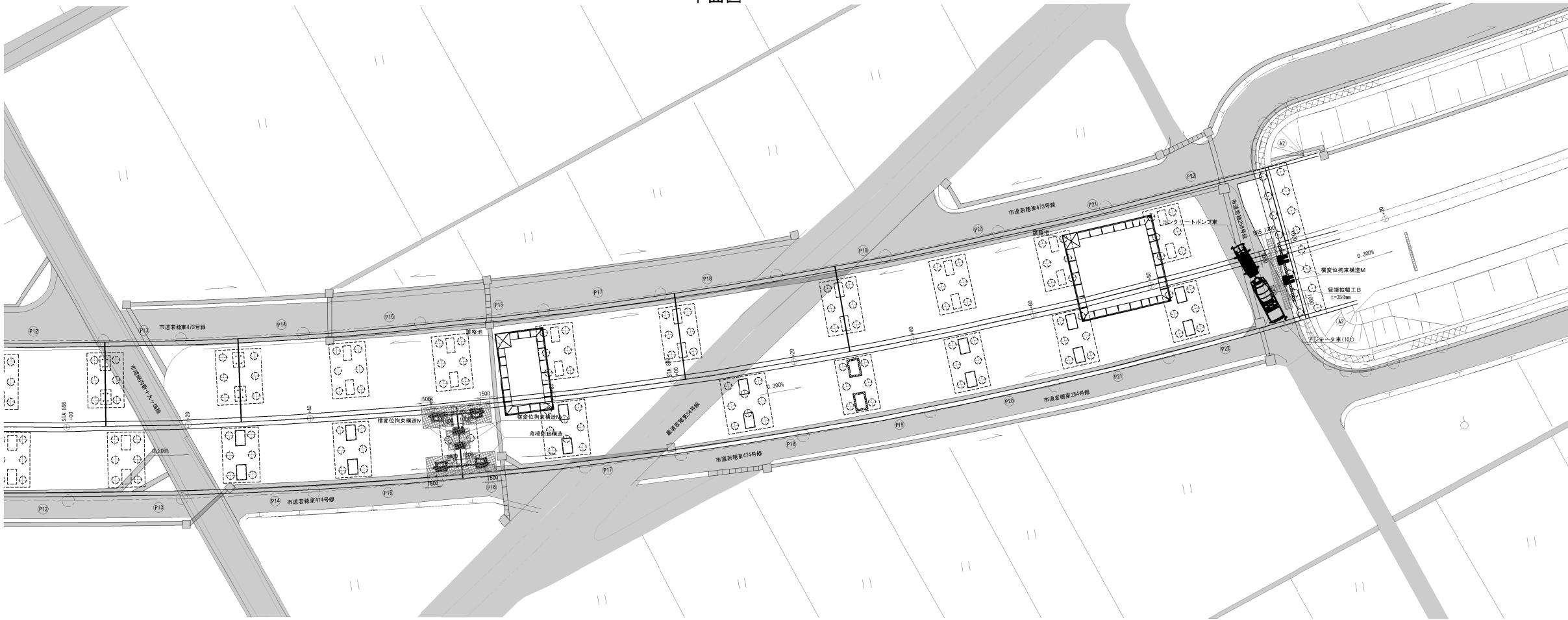
上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線）		
	施工要領図（その8）（参考図）		
縮 尺	1:500	図 面 番 号	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 長野工務事務所		

綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その9）（参考図） S=1:500
縁端拡幅工B・落橋防止構造P2-N2・横変位拘束構造M-N3~M-N5
P16橋脚～A2橋台

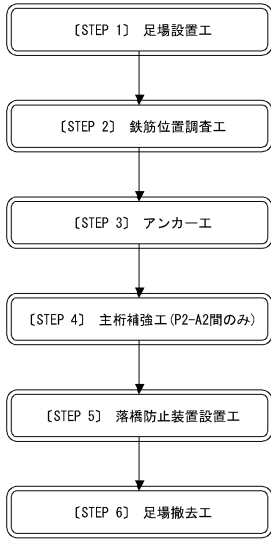
側面図



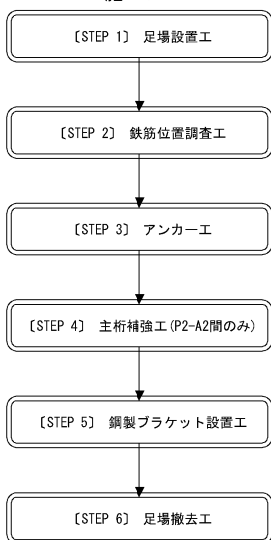
平面図



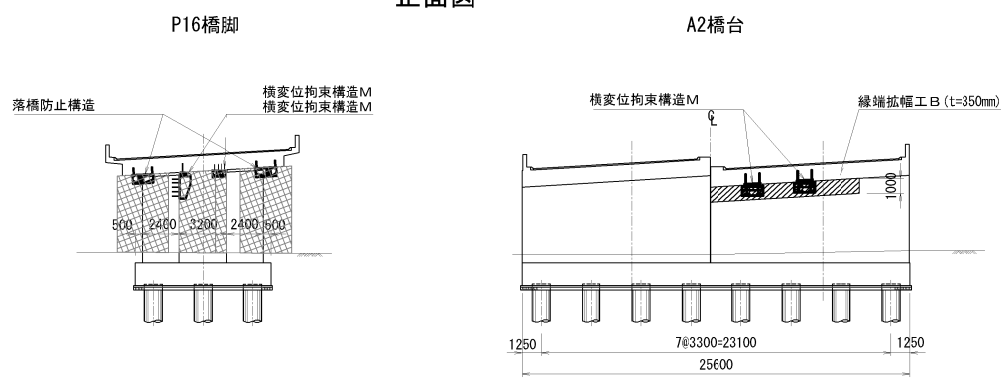
落橋防止構造C1・P2
施工フロー



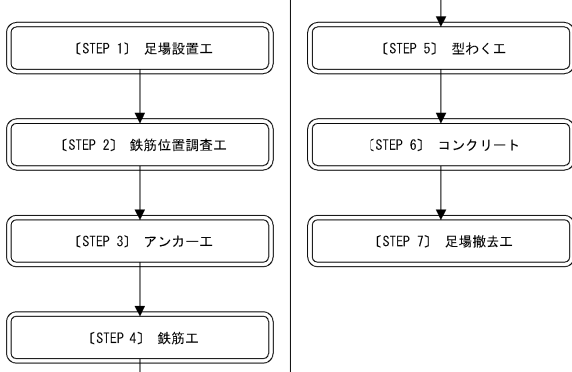
横変位拘束構造M(鋼製)
施工フロー



正面図



縁端拡幅工B 施工フロー



注記
1. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
2. 既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて、
施工内容を精査すること。

上信越自動車道 豊洲高架橋耐震補強工事			
図面の種類	綿内高架橋（上り線） 施工要領図（その9）（参考図）		
	縮尺	1:500	図面番号
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	長野工務所		

綿内高架橋（上り線）配線系統図（参考図）

133. 1KP~133. 6KP

